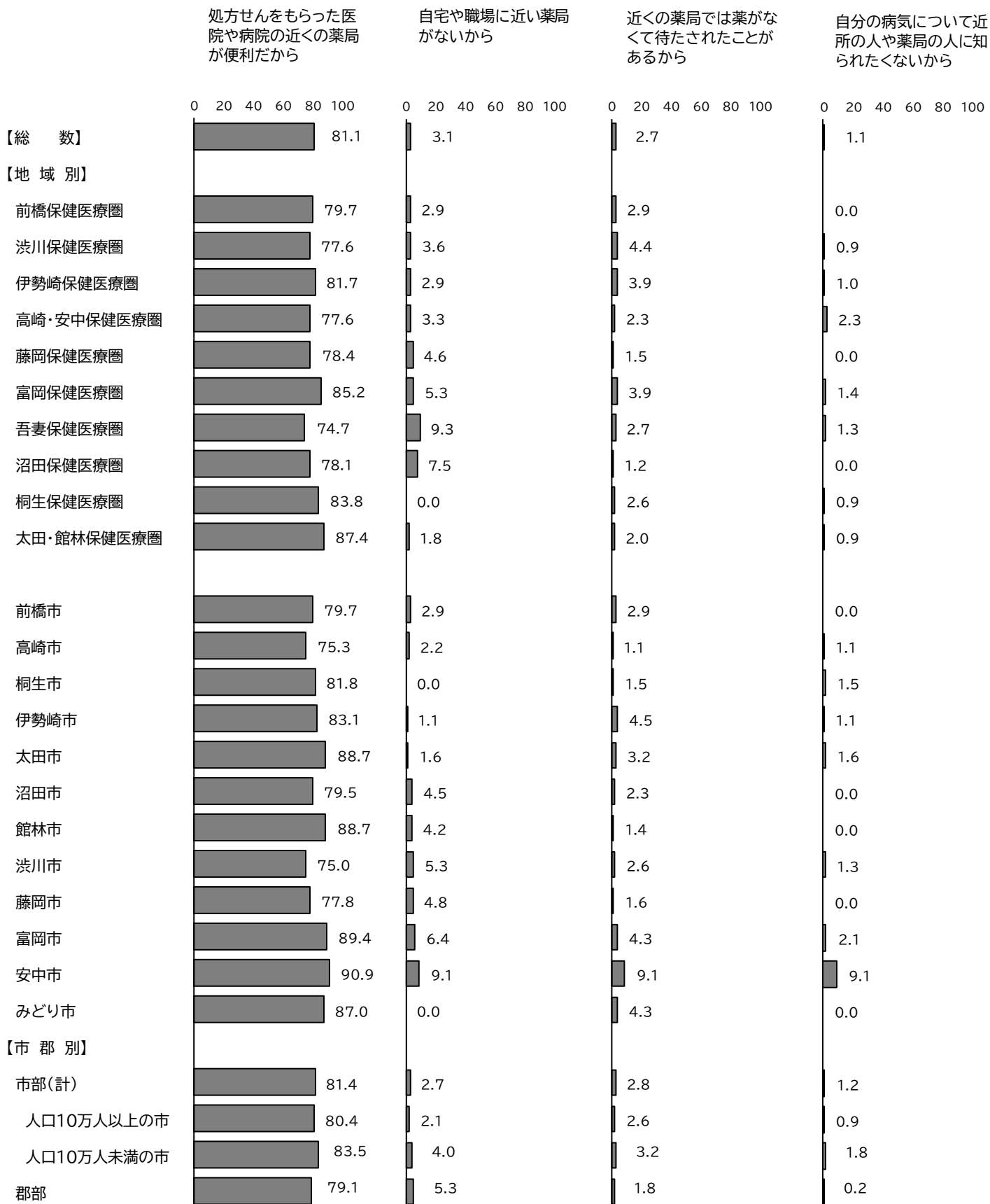
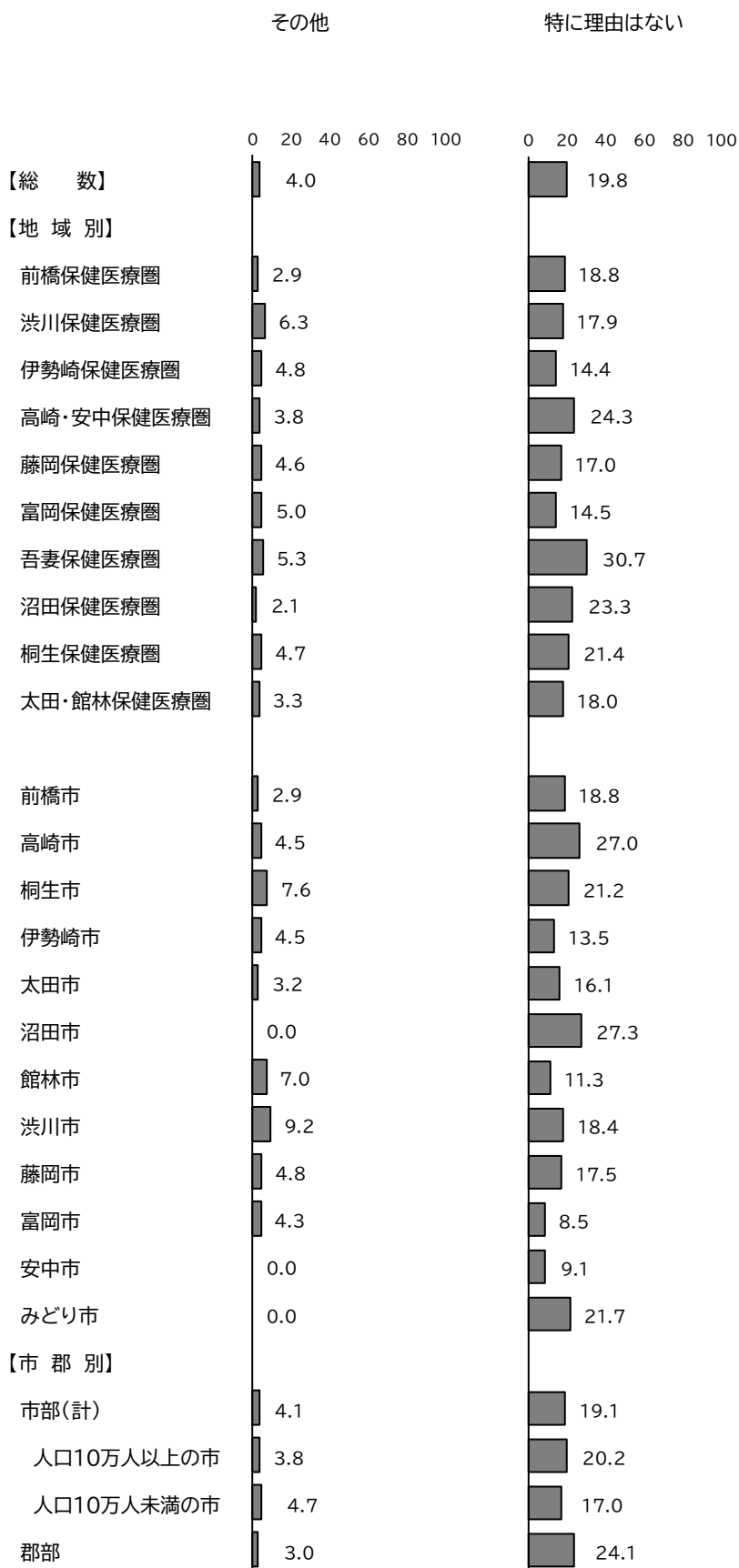
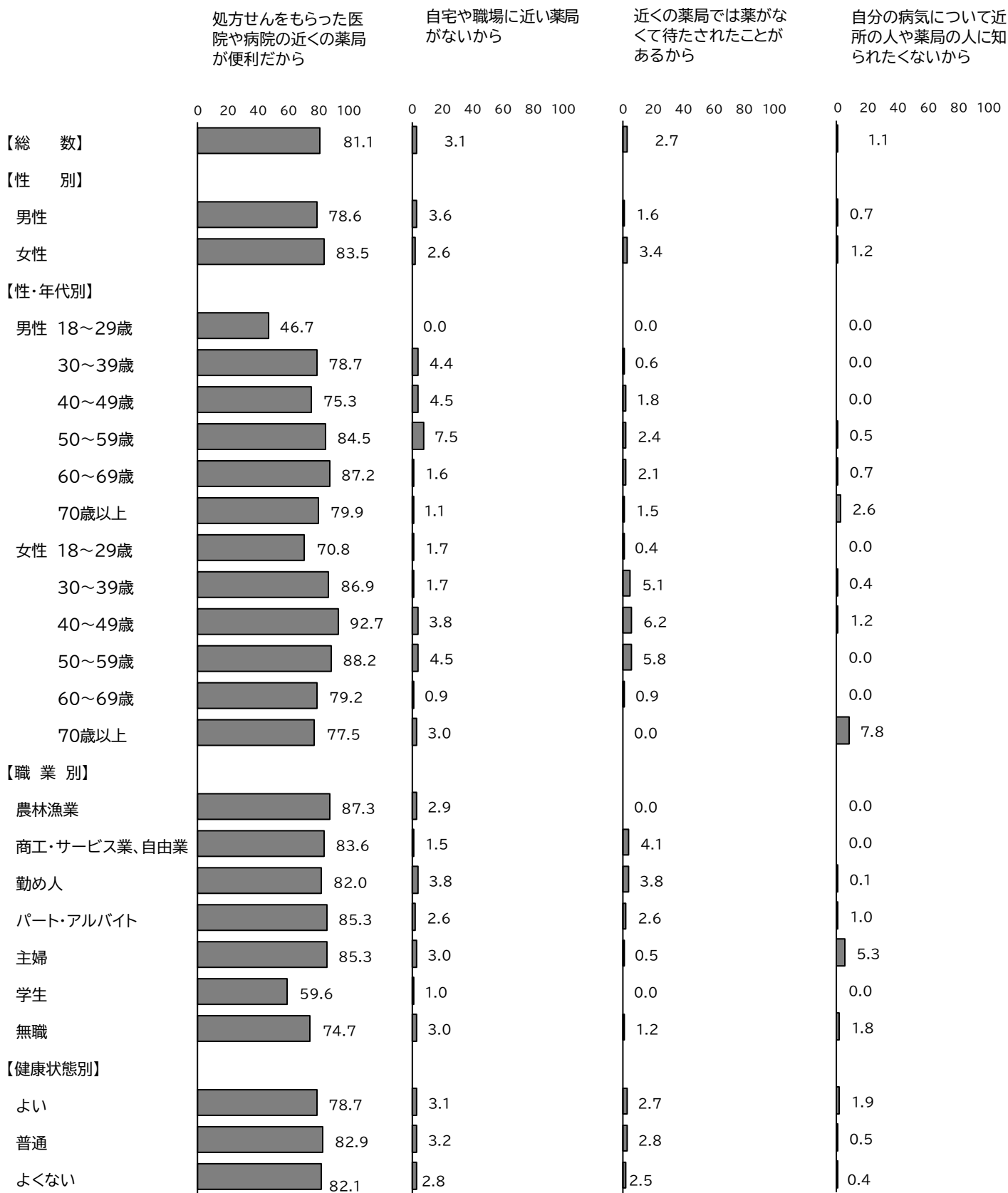
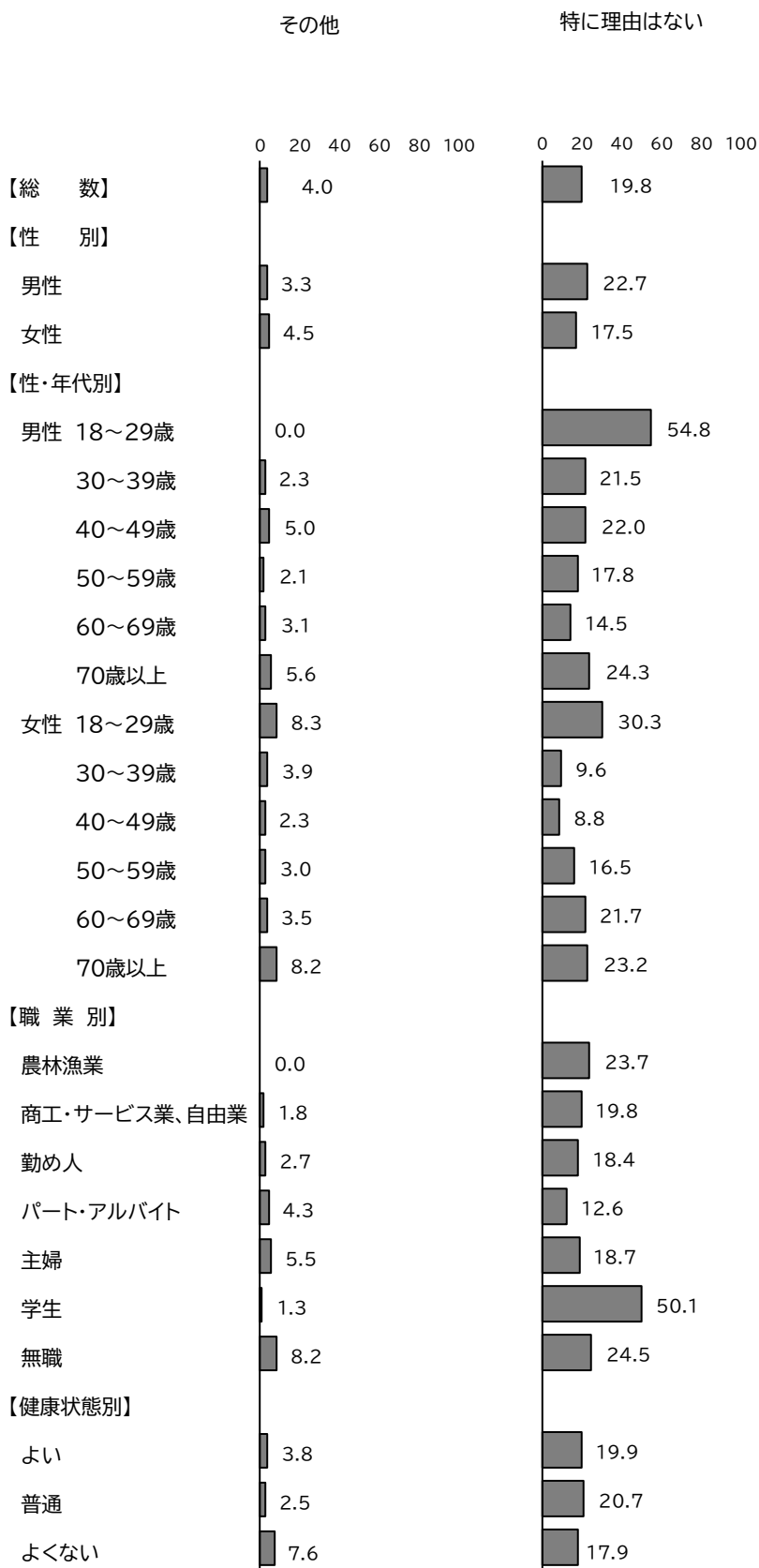


図 10 - 8 かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない理由





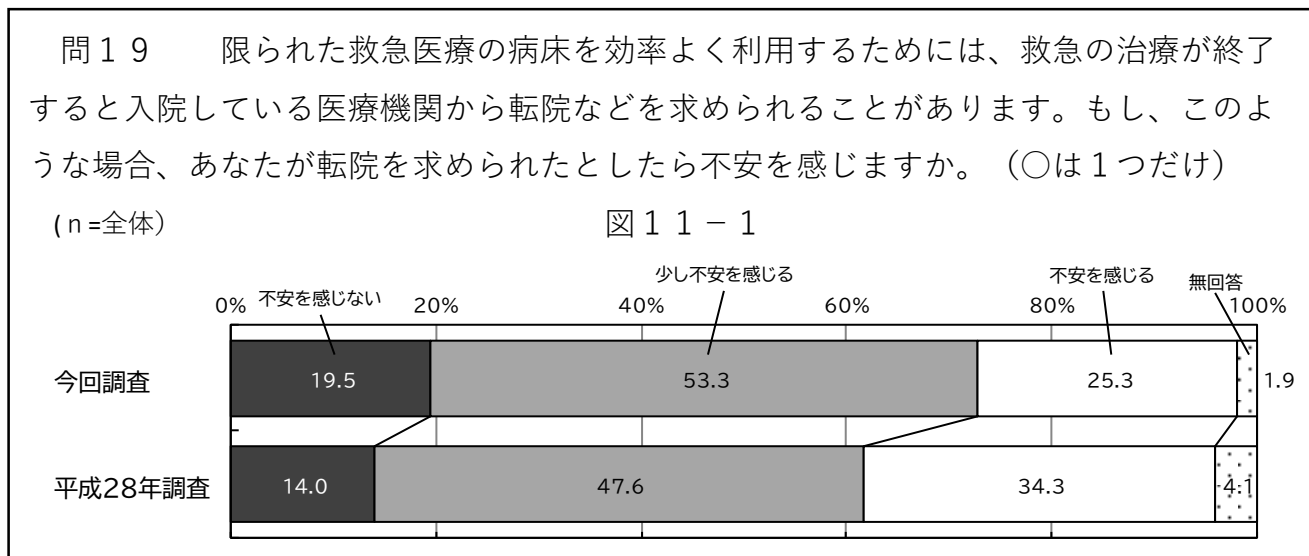




1 1 転院について

(1) 転院に対する不安感

～＜不安を感じる＞人は78.5%～



転院を求められた場合について、「不安を感じない」は19.5%となっている。一方、「少し不安を感じる」は53.3%となっており、これに「不安を感じる」(25.3%)を合わせた＜不安を感じる＞は78.5%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「不安を感じない」「少し不安を感じる」が多くなっており、「不安を感じる」は少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も＜不安を感じる＞は、70.0%を超えている。

◆市郡別

「不安を感じる」は郡部(20.5%)に比べ、市部(26.1%)の方が多くなっている。

◆性別

＜不安を感じる＞は男性(74.8%)に比べ、女性(82.3%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性と女性とも「不安を感じる」は高い年代ほど多くなる傾向がみられる。特に、70歳以上の女性は「不安を感じる」が34.0%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

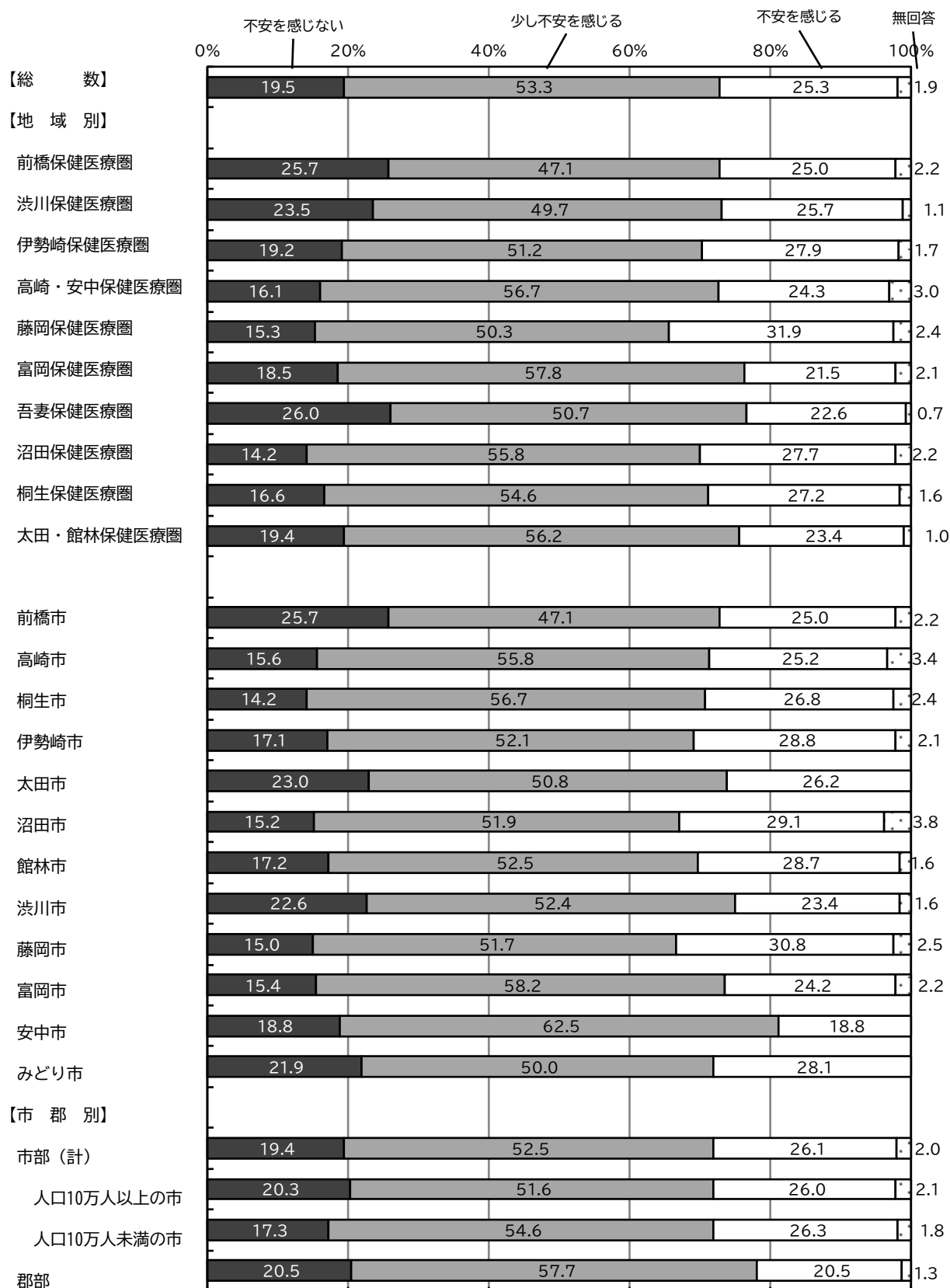
◆職業別

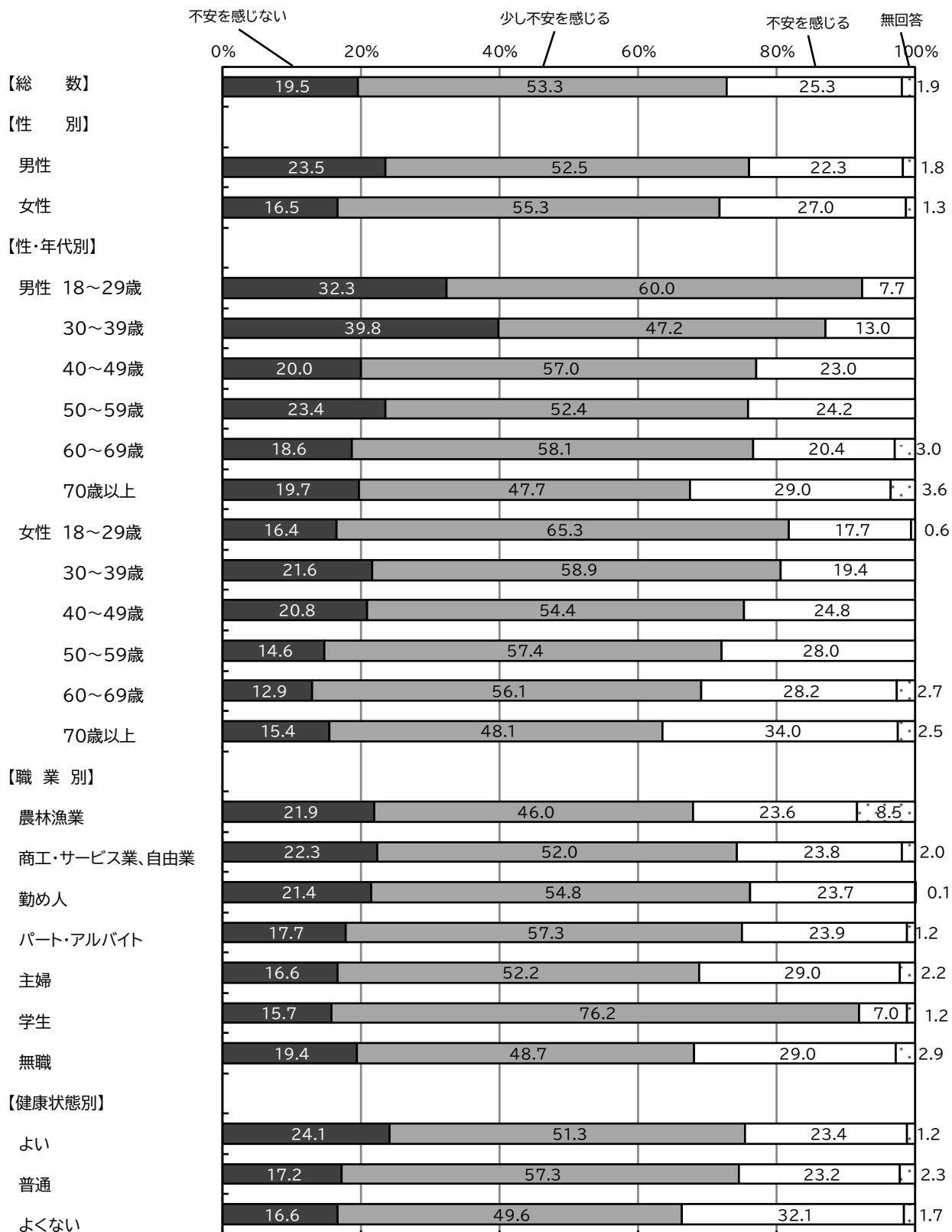
学生は「少し不安を感じる」が76.2%となっており、他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

「不安を感じる」は健康状態がよい(23.4%)に比べ、健康状態がよくない(32.1%)の方が多くなっている。

図 1 1 - 2 転院に対する不安感





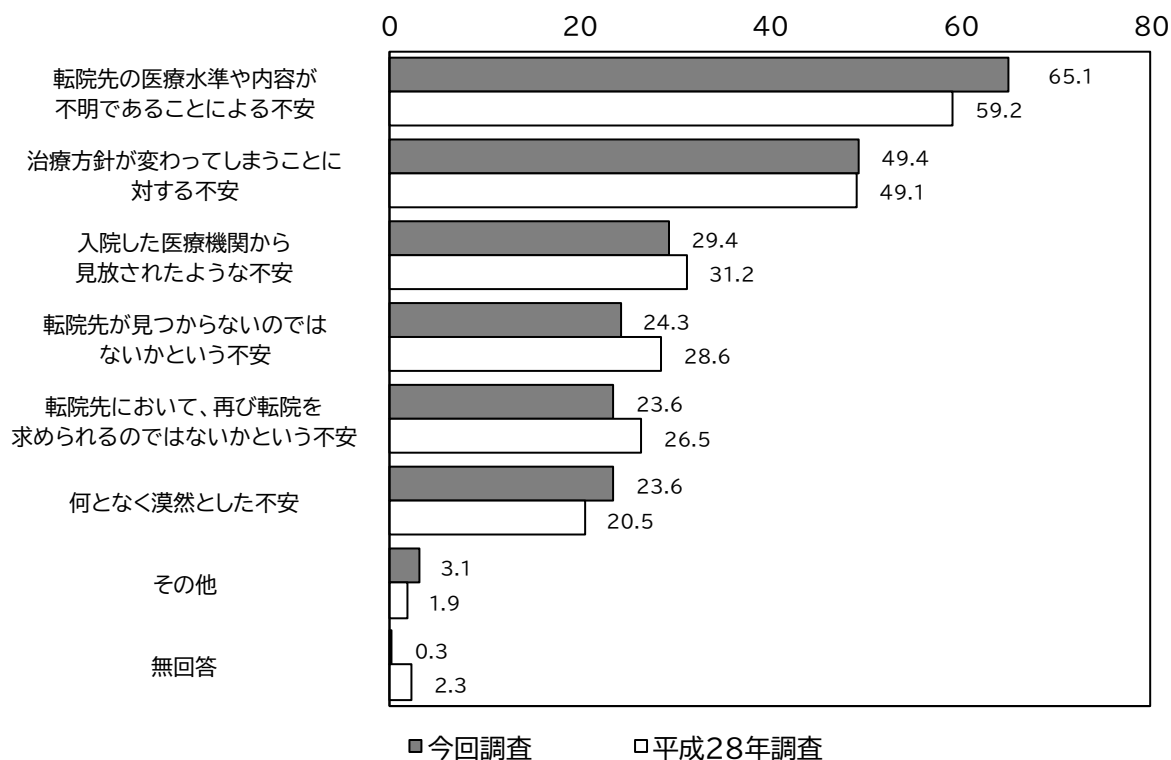
(2) 具体的な不安内容

～「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」65.1%、
「治療方針が変わってしまうことに対する不安」49.4%～

問19-1 具体的にはどのような不安を感じますか。(○はあてはまるものすべて)

図11-3

(n=不安を感じる人)



転院を求められたら不安を感じる人に、具体的な不安を聞いたところ、「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」が65.1%と最も多く、次いで「治療方針が変わってしまうことに対する不安」が49.4%となっている。

平成28年調査結果との比較では、傾向は変わらないが、「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」が多くなっている。

◆地域別

藤岡保健医療圏を除いて、いずれの地域も「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」が最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「治療方針が変わってしまうことに対する不安」は郡部(42.9%)に比べ、市部(50.6%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

「転院先が見つからないのではないかという不安」は男性(19.1%)に比べて、女性(28.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」は60代男性で79.1%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

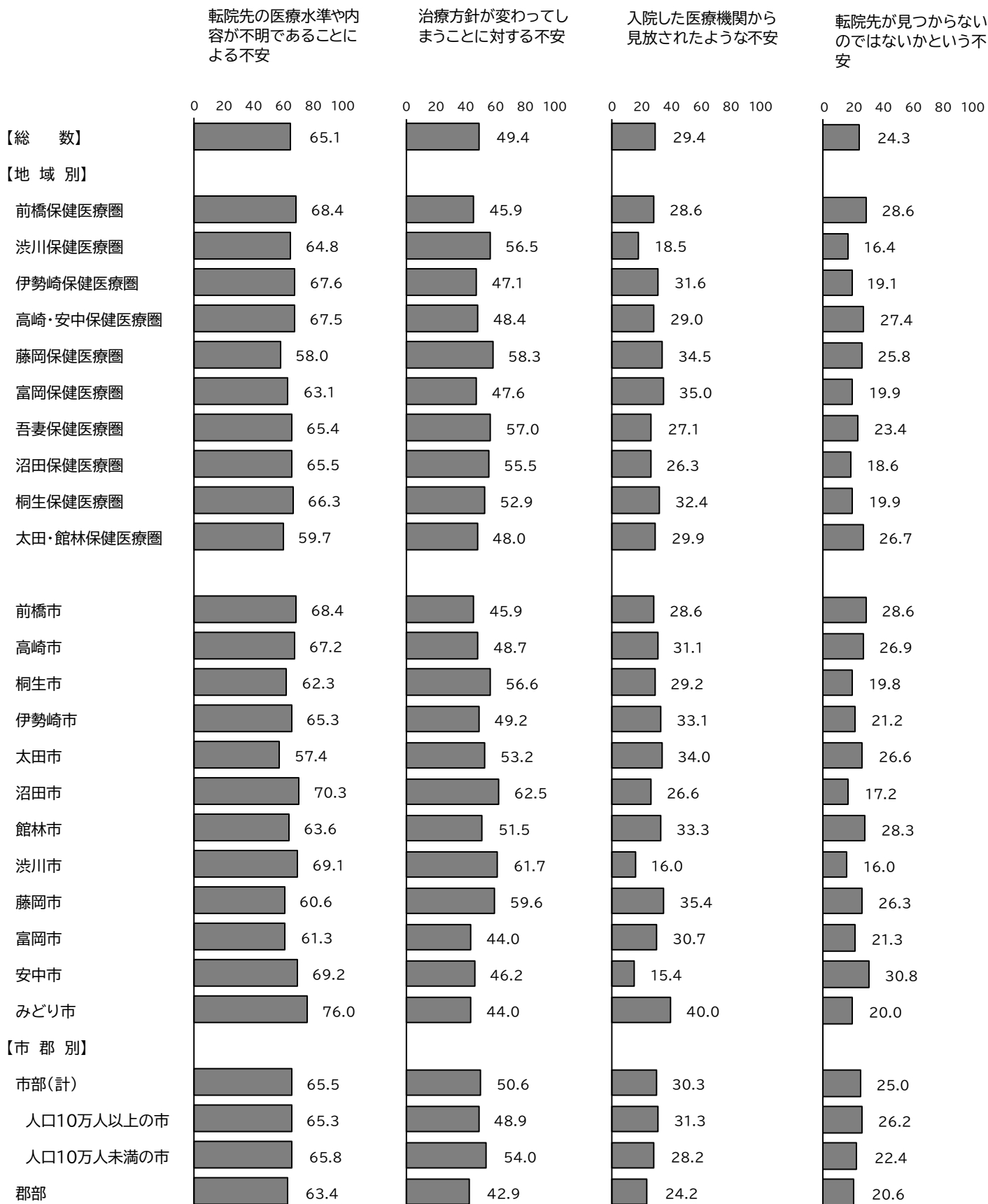
◆職業別

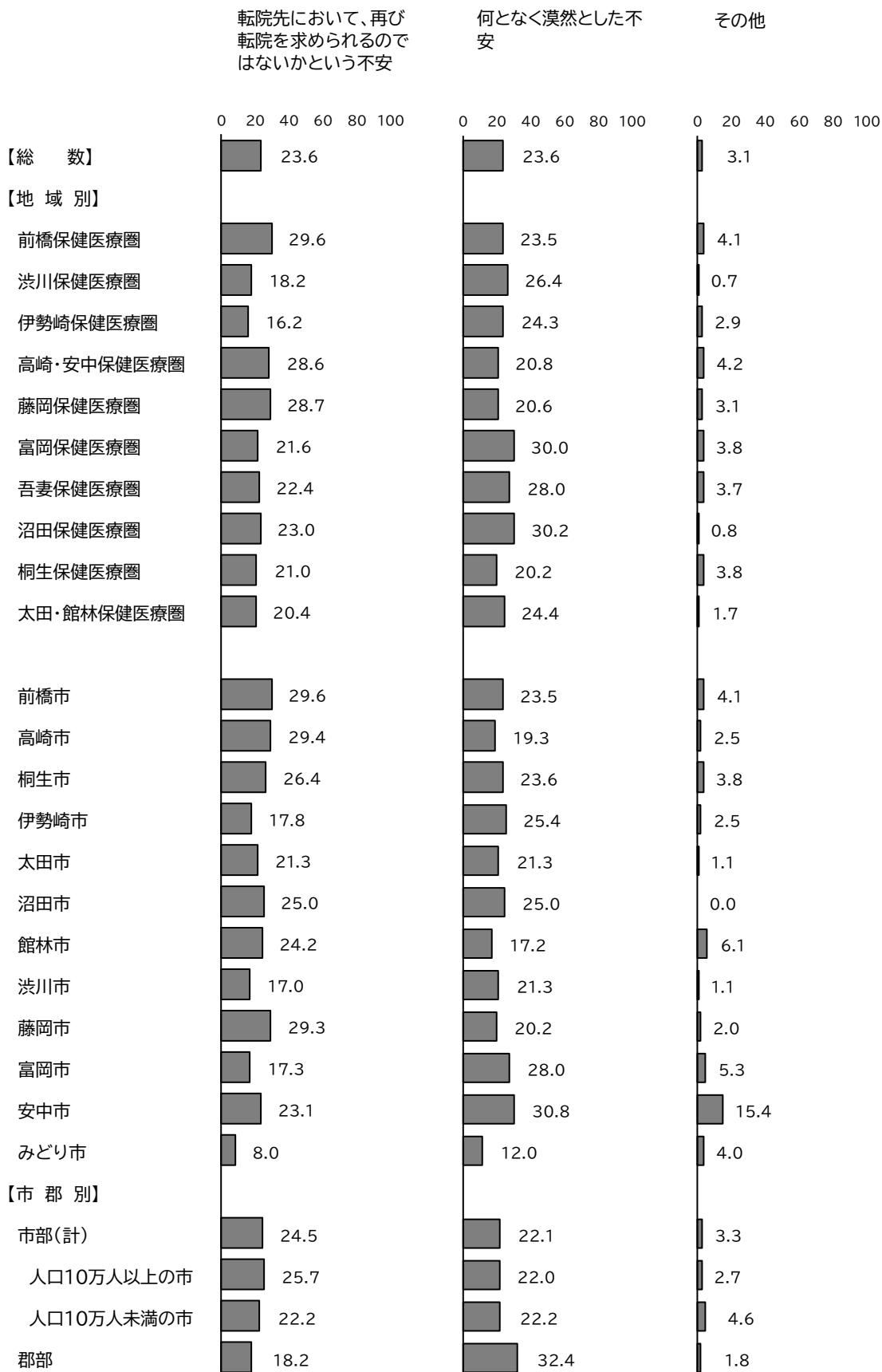
「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」は商工・サービス業、自由業で74.5%と他の職業に比べ多くなっている。

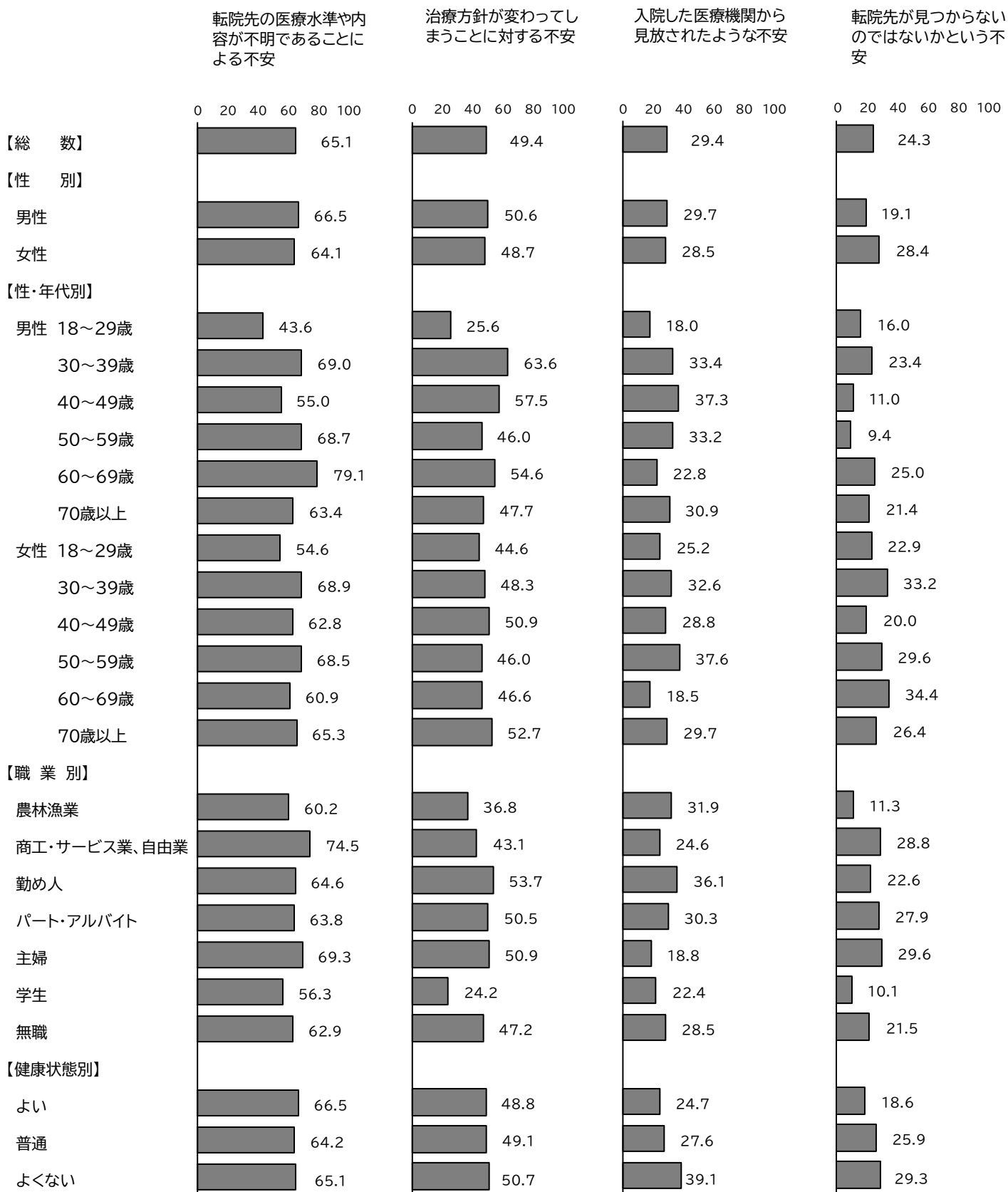
◆健康状態別

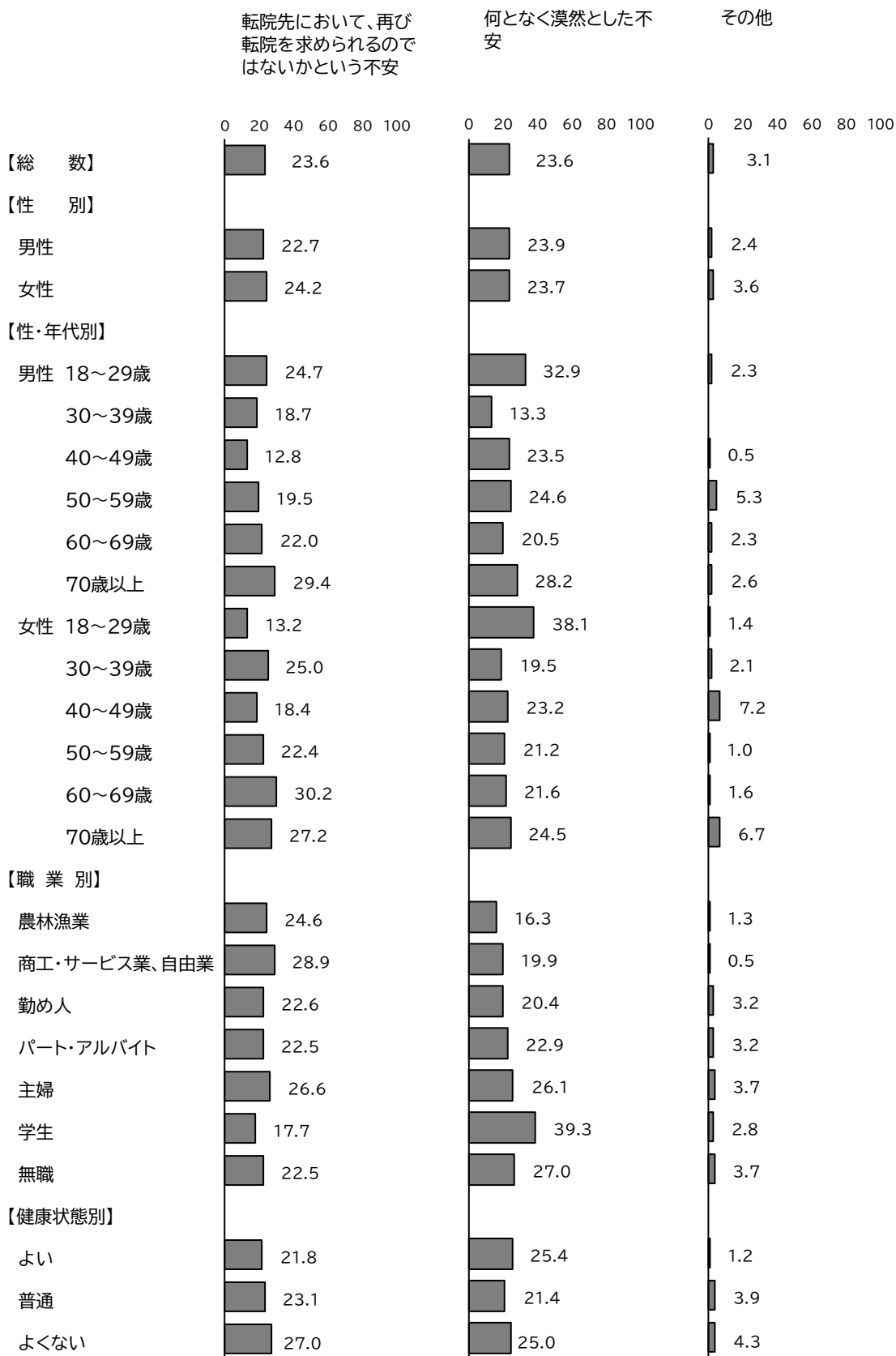
「入院した医療機関から見放されたような不安」は健康状態がよい(24.7%)に比べ、健康状態がよくない(39.1%)の方が多くなっている。

図 1 1 - 4 具体的な不安内容





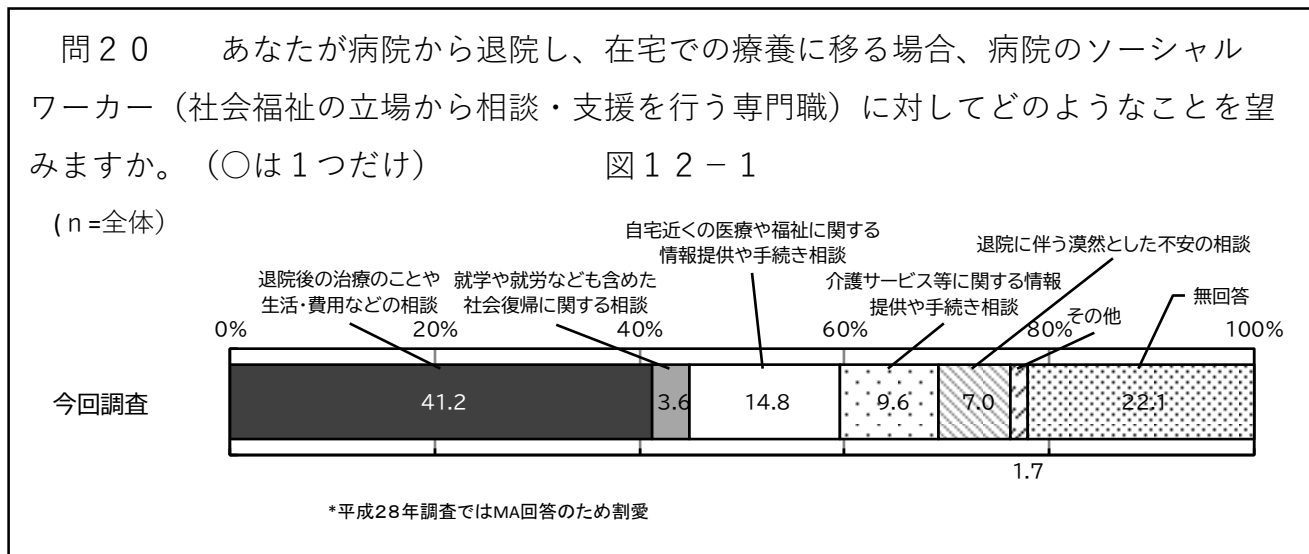




1 2 退院について

(1) 退院後に病院のソーシャルワーカーに望むこと

～「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」41.2%が最も多い～



病院から退院し、病院のソーシャルワーカーに望むことを聞いたところ、「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」が41.2%と最も多く、次いで「自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談」が14.8%、「介護サービス等に関する情報提供や手続き相談」が9.6%となっている。

◆地域別

いずれの地域も「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」が最も多くなっている。

◆市郡別

「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」は市部(40.3%)に比べ、郡部(46.2%)の方が多くなっている。

◆性別

「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」は女性(38.6%)に比べ、男性(44.9%)の方が多くなっている。一方、「自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談」は男性(11.5%)に比べ、女性(17.6%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談」は60代女性で24.9%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

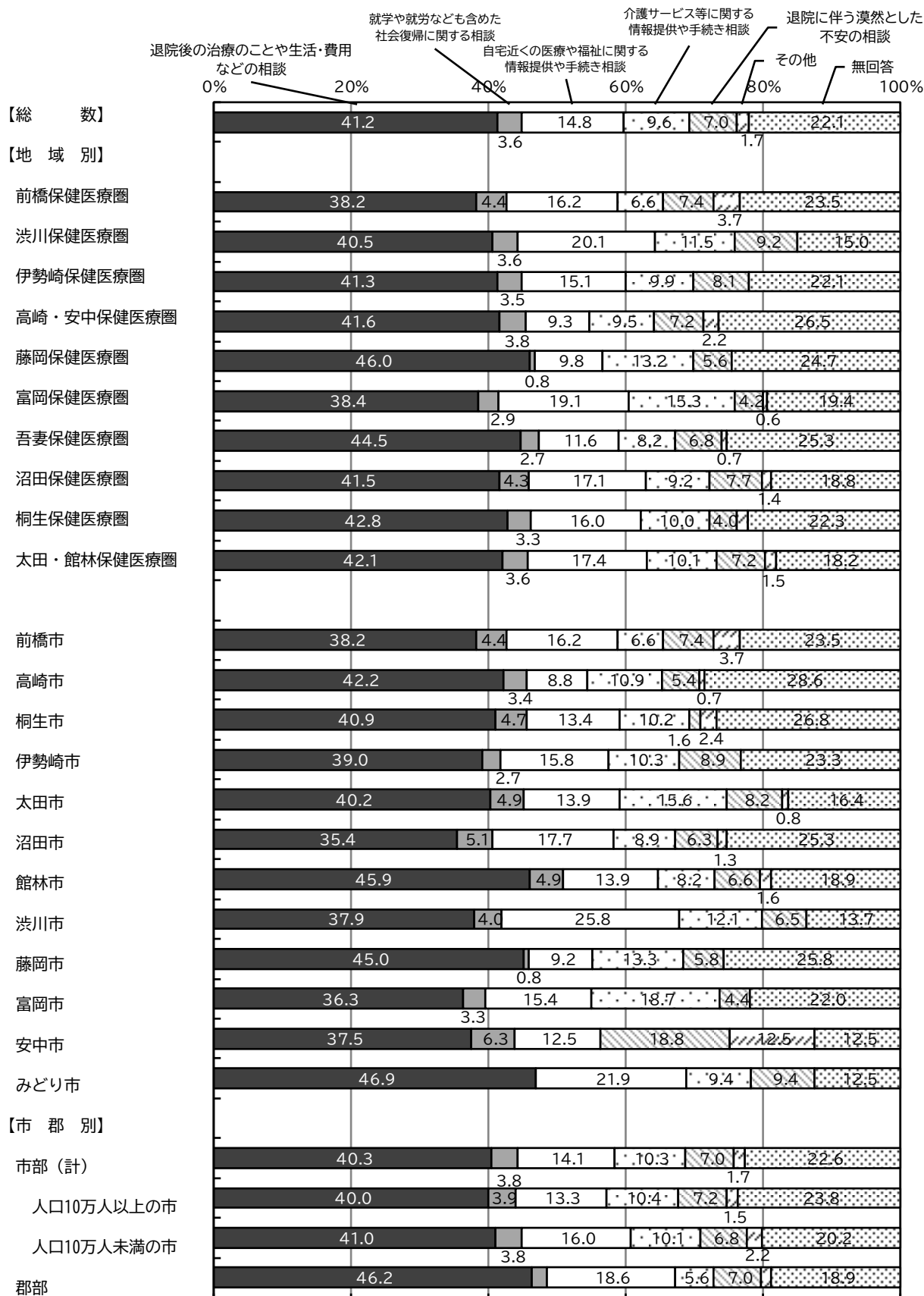
◆職業別

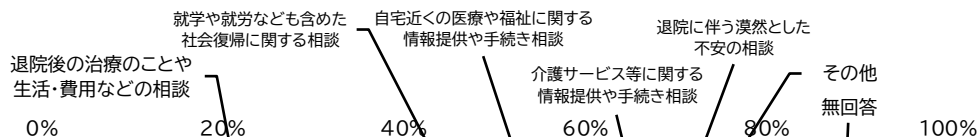
「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」は学生で50.4%と他の職業に比べやや多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で大きな差異はみられない。

図 1 2 - 2 退院後に病院のソーシャルワーカーに望むこと



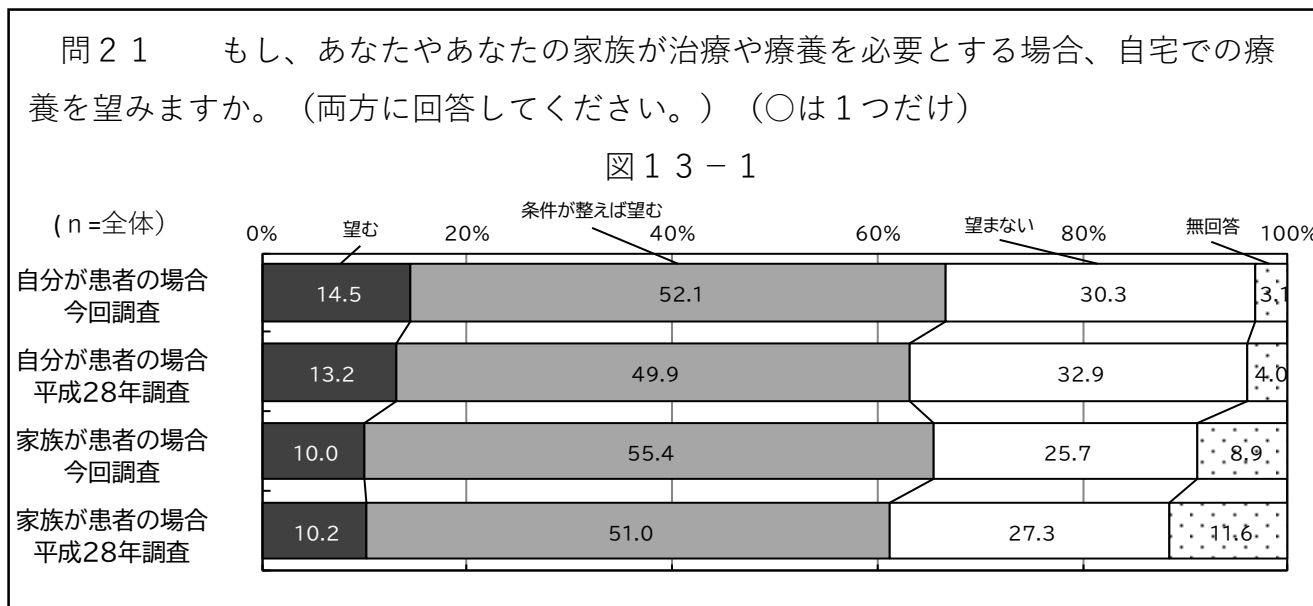


Category	退院後の治療のことや生活・費用などの相談	就学や就労なども含めた社会復帰に関する相談	自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談	介護サービス等に関する情報提供や手続き相談	退院に伴う漠然とした不安の相談	その他無回答
【総 数】	41.2	3.6	14.8	9.6	7.0	22.1
【性 別】					1.7	
男性	44.9	4.6	11.5	7.3	7.0	21.9
女性	38.6	17.6	11.2	7.1	2.7	22.0
【性・年代別】		2.6			0.8	
男性 18~29歳	52.2	11.7	4.3			29.4
30~39歳	42.7	7.3	7.9	1.8	0.7	33.8
40~49歳	40.9	6.4	6.4	1.6	4.0	2.7
50~59歳	40.5	10.6	8.8	4.7	6.6	25.1
60~69歳	51.7	1.6	14.5	7.4	6.9	17.2
70歳以上	43.2	16.1	14.0	10.4	1.6	12.4
女性 18~29歳	40.8	7.6	5.7	2.7	2.9	40.3
30~39歳	34.8	2.1	9.7	3.0	11.6	38.8
40~49歳	42.1	5.2	16.0	6.6		25.8
50~59歳	38.3	5.5	17.9	11.2	4.9	20.3
60~69歳	41.9	24.9	14.6	6.1	1.8	12.4
70歳以上	35.2	20.7	20.9	8.8	1.2	13.2
【職 業 別】						
農林漁業	40.8	22.3	13.7	11.3	11.9	
商工・サービス業、自由業	44.1	4.7	12.6	8.6	3.9	22.8
勤め人	39.2	6.1	11.5	5.2	3.3	31.7
パート・アルバイト	47.5	5.0	14.2	8.0	7.2	17.6
主婦	39.2	0.2	20.4	15.8	5.5	18.9
学生	50.4	4.0	5.4	5.5	5.7	29.0
無職	39.9	1.3	17.4	14.5	11.8	13.0
【健康状態別】						
よい	41.8	4.0	13.8	7.4	6.7	25.4
普通	40.3	3.6	18.3	10.4	7.4	18.5
よくない	42.4	3.2	9.4	11.7	7.1	23.3

1 3 在宅医療について

(1) 自宅での療養希望の有無

～「条件が整えば」自分が患者の場合、家族が患者の場合とも半数以上が自宅療養を望んでいる～



自分が患者の場合、自宅療養を「望む」は14.5%となっており、家族が患者の場合の10.0%よりやや多くなっている。同様に自分が患者の場合、自宅療養を「望まない」は30.3%となっており、家族が患者の場合の25.7%よりやや多くなっている。「条件が整えば望む」は自分が患者の場合は52.1%、家族が患者の場合は55.4%となっている。

平成28年調査結果との比較では、自分と家族どちらの患者の場合でも「条件が整えば望む」がやや多くなっている。

◆地域別

自分が患者の場合、自宅療養を「望む」は高崎・安中保健医療圏が18.6%と最も多くなっている。同様に家族が患者の場合も12.3%と最も多くなっている。

◆市郡別

自分が患者の場合、「条件が整えば望む」が市部(51.2%)に比べ、郡部(57.4%)の方が多くなっている。

家族が患者の場合、市部郡部で差異はみられない。

◆性別

自分が患者の場合、自宅療養を「望む」は女性(12.0%)に比べ、男性(17.5%)の方が多くなっている。

家族が患者の場合、自宅療養を「条件が整えば望む」は男性(52.8%)に比べ、女性(57.7%)の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

自分が患者の場合、「望まない」は、50代女性で36.5%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

家族が患者の場合、「望む」は、20代以下男性で19.0%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

◆職業別

自分が患者の場合、自宅療養を「望まない」はパート・アルバイトが42.2%と最も多くなっている。

家族が患者の場合、自宅療養を「望まない」は農林漁業が33.0%で他の職業に比べ多くなっている。

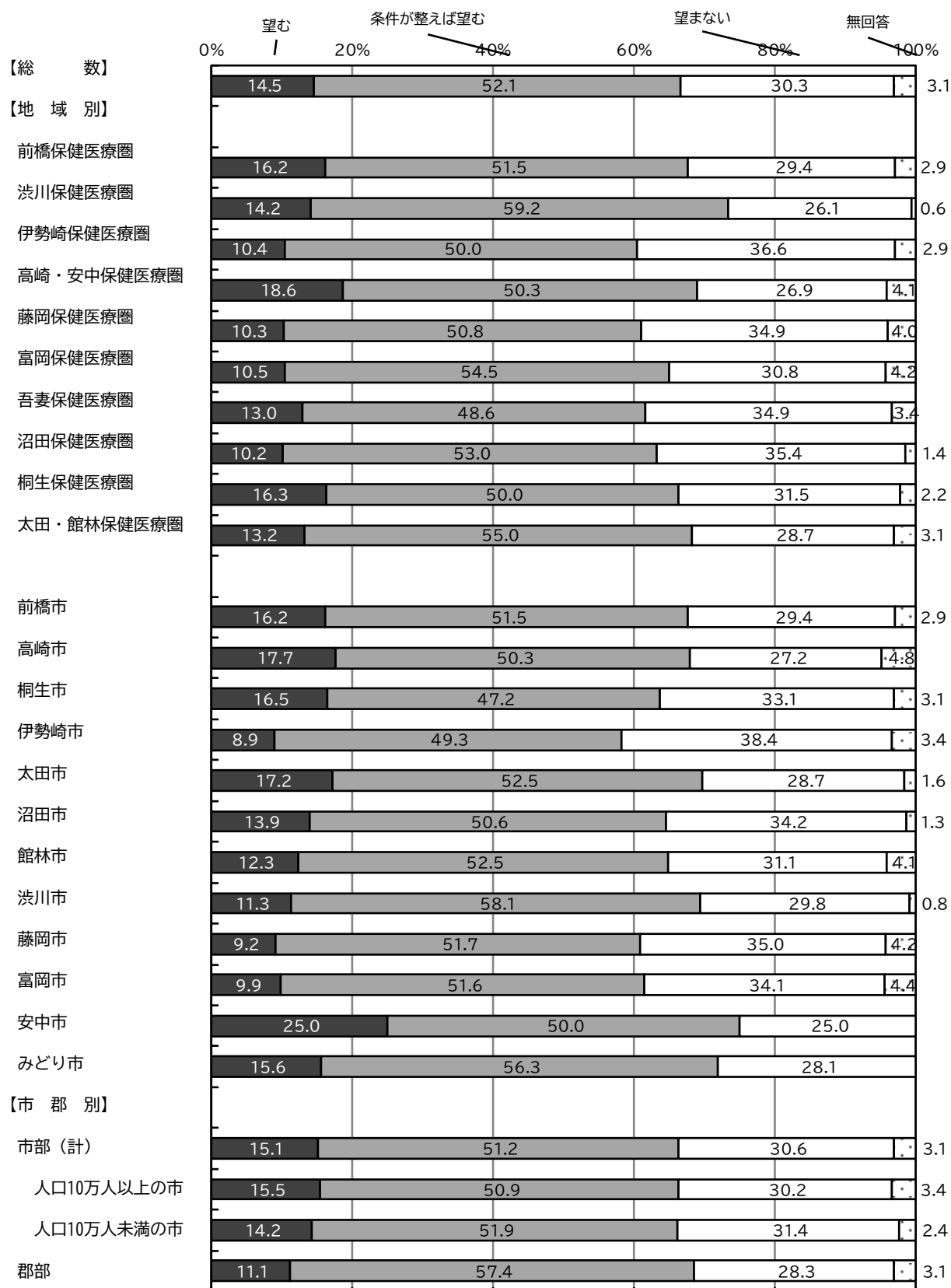
◆健康状態別

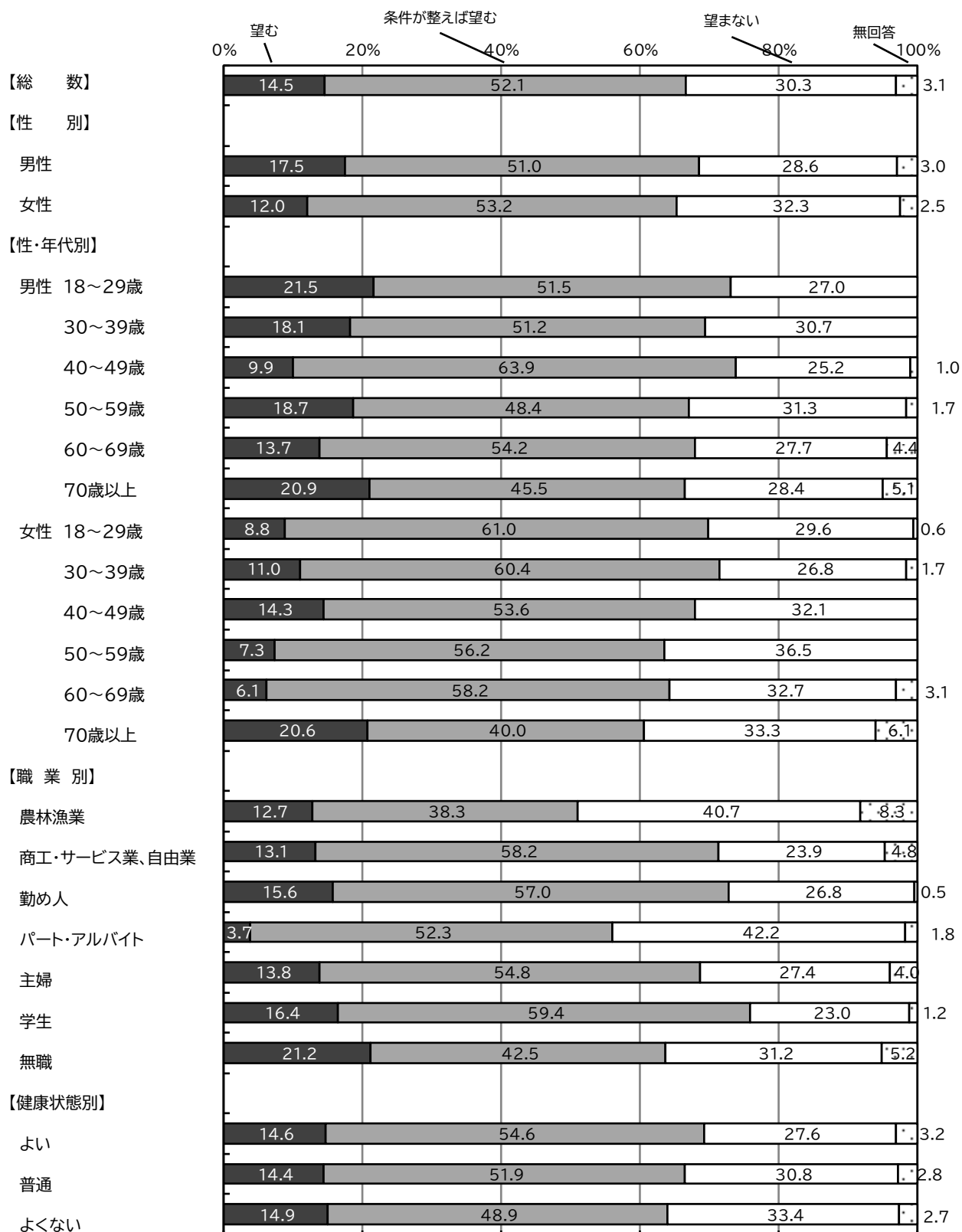
自分が患者の場合、「望まない」は、健康状態がよい(27.6%)に比べ、健康状態がよくない(33.4%)の方が多くなっている。

一方、家族が患者の場合、「条件が整えば望む」は、健康状態がよくない(50.7%)に比べ、健康状態がよい(55.8%)の方が多くなっている。

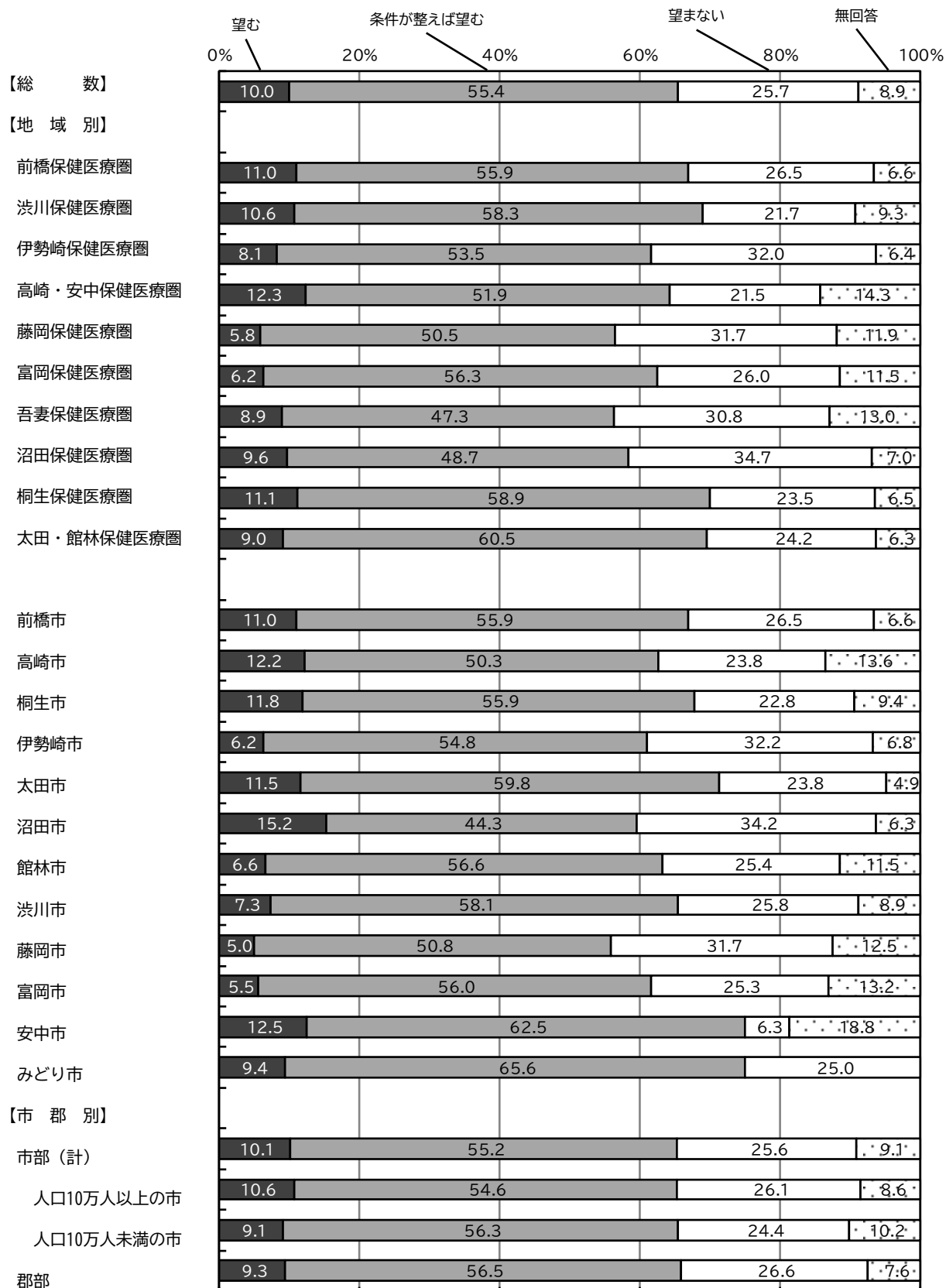
図 1 3 - 2 自宅での療養希望の有無

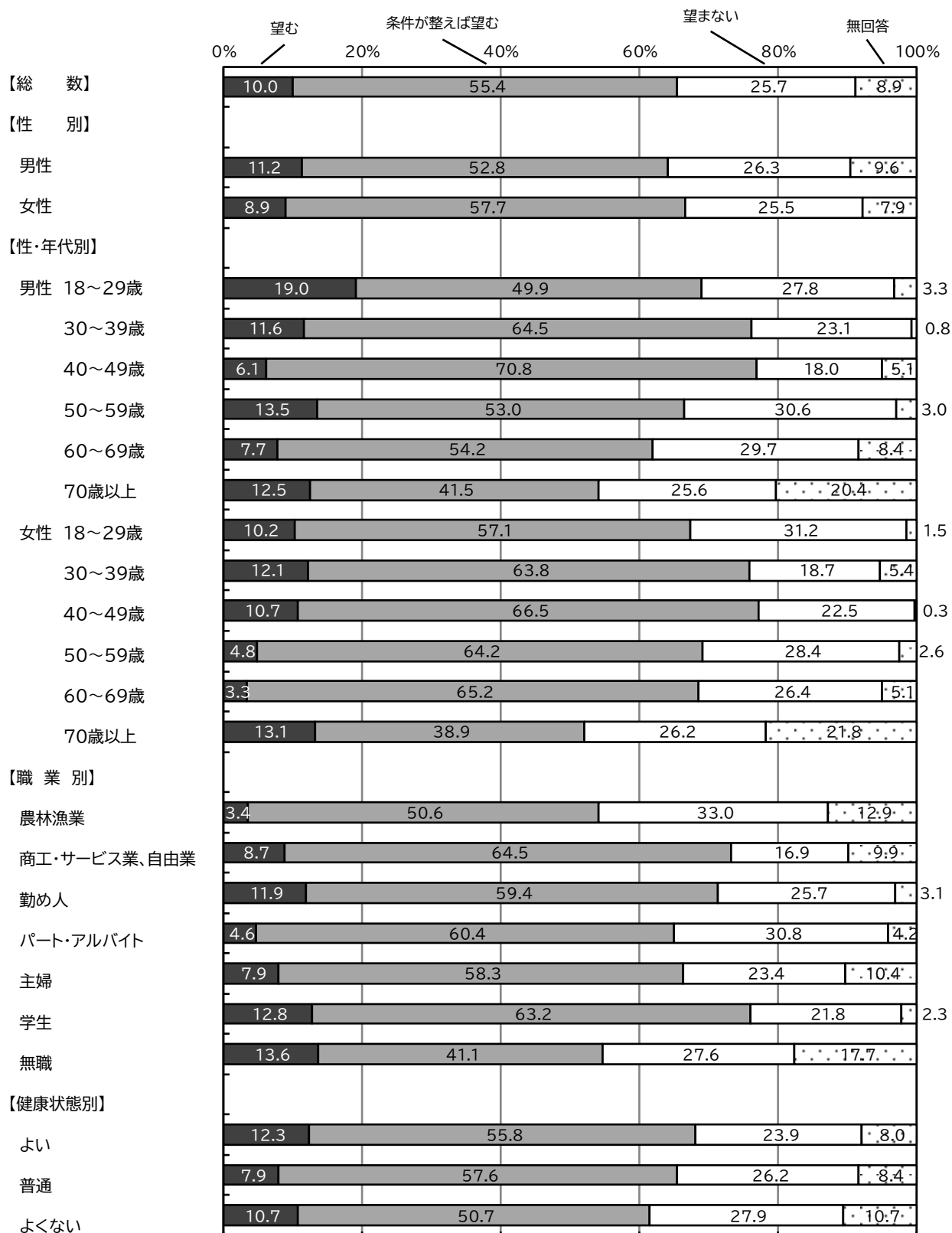
自分が患者の場合





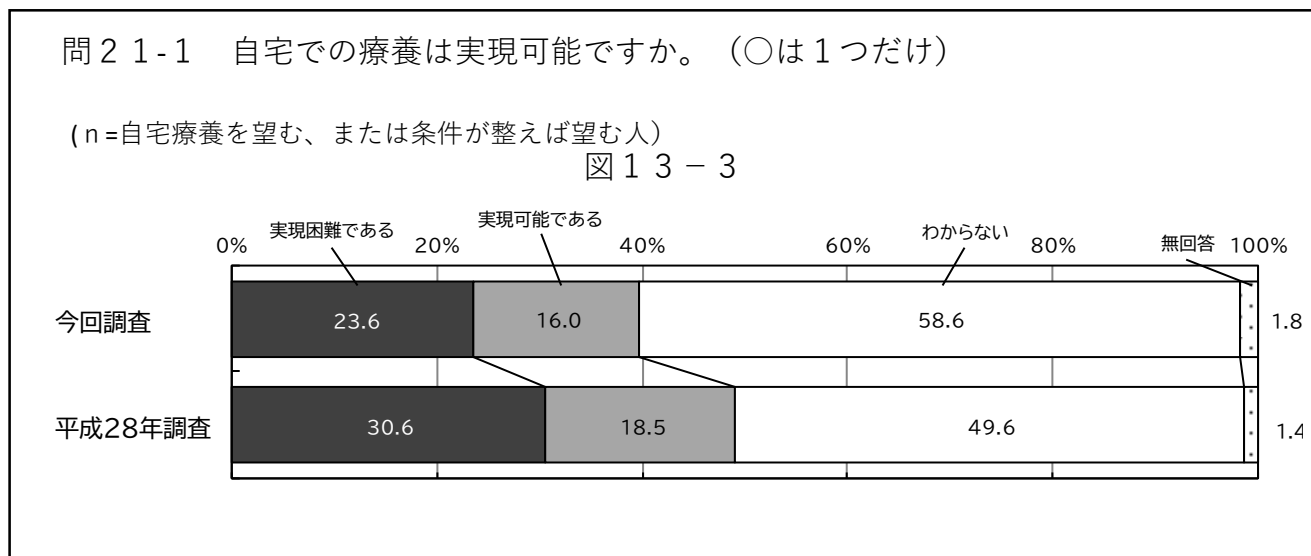
家族が患者の場合





(2) 自宅療養の実現可能性

～「実現可能である」は16.0%～



自宅療養を望む（条件が整えば望むを含む）人に、自宅療養が実現可能か聞いたところ、「実現可能である」は16.0%、「実現困難である」は23.6%、「わからない」は58.6%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「実現困難である」が少なくなっており、「わからない」が多くなっている。

◆地域別

自宅療養が「実現困難である」は吾妻保健医療圏が33.0%と最も多くなっている。

◆市郡別

自宅療養が「実現困難である」は、市部(22.2%)に比べ、群部(31.0%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

自宅療養が「実現可能である」は女性(12.4%)に比べ、男性(20.0%)の方が多くなっている。また、「わからない」は男性(55.7%)に比べ、女性(61.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

自宅療養が「実現困難である」は女性では40代と70歳以上で30.0%を超えている。

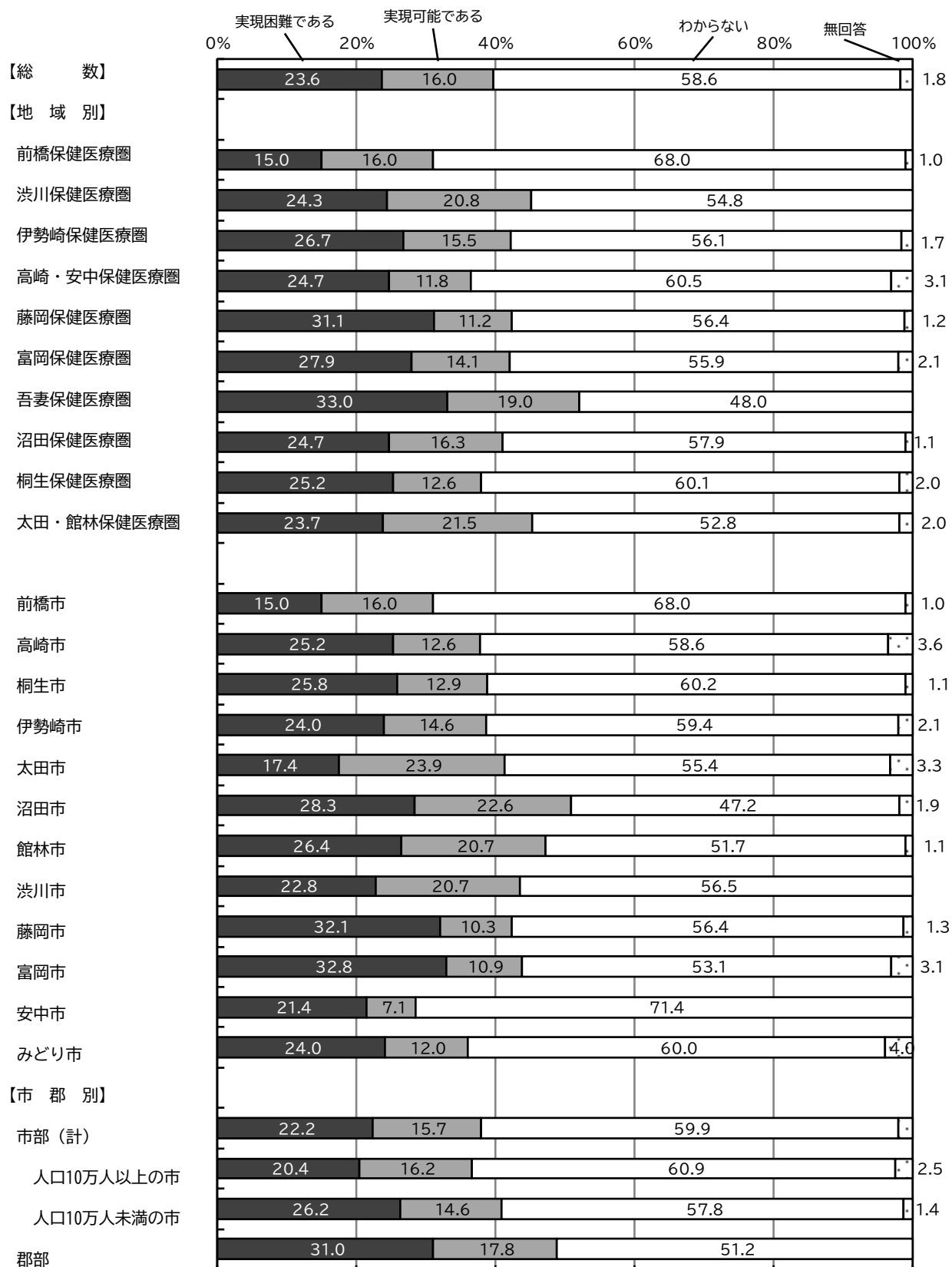
◆職業別

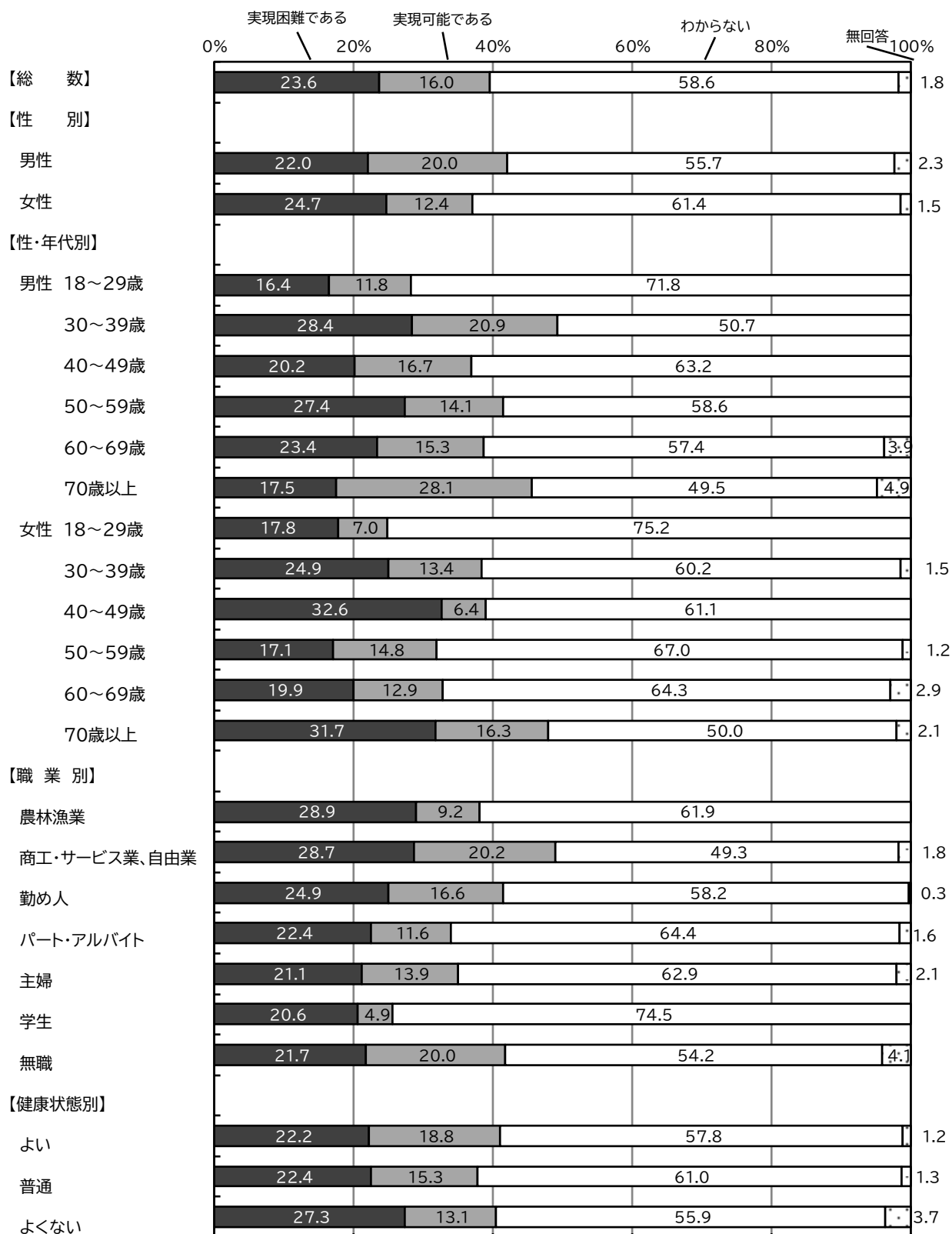
自宅療養が「実現可能である」は、学生が4.9%と最も少なくなっている。また、「わからない」は商工・サービス業、自由業以外いずれも50.0%を超えている。

◆健康状態別

自宅療養が「実現可能である」は、健康状態がよくない(13.1%)に比べ、健康状態がよい(18.8%)の方が多くなっている。

図 1 3 - 4 自宅療養の実現可能性





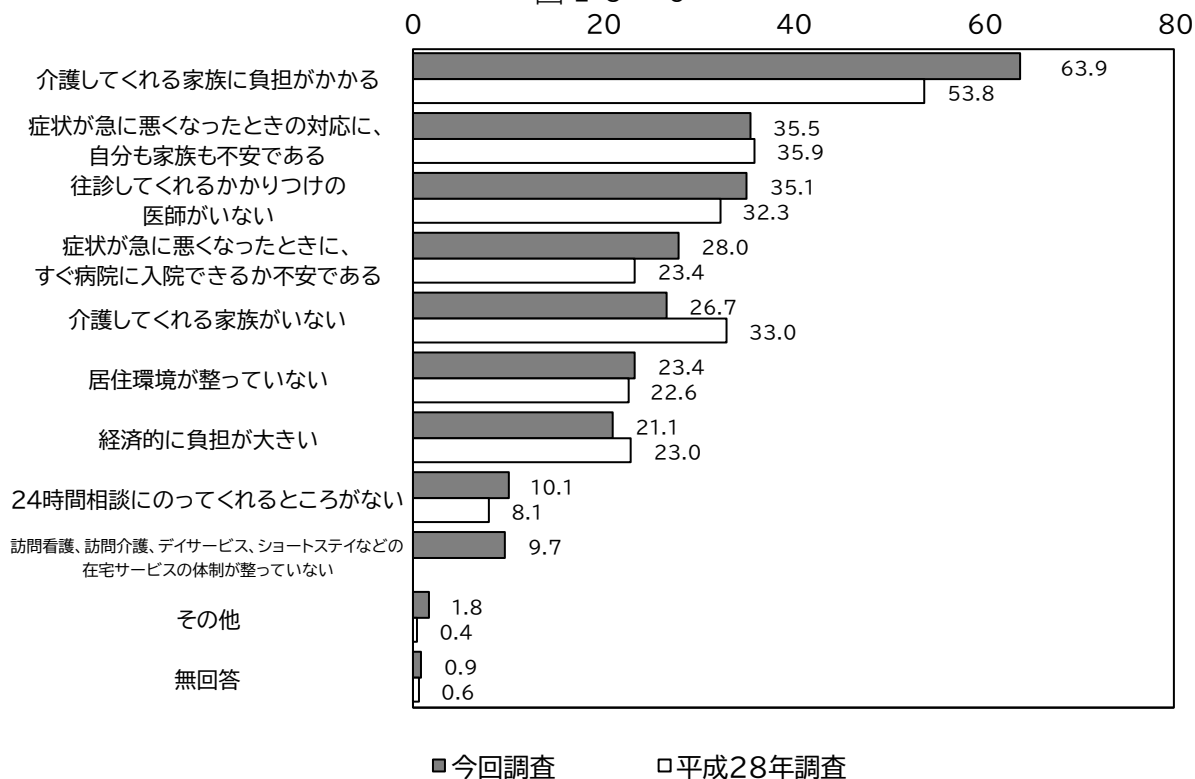
(3) 自宅療養が実現困難な理由

～「介護してくれる家族に負担がかかる」63.9%が最も多い～

問2 1-2 自宅療養が実現困難な理由は何ですか。(○は3つまで)

(n=自宅療養が実現困難である人)

図 1 3 - 5



*参考として平成28年調査では「訪問看護(看護師の訪問)の体制が整っていない」11.6%
「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の体制が整っていない」5.6%

自宅療養が実現困難である人に、具体的な理由を聞いたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が63.9%と最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に、自分も家族も不安である」が35.5%、「往診してくれるかかりつけの医師がない」が35.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「介護してくれる家族に負担がかかる」は多くなっている。一方、「介護してくれる家族がない」は少なくなっている。

◆地域別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は吾妻保健医療圏(75.8%)、藤岡保健医療圏(72.7%)、伊勢崎保健医療圏(70.9%)で70.0%を超えている。また、前橋保健医療圏は「介護してくれる家族がない」が40.0%と他の地域と比べて最も多くなっている。

◆市郡別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は市部(59.6%)に比べ、郡部(81.1%)の方が多くなっている。

◆性別

「介護してくれる家族に負担がかかる」と「居住環境が整っていない」は男性に比べ、女性の方が多くなっている。

◆性・年代別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられ、特に20代以下女性では82.8%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

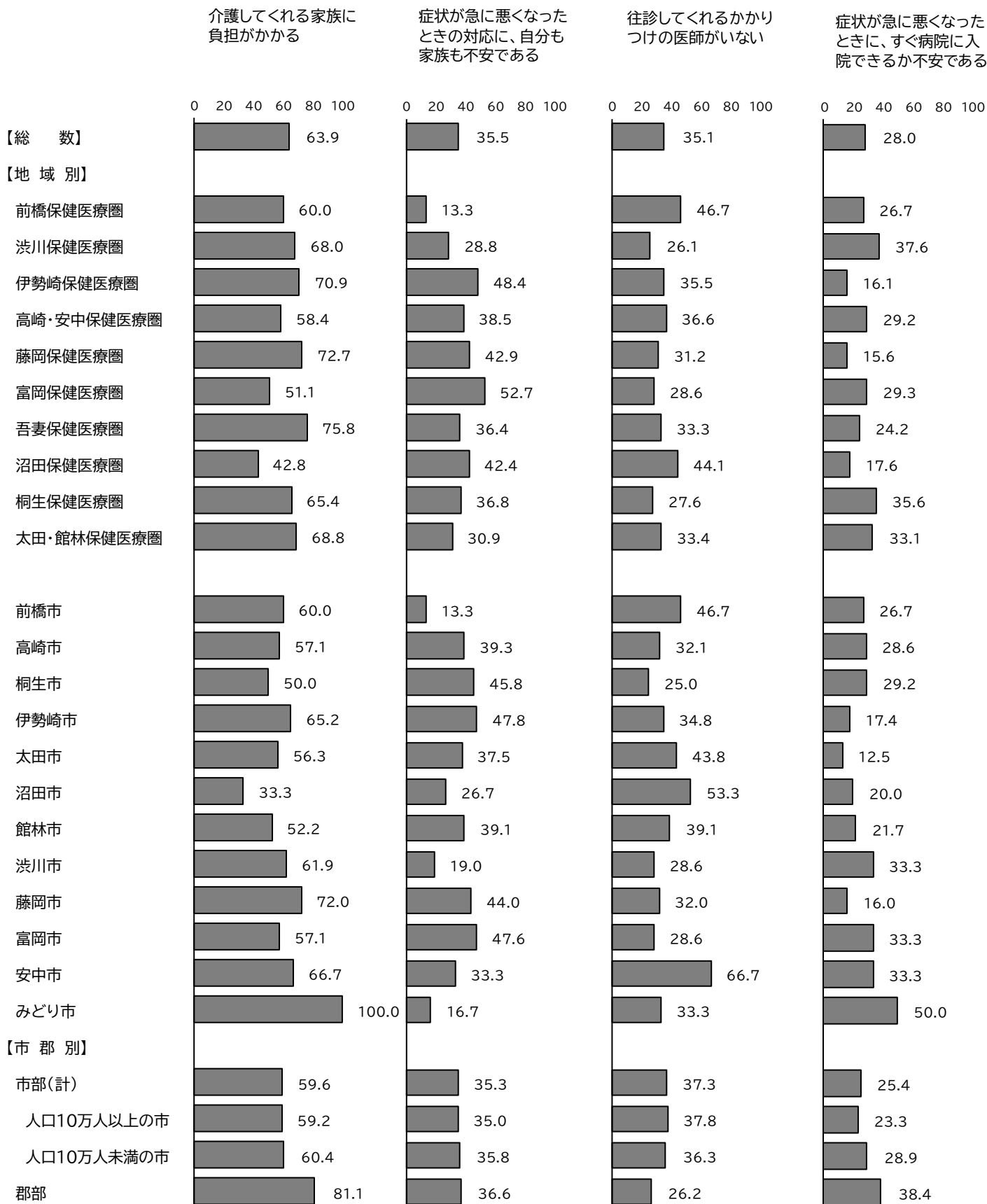
◆職業別

いずれの職業も「介護してくれる家族に負担がかかる」が最も多くなっている。その中でも勤め人が72.7%と最も多くなっている。また、学生は「経済的に負担が大きい」が40.5%と他の職業に比べ多くなっている。

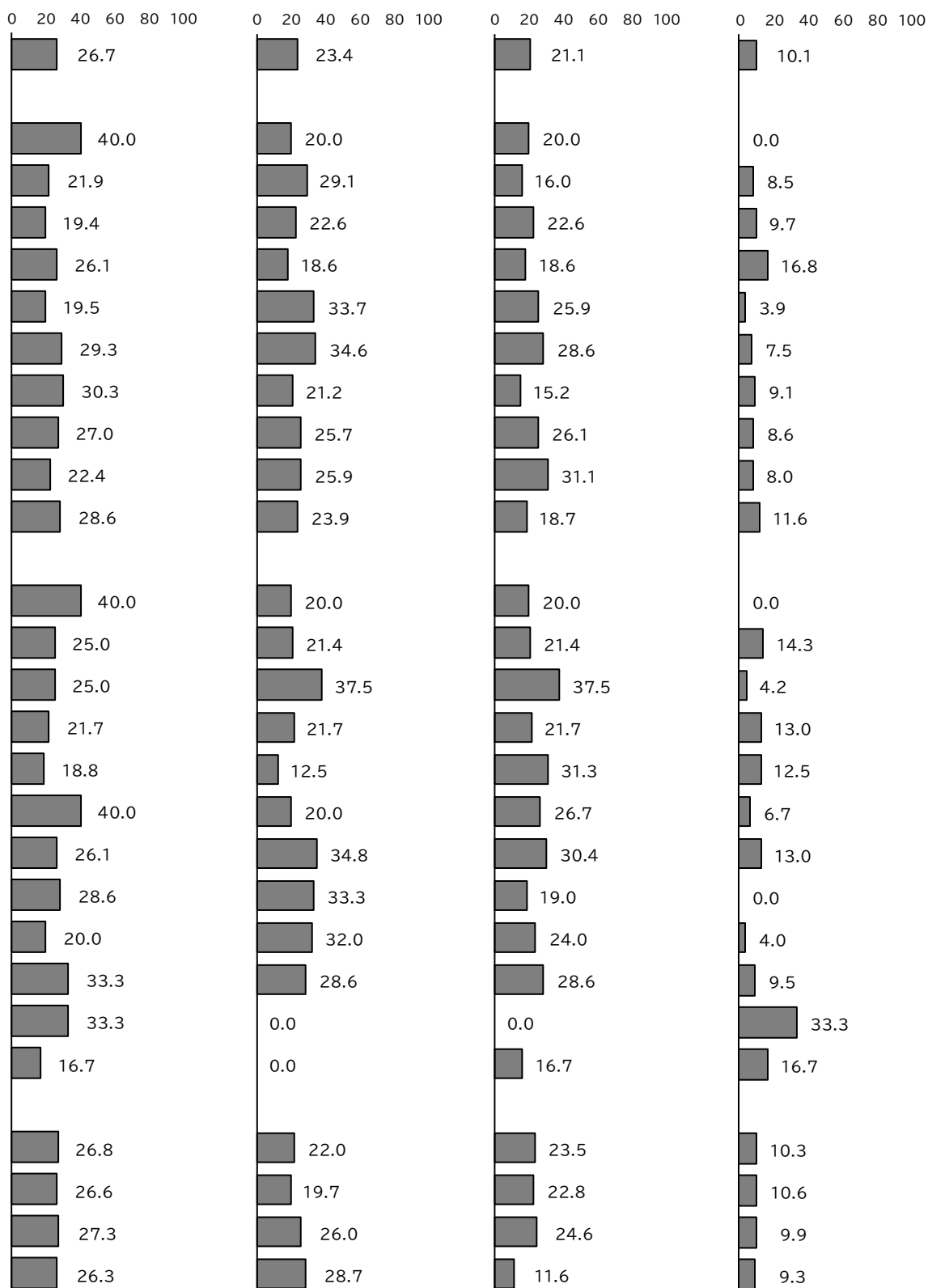
◆健康状態別

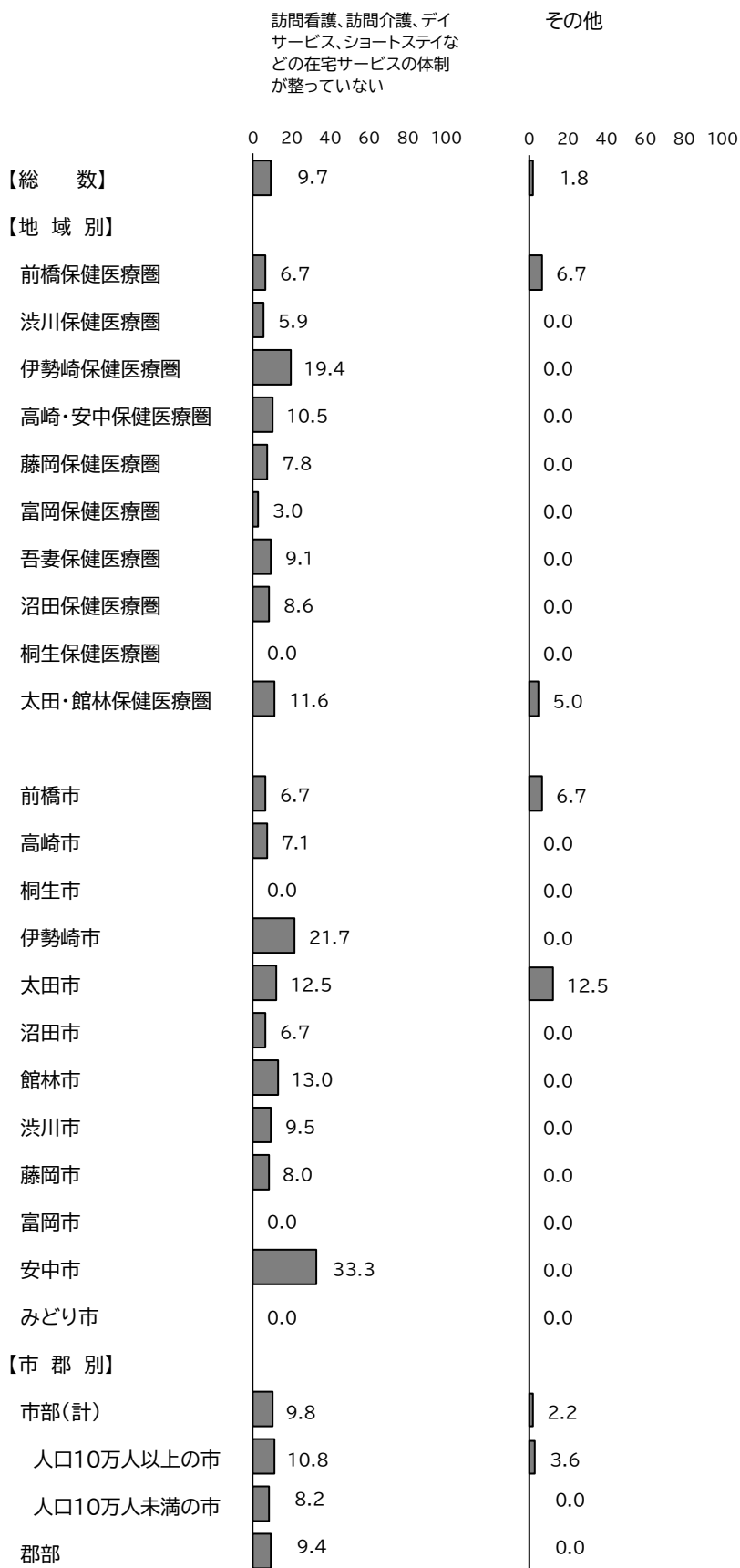
「症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である」と「居住環境が整っていない」は健康状態がよいに比べ、健康状態がよくないの方が多くなっている。

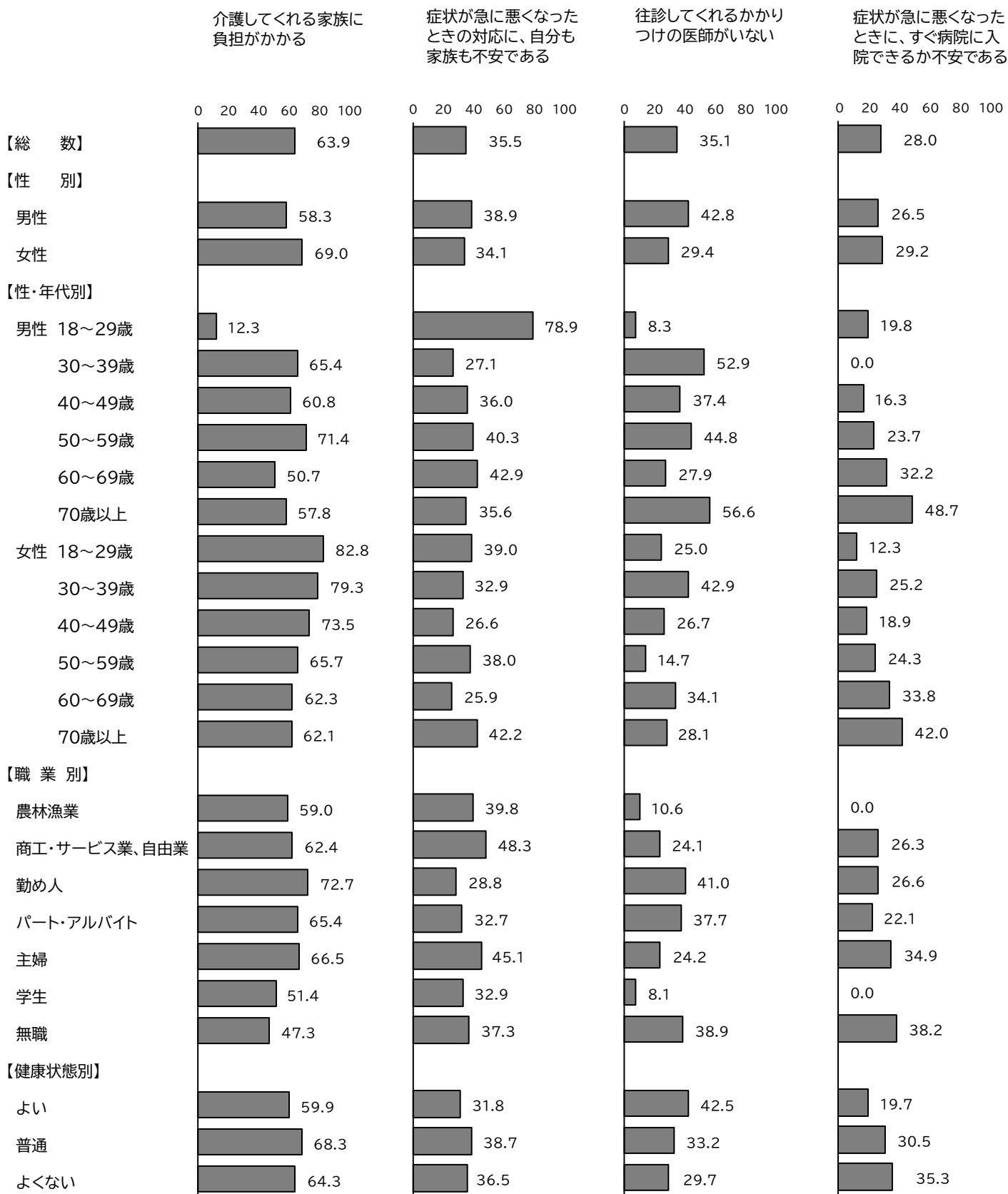
図 1 3 - 6 自宅療養が実現困難な理由

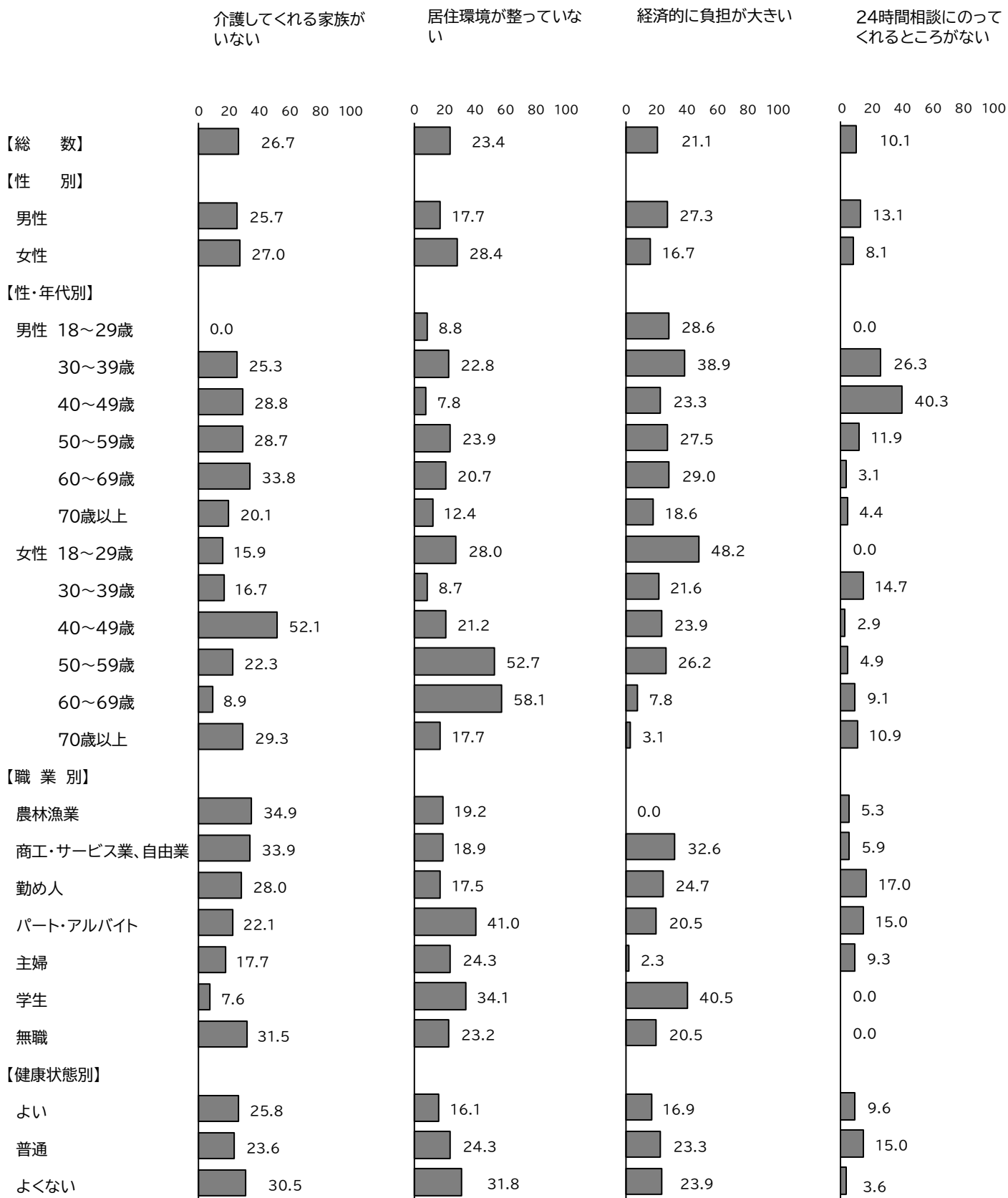


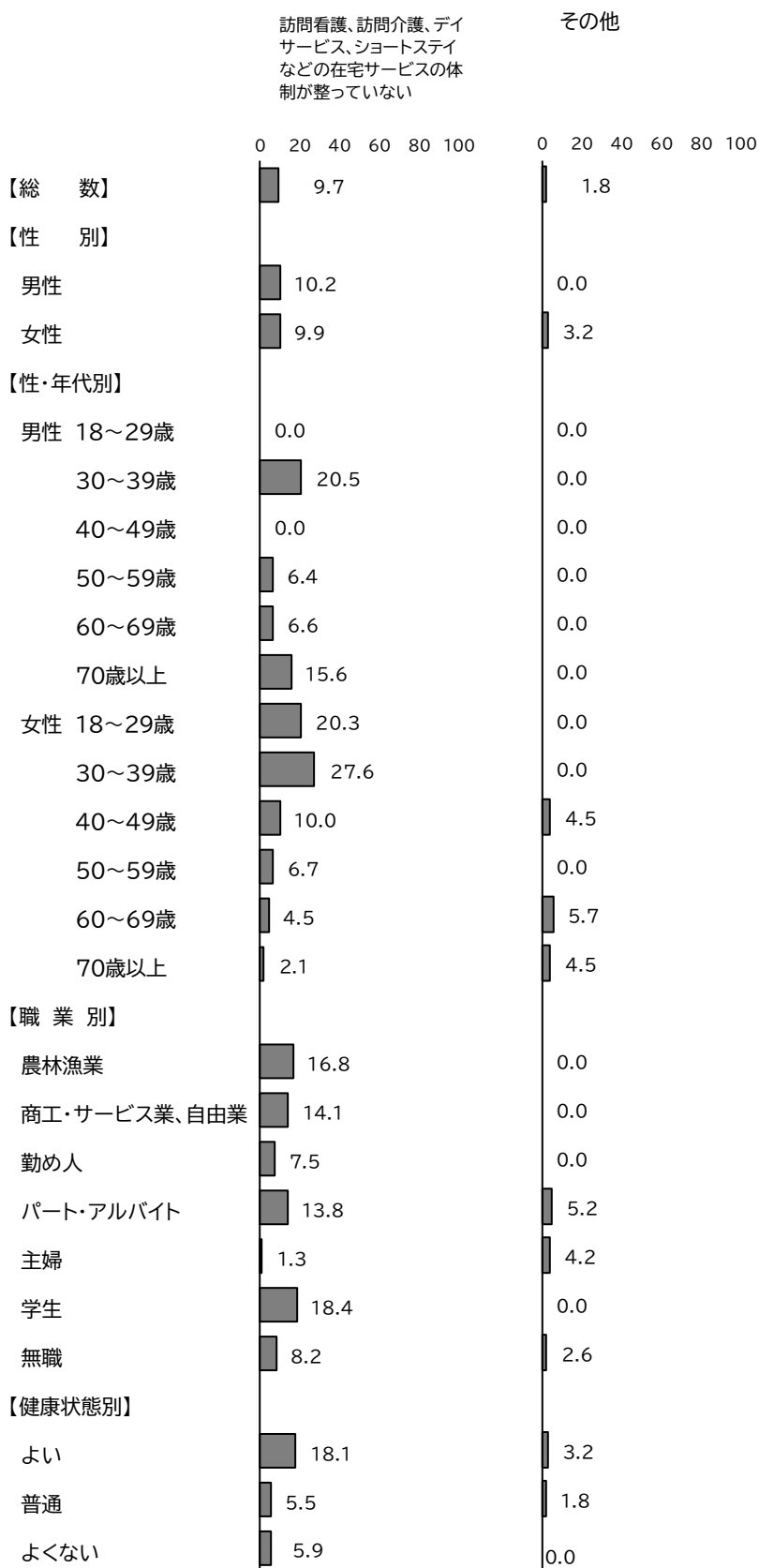
介護してくれる家族がない
居住環境が整っていない
経済的に負担が大きい
24時間相談にのって
くれるところがない









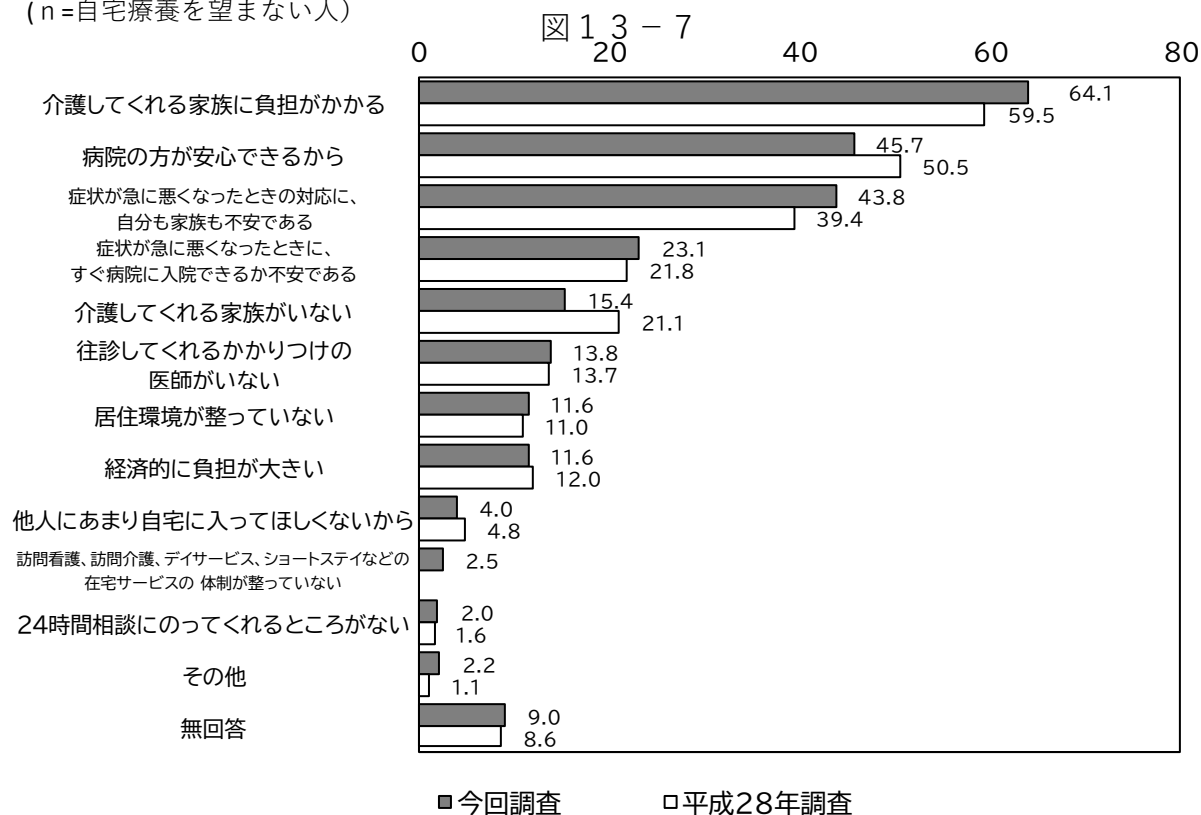


(4) 自宅療養を望まない理由

～「介護してくれる家族に負担がかかる」64.1%、
「病院の方が安心できるから」45.7%～

問2 1-3 問21で自宅療養を望まない理由は何ですか。(○は3つまで)

(n=自宅療養を望まない人)



*参考として平成28年調査では「訪問看護(看護師の訪問)の体制が整っていない」2.7%

「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の体制が整っていない」1.8%

自宅療養を望まない人に、具体的な理由を聞いたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が64.1%と最も多く、次いで「病院の方が安心できるから」が45.7%、「症状が急に悪くなったときの対応に、自分も家族も不安である」が43.8%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「病院の方が安心できるから」と「介護してくれる家族がない」が少なくなっている。

◆地域別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は富岡保健医療圏が72.7%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である」は郡部(17.6%)に比べ、市部(24.0%)の方が多くなっている。

◆性別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は男性(57.7%)に比べ、女性(68.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は40代女性が83.1%と最も多く、次いで50代女性が78.6%となっている。また、「症状が急に悪くなったときの対応に、自分も家族も不安である」は男性では40代が66.9%、女性では30代が62.3%と多くなっている。

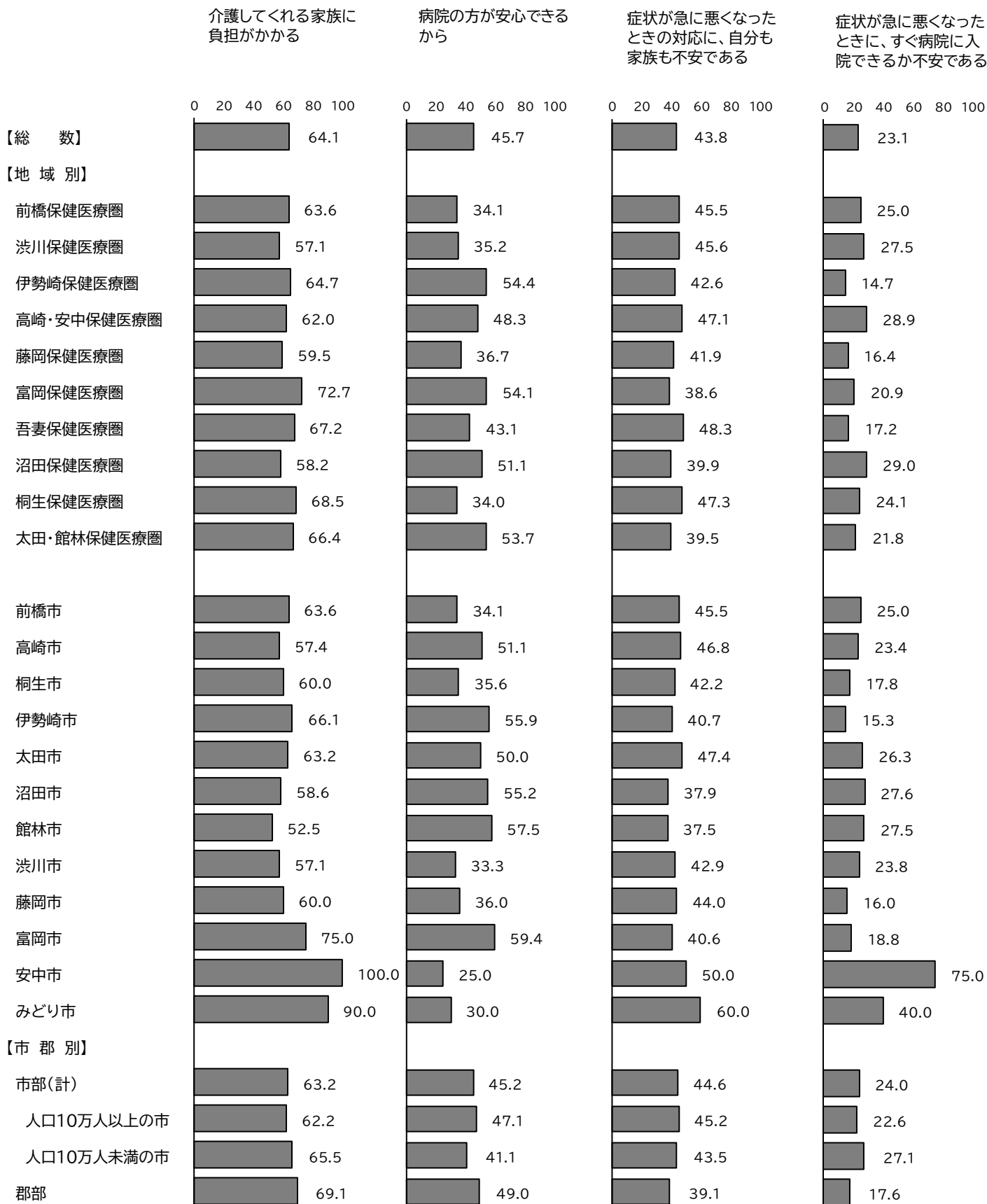
◆職業別

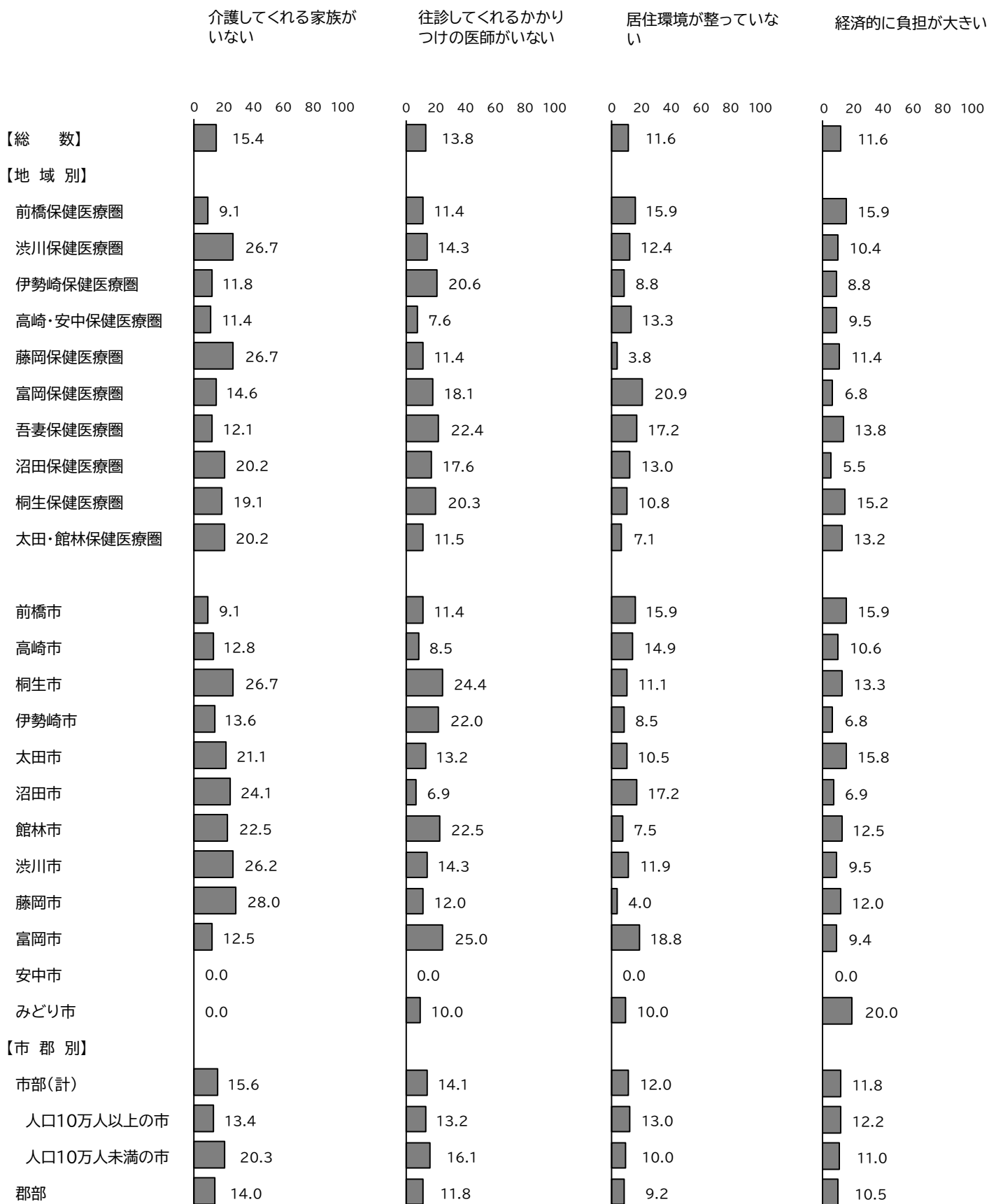
「介護してくれる家族に負担がかかる」は学生が95.7%と最も多くなっている。

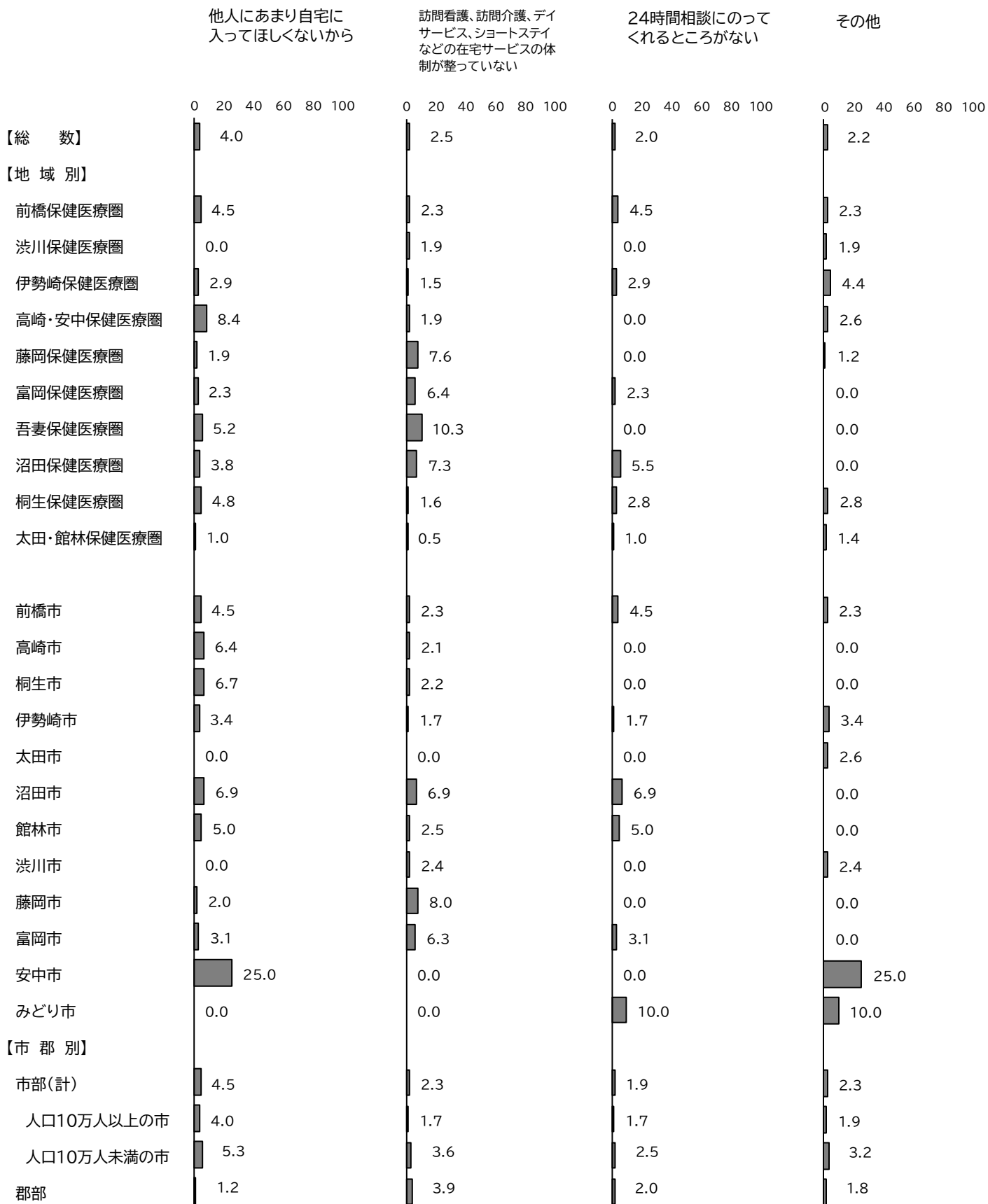
◆健康状態別

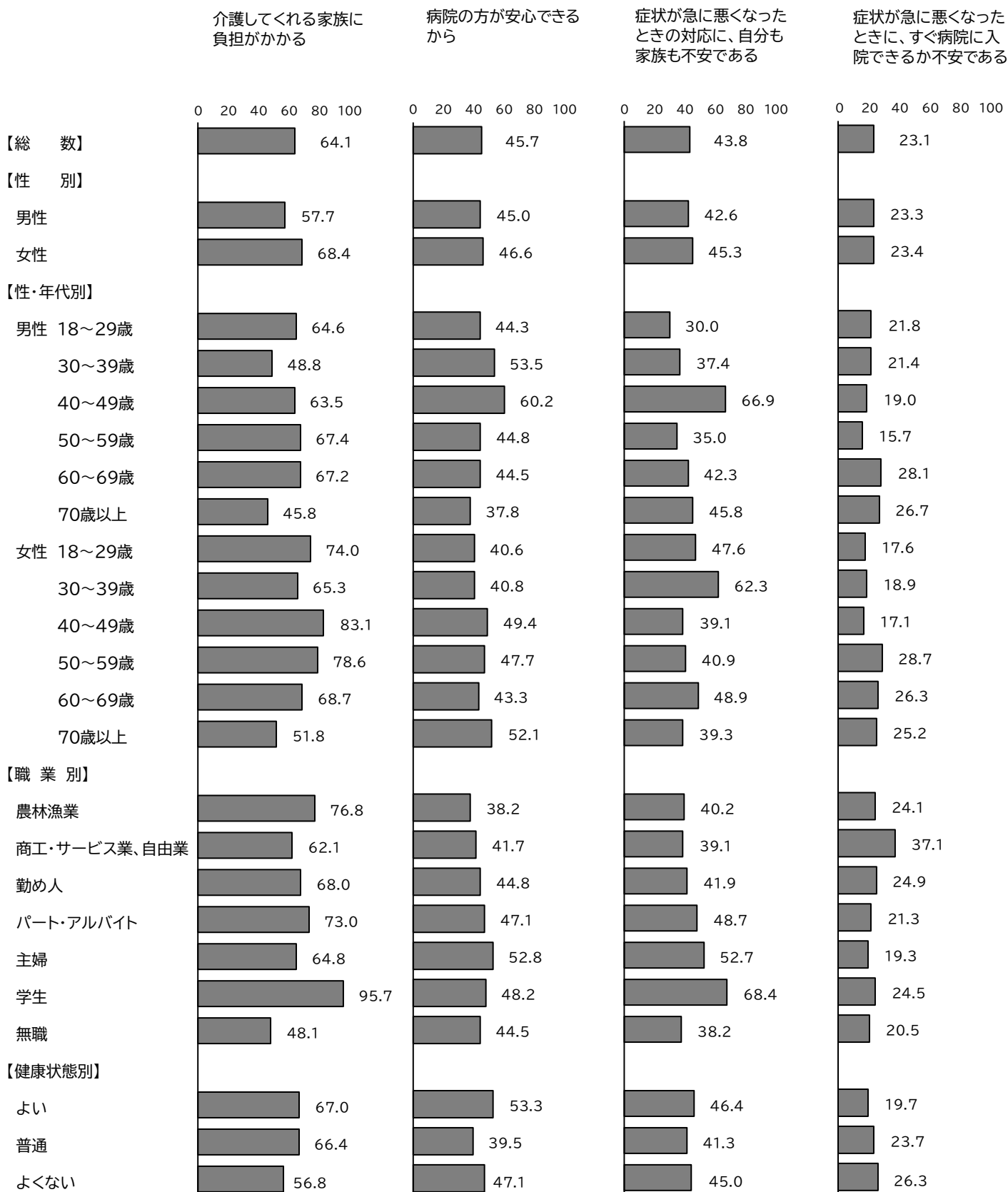
「介護してくれる家族に負担がかかる」は健康状態がよくない(56.8%)に比べ、健康状態がよい(67.0%)の方が多くなっている。

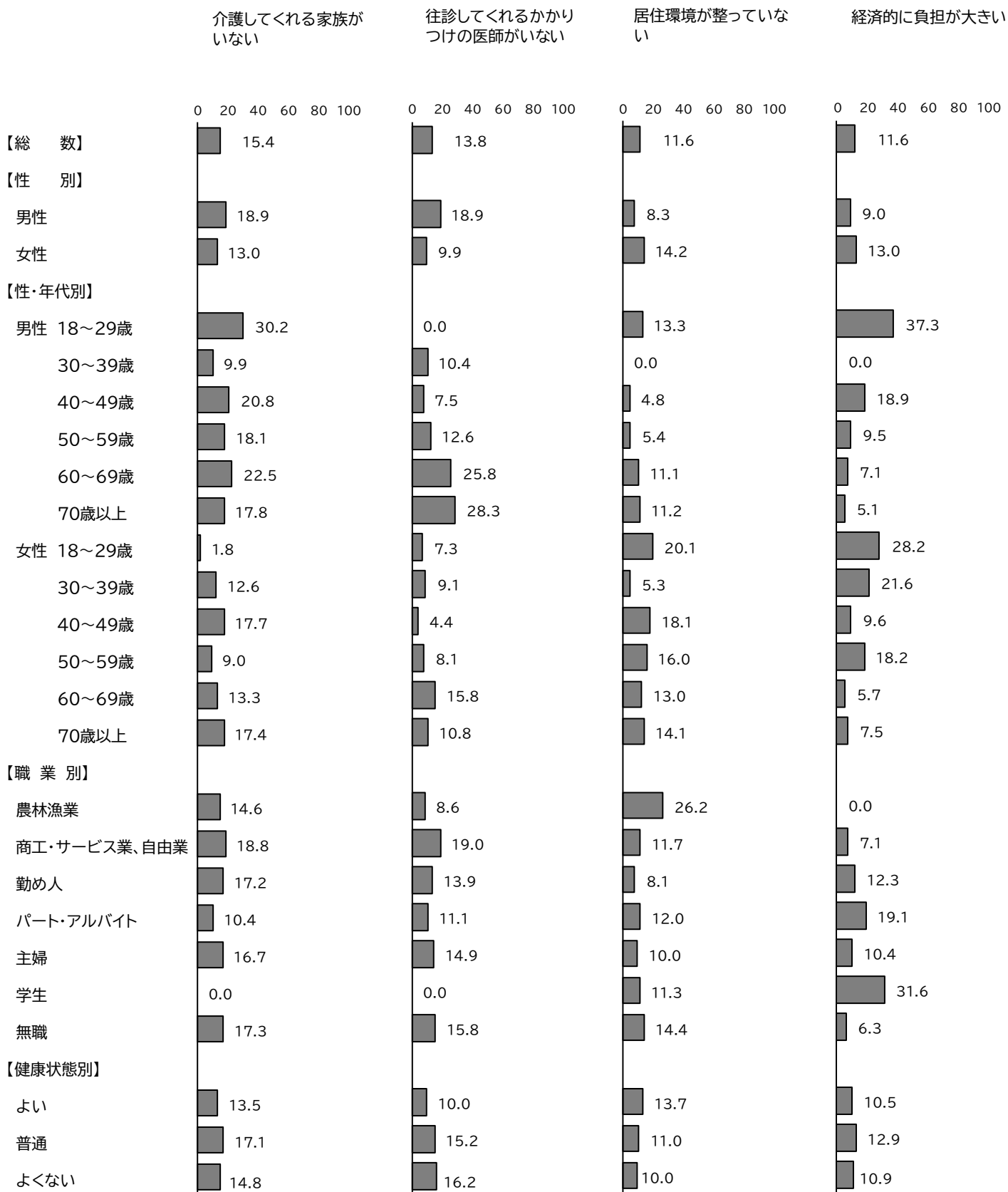
図13-8 自宅療養を望まない理由

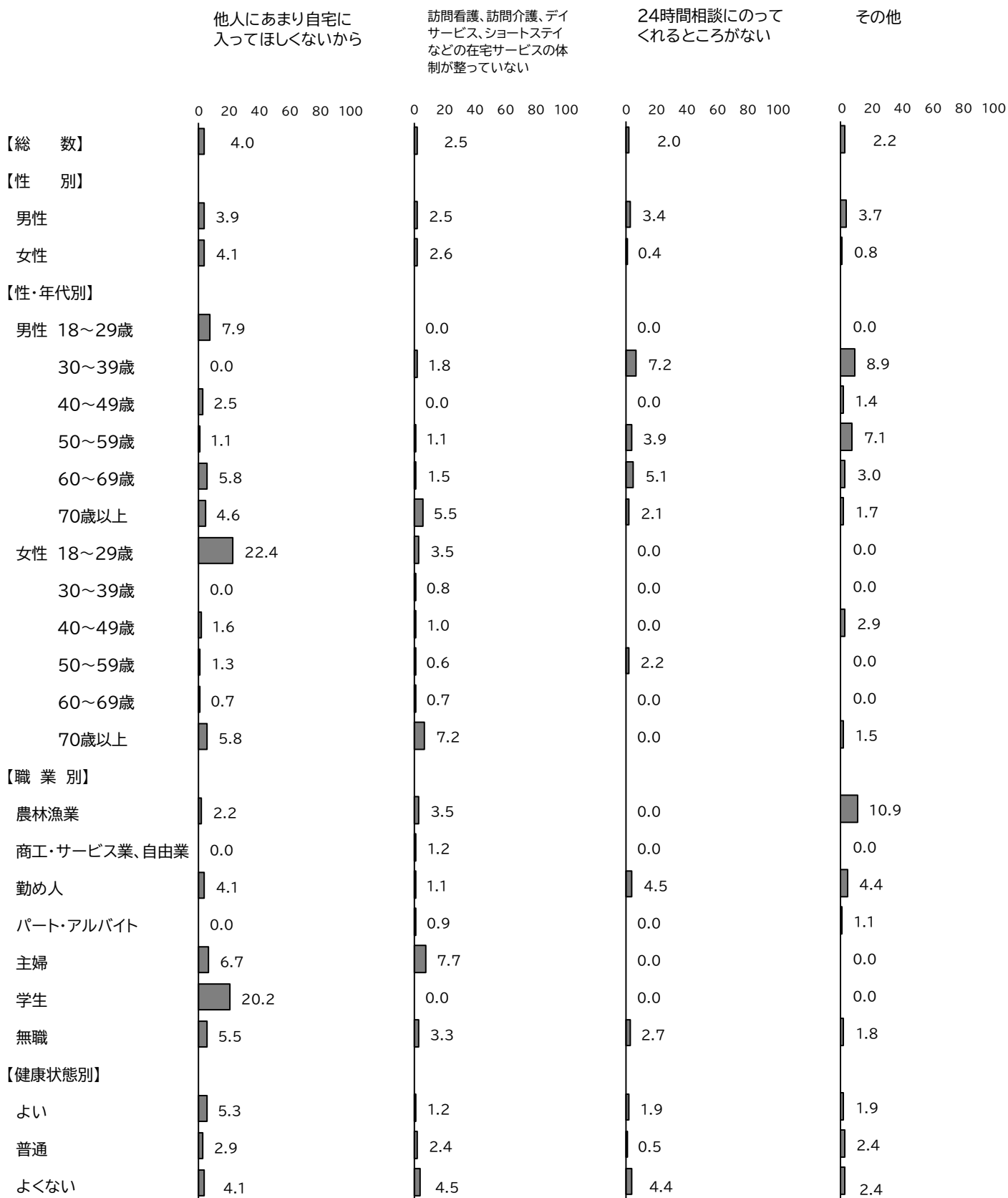












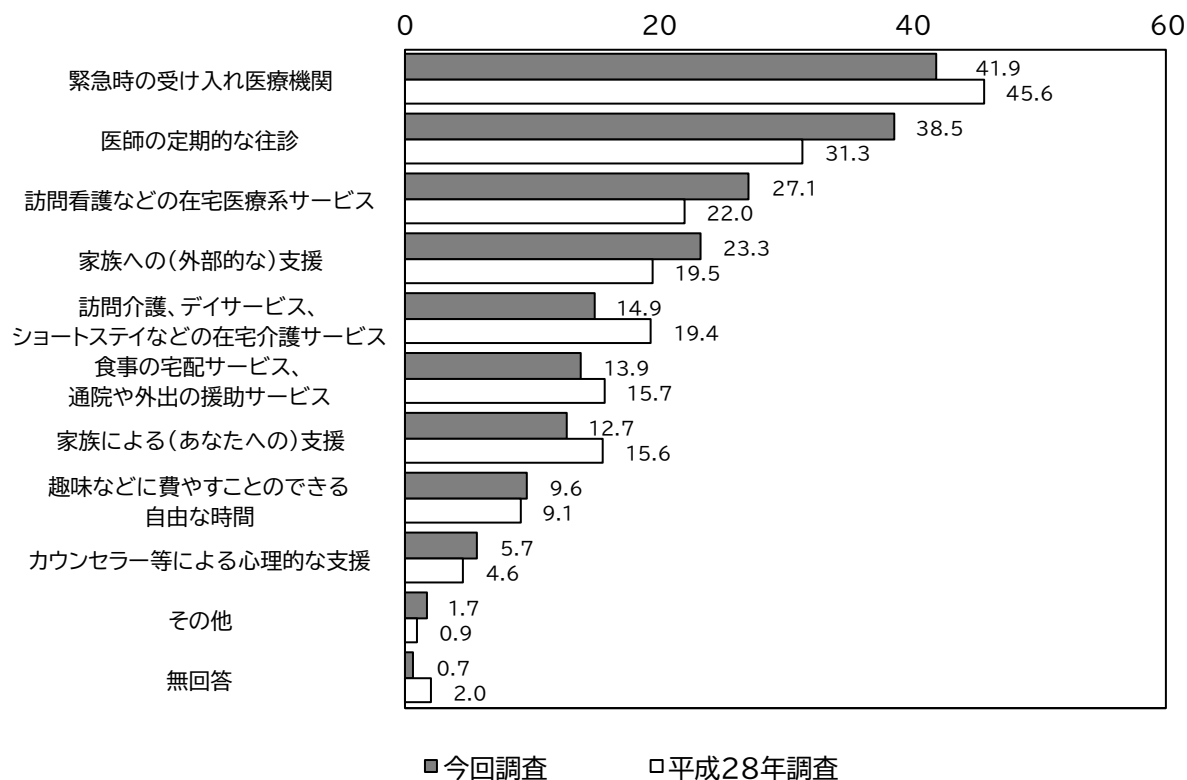
(5) 自宅で過ごす場合に必要なこと

～「緊急時の受け入れ医療機関」41.9%、「医師の定期的な往診」38.5%～

問22 もし、あなたが治る見込みの少ない病気にかかり、自宅で過ごすことになった場合、以下のうち特に何が必要だと思いますか。(○は2つまで)

(n=全体)

図13-9



自宅で過ごす場合必要なものとしては、「緊急時の受け入れ医療機関」が41.9%と最も多く、次いで「医師の定期的な往診」が38.5%、「訪問看護などの在宅医療系サービス」が27.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「医師の定期的な往診」と「訪問看護などの在宅医療系サービス」が多くなっている。

◆地域別

高崎・安中保健医療圏を除いて、いずれの地域も「緊急時の受け入れ医療機関」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「訪問看護などの在宅医療系サービス」は市部(26.3%)に比べ、郡部(32.3%)の方が多くなっている。

◆性別

「訪問看護などの在宅医療系サービス」は男性(23.2%)に比べ、女性(30.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「緊急時の受け入れ医療機関」は、20代以下女性(50.6%)、30代女性(51.8%)で50.0%を超えている。「医師の定期的な往診」は男女いずれも70歳以上が多くなる傾向がみられる。

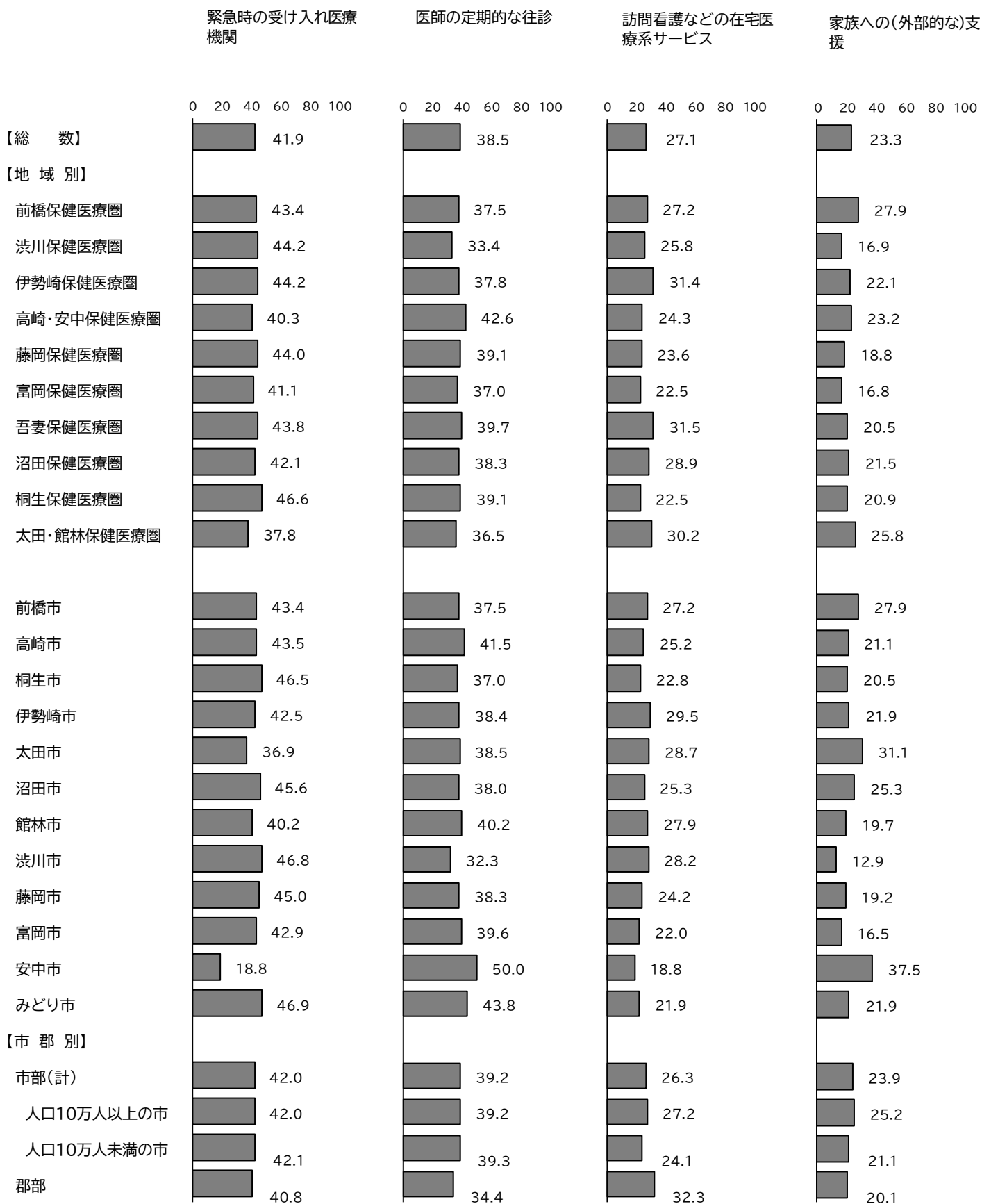
◆職業別

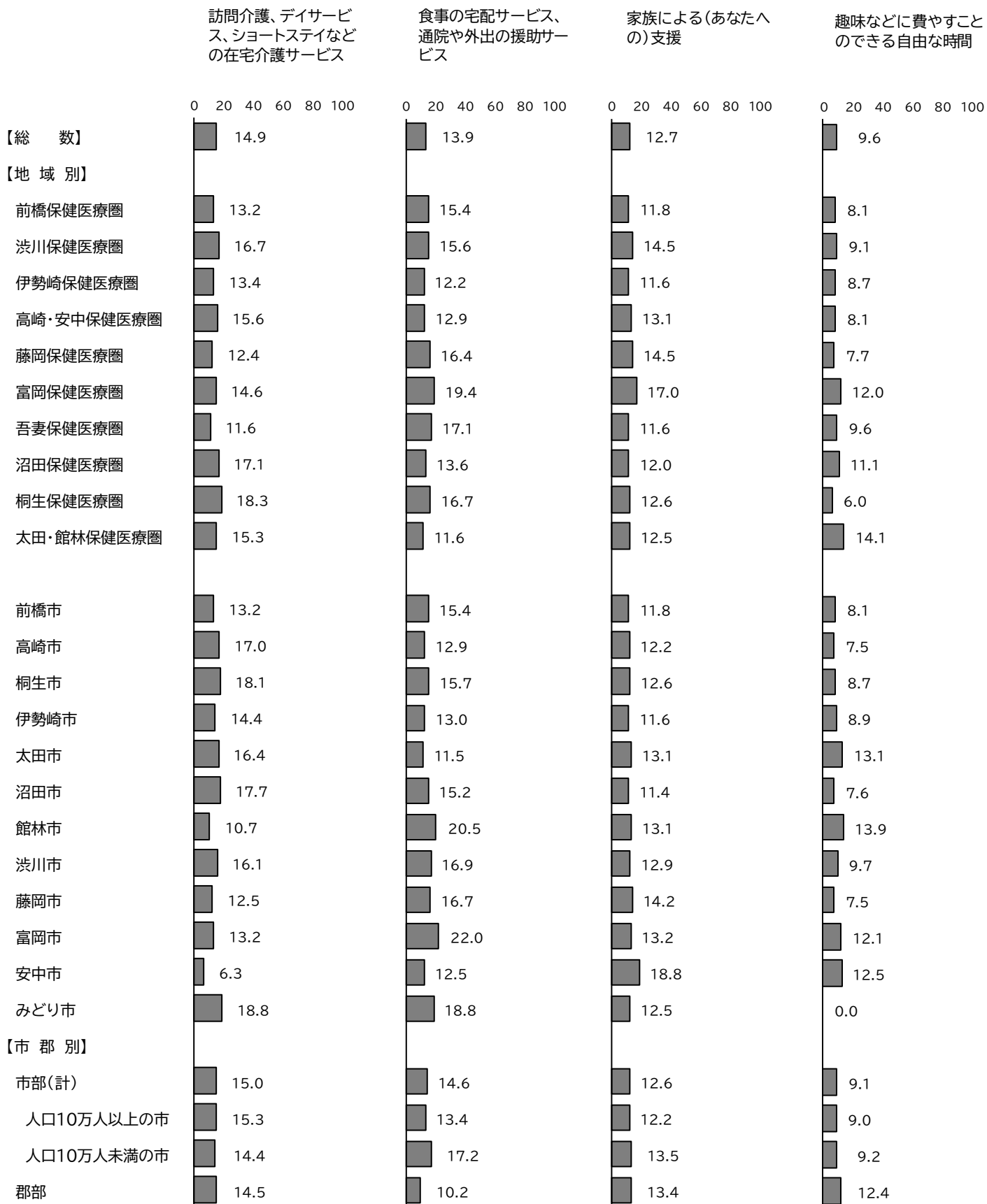
農林漁業を除くと、いずれの職業も「緊急時の受け入れ医療機関」が最も多くなっている。農林漁業は「医師の定期的な往診」が54.6%と最も多くなっている。

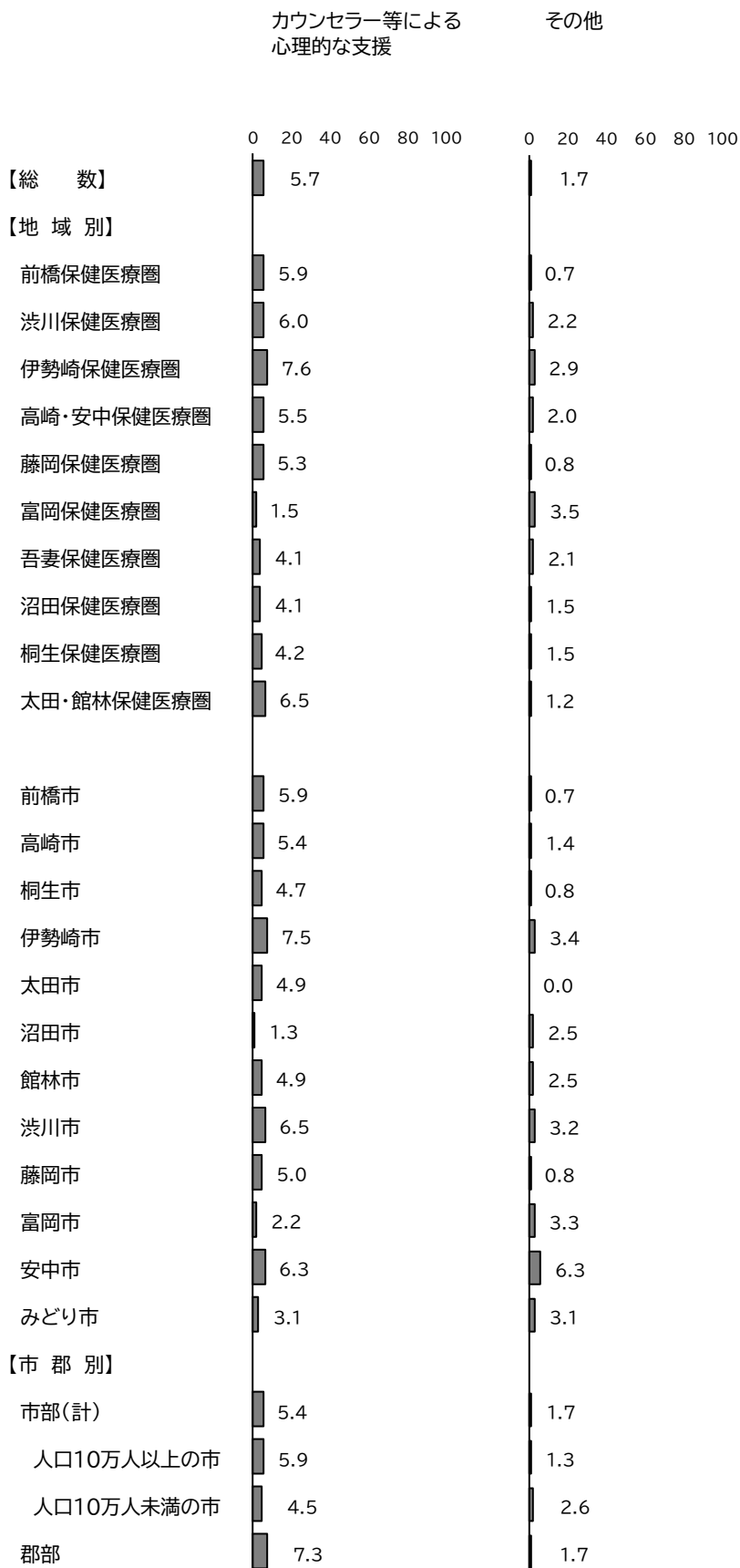
◆健康状態別

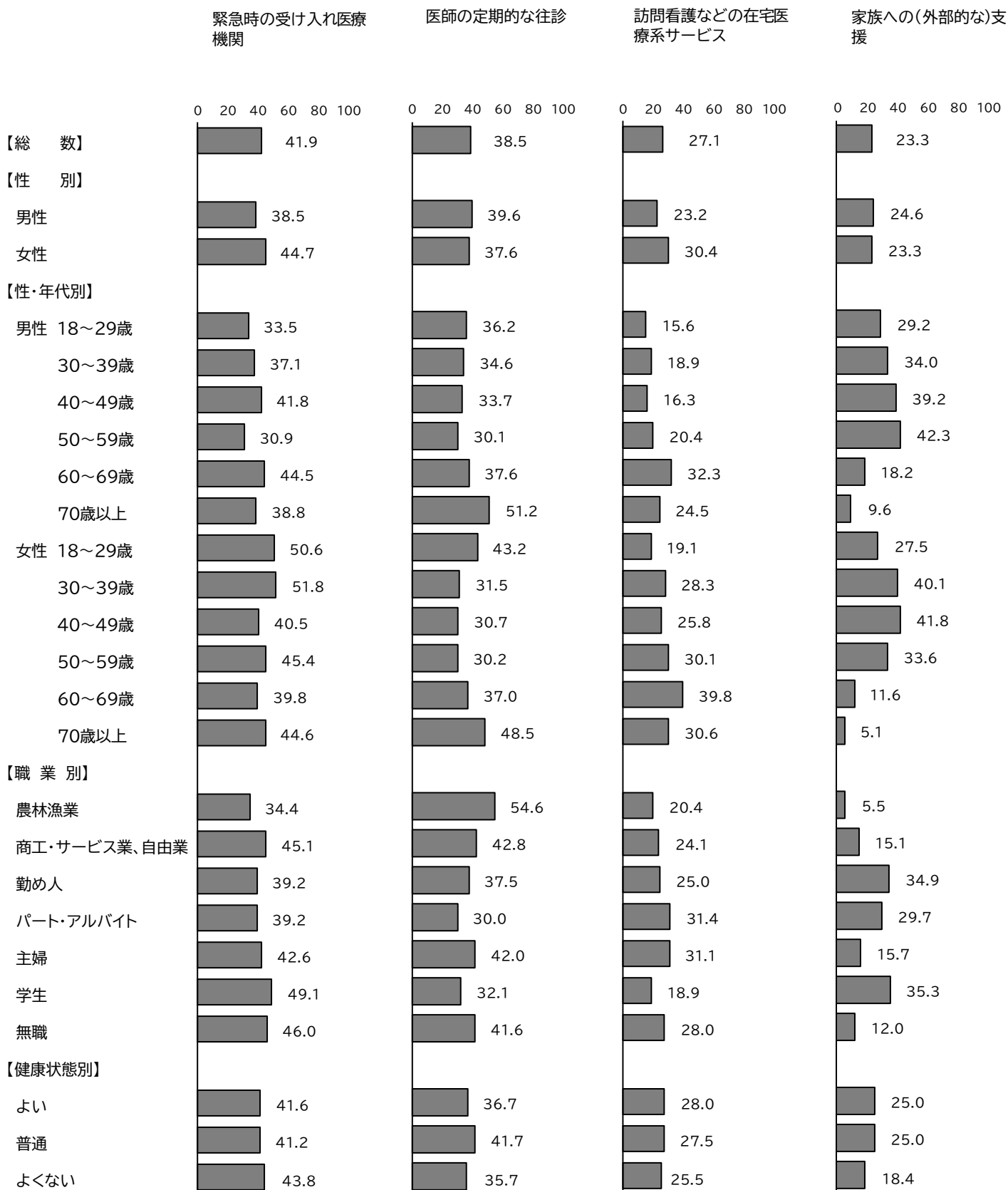
健康状態で大きな差異はみられないが、「家族への(外部的な)支援」は健康状態がよくない(18.4%)に比べ、健康状態がよい(25.0%)の方が多くなっている。

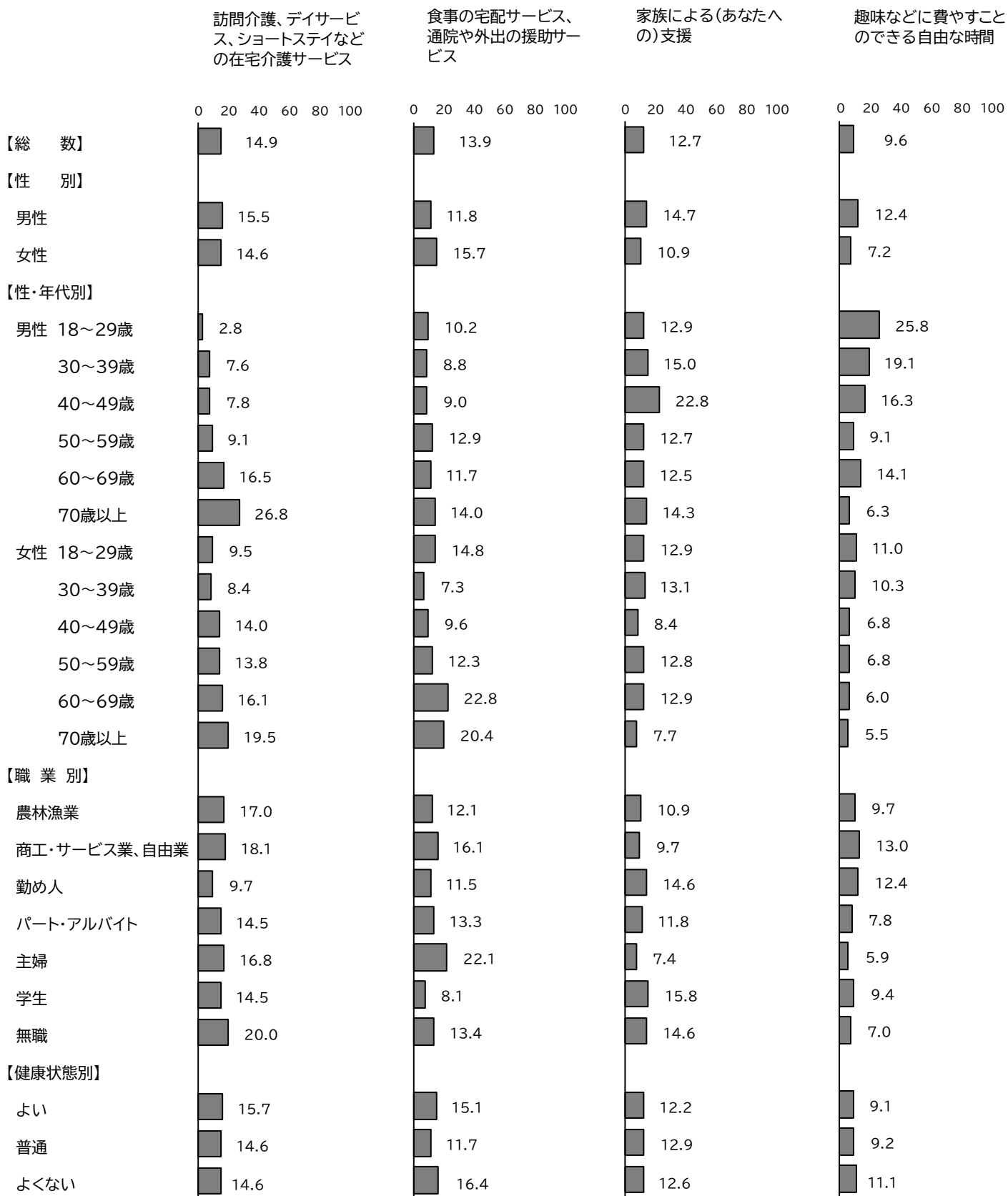
図13-10 自宅で過ごす場合に必要なこと

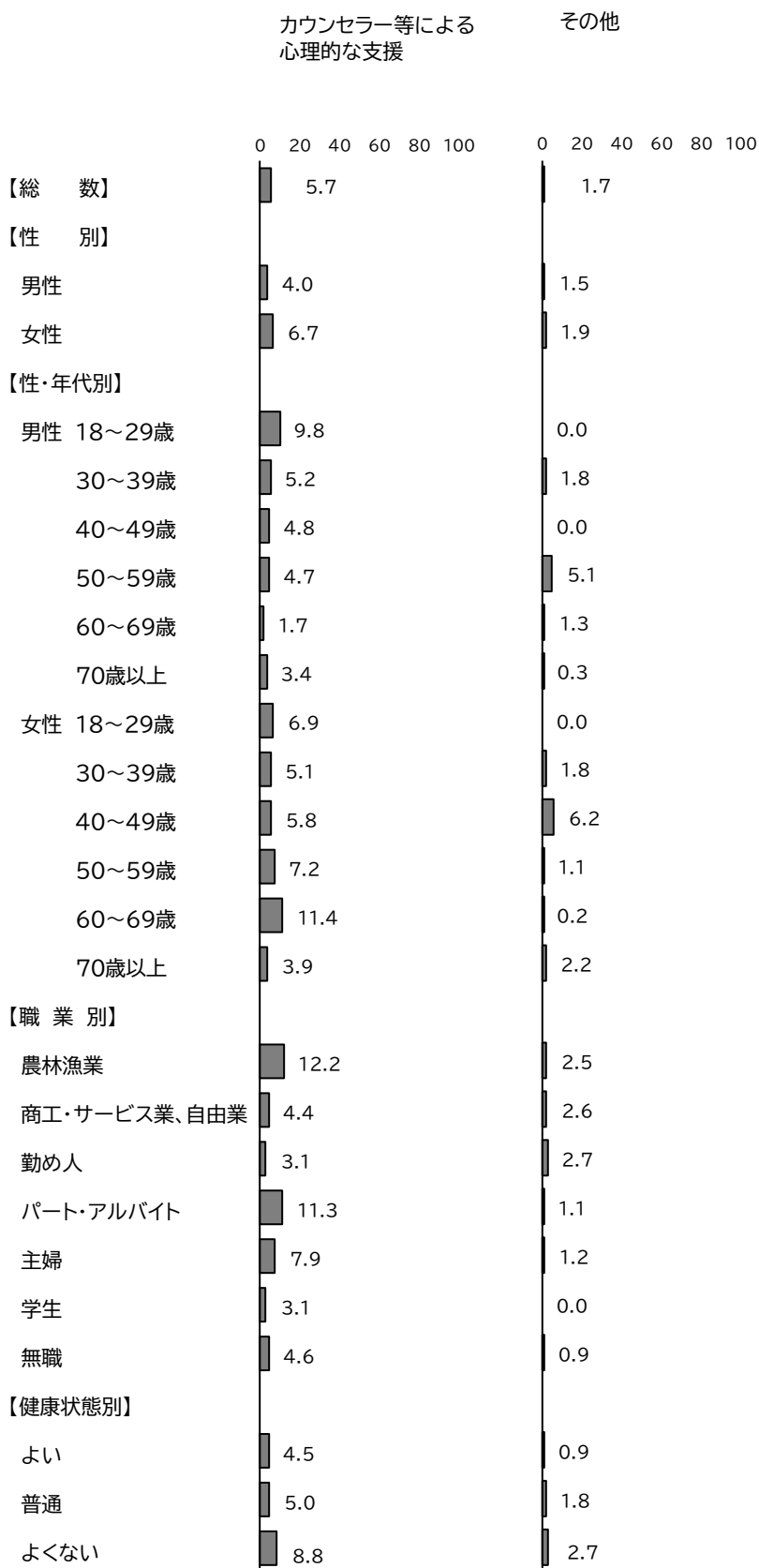






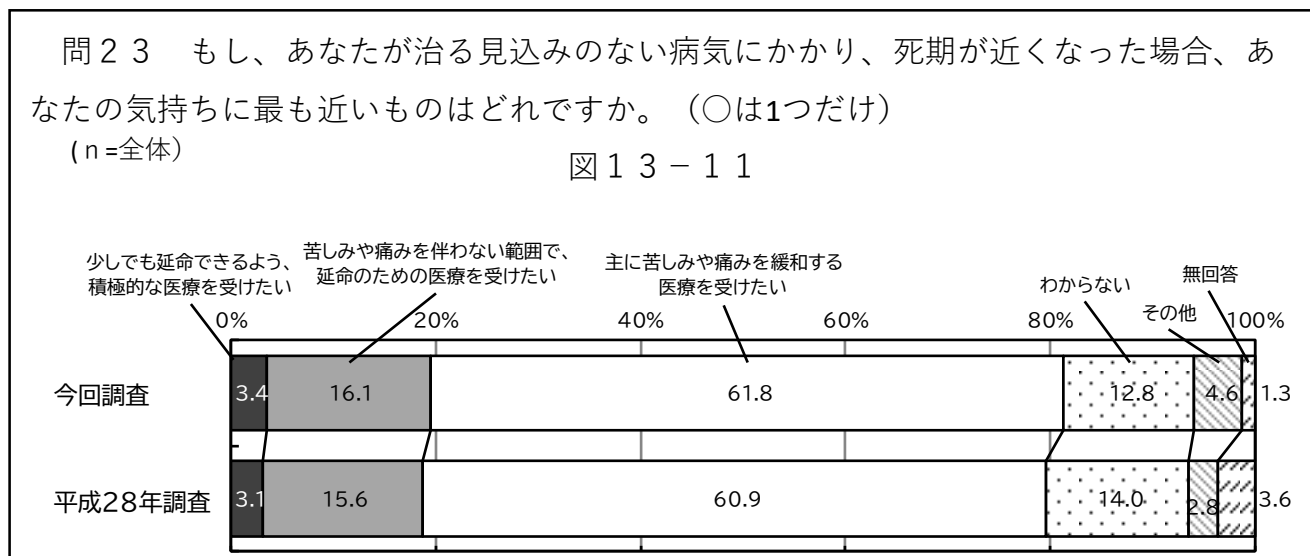






(6) 死期が近くなった際に受けてたい医療

～「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」61.8%が最も多い～



死期が近くなった際に受けてたい医療としては、「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」が61.8%と最も多く、「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」の16.1%を上回っている。一方、「少しでも延命できるよう、積極的な医療を受けたい」は3.4%と少なくなっている。

平成28年調査結果との比較では、傾向は変わらない。

◆地域別

いずれの地域も「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」が50.0%を超えて、最も多くなっている。また、「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」は吾妻保健医療圏(22.6%)、太田・館林保健医療圏(21.0%)が他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」は市部(15.2%)に比べ、郡部(21.2%)の方が多くなっている。

◆性別

「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」は男性(57.6%)に比べ、女性(65.8%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」は60代女性では81.1%と最も多くなっている。一方、「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」は20代以下女性が23.1%と最も多くなっている。

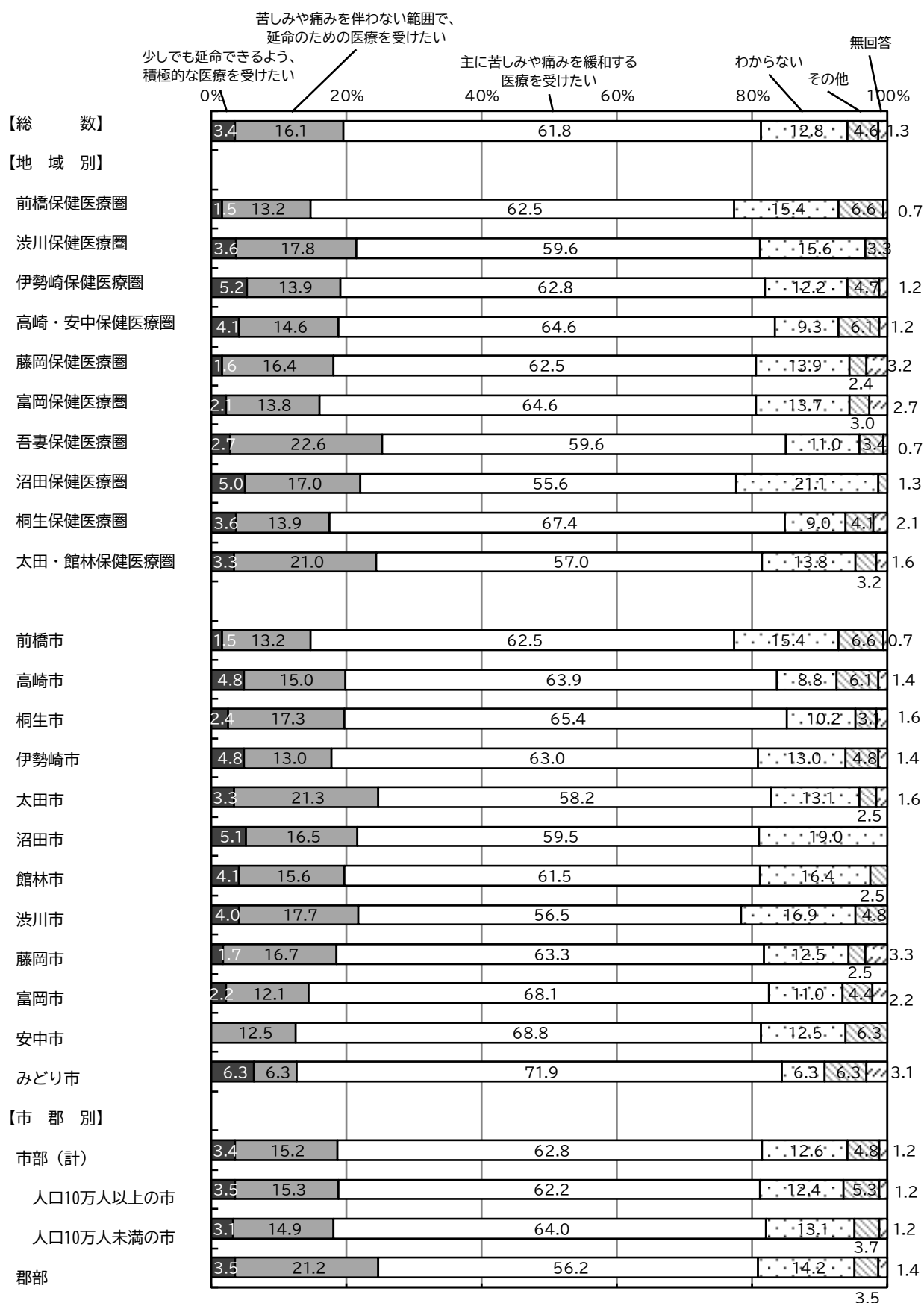
◆職業別

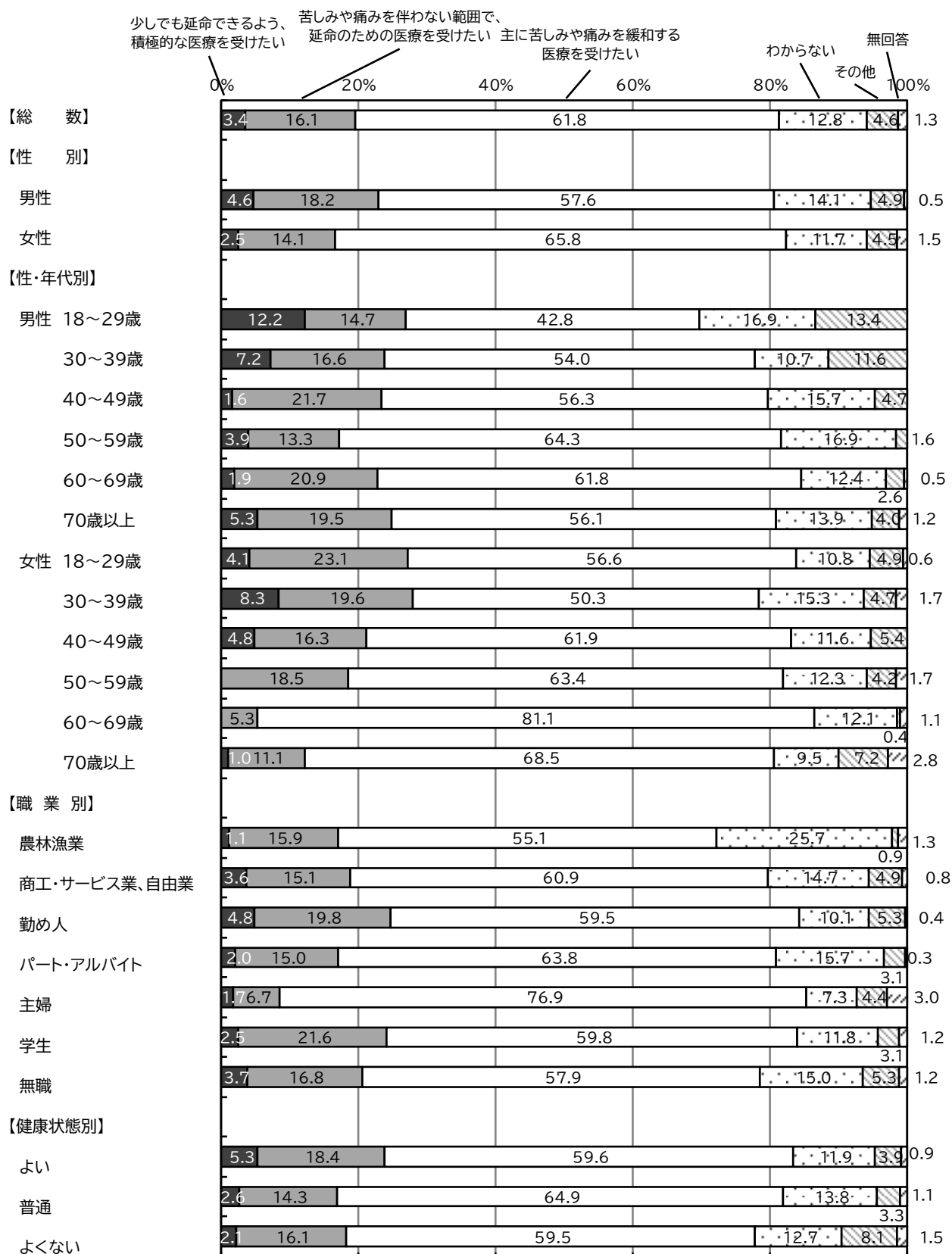
「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」は主婦が76.9%と、他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

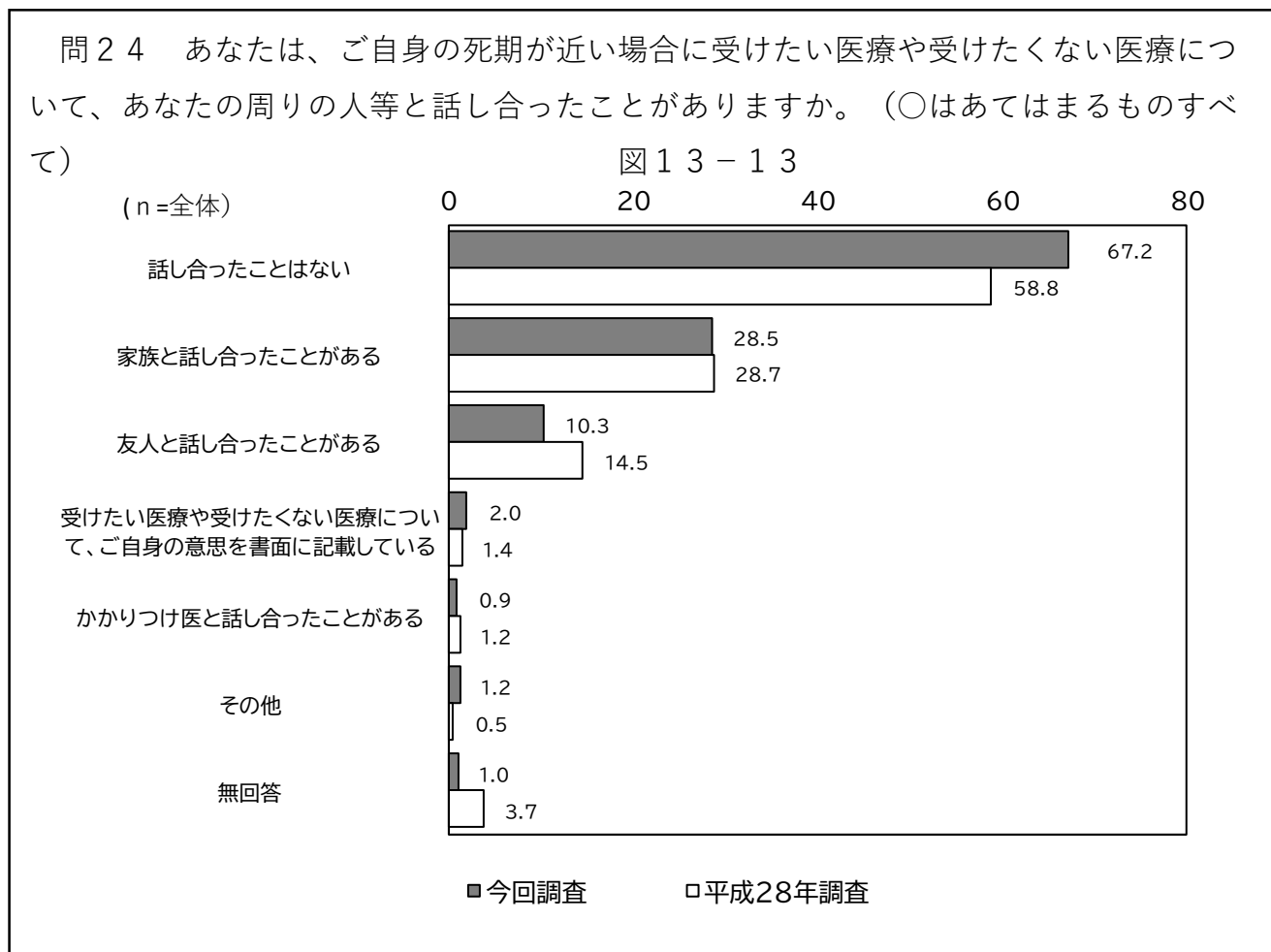
図 13 - 12 死期が近くなった際に受けたい医療





(7) 死期が近くなった場合についての話し合い

～「話し合ったことはない」67.2%が最も多い～



死期が近くなった場合について、周りの人等と話し合ったことがあるか聞いたところ、「話し合ったことはない」が67.2%と最も多くなっている。また、「家族と話し合ったことがある」が28.5%、「友人と話し合ったことがある」が10.3%となっている。一方、「受たい医療や受たくない医療について、ご自身の意思を書面に記載している」（2.0%）、「かかりつけ医と話し合ったことがある」（0.9%）は少なくなっている。

平成28年調査結果との比較では、「話し合ったことはない」が多くなっている。

◆地域別

いずれの地域も「話し合ったことはない」が最も多くなっており、特に沼田保健医療圏は77.9%と他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられないが、「家族と話し合ったことがある」は郡部(24.3%)に比べ、市部(29.3%)の方が多くなっている。

◆性別

「話し合ったことはない」は女性(59.7%)に比べ、男性(76.3%)の方が多くなっている。また、「家族と話し合ったことがある」は男性(20.7%)に比べ、女性(35.2%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「話し合ったことはない」は40代男性で89.1%となっており、他の性別・年代に比べて多くなっている。

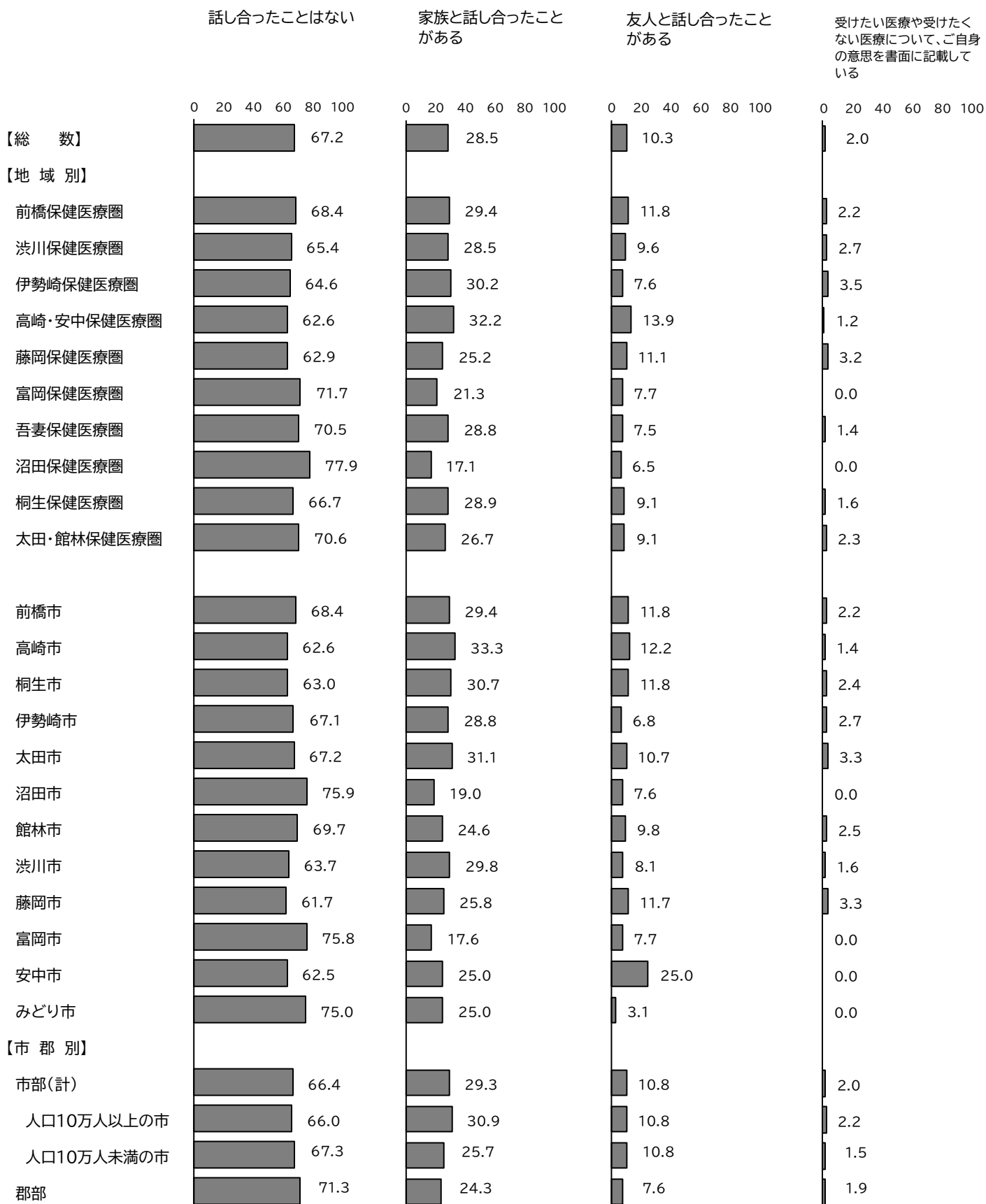
◆職業別

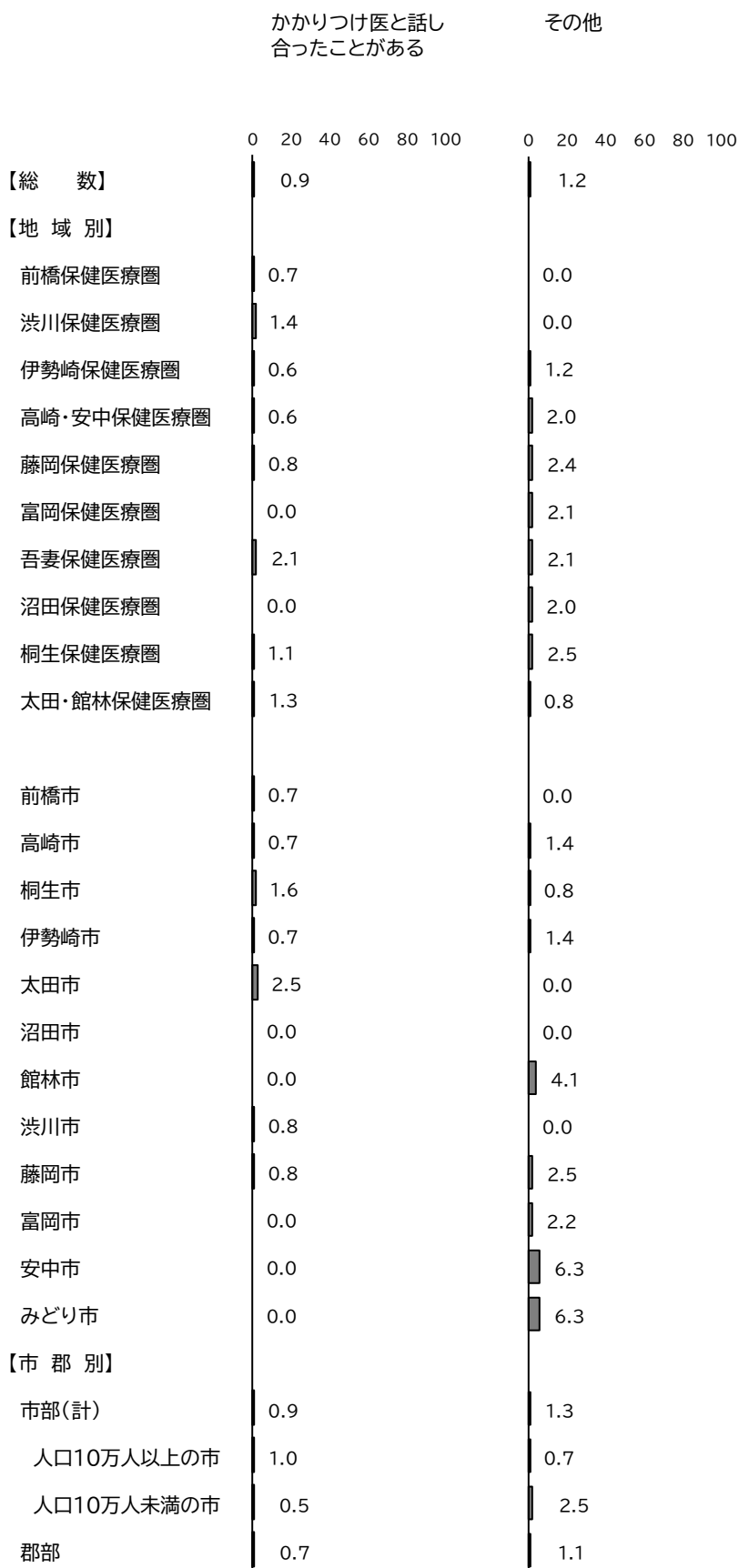
主婦を除いて、いずれの職業も「話し合ったことはない」が最も多くなっている。主婦は「家族と話し合ったことがある」が48.4%で他の職業に比べて多くなっている。

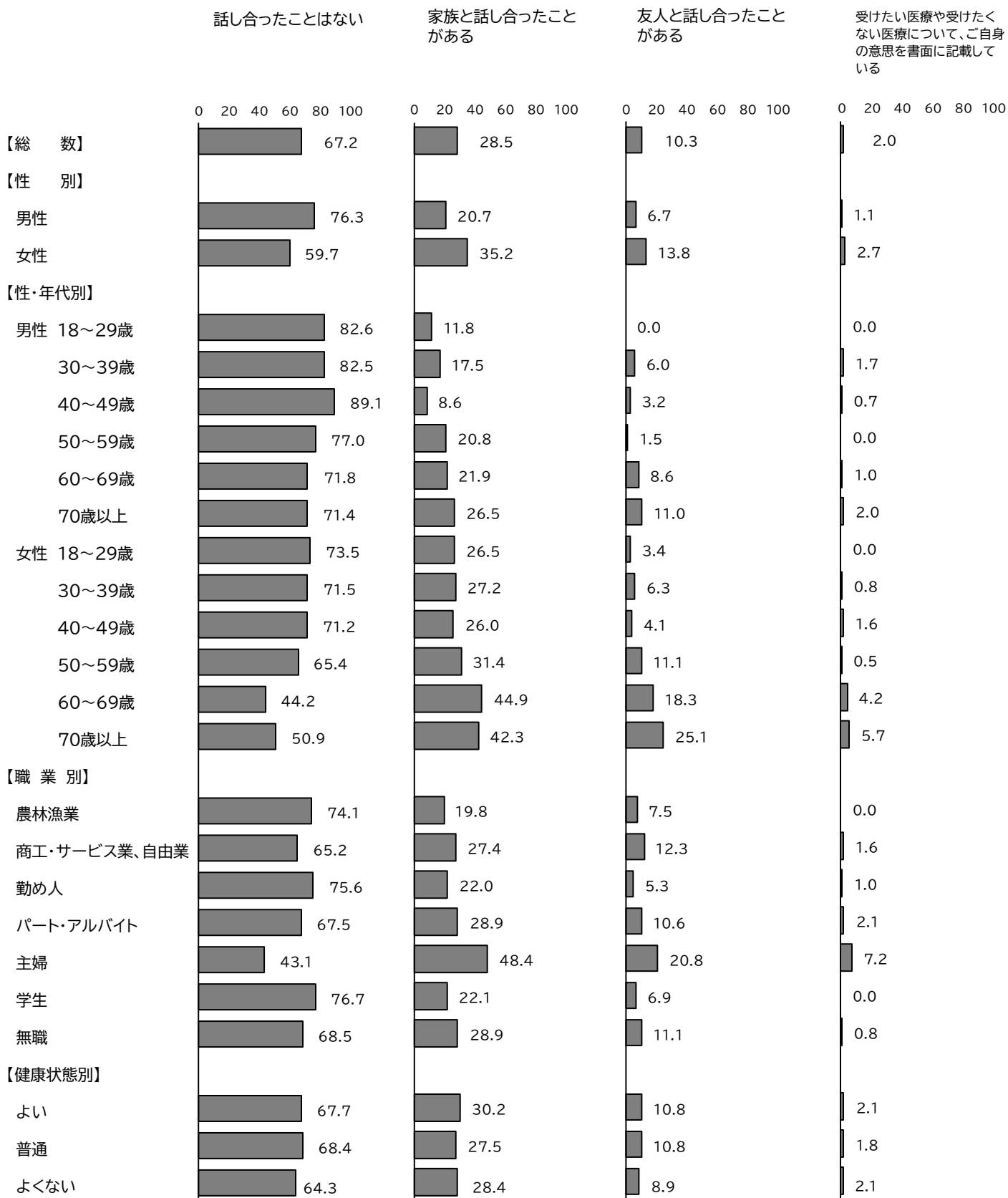
◆健康状態別

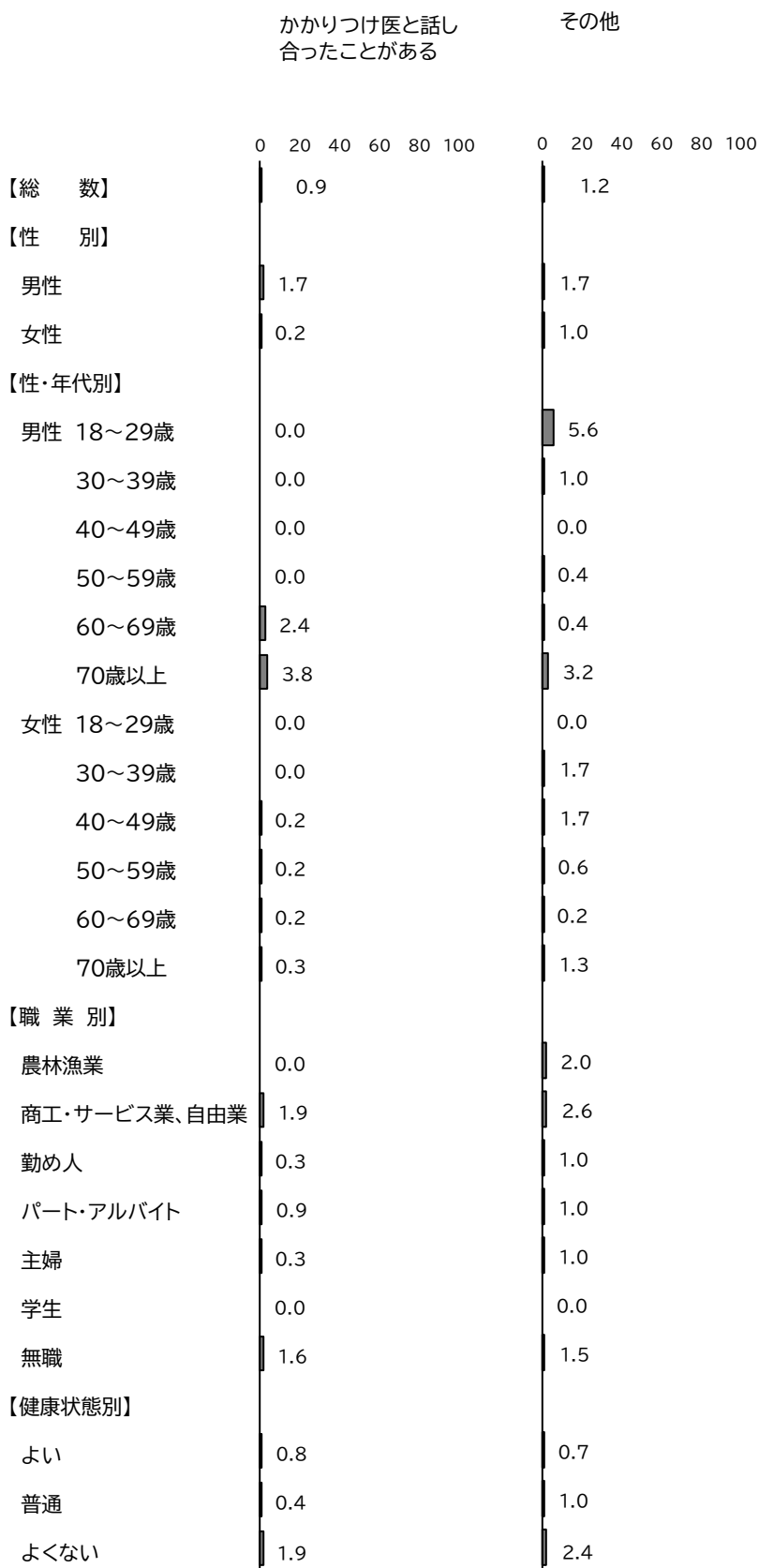
健康状態で差異はほとんどみられない。

図 1 3 - 1 4 周囲の人等との話し合い









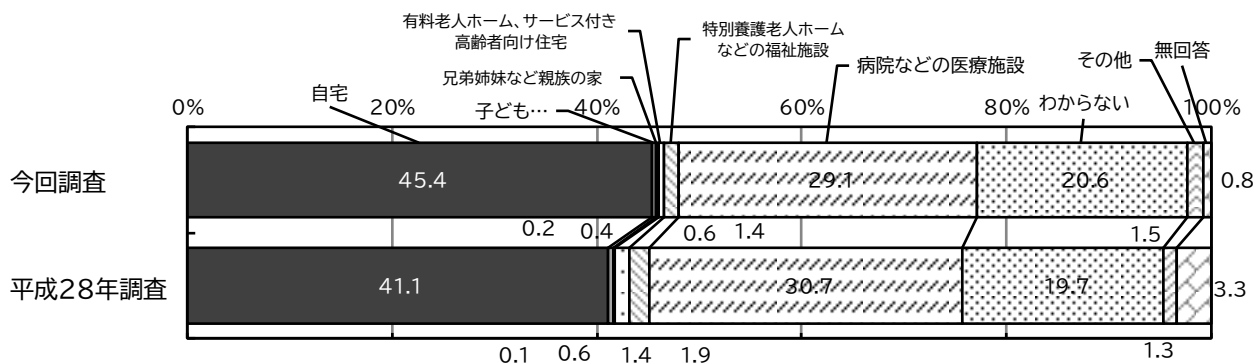
(8) 治る見込みのない病気にかかったときに最期を迎えたい場所

～「自宅」45.4%、「病院などの医療施設」29.1%～

問25 もし、あなたが治る見込みのない病気になった場合、どこで最期を迎えたいですか。○は1つだけ)

(n=全体)

図13-15



*平成28年調査では「有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅」は「高齢者向けのケア付き住宅」で聴取

治る見込みのない病気にかかったときに最期を迎えたい場所としては、「自宅」が45.4%と最も高く、次いで「病院などの医療施設」が29.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、傾向は変わらない。

◆地域別

いずれの地域も「自宅」が最も多く、次いで「病院などの医療施設」の順となっている。

◆市郡別

「自宅」は郡部(40.1%)に比べ、市部(46.4%)の方が多くなっている。

◆性別

「自宅」は女性(40.3%)に比べ、男性(51.0%)の方が多くなっている。一方、「病院などの医療施設」は男性(27.0%)に比べ、女性(31.3%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

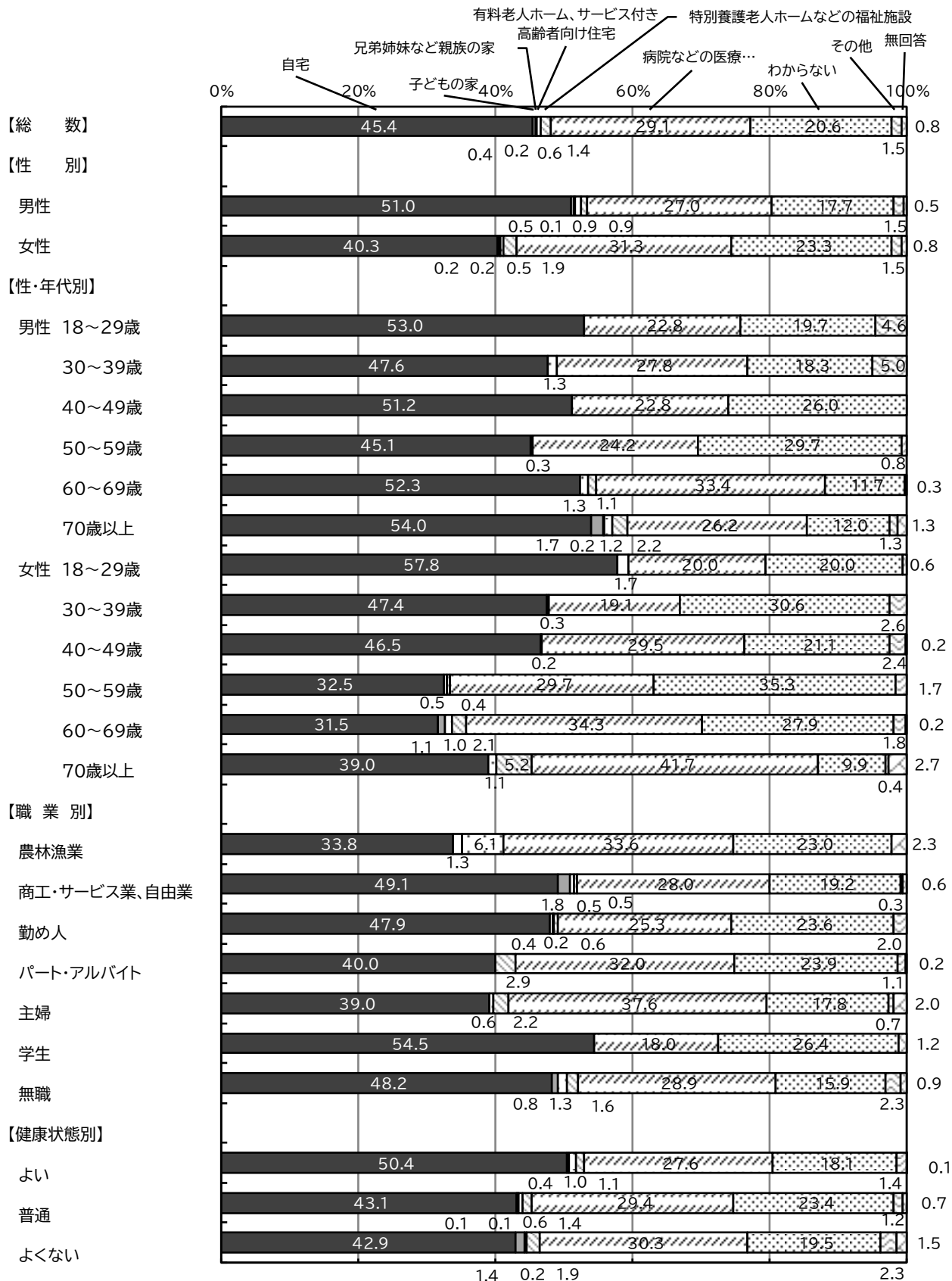
「自宅」は男性ではいずれの年代も多くなっているが、女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられる。一方、「病院などの医療施設」は女性では高い年代ほど多くなる傾向がみられ、70歳以上の女性は41.7%と他の性別・年代と比べ多くなっている。

◆職業別

「自宅」は学生が54.5%と最も多くなっている。

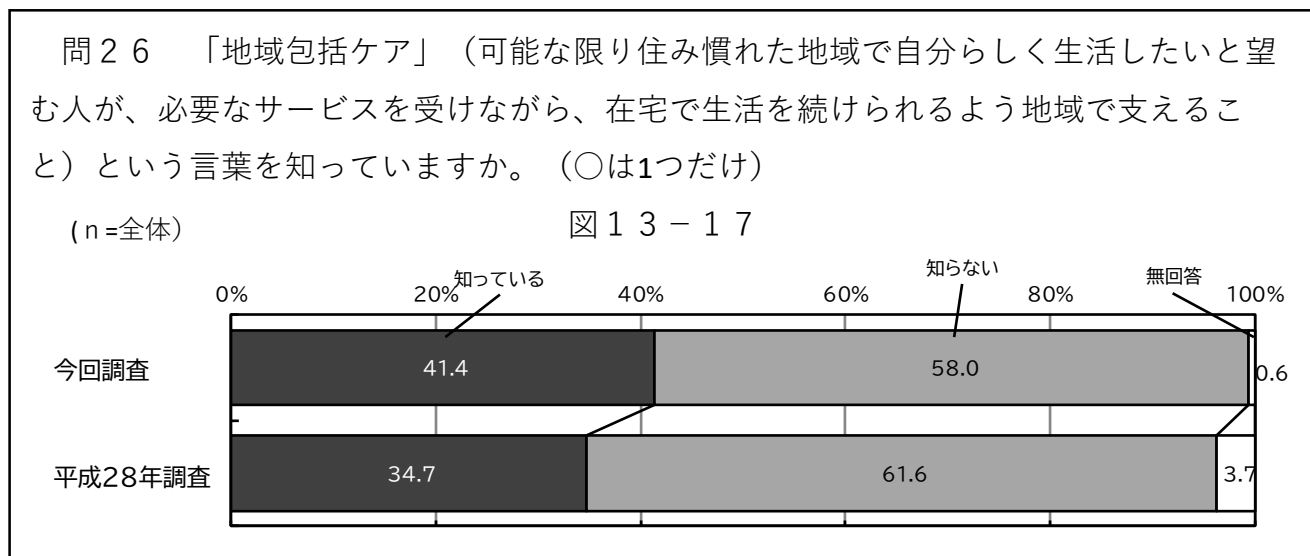
◆健康状態別

「自宅」は健康状態がよくない(42.9%)に比べ、健康状態がよい(50.4%)の方が多くなっている。



(9) 地域包括ケアの認知度

～「知らない」58.0%が多数～



「地域包括ケア」の認知度を聞いたところ、「知らない」が58.0%となっており、半数以上を占めている。

平成28年調査結果との比較では、「知っている」が多くなっている。

◆地域別

地域包括ケアを「知っている」は、前橋保健医療圏が50.7%と最も多くなっている。一方、藤岡保健医療圏は「知らない」が67.3%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられない。

◆性別

地域包括ケアを「知っている」は、男性(32.5%)に比べ、女性(48.9%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「知っている」は、男性ではいずれの年代も少なくなっている。一方、女性では高い年代ほど多くなる傾向がみられ、60代の女性で60.1%と多くなっている。

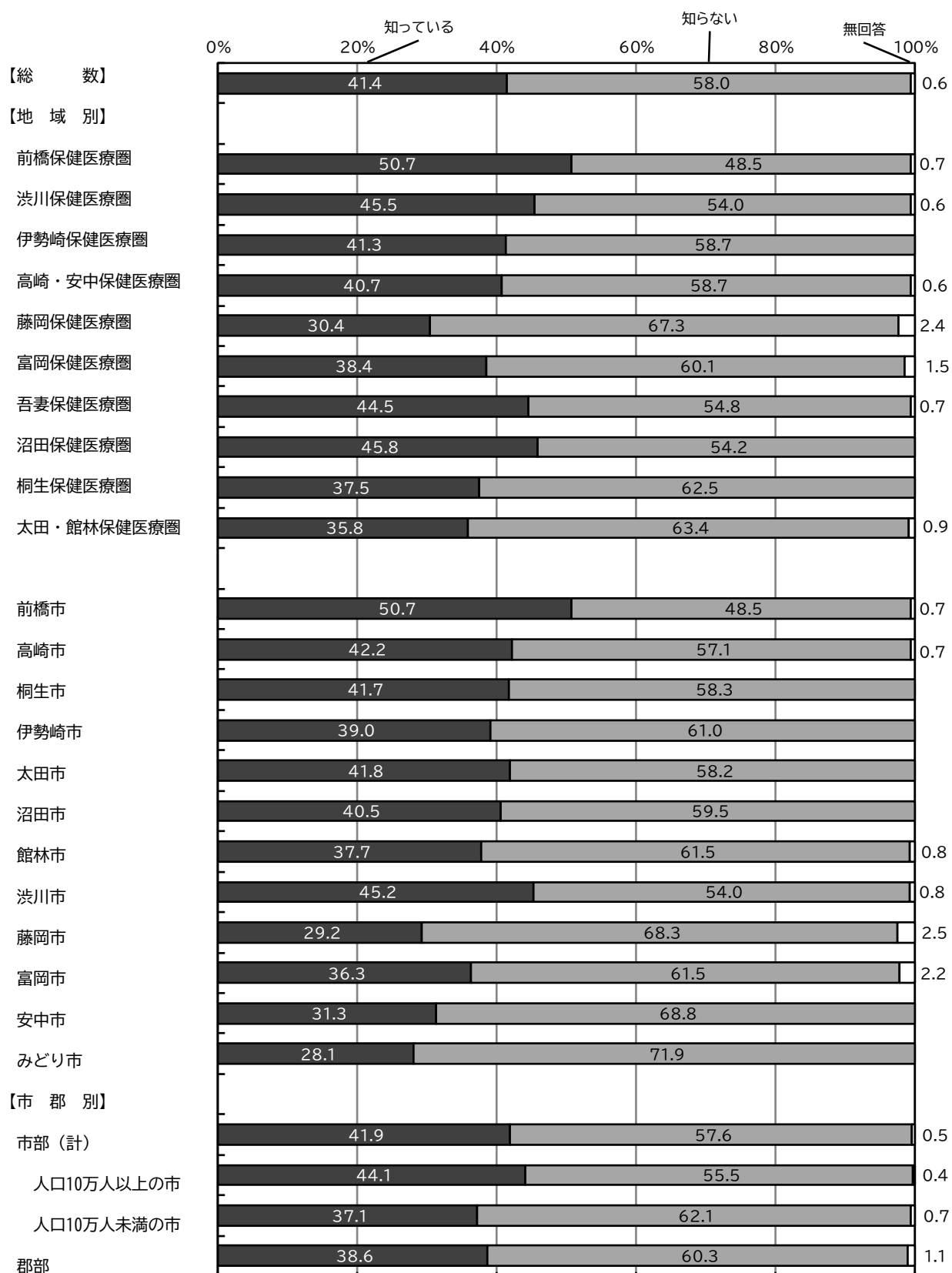
◆職業別

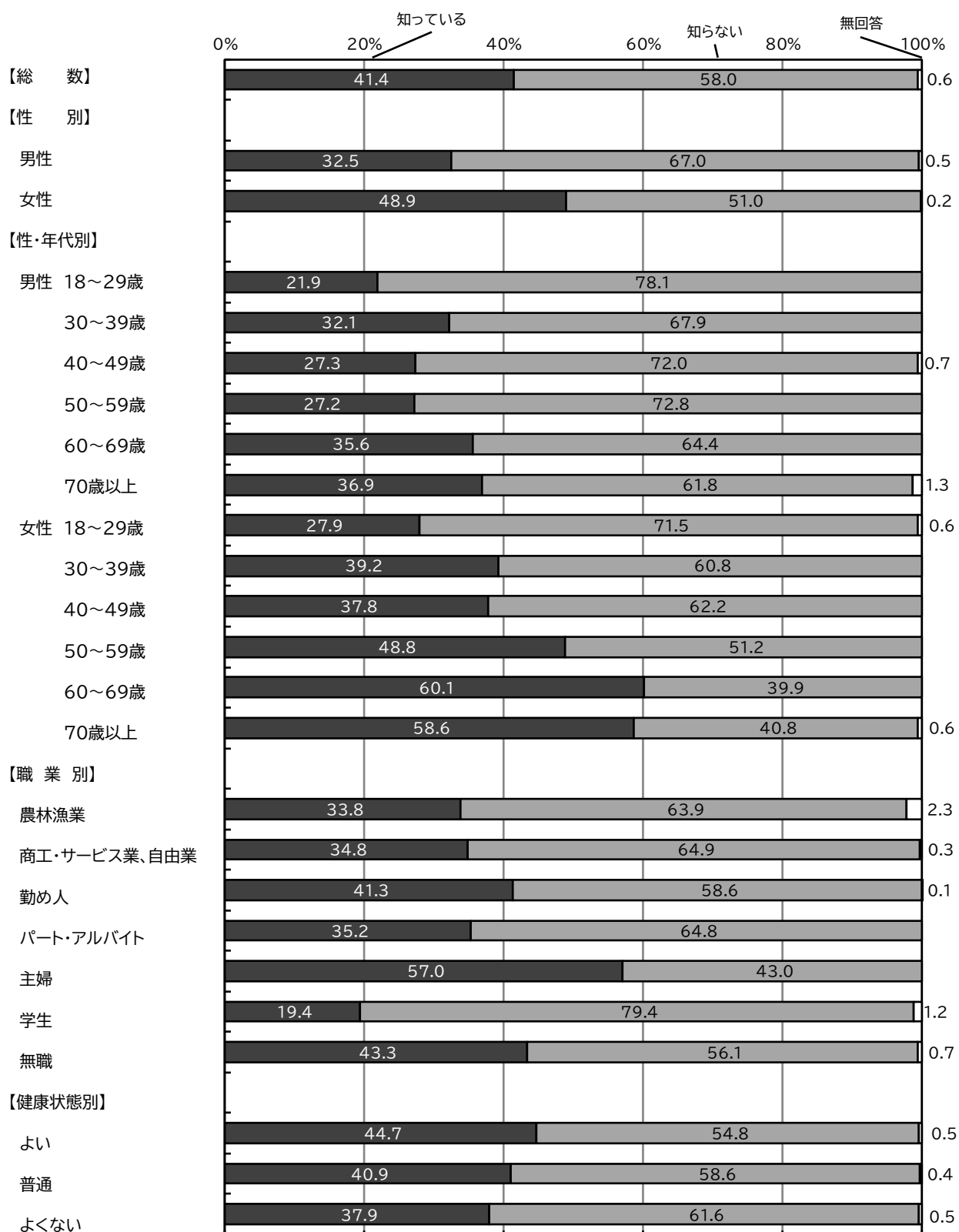
「知っている」は主婦が57.0%と最も多くなっている。

◆健康状態別

「知っている」は健康状態がよくない(37.9%)に比べ、健康状態がよい(44.7%)の方が多くなっている。

図13-18 地域包括ケアの認知度





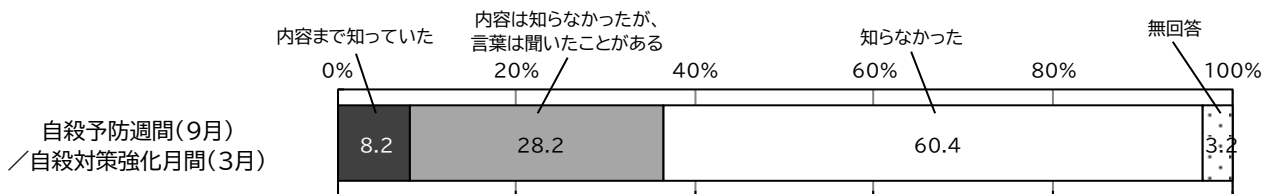
- ～『自殺予防週間（9月）／自殺対策強化月間（3月）』の
「内容まで知っていた」8.2%
『群馬県自殺対策総合ホームページ「いのち・つなぐサポートサイト」』7.6%
『群馬県デジタル窓口における「悩み相談窓口」』10.7%
『こころの健康相談統一ダイヤル（0570-064-556）』16.6%
『群馬いのちの電話』13.6%
『ゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人）』5.4%～

問27 コロナ禍の人間関係の希薄化や社会情勢の急激な変化などにより、生きづらさ
を抱えている方が増えています。我が国の自殺者数は、令和元年まで10年連続で減少して
いましたが令和2年には11年ぶりに増加し、群馬県でも360人もの方が自殺で亡くなって
います。あなたは、自殺対策に関連する以下の事柄を知っていましたか。（○は各項目1
つだけ）

(1) 精神保健について（自殺予防週間（9月）／自殺対策強化月間（3月））

図14-1

(n=全体)



*平成28年調査では問27と同様の質問項目なし

自殺対策に関する事柄の認知を聞いたところ、『自殺予防週間（9月）／自殺対策
強化月間（3月）』については「知らなかった」が60.4%で最も多く、「内容まで
知っていた」（8.2%）と「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」
（28.2%）を合わせた＜聞いたことがある＞は36.3%となっている。

◆地域別

いずれの地域も「知らなかった」が50.0%を超えて、最も多くなっている。「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」は沼田保健医療圏が36.1%と最も多くなっている。

◆市郡別

「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」は、市部(27.3%)に比べ、群部(33.5%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

「知らなかった」は女性(56.9%)に比べ、男性(64.5%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「内容まで知っていた」は40代男性では19.5%、30代女性では20.8%と他の性別・年代に比べて多くなっている。

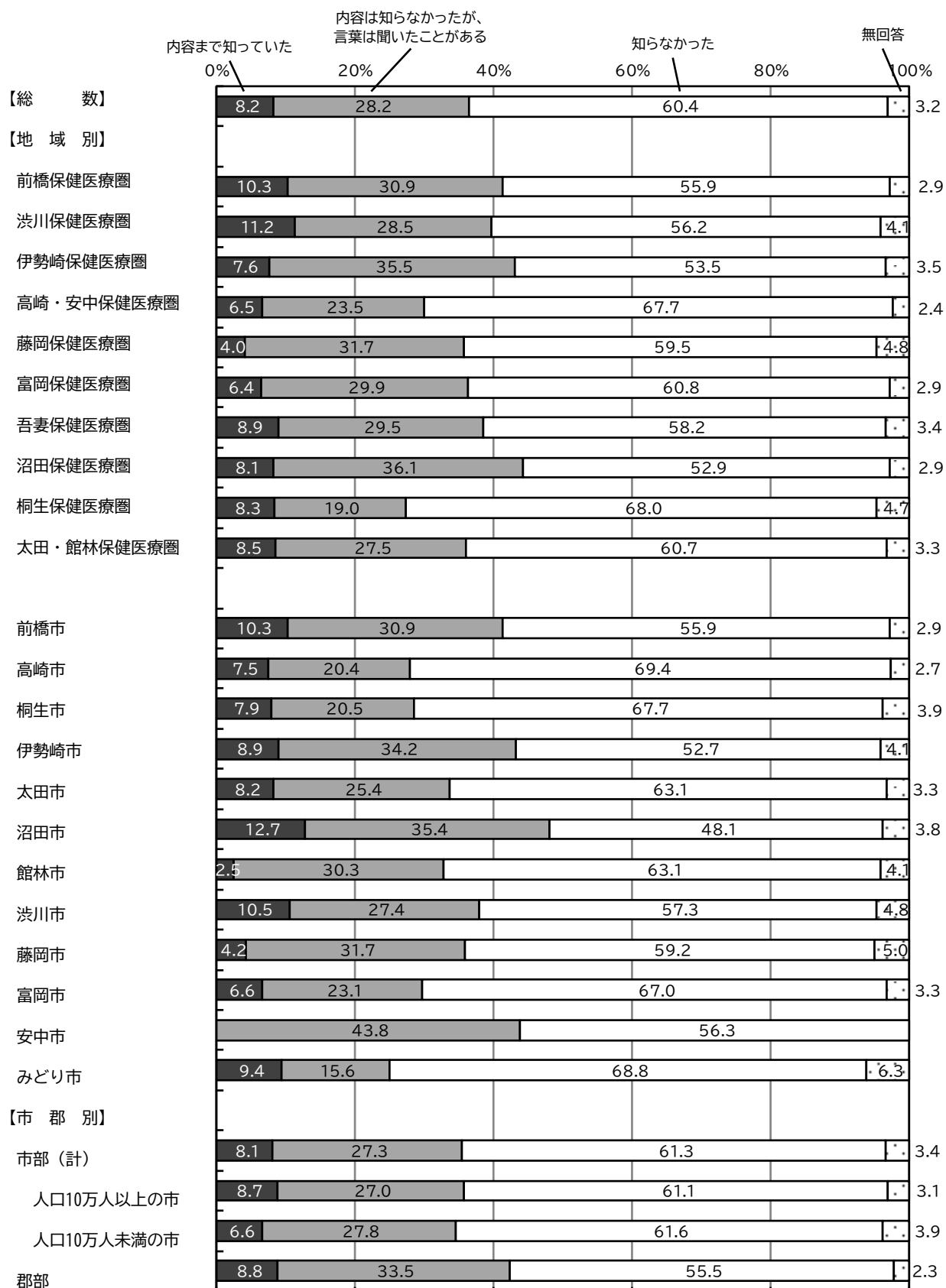
◆職業別

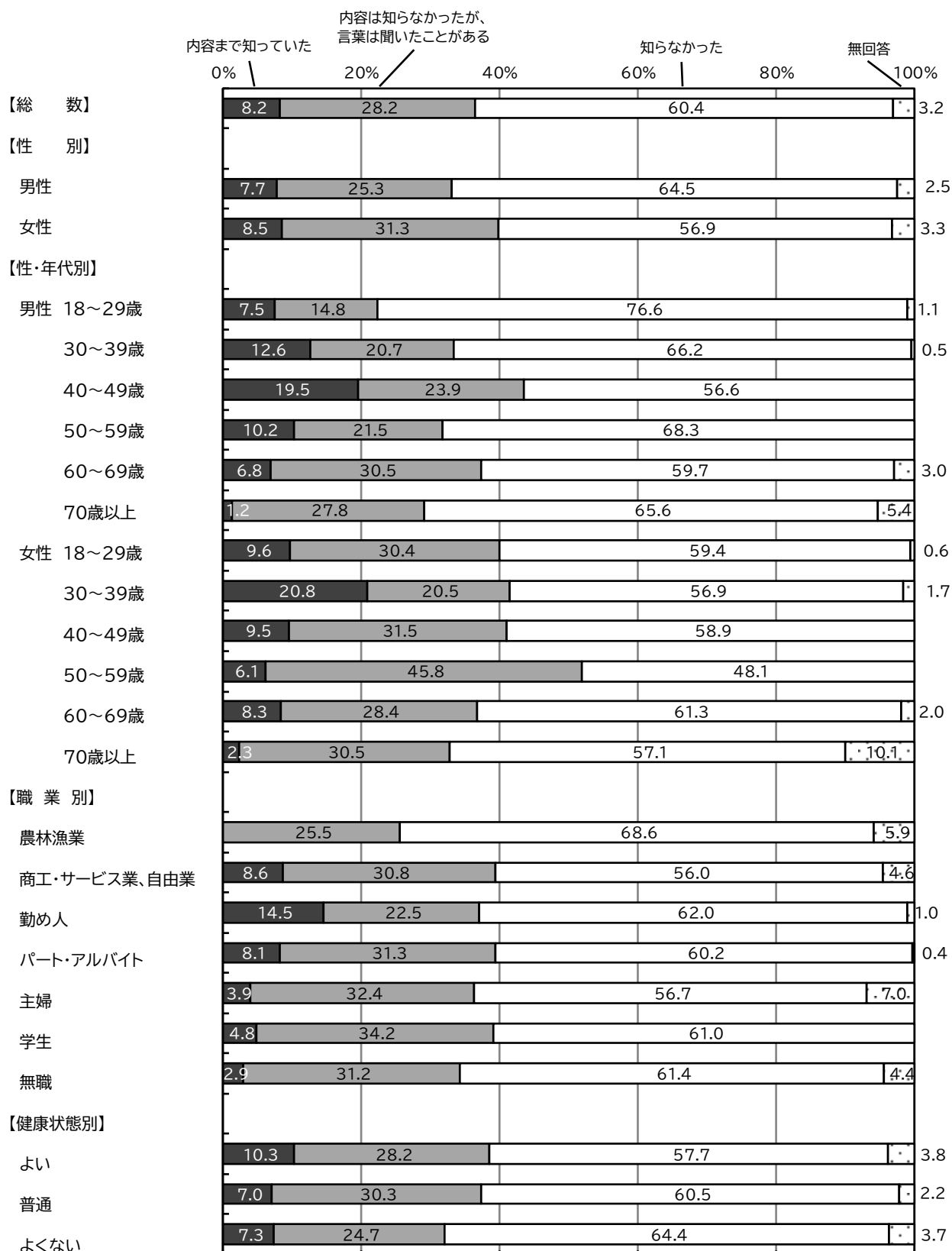
「内容まで知っていた」は、勤め人が14.5%と最も多くなっている。

◆健康状態別

「知らなかった」は、健康状態がよい(57.7%)に比べ、健康状態がよくない(64.4%)の方が多くなっている。

図 1 4 - 2 精神保健について（自殺予防週間（9月）／自殺対策強化月間（3月））



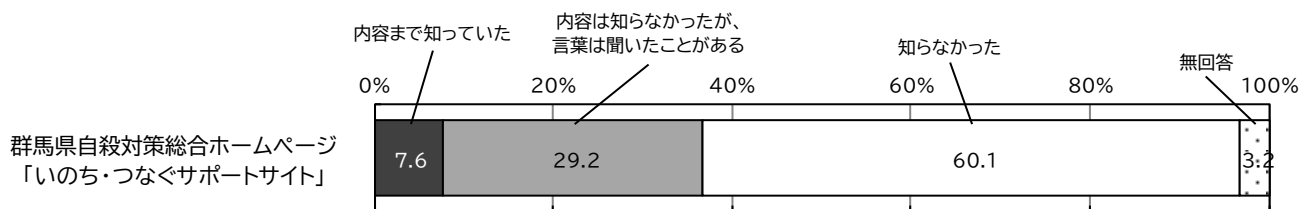


(2) 精神保健について

(群馬県自殺対策総合ホームページ「いのち・つなぐサポートサイト」)

(n=全体)

図14-3



*平成28年調査では問27と同様の質問項目なし

自殺対策に関する事柄の認知を聞いたところ、『群馬県自殺対策総合ホームページ「いのち・つなぐサポートサイト」』については「知らなかった」が60.1%で最も多く、「内容まで知っていた」（7.6%）と「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」（29.2%）を合わせた＜聞いたことがある＞は36.7%となっている。

◆地域別

いずれの地域も「知らなかった」が最も多くなっている。「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」は沼田保健医療圏が38.8%と最も多くなっている。

◆市郡別

「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」は、群部(24.6%)に比べ、市部(30.0%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

「知らなかった」は女性(55.7%)に比べ、男性(65.5%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「内容まで知っていた」は20代以下女性では15.2%と他の性別・年代に比べて多くなっている。

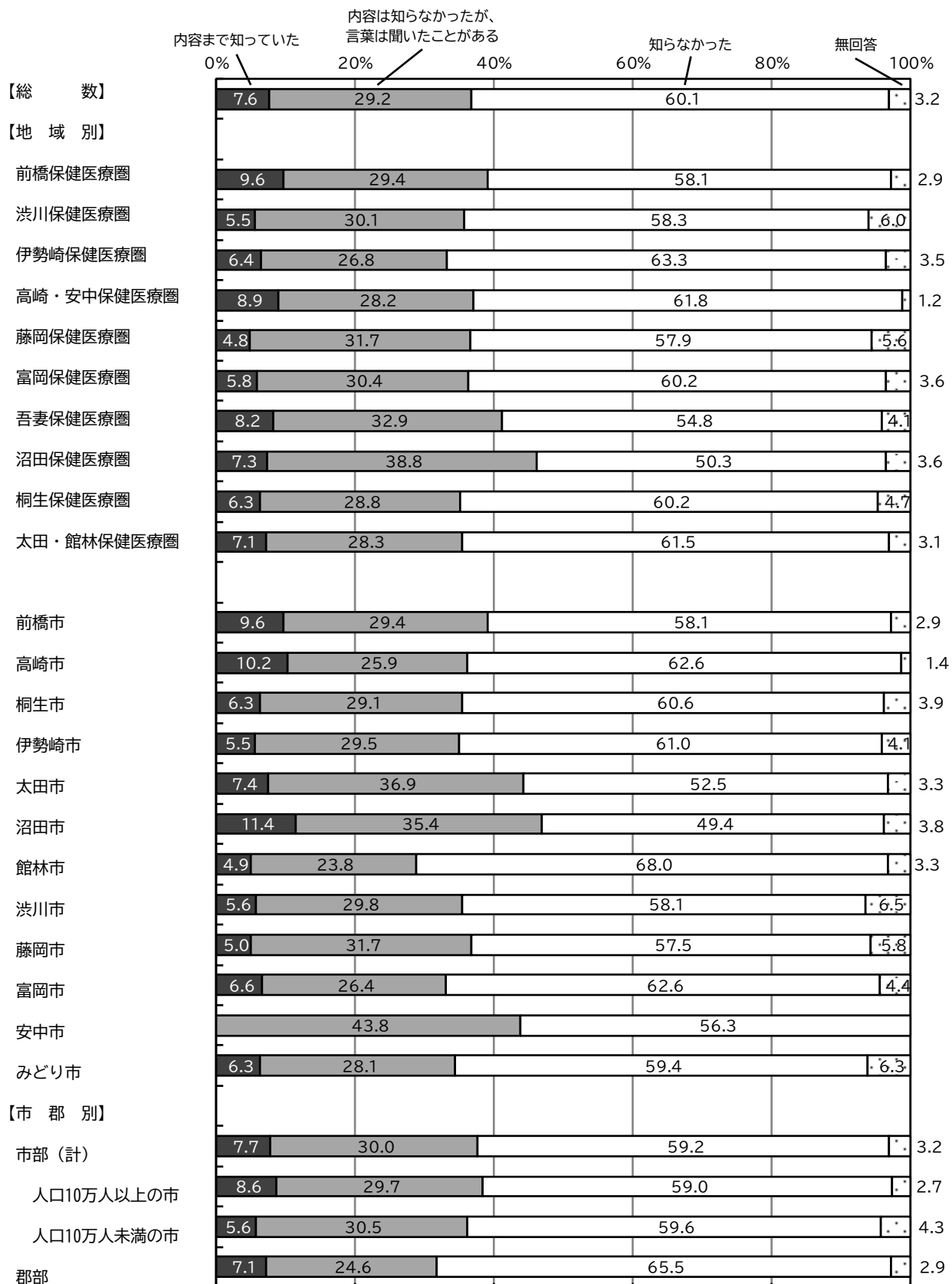
◆職業別

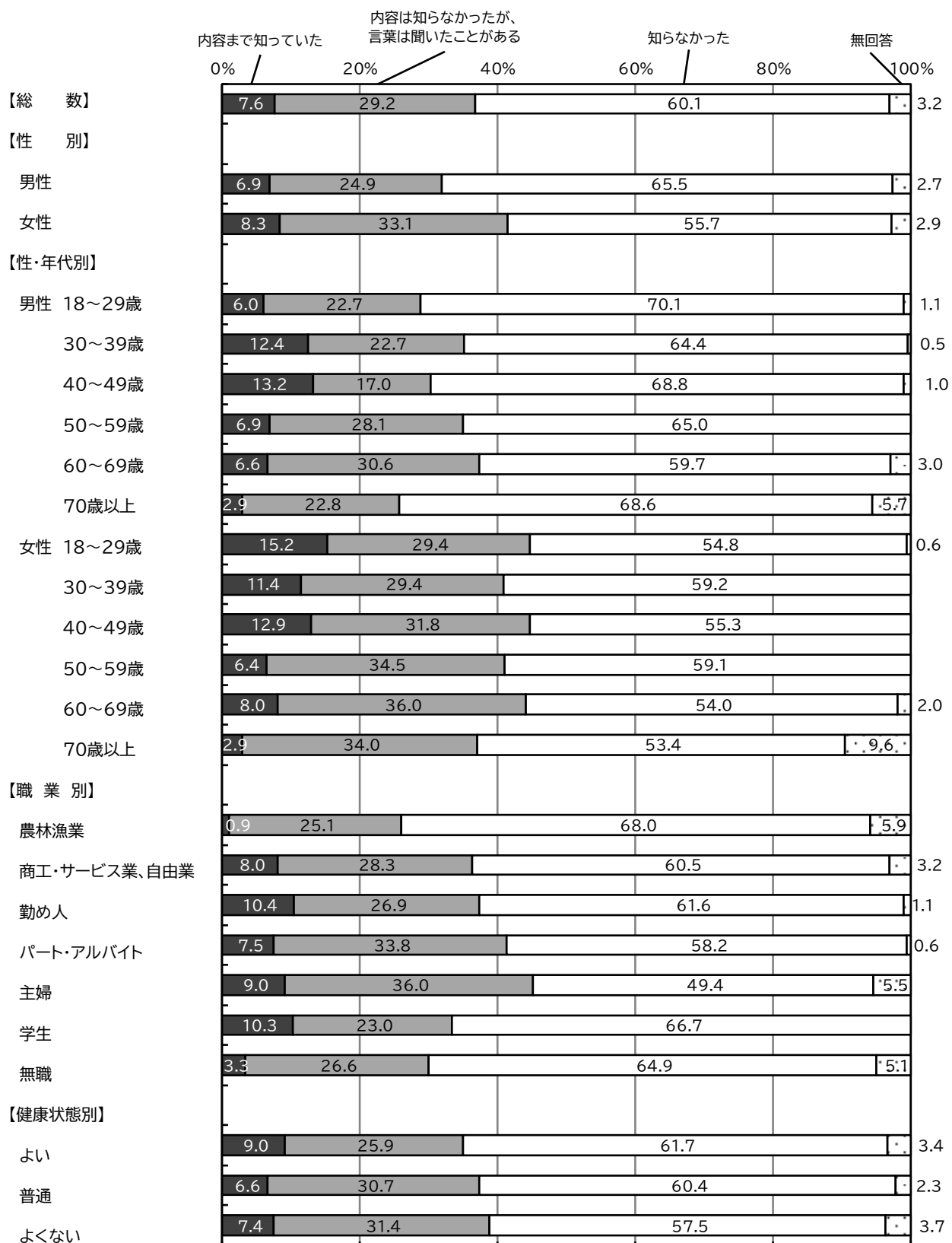
＜聞いたことがある＞は主婦が45.0%と他の職業に比べて多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図14-4 精神保健について
 (群馬県自殺対策総合ホームページ「いのち・つなぐサポートサイト」)

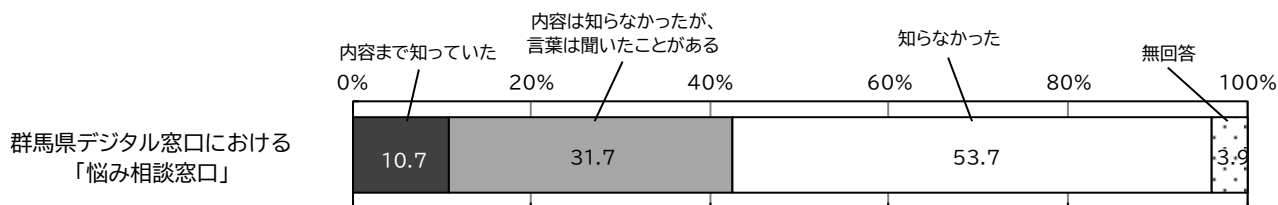




(3) 精神保健について（群馬県デジタル窓口における「悩み相談窓口」）

(n=全体)

図14-5



*平成28年調査では問27と同様の質問項目なし

自殺対策に関する事柄の認知を聞いたところ、『群馬県デジタル窓口における「悩み相談窓口」』については「知らなかった」が53.7%で最も多く、「内容まで知っていた」（10.7%）と「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」（31.7%）を合わせた＜聞いたことがある＞は42.4%となっている。

◆地域別

＜聞いたことがある＞は沼田保健医療圏が49.6%と他の地域に比べて多くなっている。「知らなかった」は富岡保健医療圏(62.4%)と高崎・安中保健医療圏(61.4%)が60.0%を超えて、多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

＜聞いたことがある＞は男性(38.0%)に比べ、女性(46.8%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

＜聞いたことがある＞は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられ、特に20代以下女性では72.5%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

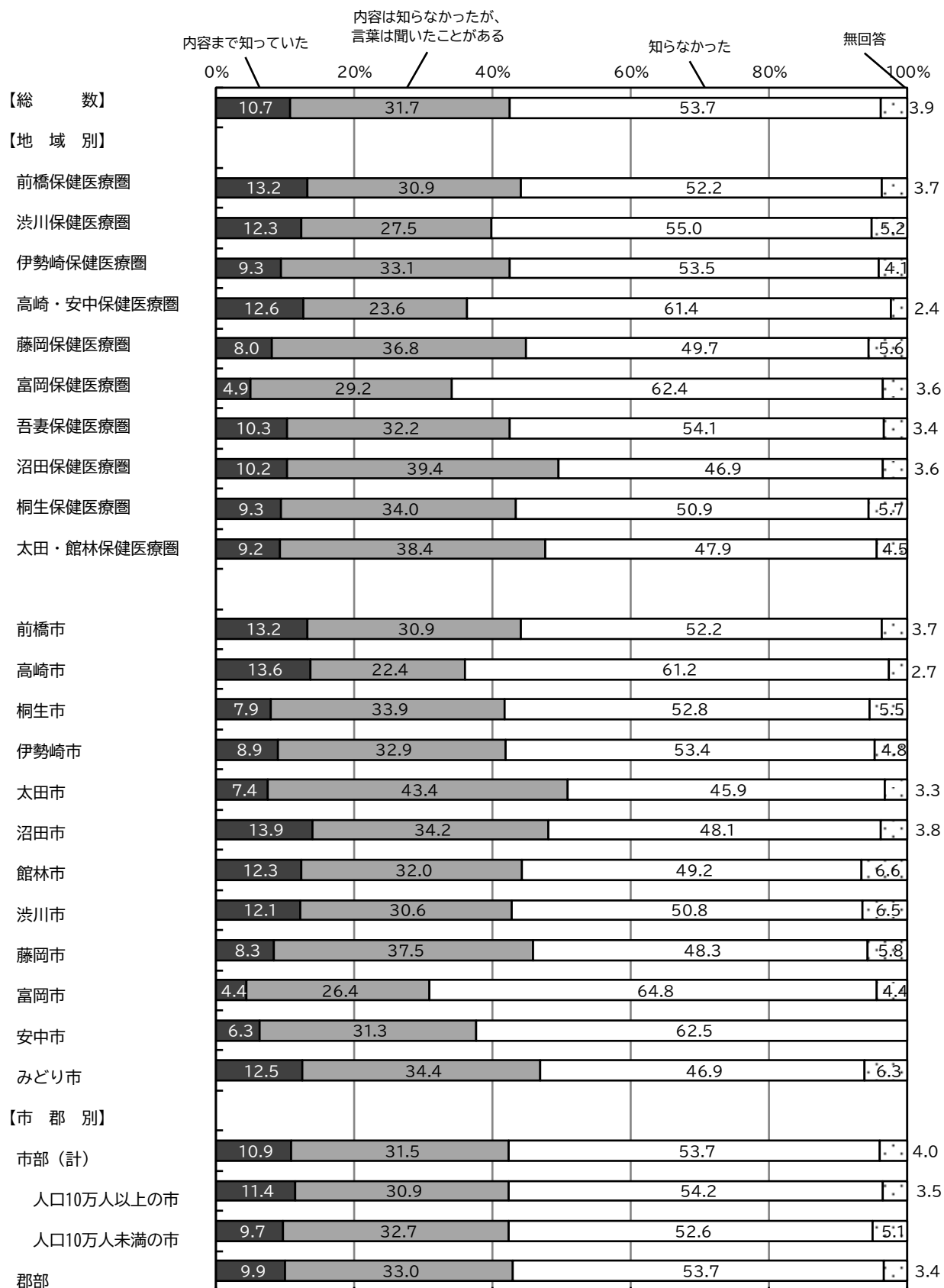
◆職業別

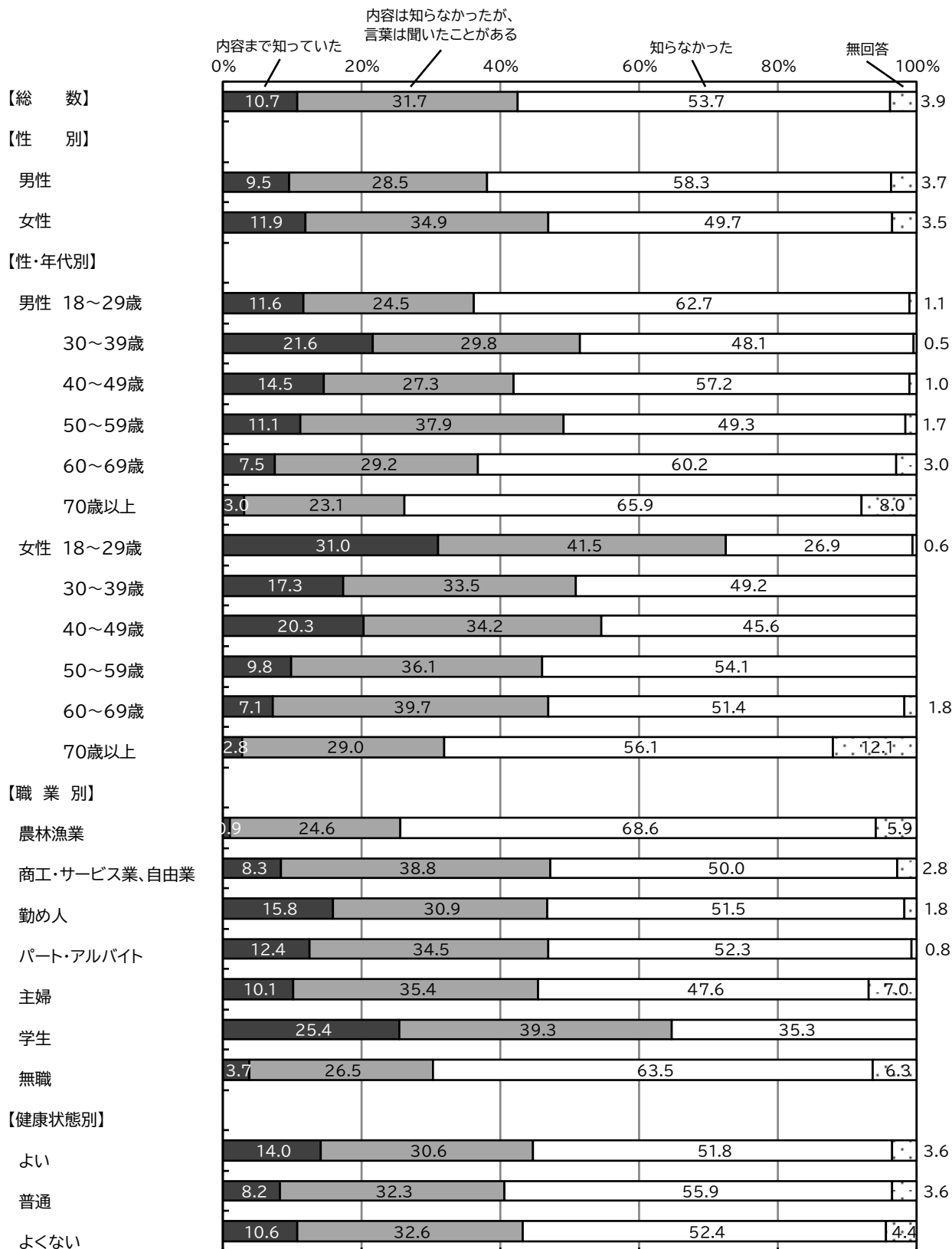
「内容まで知っていた」は、学生が25.4%と他の職業に比べて多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図 1 4 - 6 精神保健について（群馬県デジタル窓口における「悩み相談窓口」）



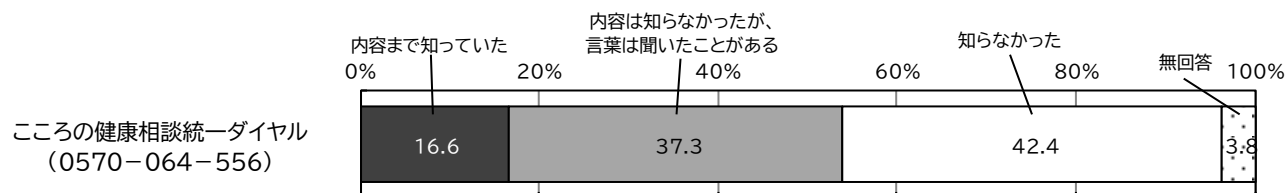


(4) 精神保健について

(こころの健康相談統一ダイヤル (0570-064-556))

(n=全体)

図14-7



*平成28年調査では問27と同様の質問項目なし

自殺対策に関する事柄の認知を聞いたところ、『こころの健康相談統一ダイヤル (0570-064-556)』については「知らなかった」が42.4%で最も多く、「内容まで知っていた」(16.6%)と「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(37.3%)を合わせた<聞いたことがある>は53.8%となっている。

◆地域別

高崎・安中保健医療圏を除いて、いずれの地域も<聞いたことがある>が50.0%を超えている。「内容まで知っていた」は前橋保健医療圏が19.9%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」は男性(30.2%)に比べ、女性(43.9%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「内容まで知っていた」は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられ、特に20代以下女性では34.2%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

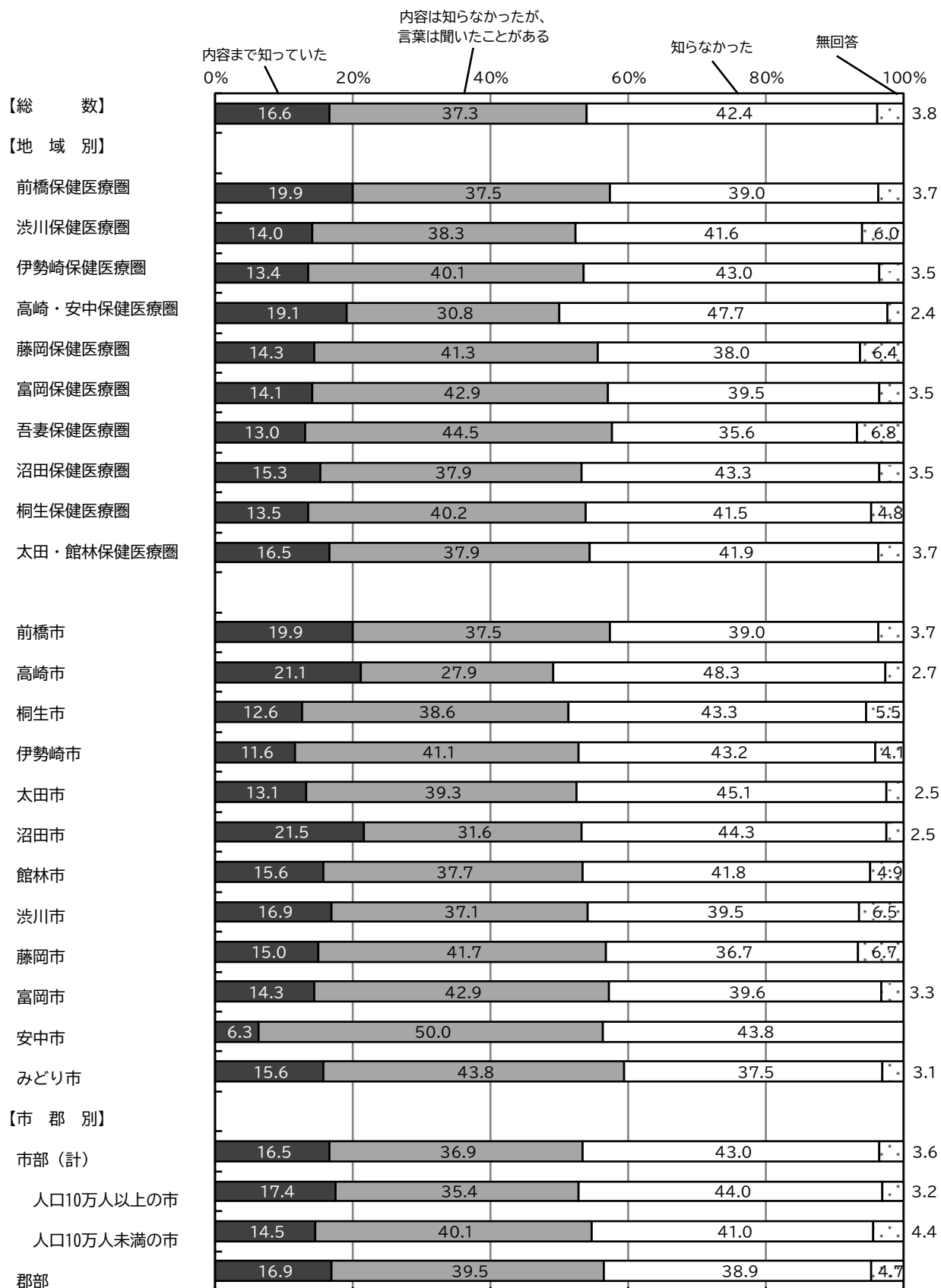
◆職業別

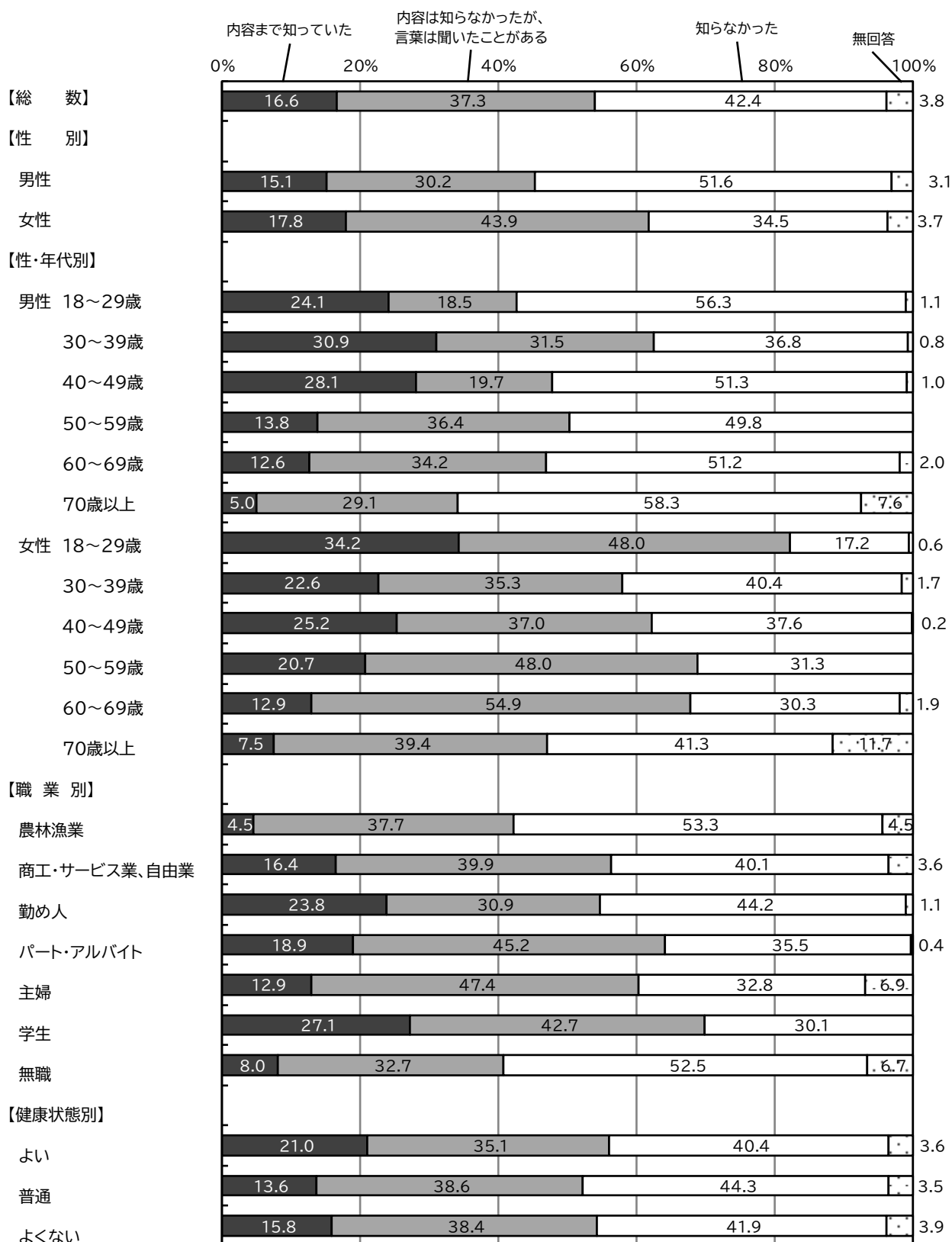
「内容まで知っていた」は、学生が27.1%と他の職業に比べて多くなっている。

◆健康状態別

「内容まで知っていた」は、健康状態がよくない(15.8%)に比べ、健康状態がよい(21.0%)の方が多くなっている。

図14-8 精神保健について
 (こころの健康相談統一ダイヤル (0570-064-556))

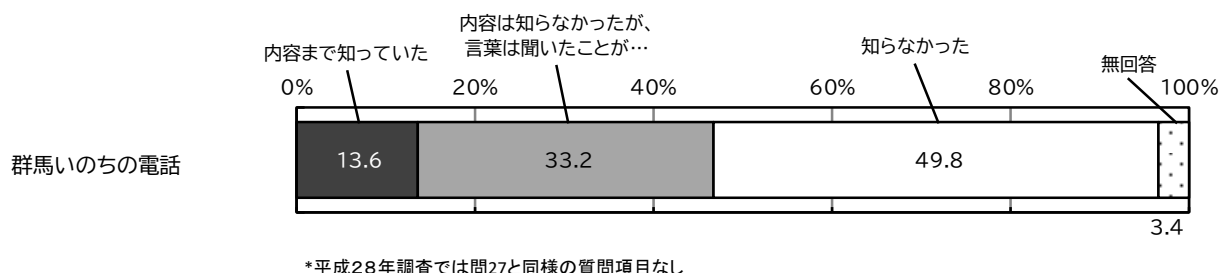




(5) 精神保健について（群馬いのちの電話）

(n=全体)

図14-9



自殺対策に関する事柄の認知を聞いたところ、『群馬いのちの電話』については「知らなかった」が49.8%で最も多く、「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」（33.2%）を合わせた＜聞いたことがある＞は46.7%となっている。

◆地域別

いずれの地域も「知らなかった」が最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」は男性(25.7%)に比べ、女性(39.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

＜聞いたことがある＞は50代女性(66.2%)と60代女性(65.1%)で60.0%を超えて、他の性別・年代に比べて多くなっている。

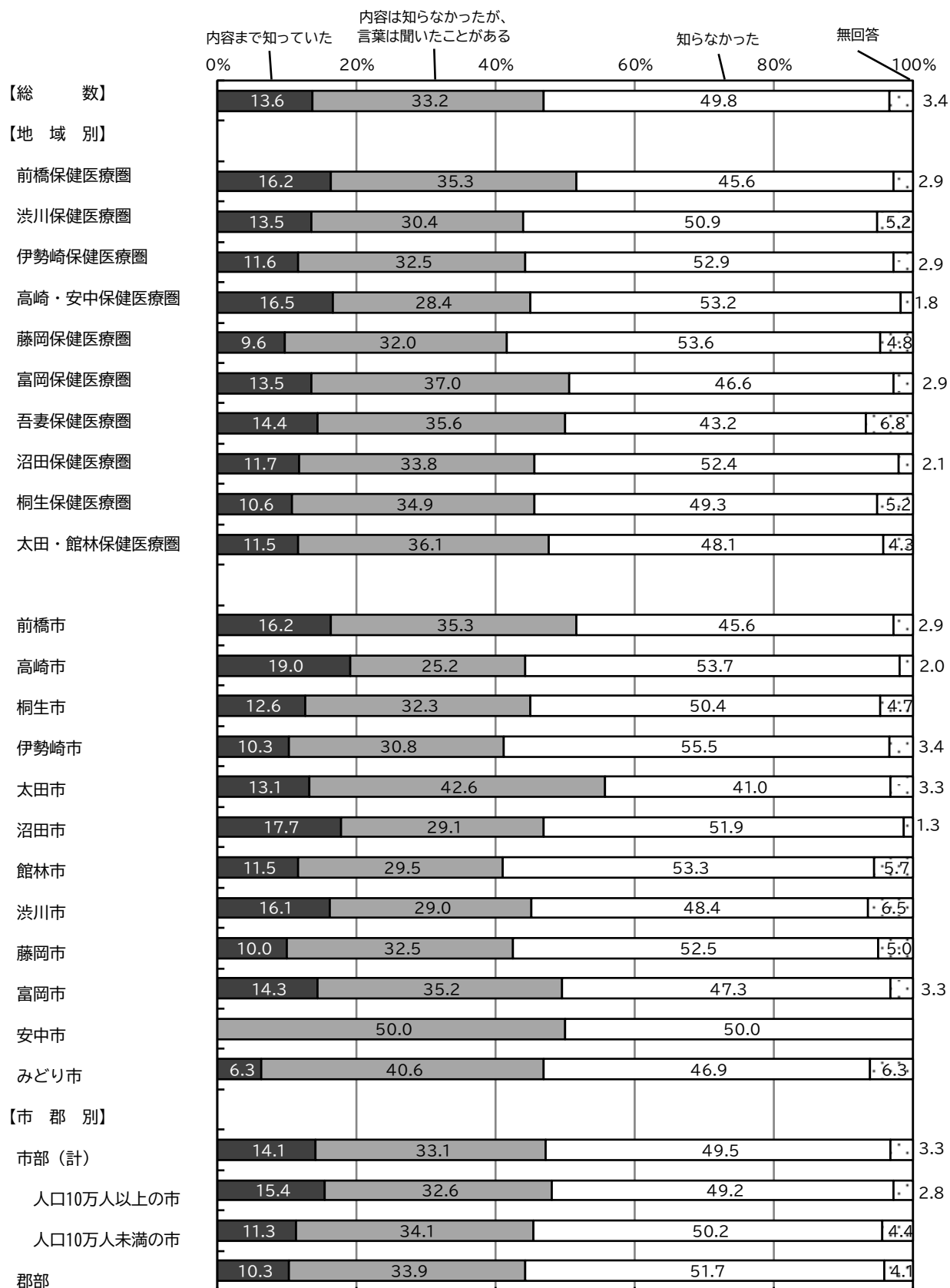
◆職業別

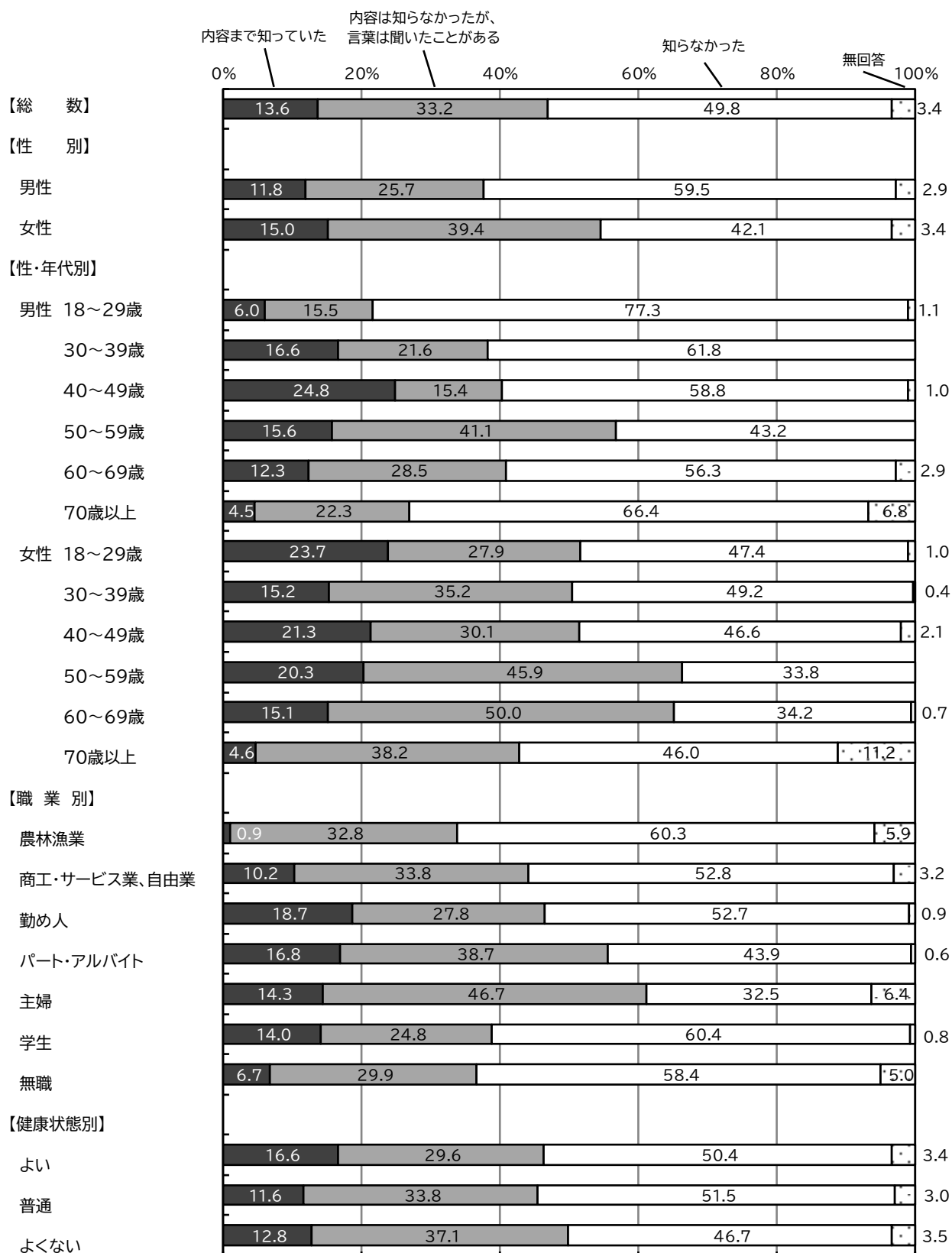
＜聞いたことがある＞は、主婦が61.0%と他の職業に比べて多くなっている。

◆健康状態別

「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」は、健康状態がよい(29.6%)に比べ、健康状態がよくない(37.1%)の方が多くなっている。

図 1 4 - 1 0 精神保健について（群馬いのちの電話）



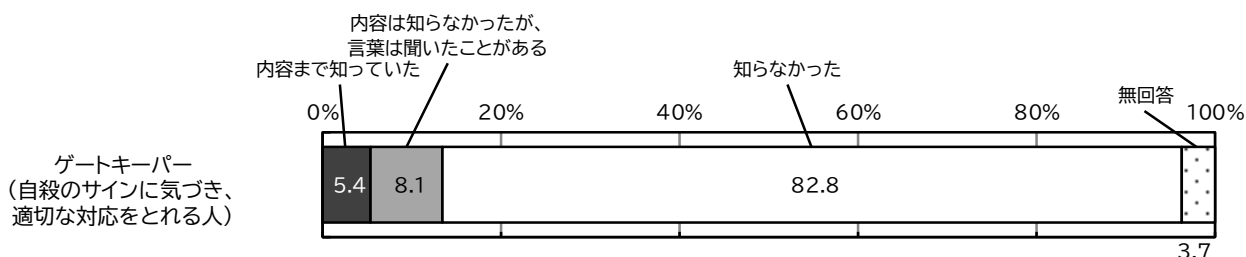


(6) 精神保健について

(ゲートキーパー (自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人))

(n=全体)

図14-11



自殺対策に関する事柄の認知を聞いたところ、『ゲートキーパー (自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人)』については「知らなかった」が82.8%で最も多く、「内容まで知っていた」(5.4%)と「内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(8.1%)を合わせた<聞いたことがある>は13.5%となっている。

◆地域別

いずれの地域も「知らなかった」が70.0%を超えて、最も多くなっている。<聞いたことがある>は吾妻保健医療圏が17.8%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

<聞いたことがある>は30代男性では26.8%、30代女性では24.6%と男性と女性とも30代が最も多くなっている。

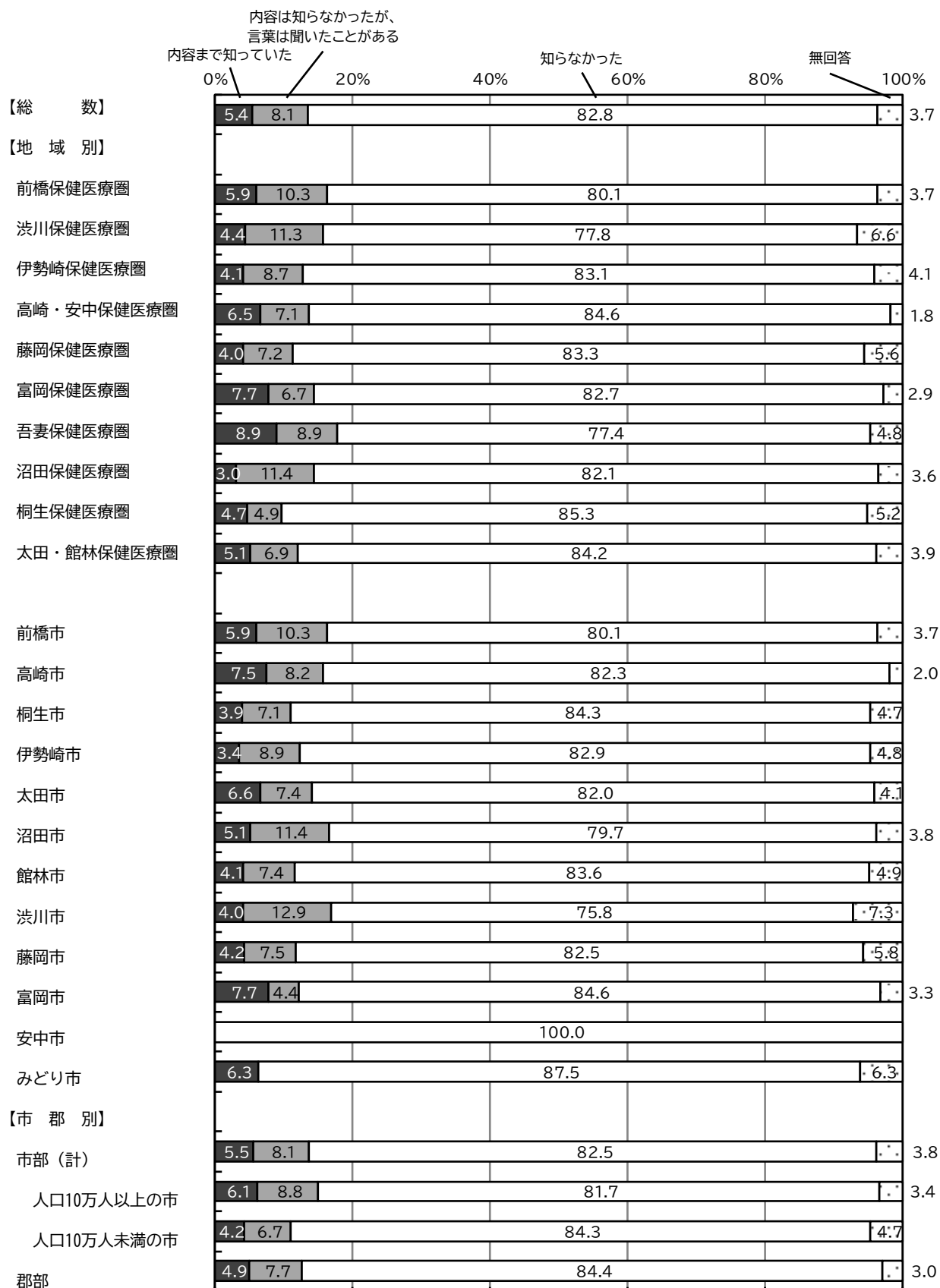
◆職業別

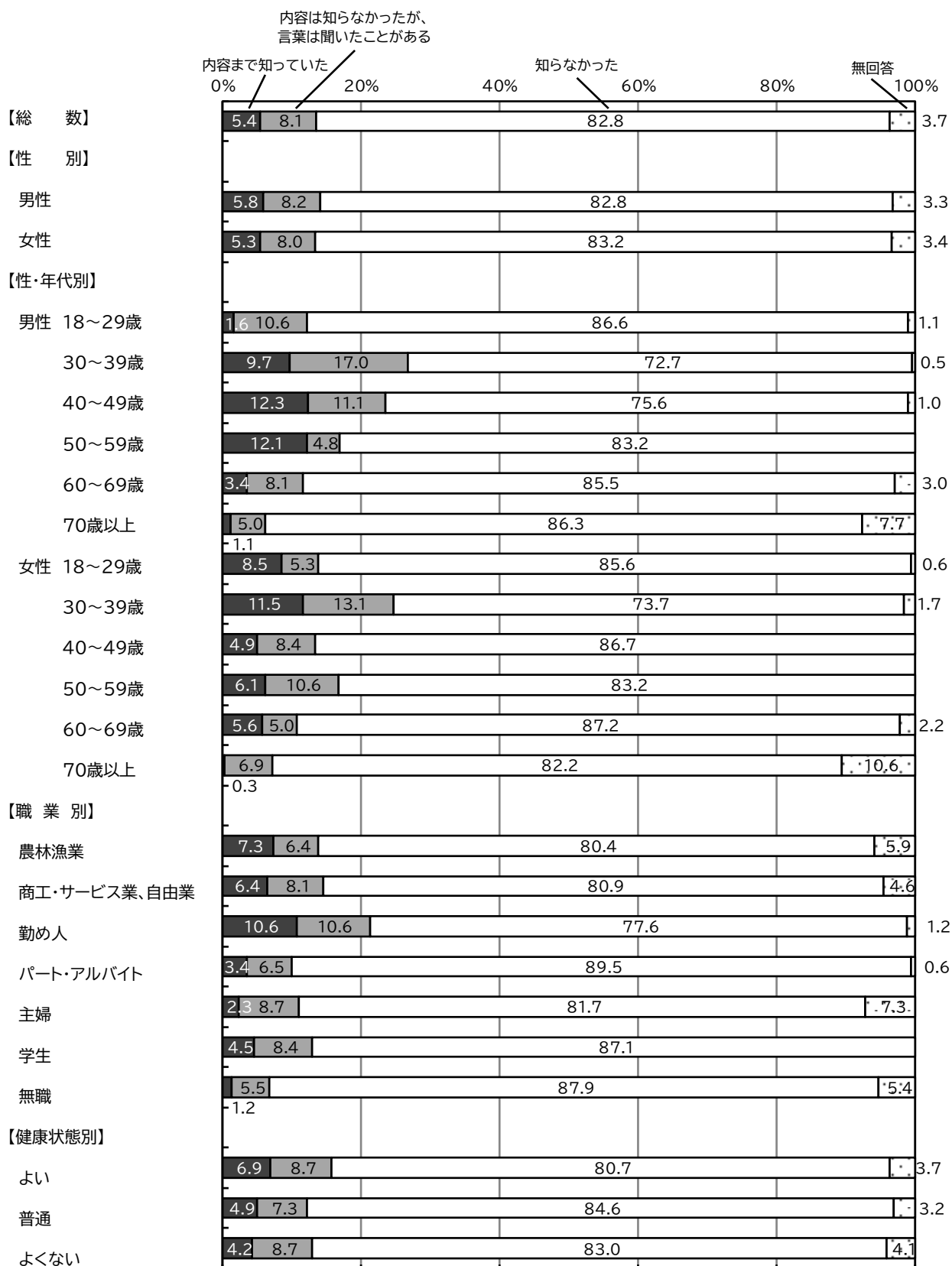
「内容まで知っていた」は、勤め人が10.6%と最も多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図14-12 精神保健について
 (ゲートキーパー (自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人))



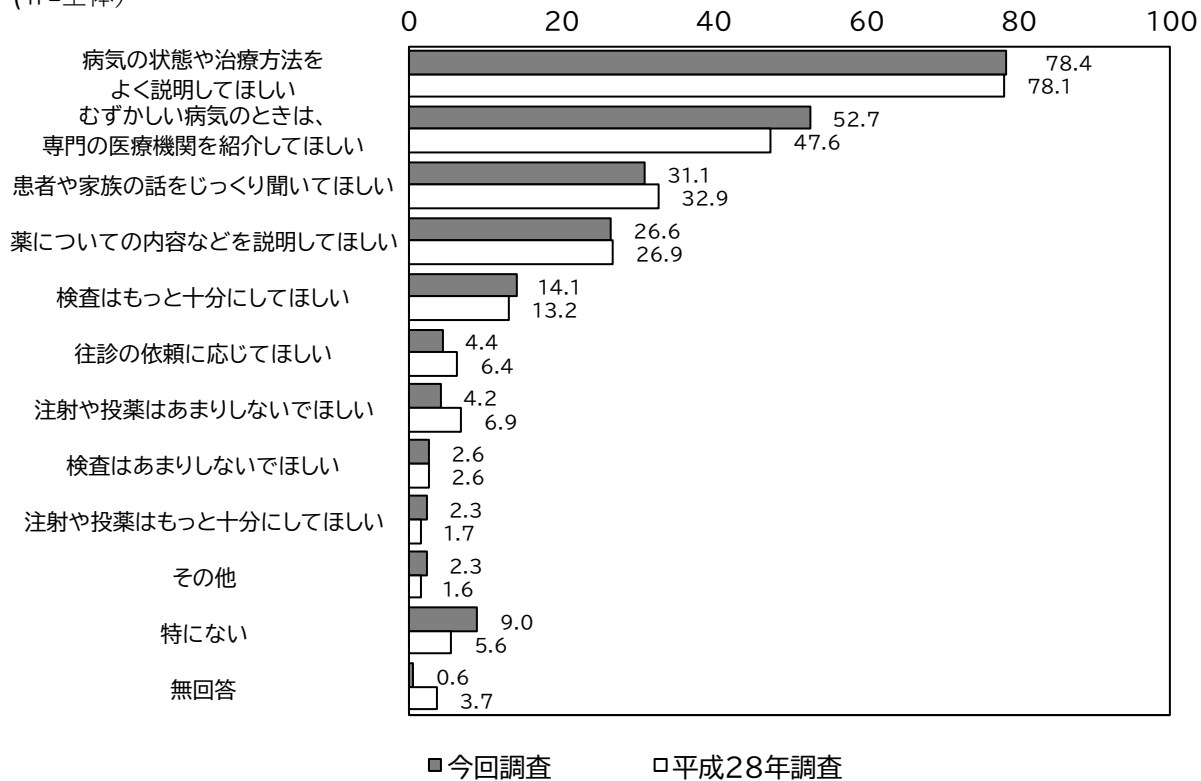


～医師については「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」78.4%
 看護師については「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」54.2%
 施設・サービスについては「待ち時間を短くしてほしい」69.9%～

問28 これまでの経験から、あなたは医療機関に対してどのようなことを望みますか。（それぞれ○は3つまで）

(1) 医療機関への要望（医師について） 図15-1

(n=全体)



医療機関への要望として医師については「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」が78.4%と最も多くなっており、次いで「むずかしい病気ときは、専門の医療機関を紹介してほしい」が52.7%、「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」が31.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様の傾向となっているが、「むずかしい病気ときは、専門の医療機関を紹介してほしい」は多くなっている。

◆地域別

いずれの地域も「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」は男性(23.3%)に比べ、女性(38.0%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」は40代女性が45.2%、50代女性が48.9%と40.0%を超えていて、他の性別・年代に比べ多くなっている。

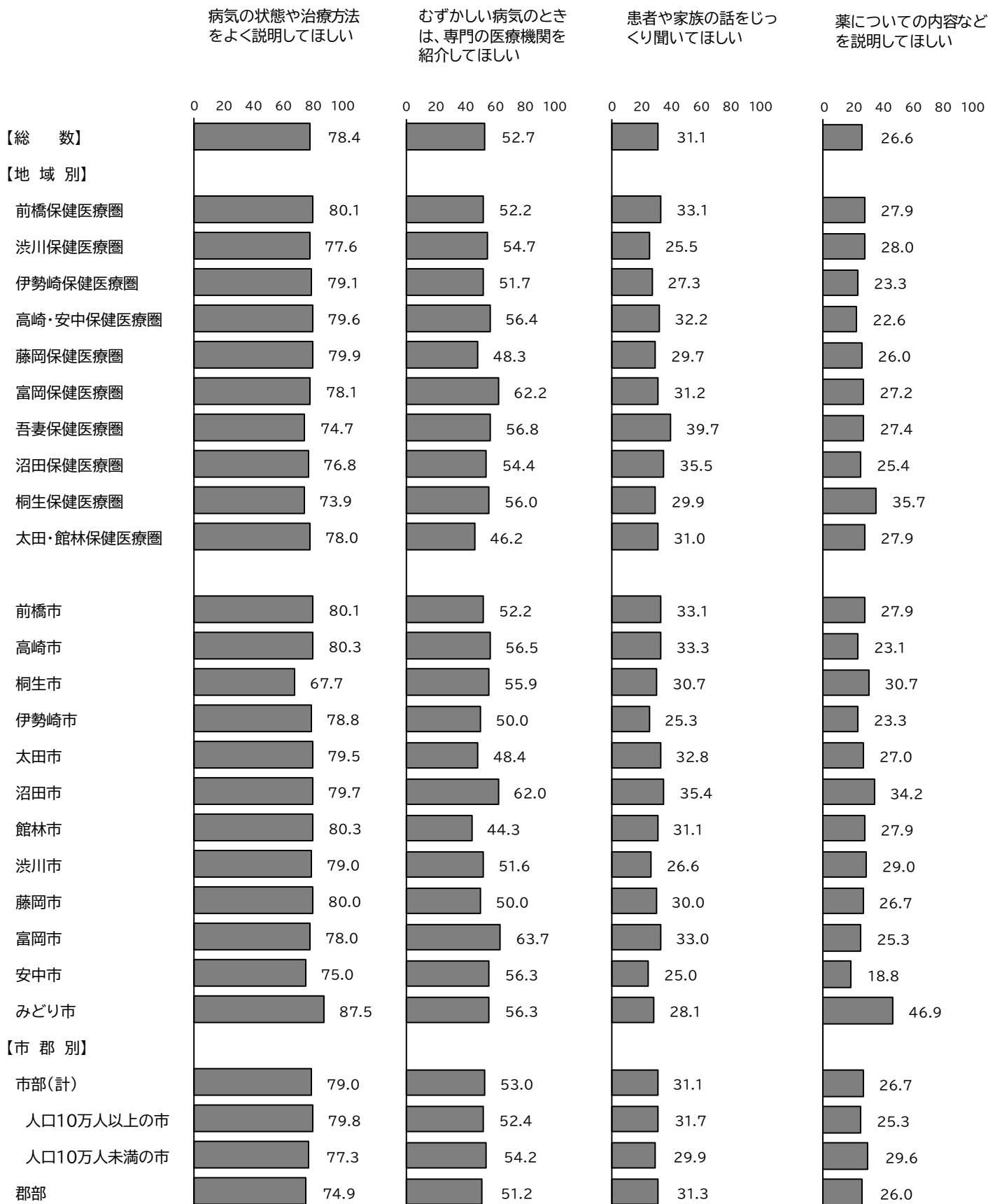
◆職業別

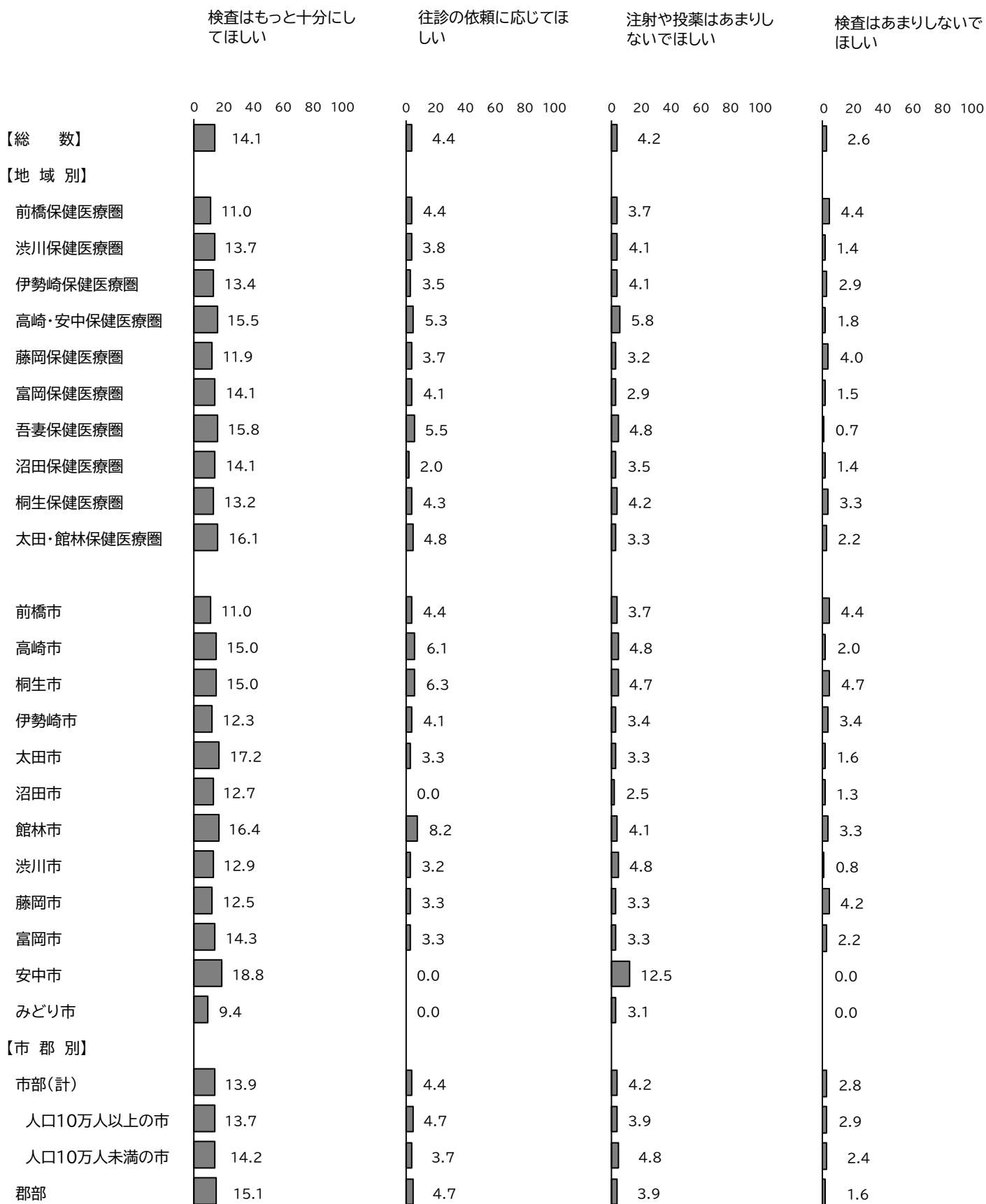
「薬についての内容などを説明してほしい」は学生が42.0%と最も多くなっている。

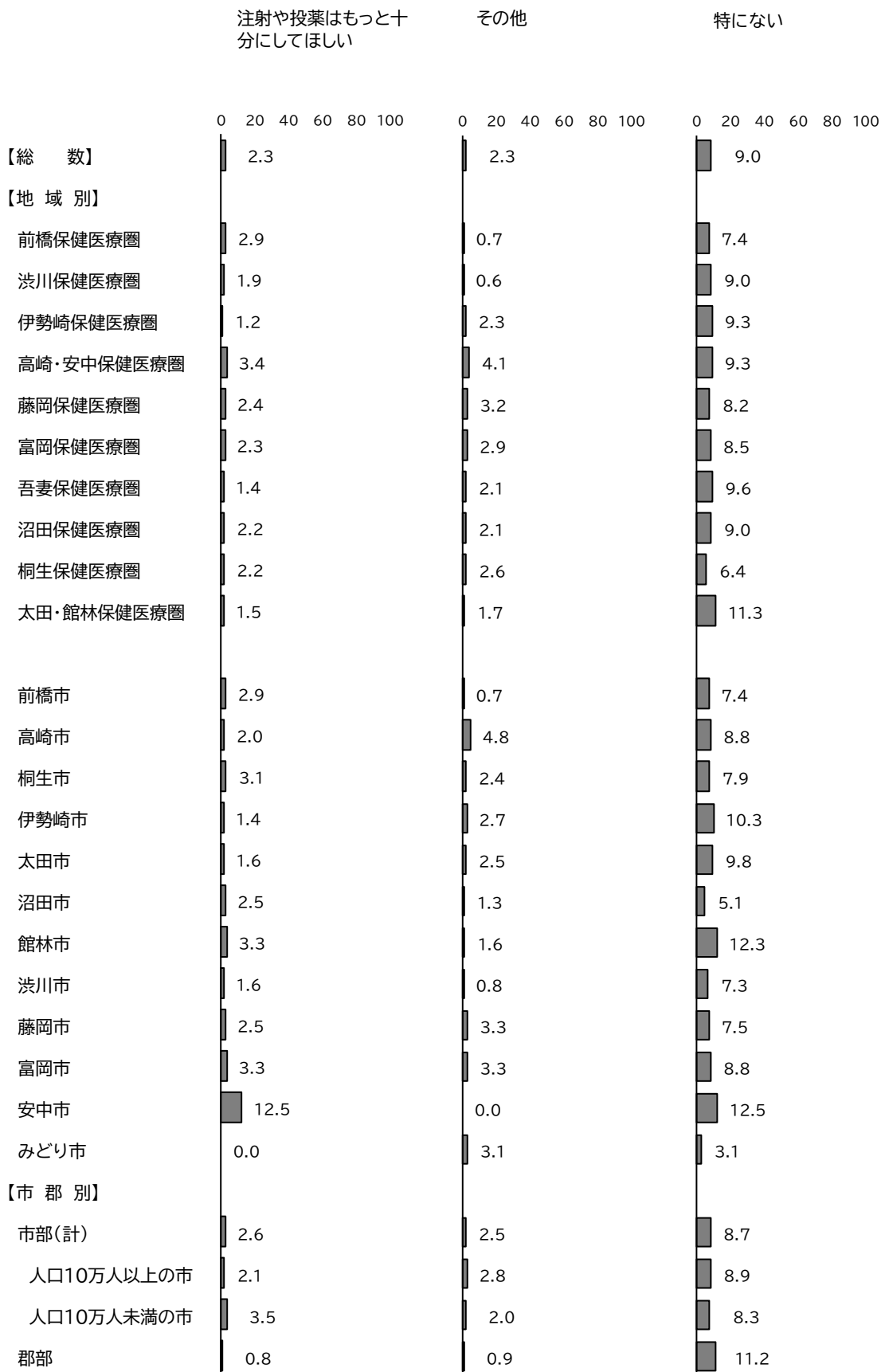
◆健康状態別

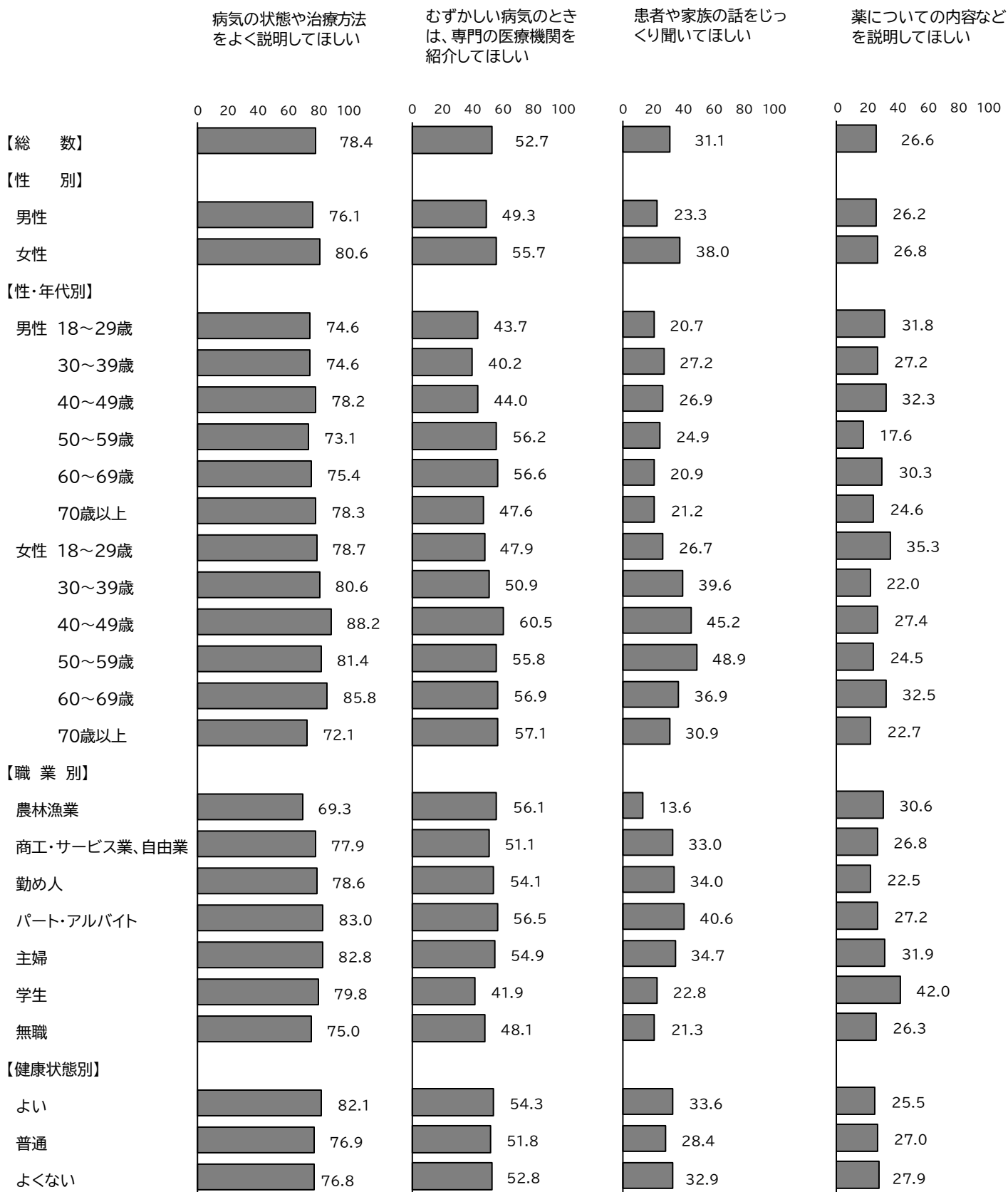
健康状態で差異はほとんどみられないが、「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」は健康状態がよくない(76.8%)に比べ、健康状態がよい(82.1%)の方が多くなっている。

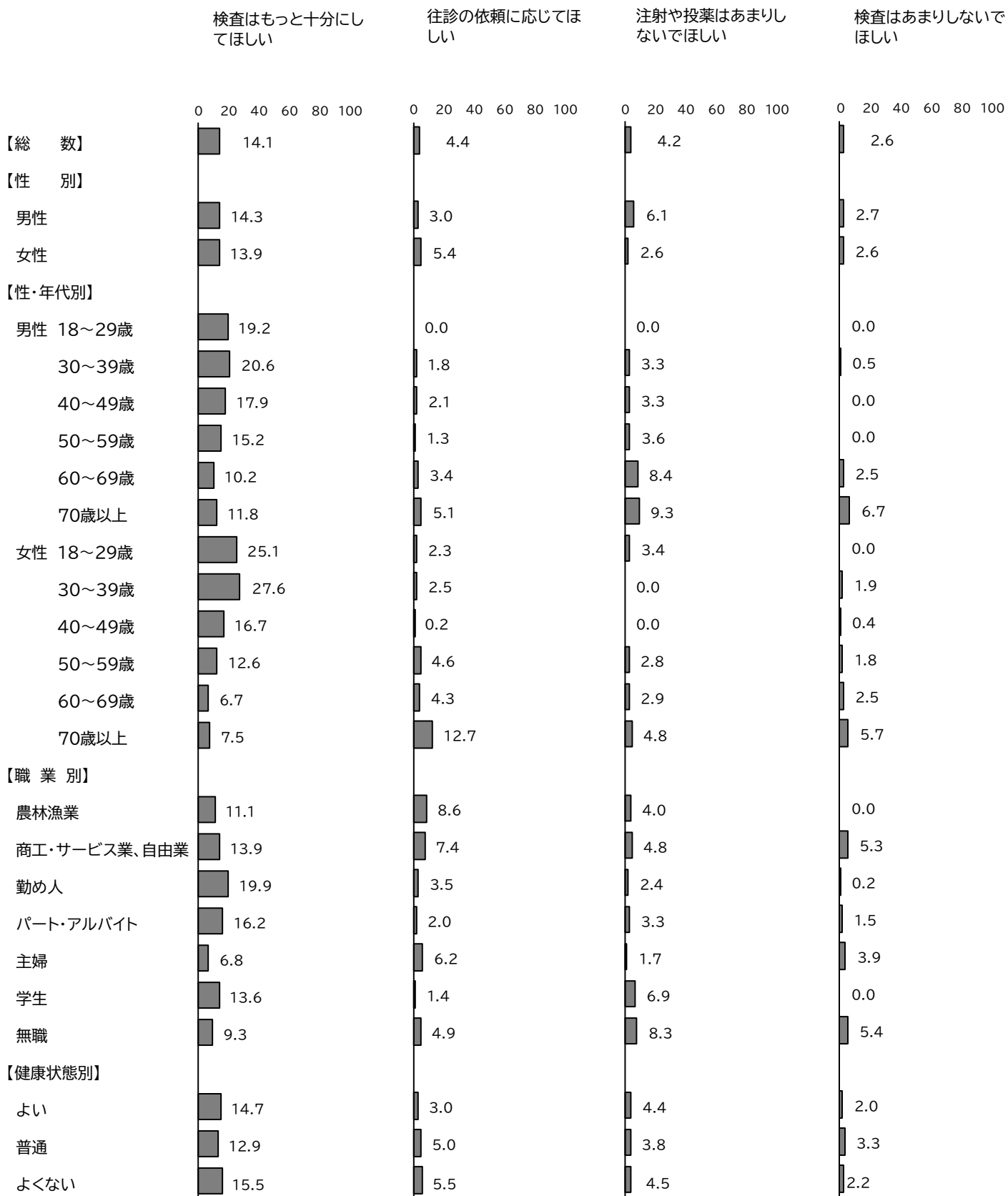
図 15 - 2 医療機関への要望（医師について）

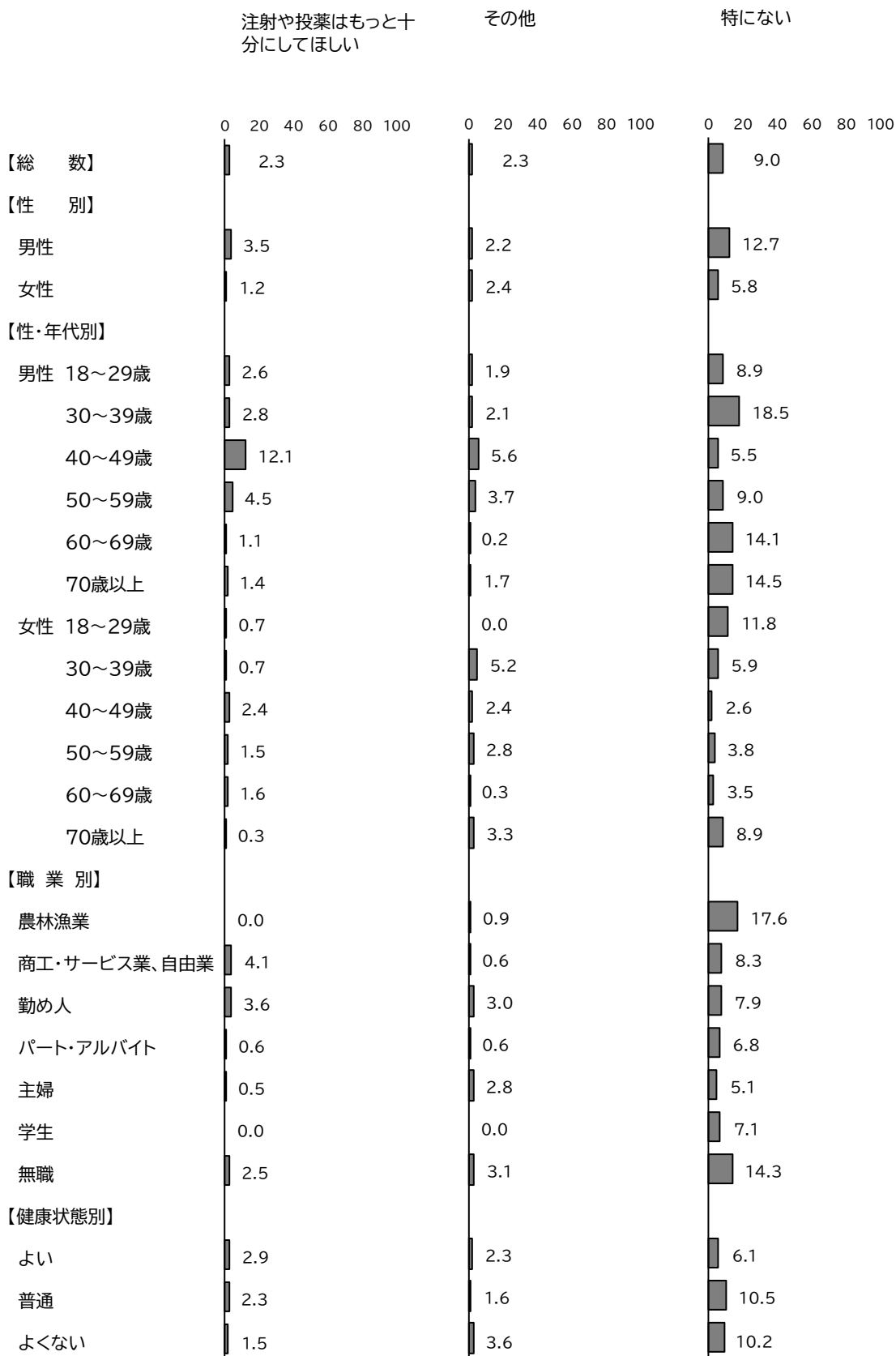








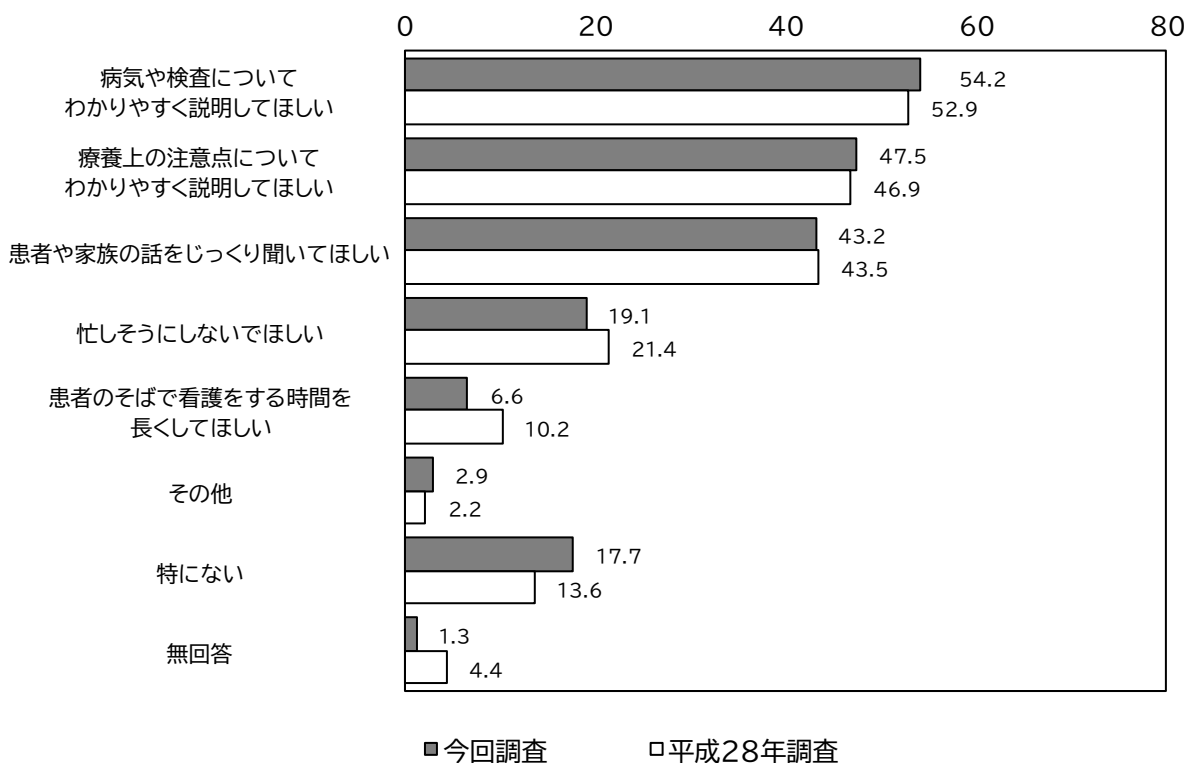




(2) 医療機関への要望（看護師について）

図15-3

(n=全体)



医療機関への要望として看護師については、「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」が54.2%と最も多く、次いで「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」が47.5%、「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」が43.2%となっている。

平成28年調査結果との比較では、傾向は変わらない。

◆地域別

「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」は吾妻保健医療圏が55.5%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」は市部(53.5%)に比べ、郡部(57.9%)の方がやや多くなっている。

◆性別

「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」と「忙しそうにしないでほしい」は男性に比べ、女性の方が多くなっている。

◆性・年代別

「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」は40代男性が59.0%、40代女性が58.7%と、男性と女性とも40代が最も多くなっている。

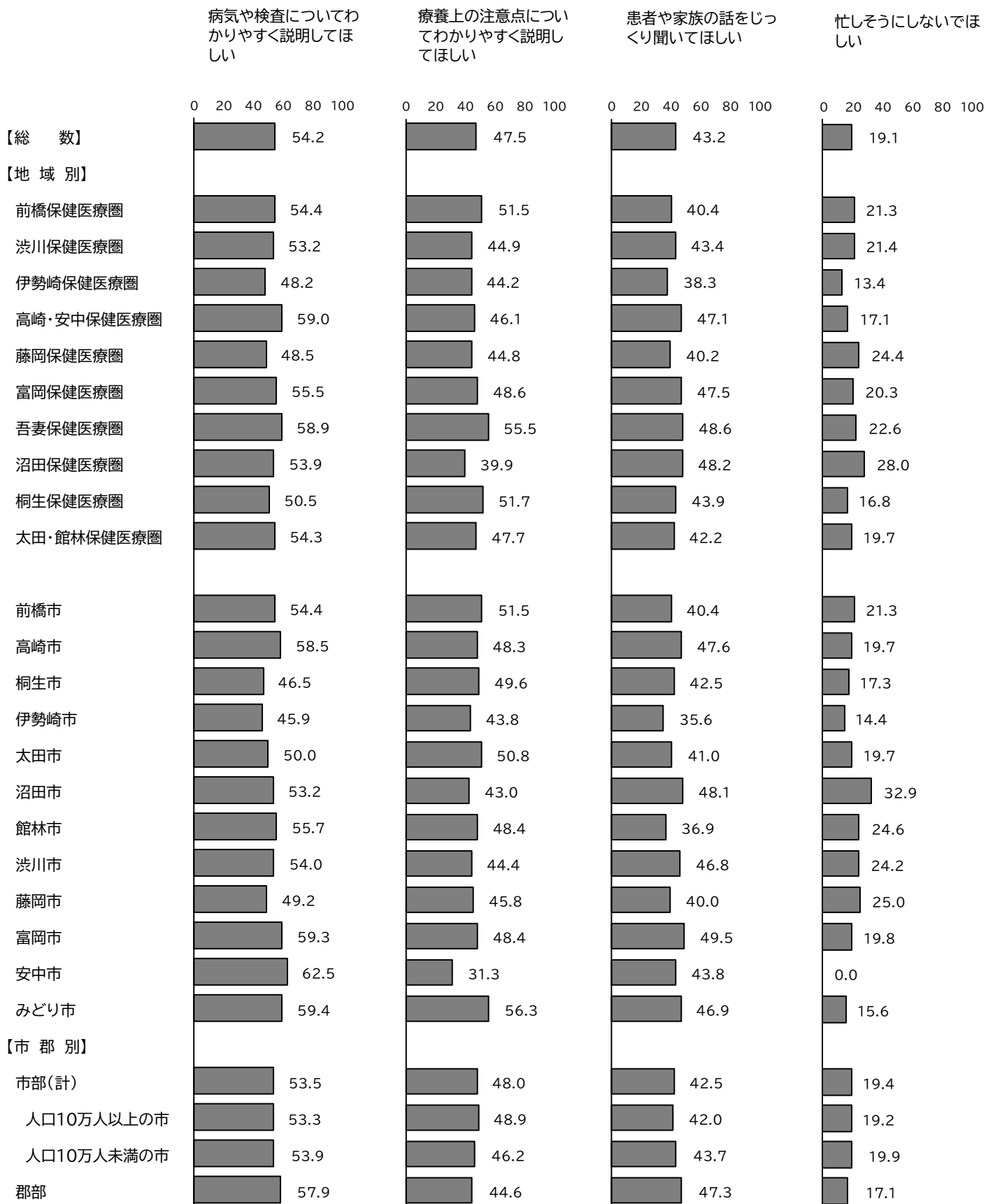
◆職業別

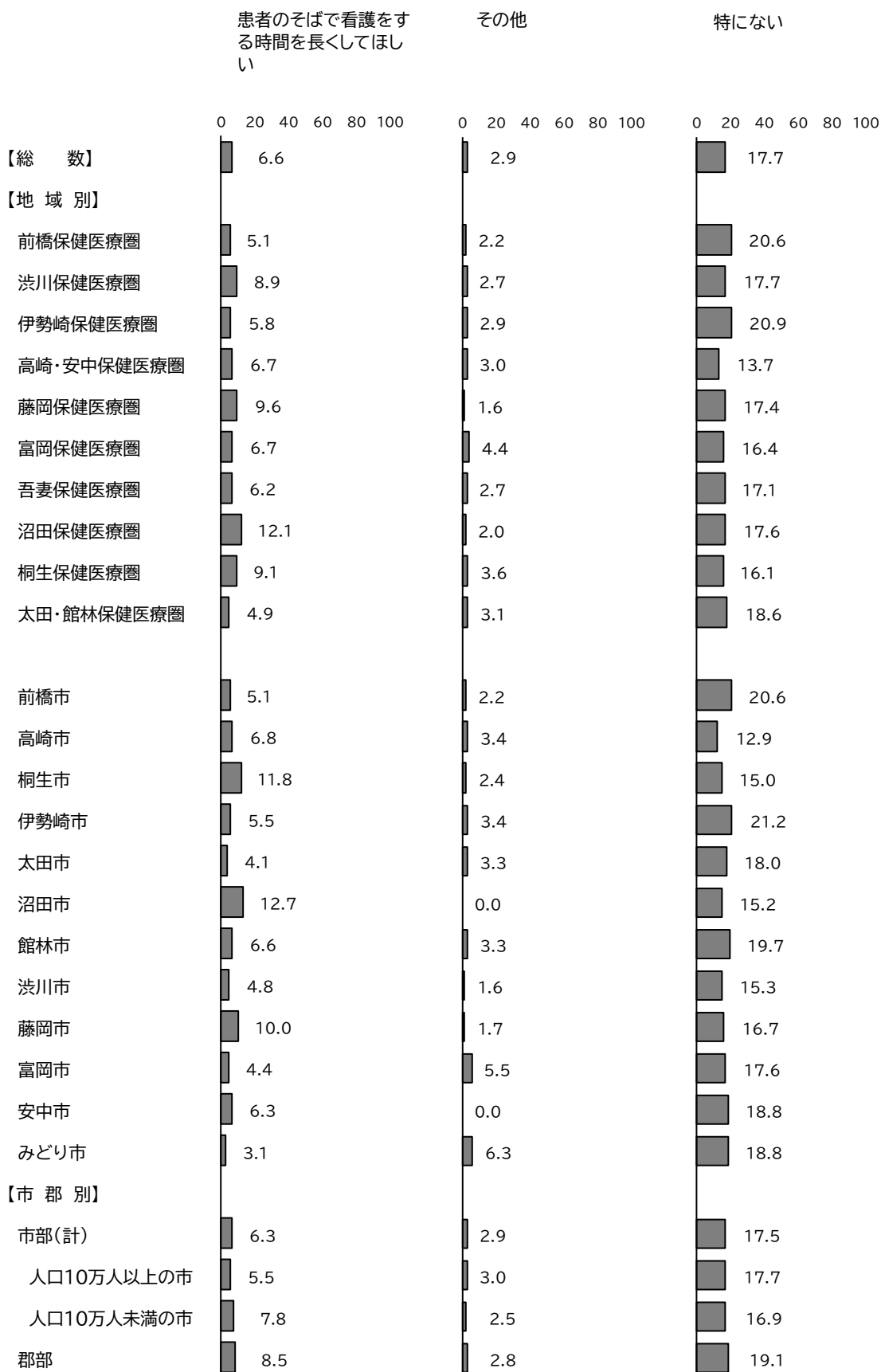
学生を除いて、いずれの職業でも「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」が50.0%を超えて、最も多くなっている。学生は「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」が53.5%で最も多くなっている。

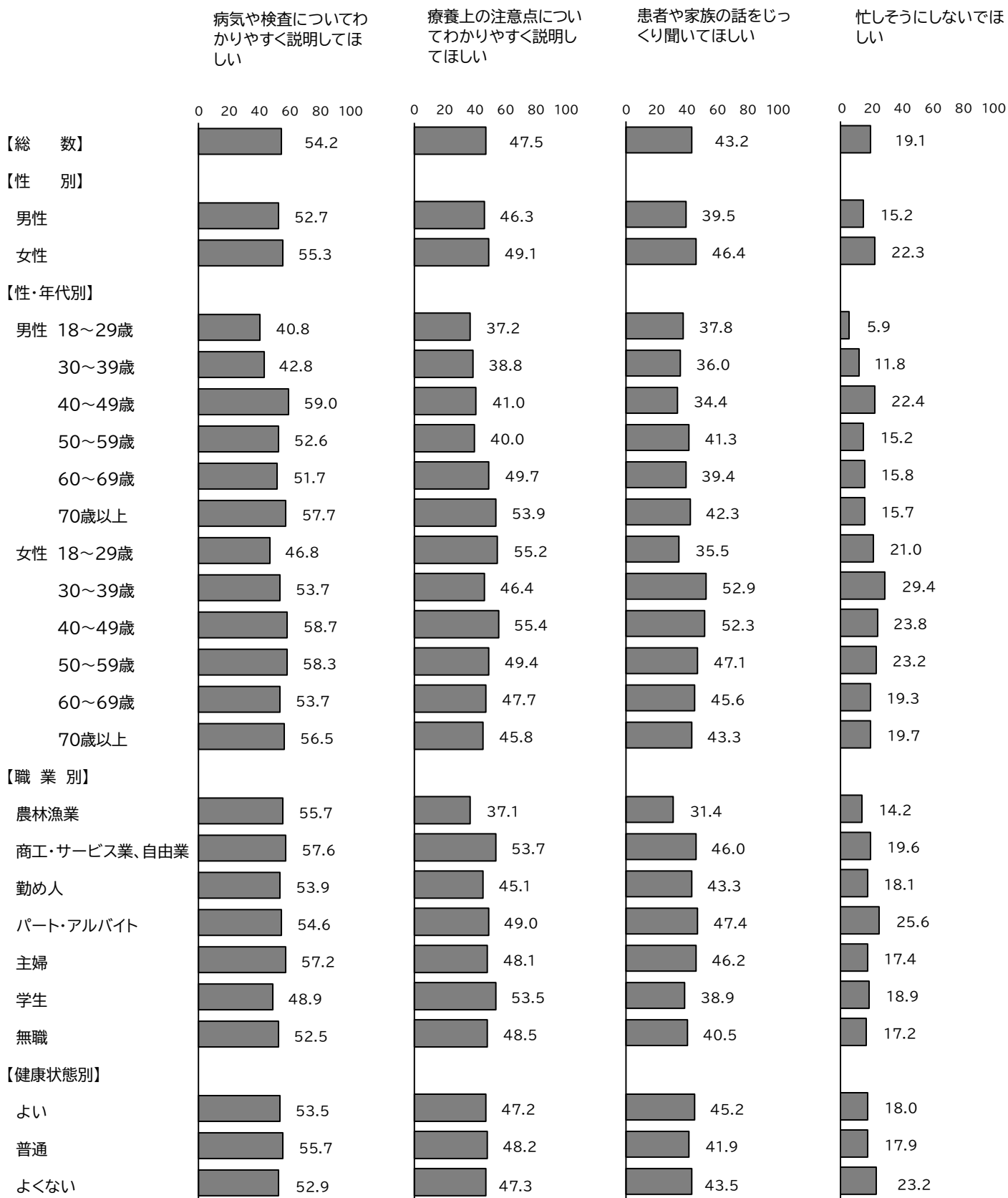
◆健康状態別

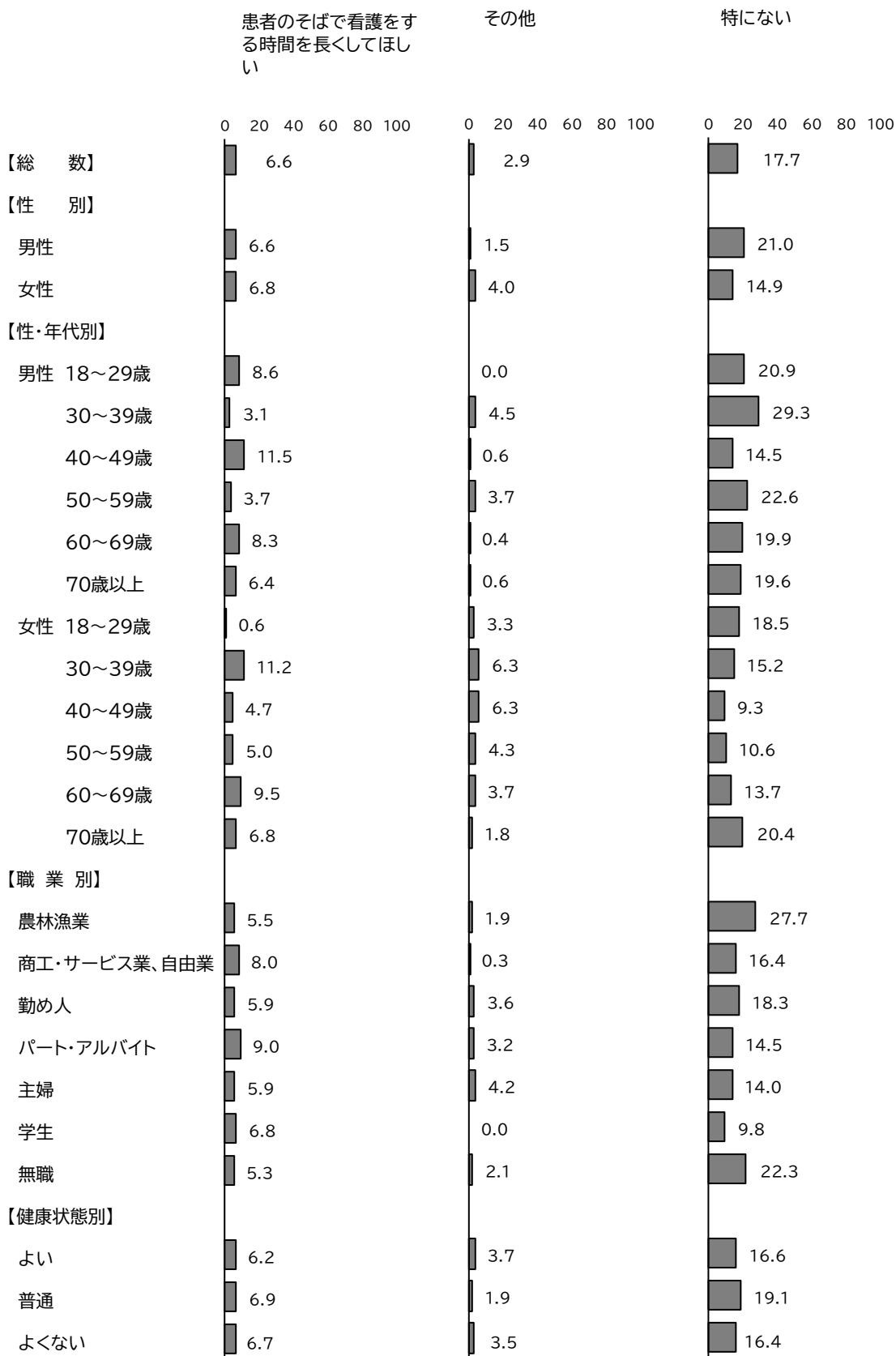
健康状態で差異はほとんどみられないが、「忙しそうにしないでほしい」は健康状態がよい(18.0%)に比べ、健康状態がよくない(23.2%)の方が多くなっている。

図15-4 医療機関への要望（看護師について）





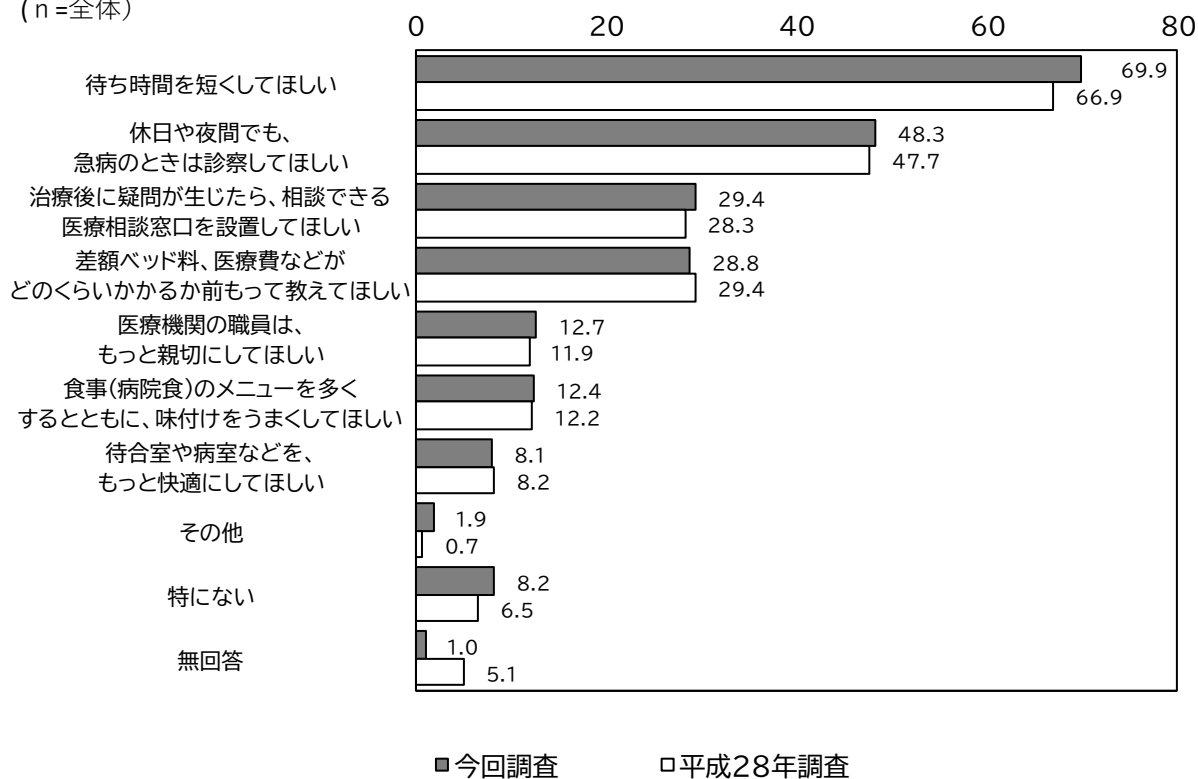




(3) 医療機関への要望（施設・サービスについて）

図15-5

(n=全体)



医療機関への要望として施設・サービスについては、「待ち時間を短くしてほしい」が69.9%と最も多く、次いで「休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい」が48.3%となっている。

平成28年調査結果との比較では、傾向は変わらない。

◆地域別

「待ち時間を短くしてほしい」は伊勢崎保健医療圏が76.7%と最も多く、次いで高崎・安中保健医療圏が74.1%となっている。

◆市郡別

「休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい」は市部(47.3%)に比べ、郡部(54.6%)の方が多くなっている。

◆性別

「治療後に疑問が生じたら、相談できる医療相談窓口を設置してほしい」は男性(23.7%)に比べ、女性(34.2%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「待ち時間を短くしてほしい」が最も多くなっている。その中でも40代男性が85.8%と最も多くなっている。また、「差額ベッド料、医療費などがどのくらいかかるか前もって教えてほしい」は女性では若い年齢ほど多くなる傾向がみられ、20代以下女性は42.6%と最も多くなっている。

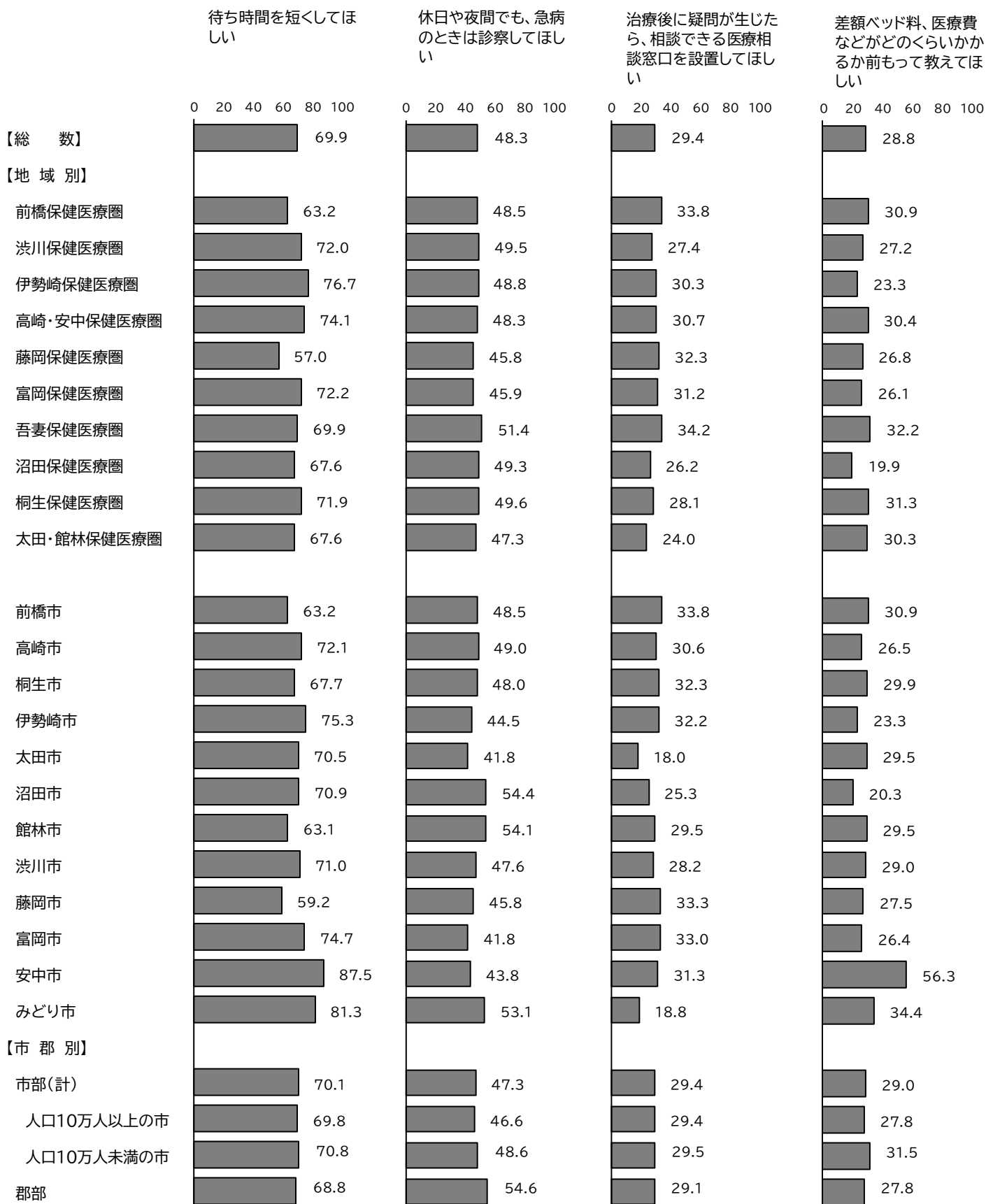
◆職業別

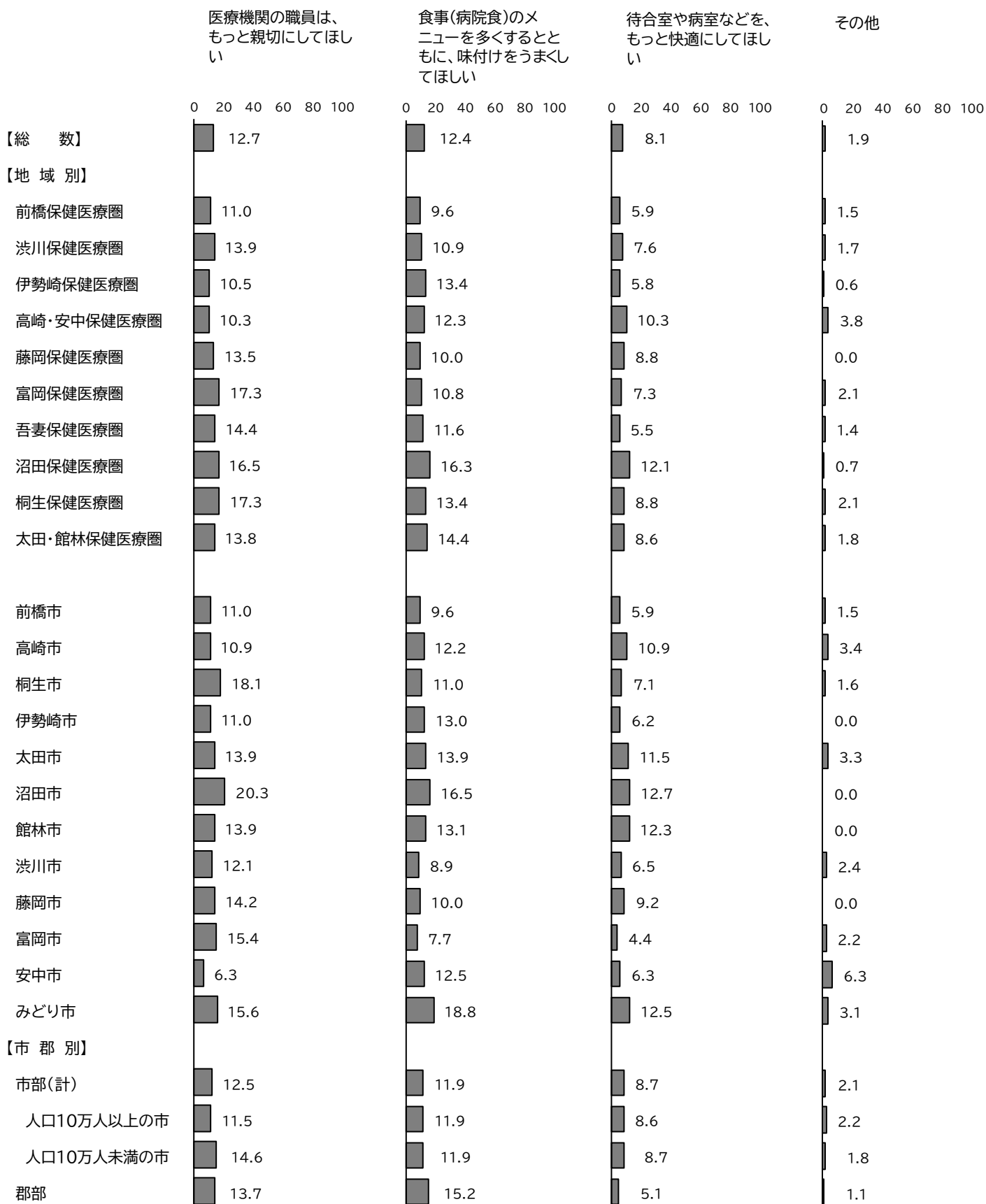
「待ち時間を短くしてほしい」は勤め人が76.7%と最も多くなっている。また、「治療後に疑問が生じたら、相談できる医療相談窓口を設置してほしい」は学生が6.8%と他の職業に比べ少なくなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられないが、「治療後に疑問が生じたら、相談できる医療相談窓口を設置してほしい」は健康状態がよい(26.4%)に比べ、健康状態がよくない(35.6%)の方が多くなっている。

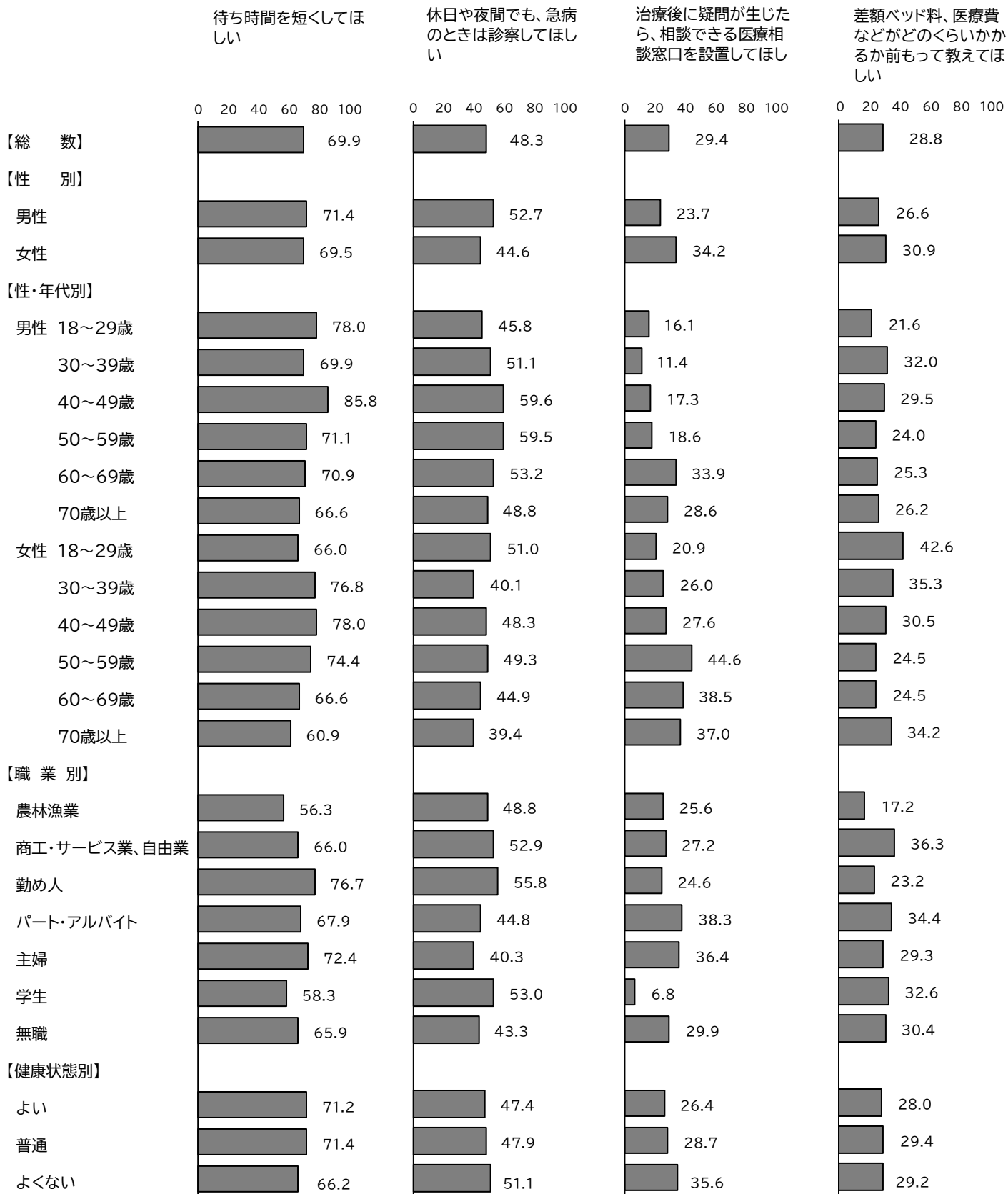
図15-6 医療機関への要望（施設・サービスについて）

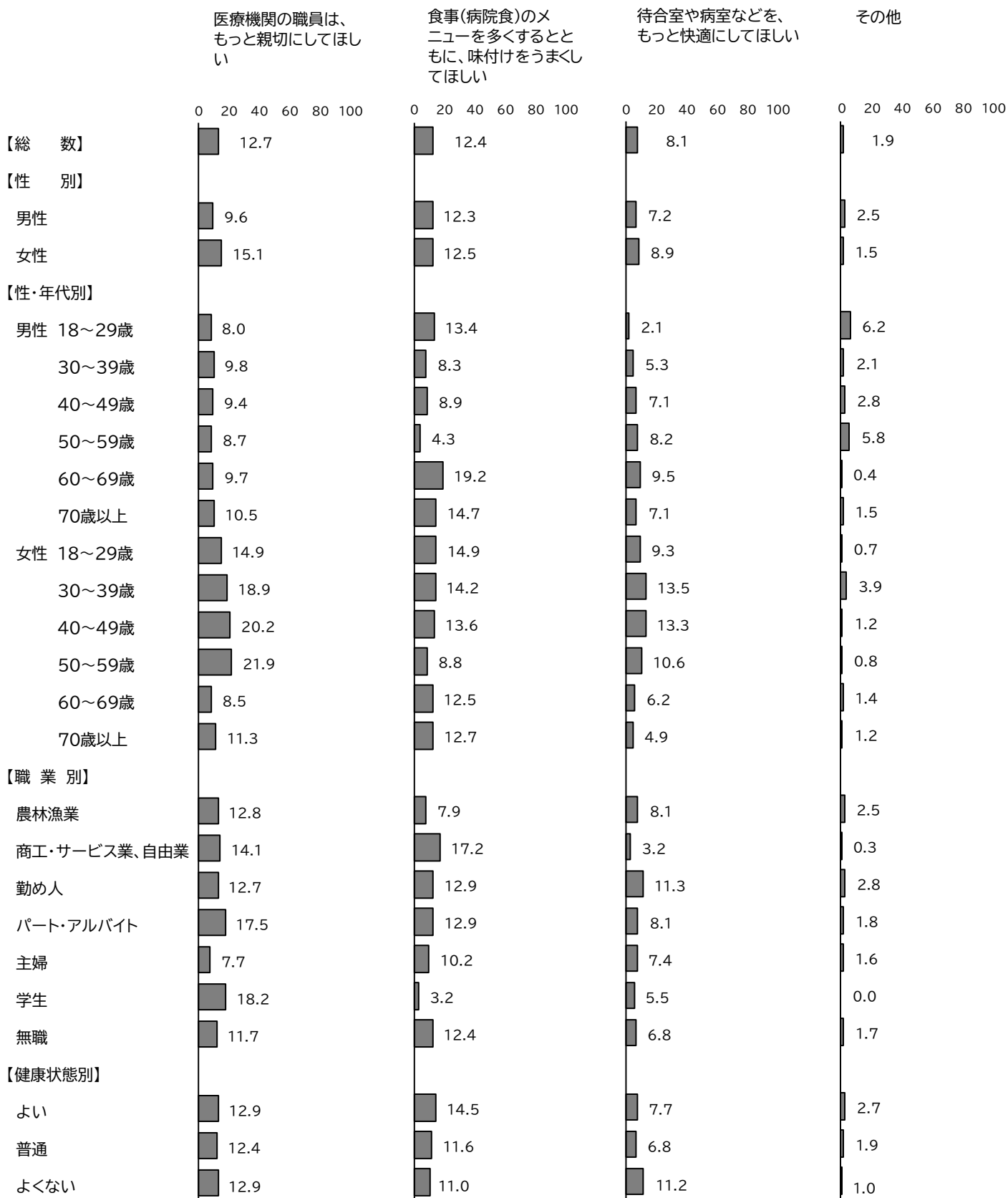




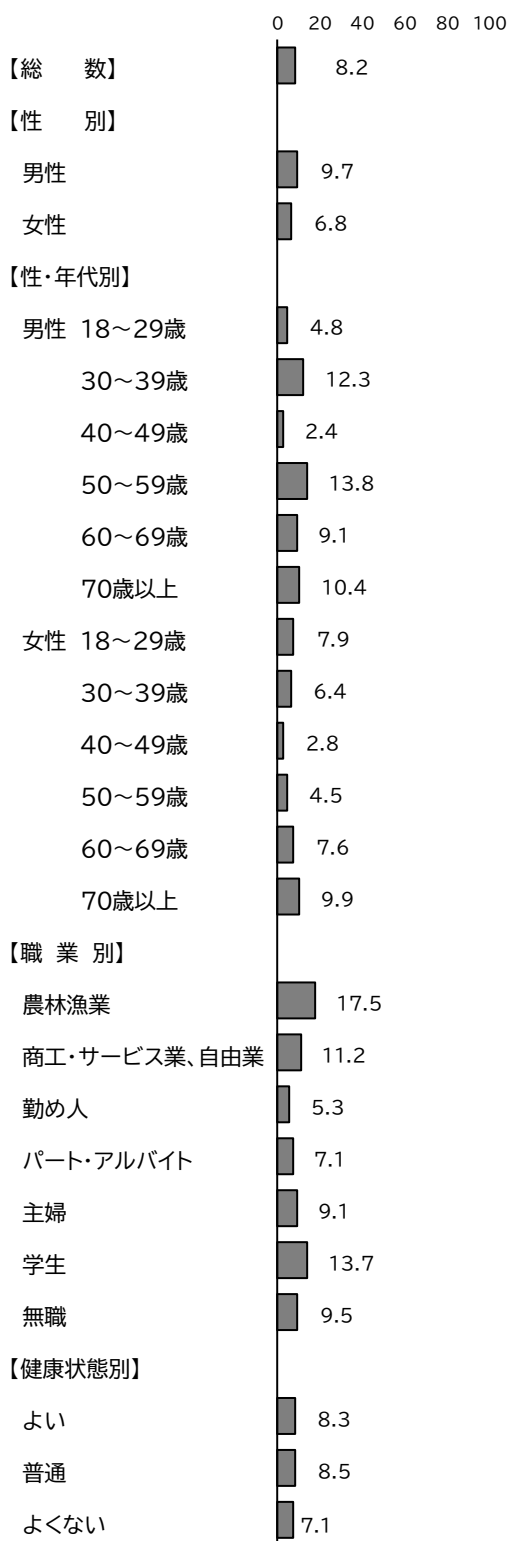
特になし







特になし



16 保健医療情報について

(1) 知りたい保健医療情報

～医療機関を選択するための情報は「得意とする専門分野」52.5%

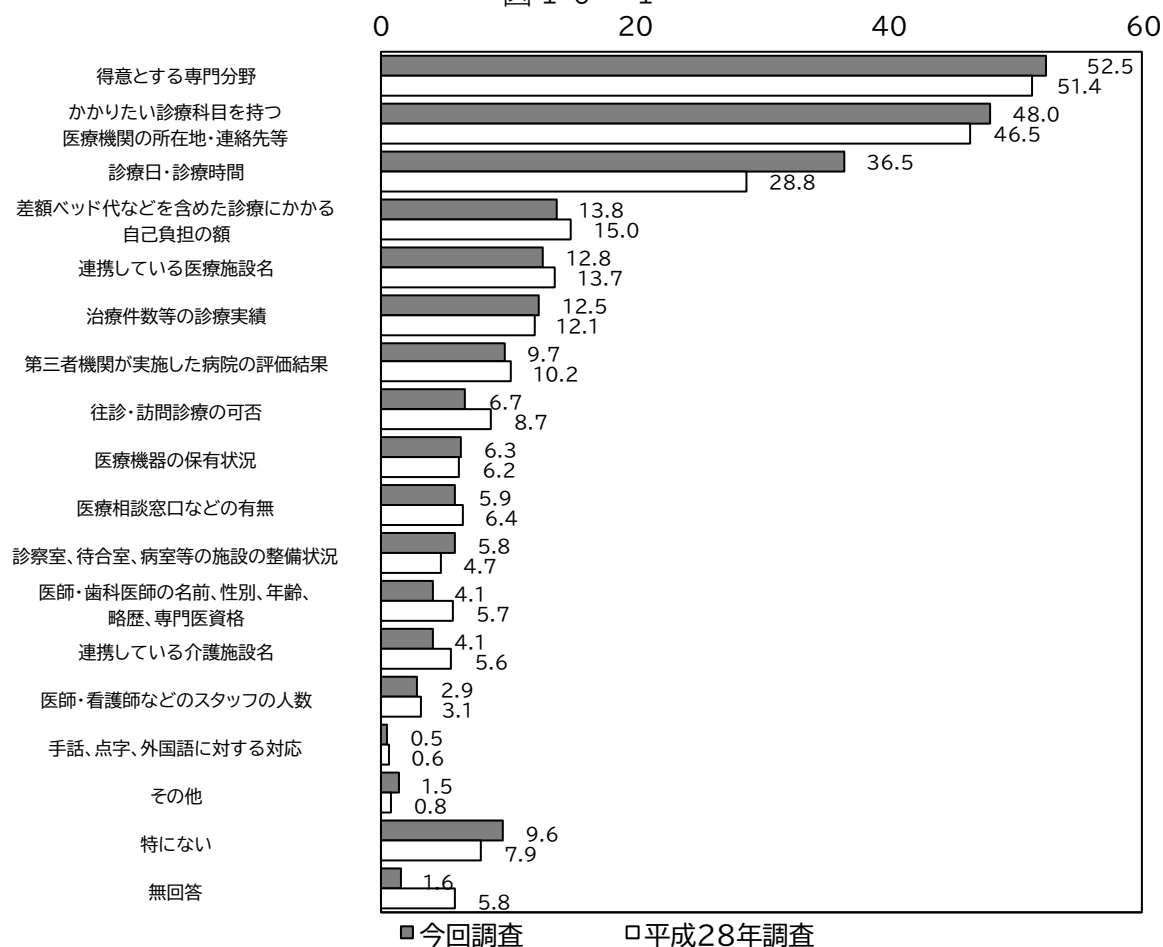
それ以外の情報は「病気の症状や予防・治療に関する情報」52.2%～

問29 知りたい保健や医療に関する情報は何か。(○はそれぞれ3つまで)

(1) 医療機関を選択するための情報

(n=全体)

図16-1



知りたい保健や医療に関する情報で、医療機関を選択するための情報は「得意とする専門分野」が52.5%と最も多く、次いで「かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等」が48.0%、「診療日・診療時間」が36.5%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「診療日・診療時間」が多くなっている。

◆地域別

「得意とする専門分野」は高崎・安中保健医療圏が58.1%と最も多くなっている。また、「かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等」は吾妻保健医療圏が60.3%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられない。

◆性別

「診療日・診療時間」は男性(31.5%)に比べ、女性(41.0%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「診療日・診療時間」は30代をピークに若い年代ほど多くなる傾向がみられる。

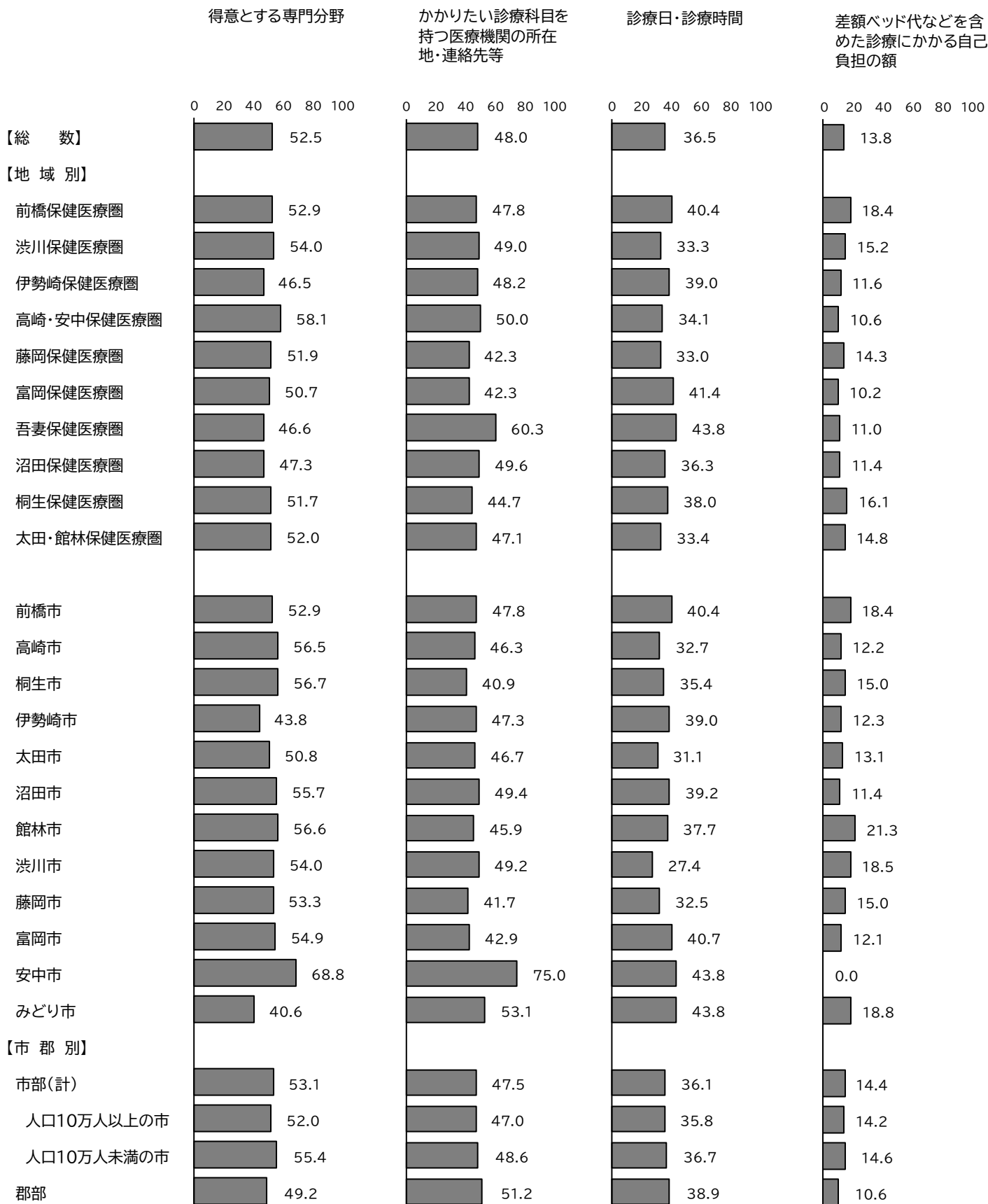
◆職業別

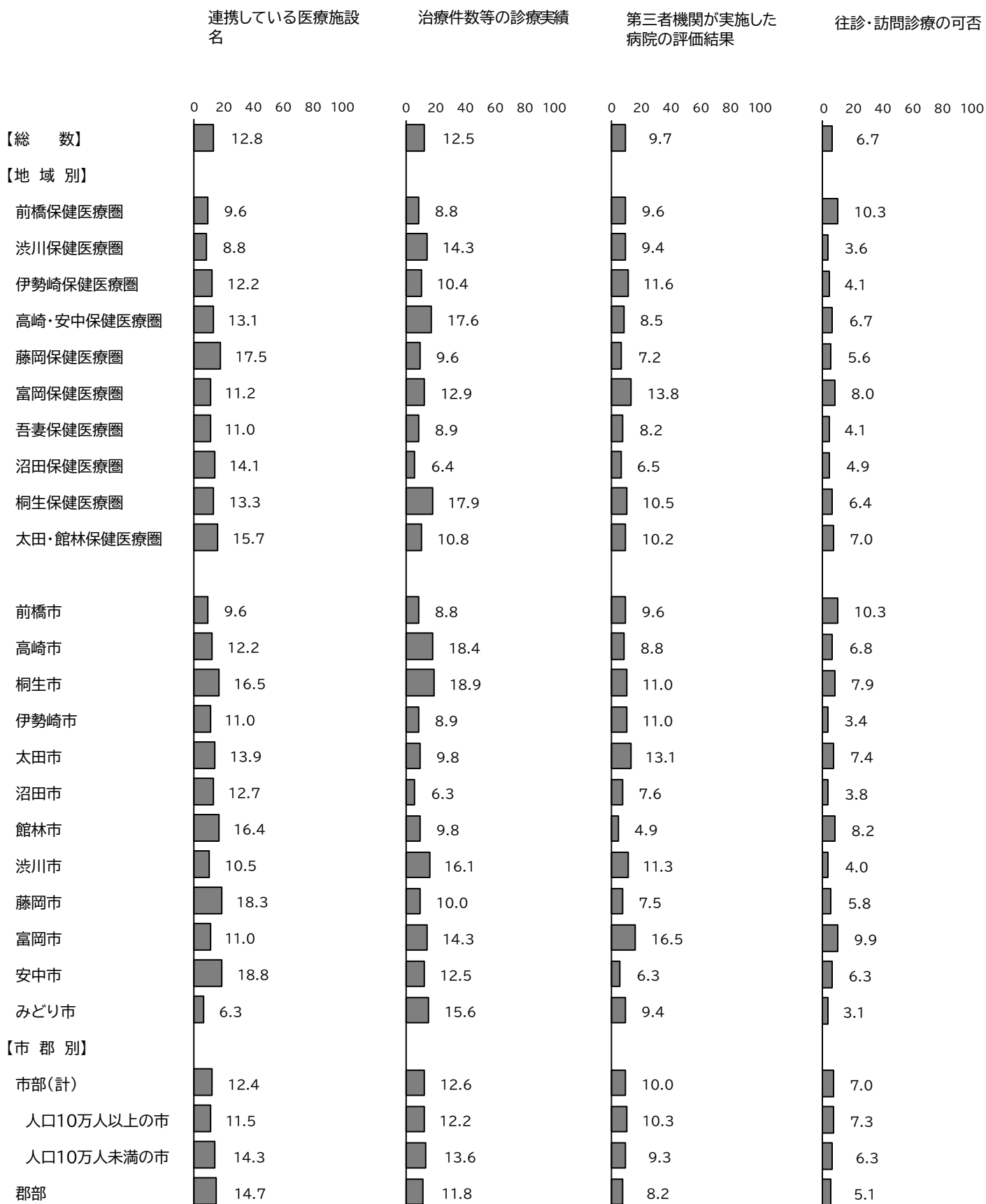
学生は「診療日・診療時間」が58.2%と他の職業に比べ多くなっている。

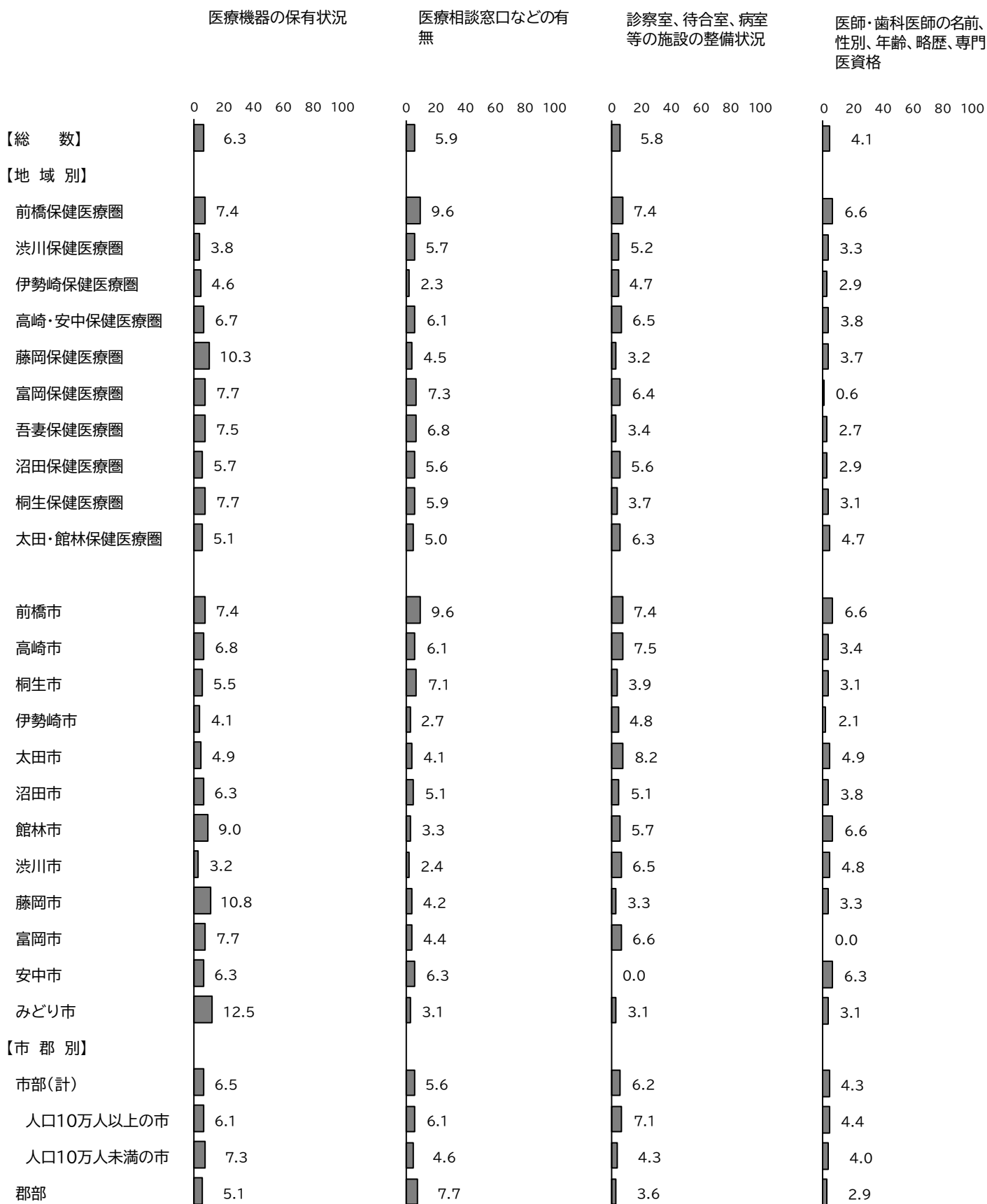
◆健康状態別

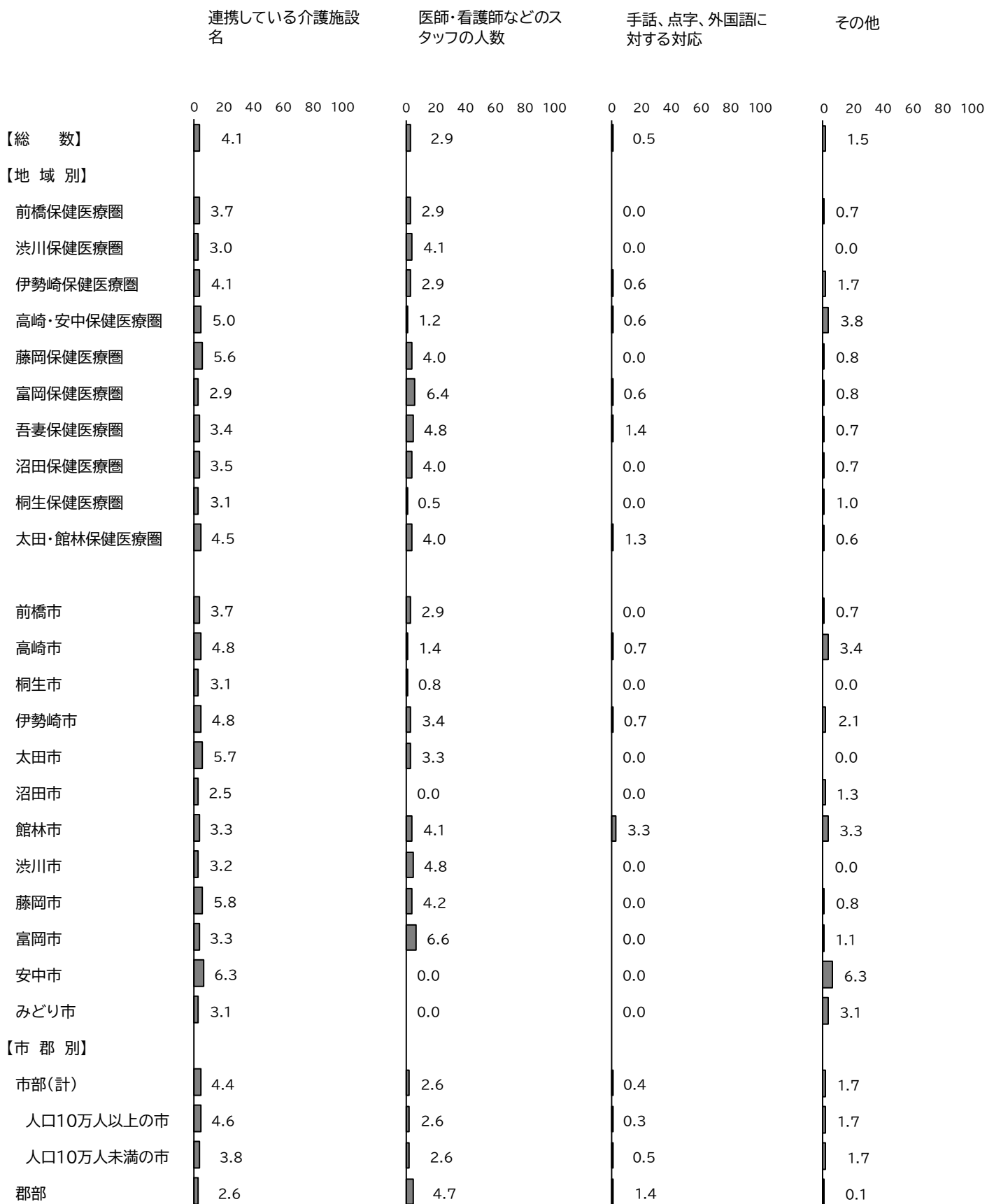
「診療日・診療時間」は健康状態がよくない(28.0%)に比べ、健康状態がよい(41.2%)の方が多くなっている。

図16-2 知りたい保健医療情報（医療機関を選択するための情報）



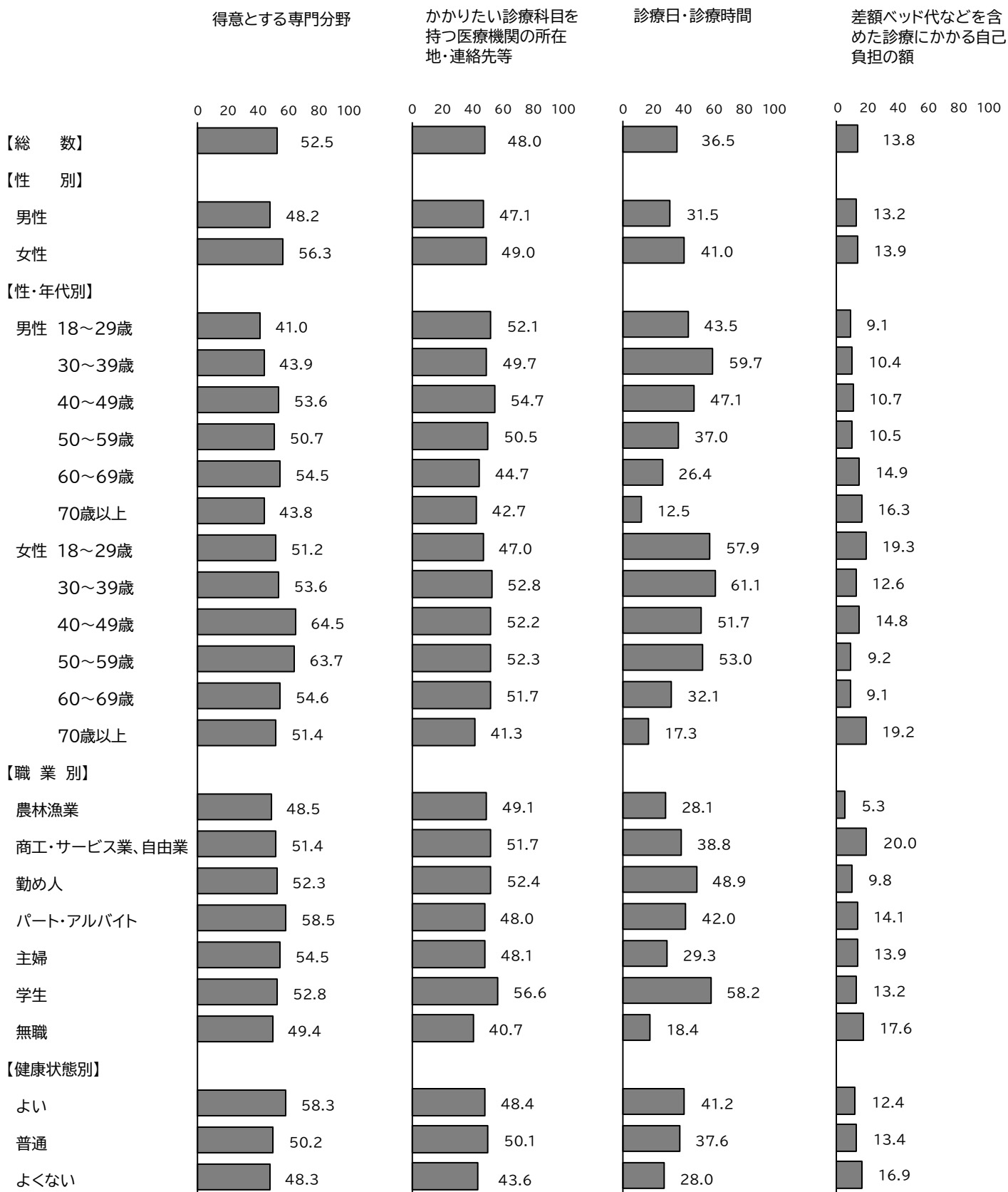


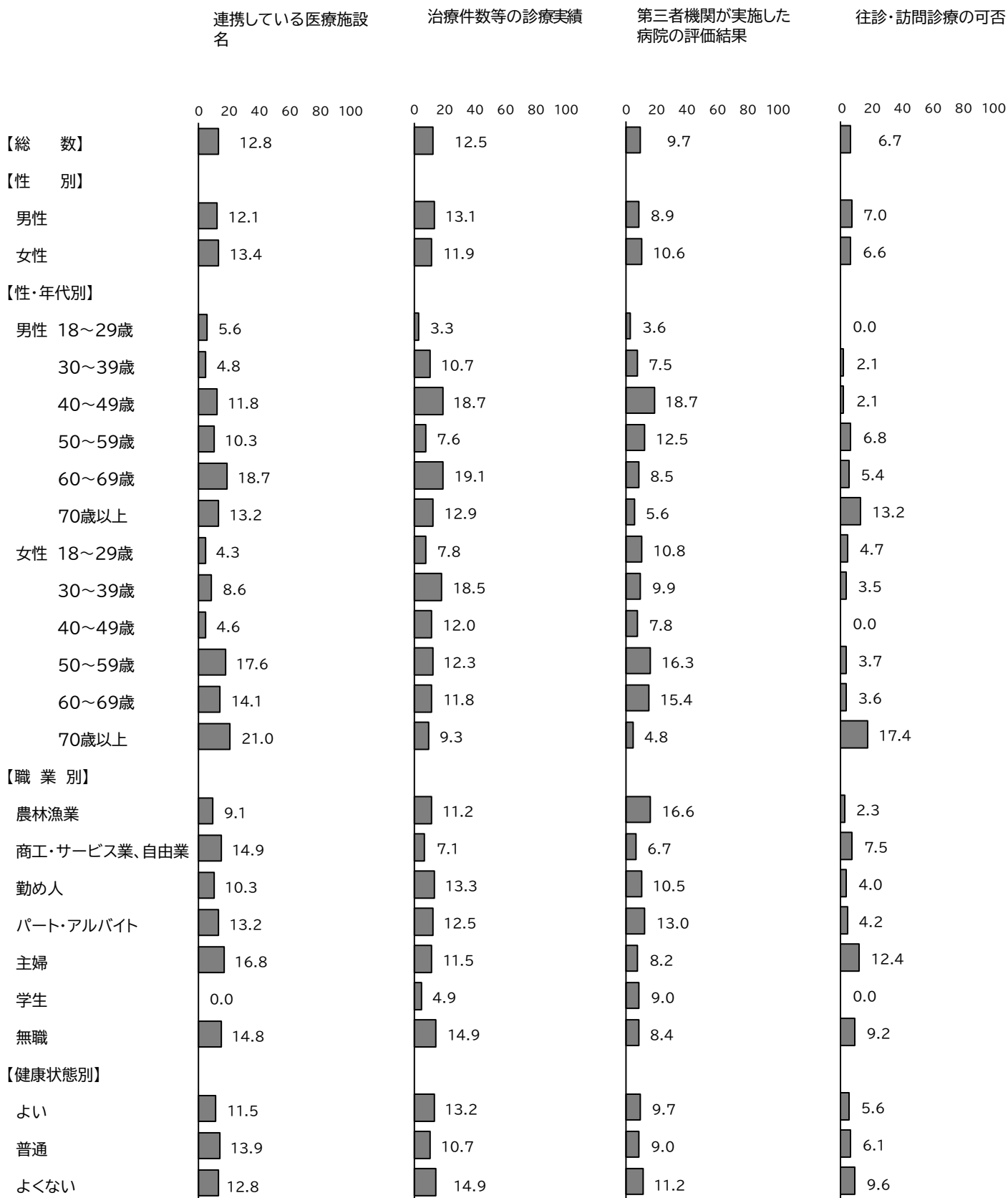


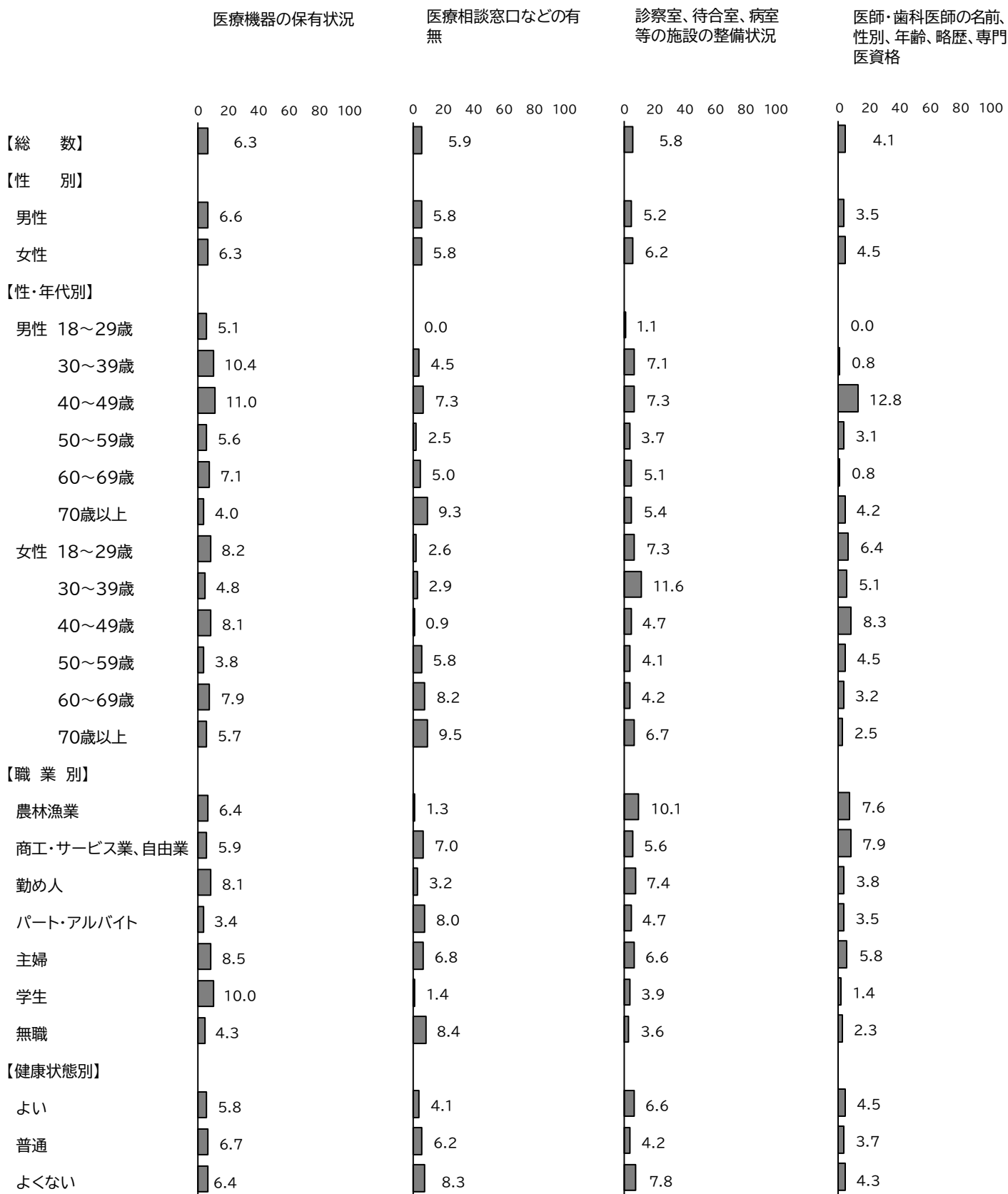


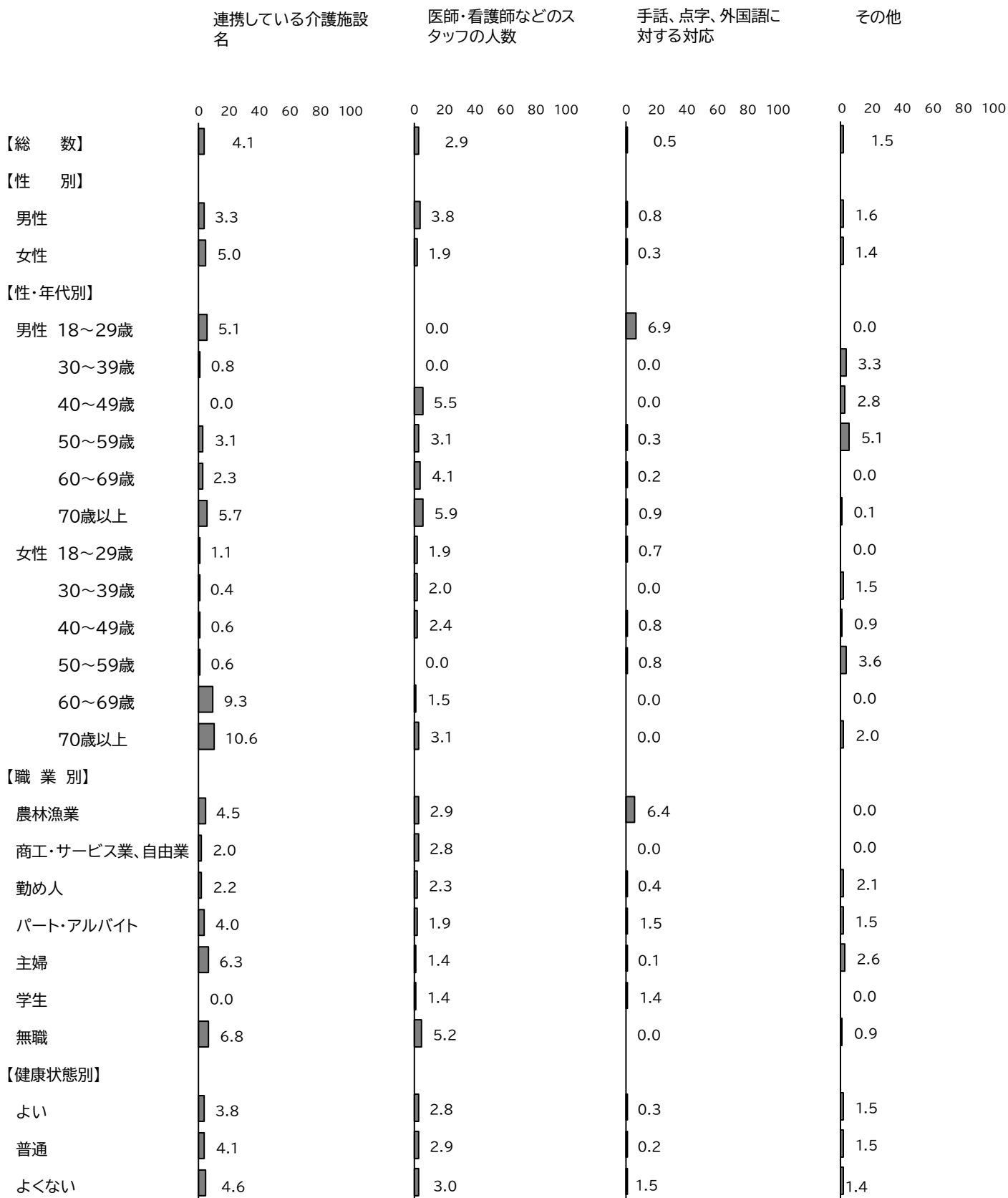
特になし



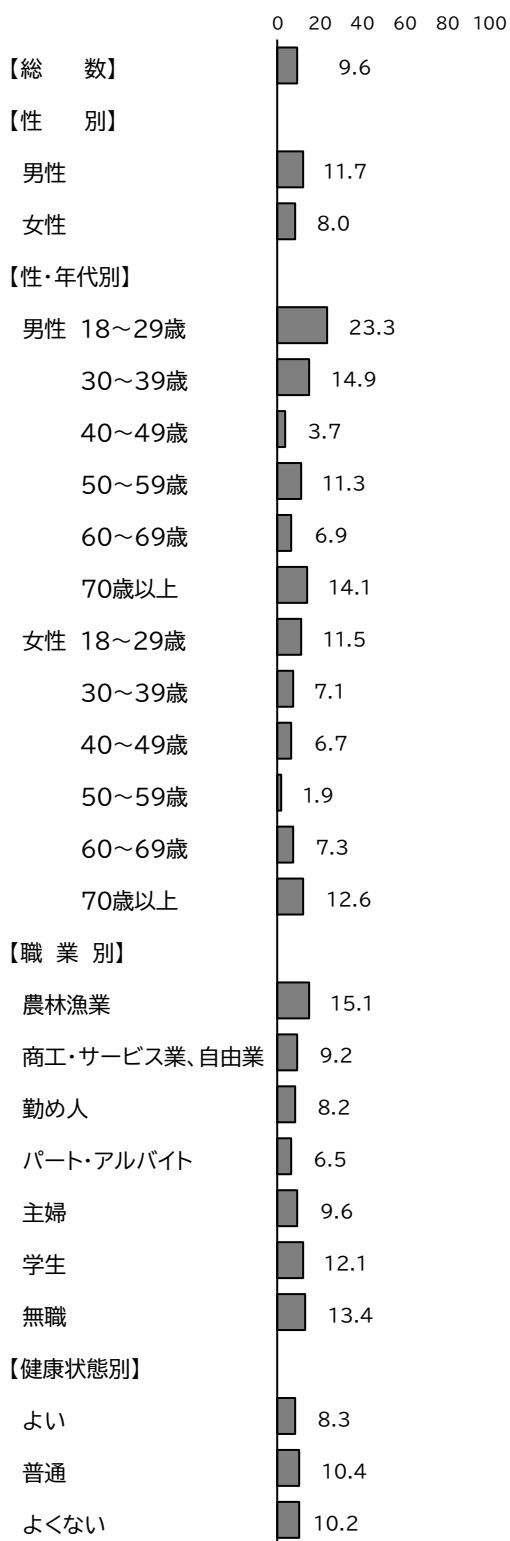








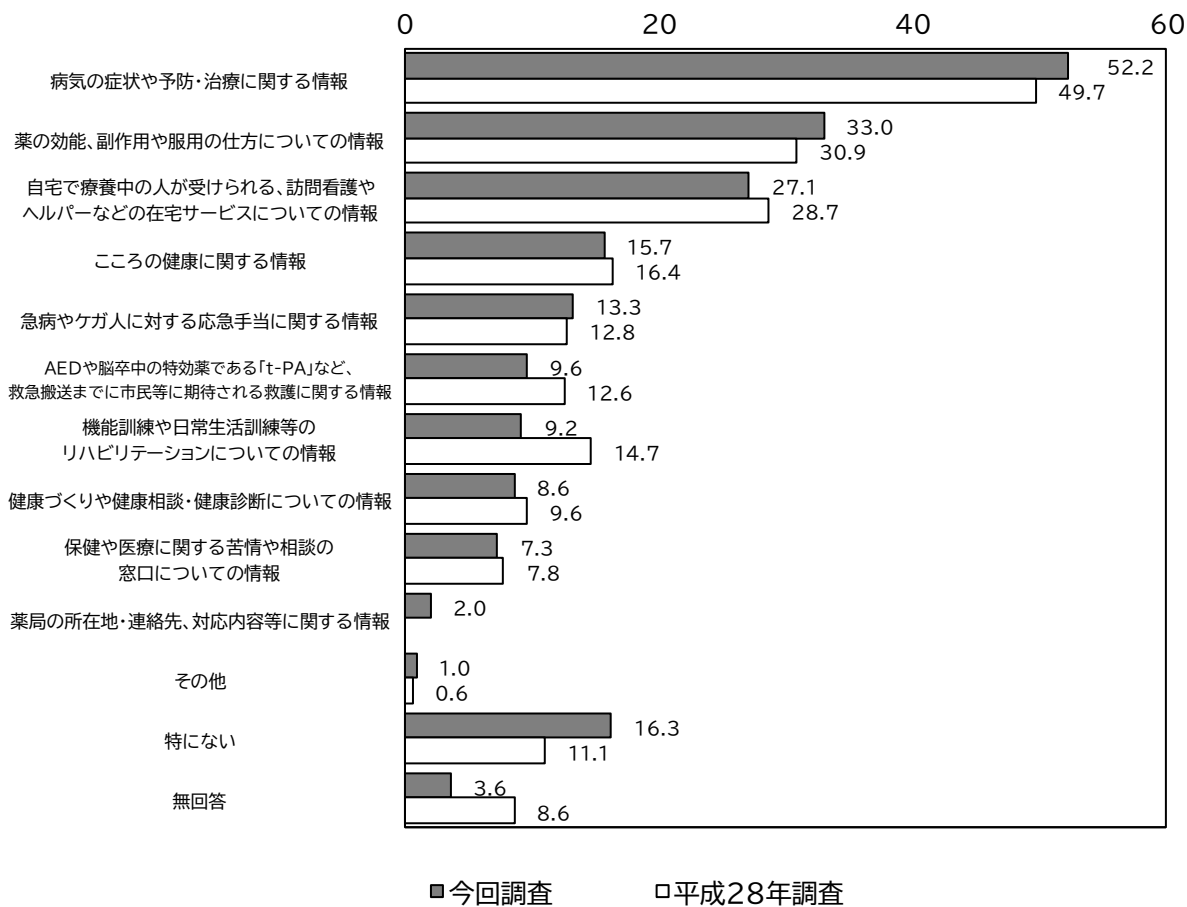
特になし



(2) 医療機関選択以外の保健医療情報

(n=全体)

図 16-3



*平成28年調査では「薬局の所在地・連絡先、対応内容等に関する情報」は聴取なし

知りたい保健や医療に関する情報で、医療機関を選択するため以外の情報は、「病気の症状や予防・治療に関する情報」が52.2%と最も多く、次いで「薬の効能、副作用や服用の仕方についての情報」が33.0%、「自宅で療養中の人を受けられる、訪問看護やヘルパーなどの在宅サービスについての情報」が27.1%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「機能訓練や日常生活訓練等のリハビリテーションについての情報」は少なくなっている。

◆地域別

桐生保健医療圏では「薬の効能、副作用や服用の仕方についての情報」が42.9%と他の地域に比べ最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられないが、「自宅で療養中の人を受けられる、訪問看護やヘルパーなどの在宅サービスについての情報」は市部(26.3%)に比べ郡部(31.6%)の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「自宅で療養中の人を受けられる、訪問看護やヘルパーなどの在宅サービスについての情報」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられる。

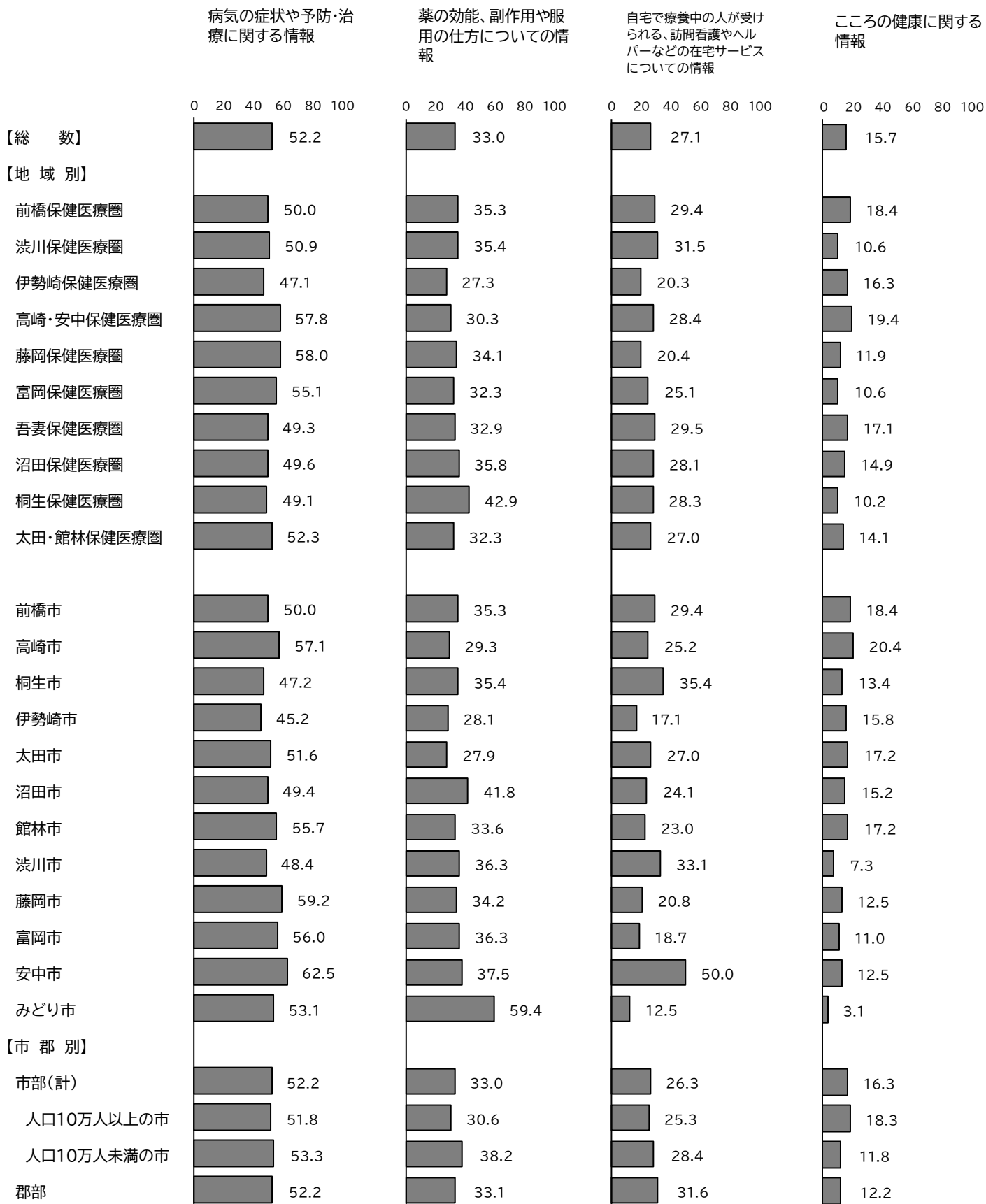
◆職業別

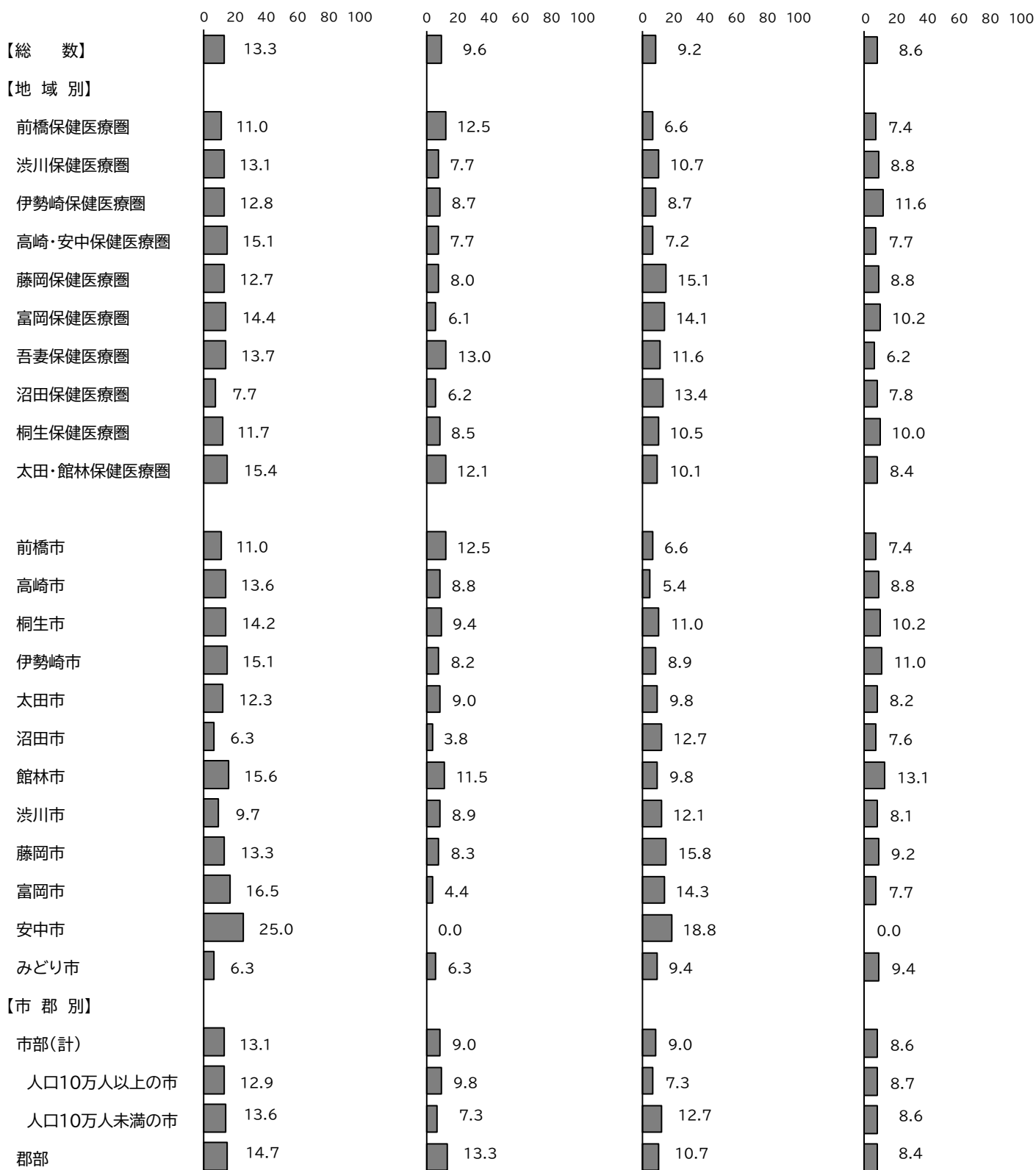
「病気の症状や予防・治療に関する情報」は学生が60.0%で他の職業に比べ多くなっている。

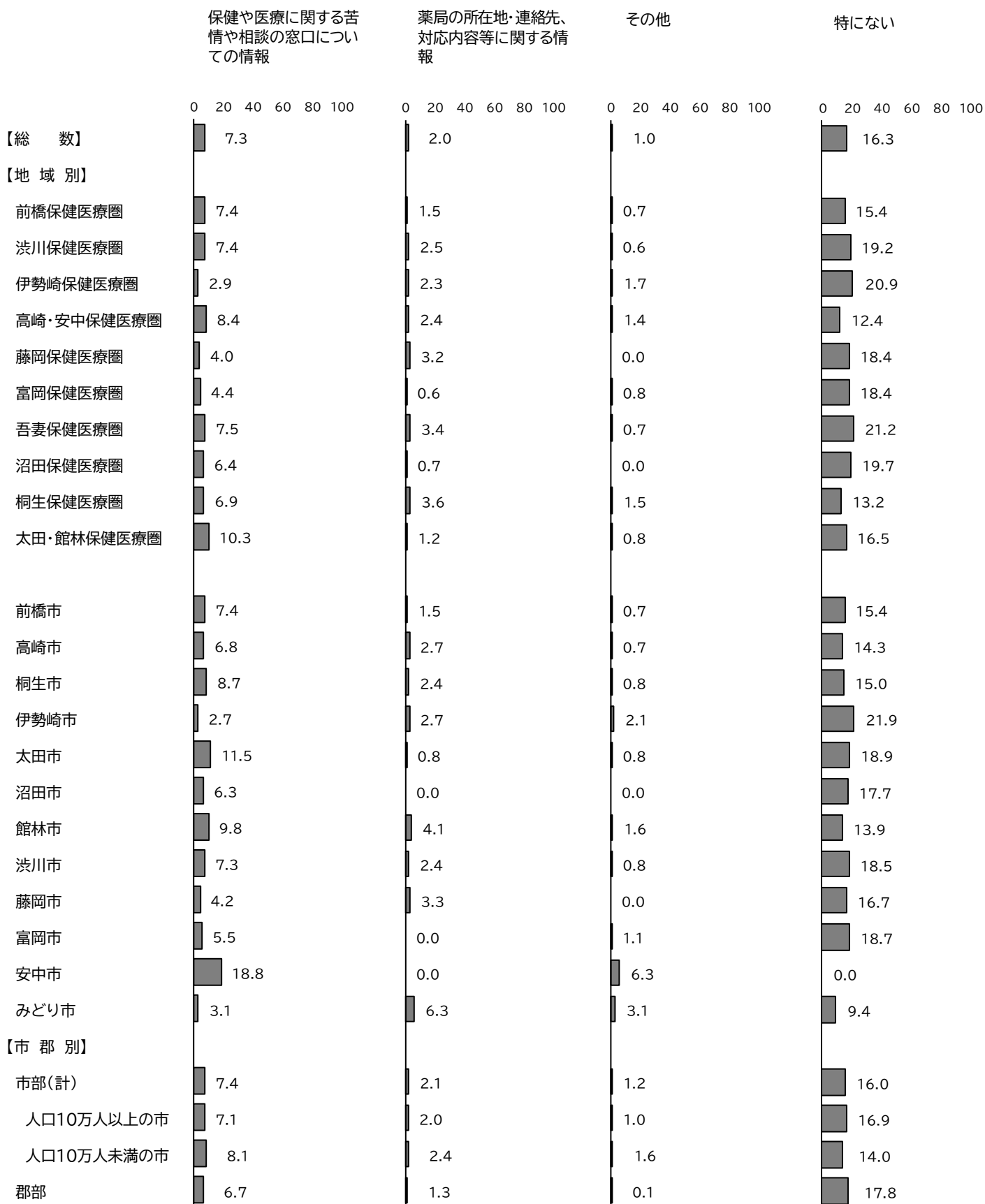
◆健康状態別

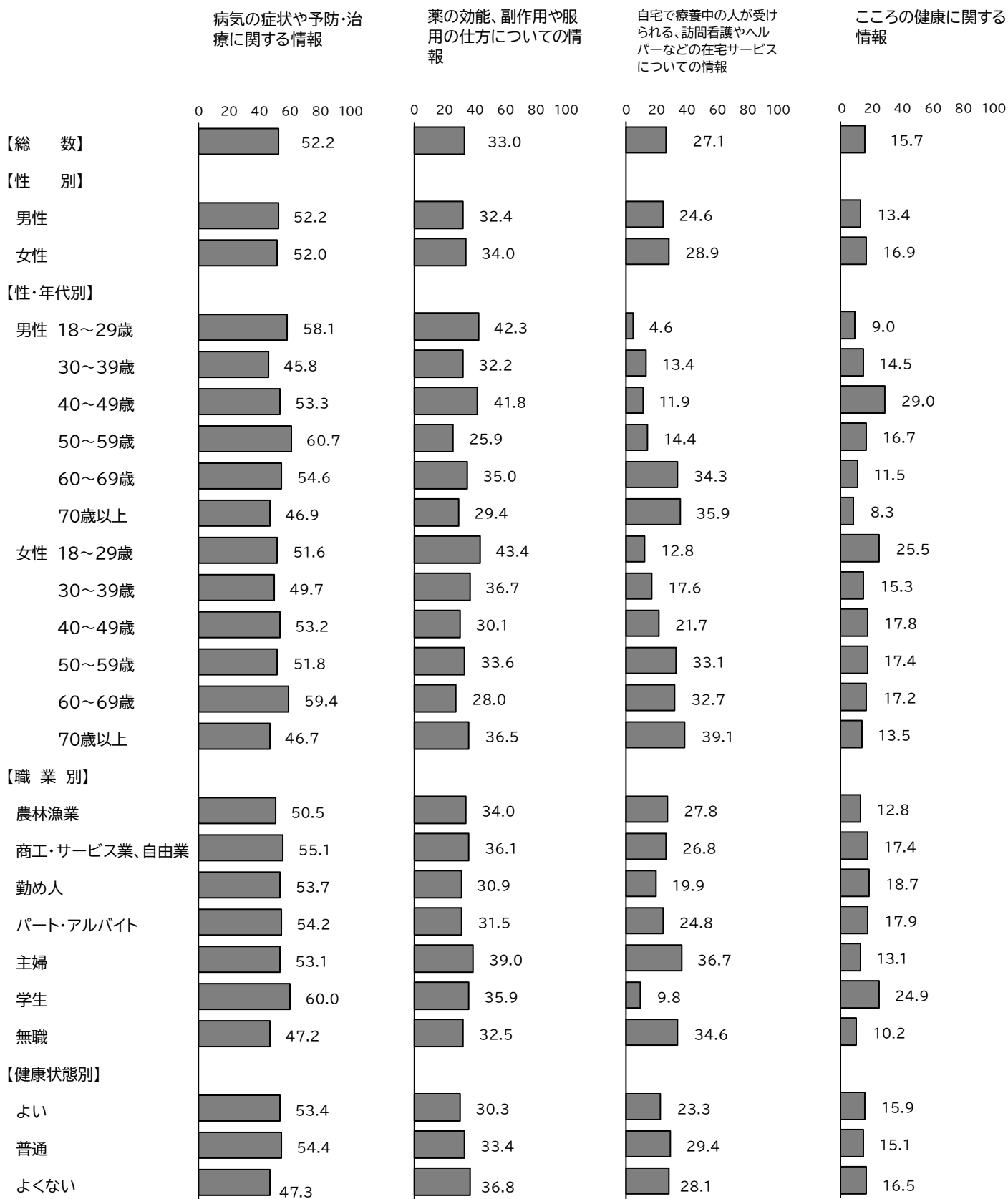
「薬の効能、副作用や服用の仕方についての情報」は健康状態がよい(30.3%)に比べ、健康状態がよくない(36.8%)の方が多くなっている。

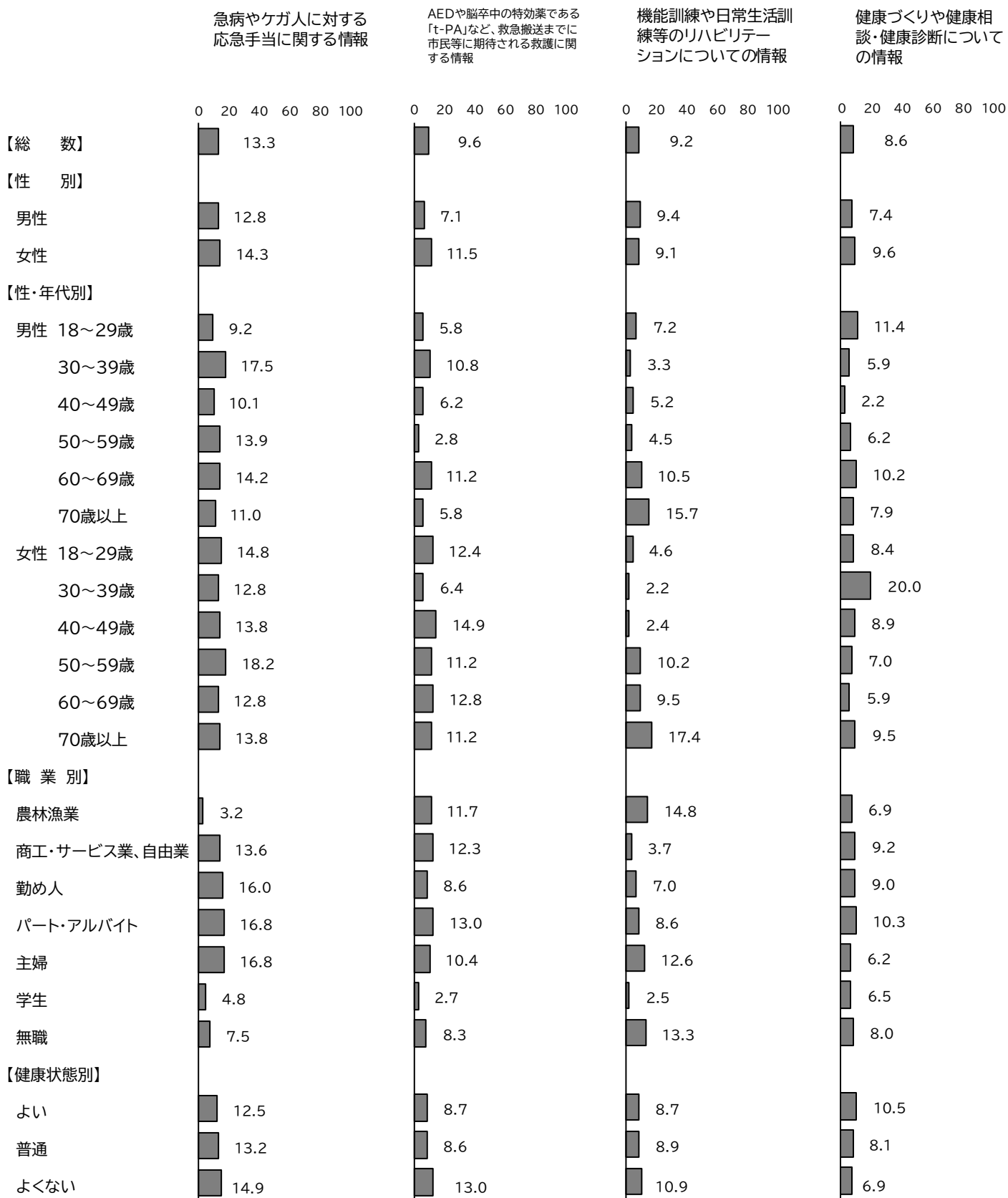
図16-4 知りたい保健医療情報（医療機関選択以外の保健医療情報）

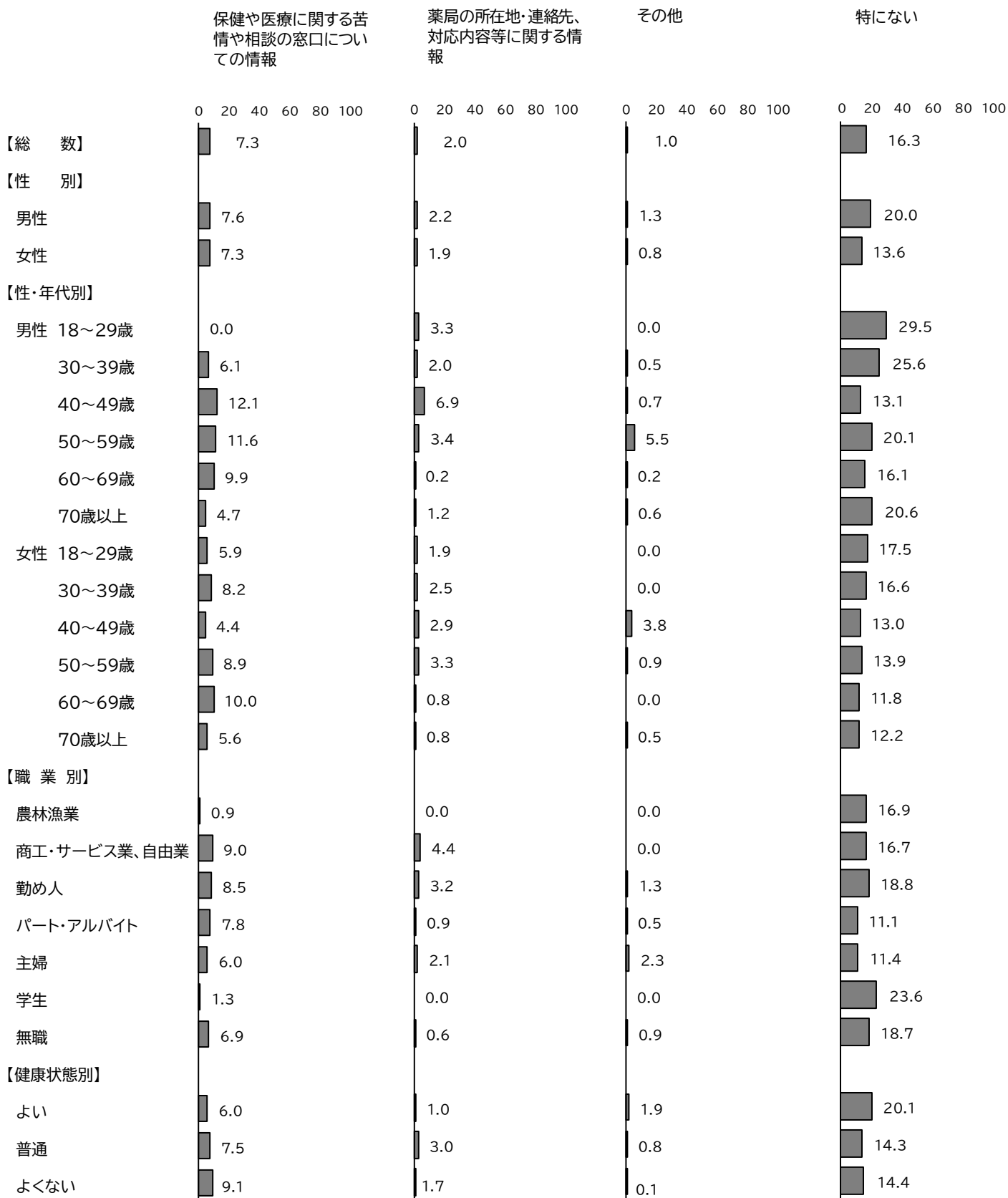


急病やケガ人に対する
応急手当に関する情報AEDや脳卒中の特効薬である
「t-PA」など、救急搬送までに
市民等に期待される救護に関
する情報機能訓練や日常生活訓
練等のリハビリテー
ションについての情報健康づくりや健康相
談・健康診断につい
ての情報









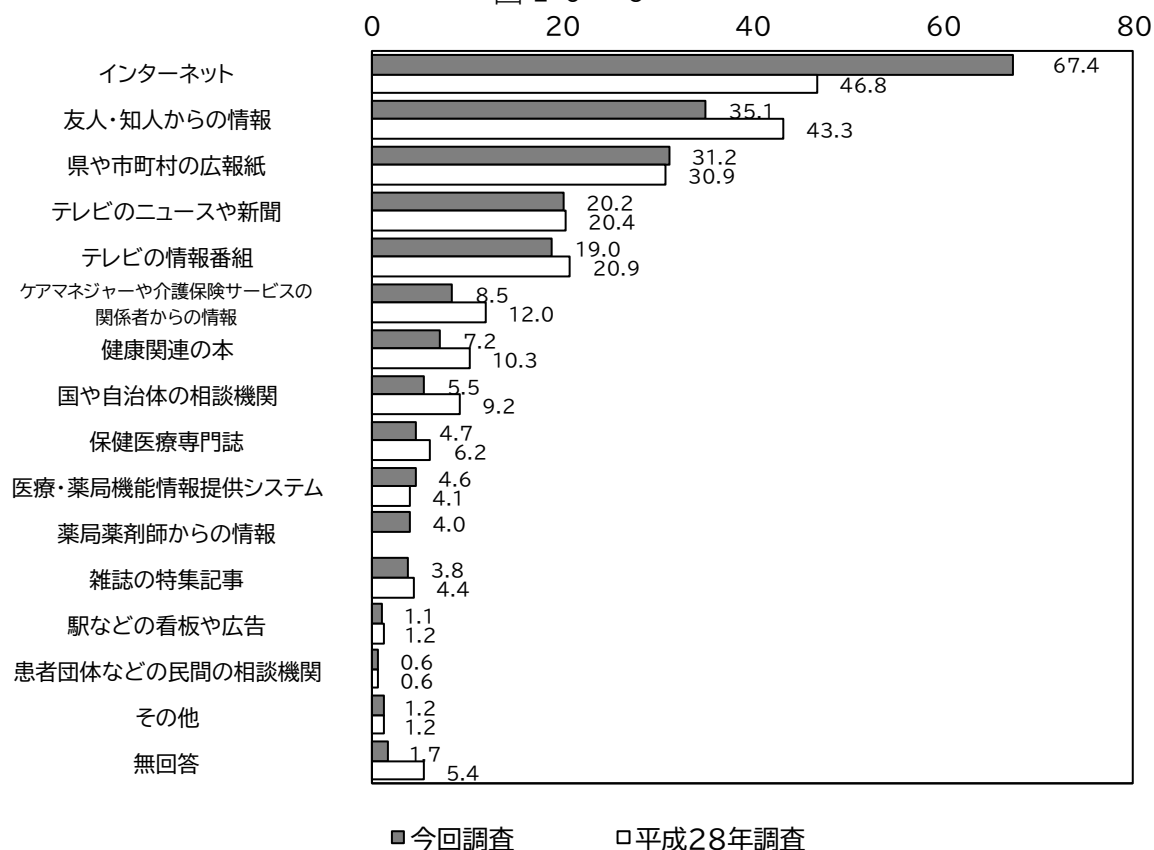
(2) 保健医療情報の入手方法

～「インターネット」67.4%、「友人・知人からの情報」35.1%～

問30 医院（診療所）や病院で情報入手する以外に、保健や医療に関する情報をどのような方法で入手しようと思いますか。（○は3つまで）

(n=全体)

図16-5



*平成28年調査では「薬局薬剤師からの情報」は聴取なし

情報の入手方法は「インターネット」が67.4%と最も多く、次いで「友人・知人からの情報」が35.1%、「県や市町村の広報紙」が31.2%となっている。

平成28年調査結果との比較では、「インターネット」が多くなっていて、「友人・知人からの情報」が少なくなっている。

◆地域別

「インターネット」は桐生保健医療圏(73.2%)、吾妻保健医療圏(71.2%)で70.0%を超えている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「県や市町村の広報紙」は女性(28.8%)に比べ、男性(34.7%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「インターネット」は男性と女性とも若い年代の方が多くなる傾向がみられる。「県や市町村の広報紙」は70歳以上男性は55.0%と最も多くなっている。

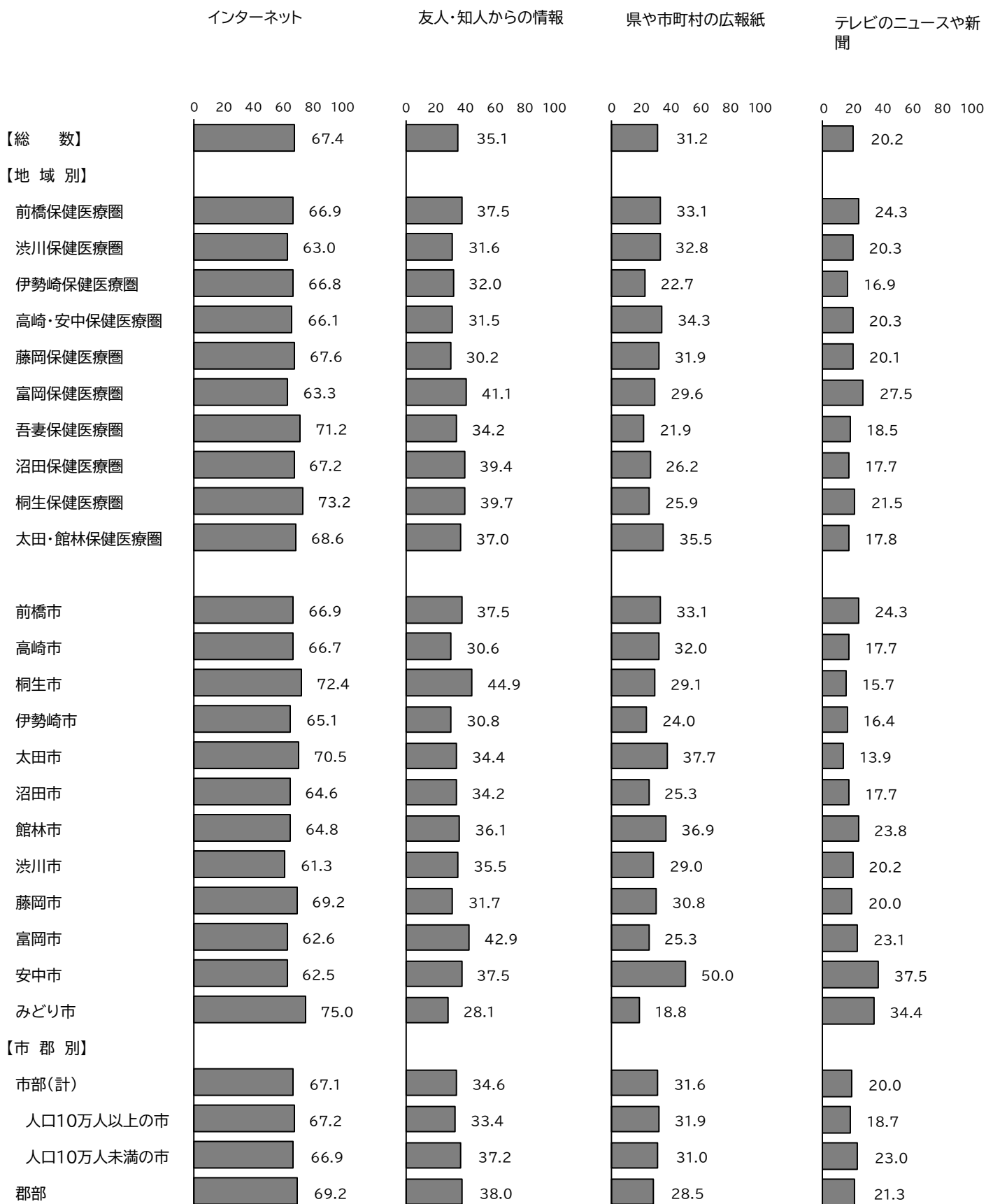
◆職業別

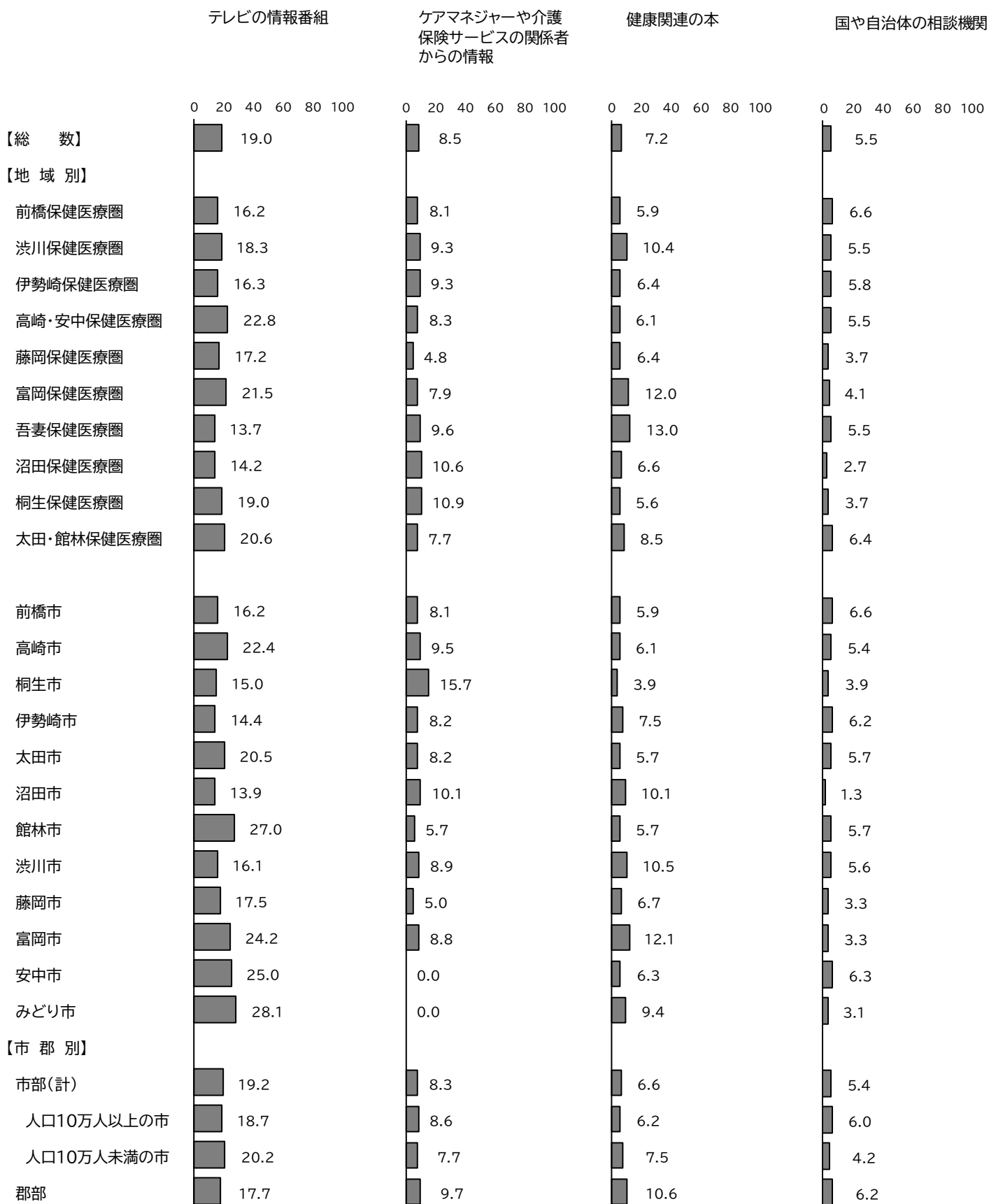
「インターネット」は学生(91.6%)と勤め人(88.0%)が多くなっている。「友人・知人からの情報」は商工・サービス業、自由業が48.3%と他の職業に比べて多くなっている。

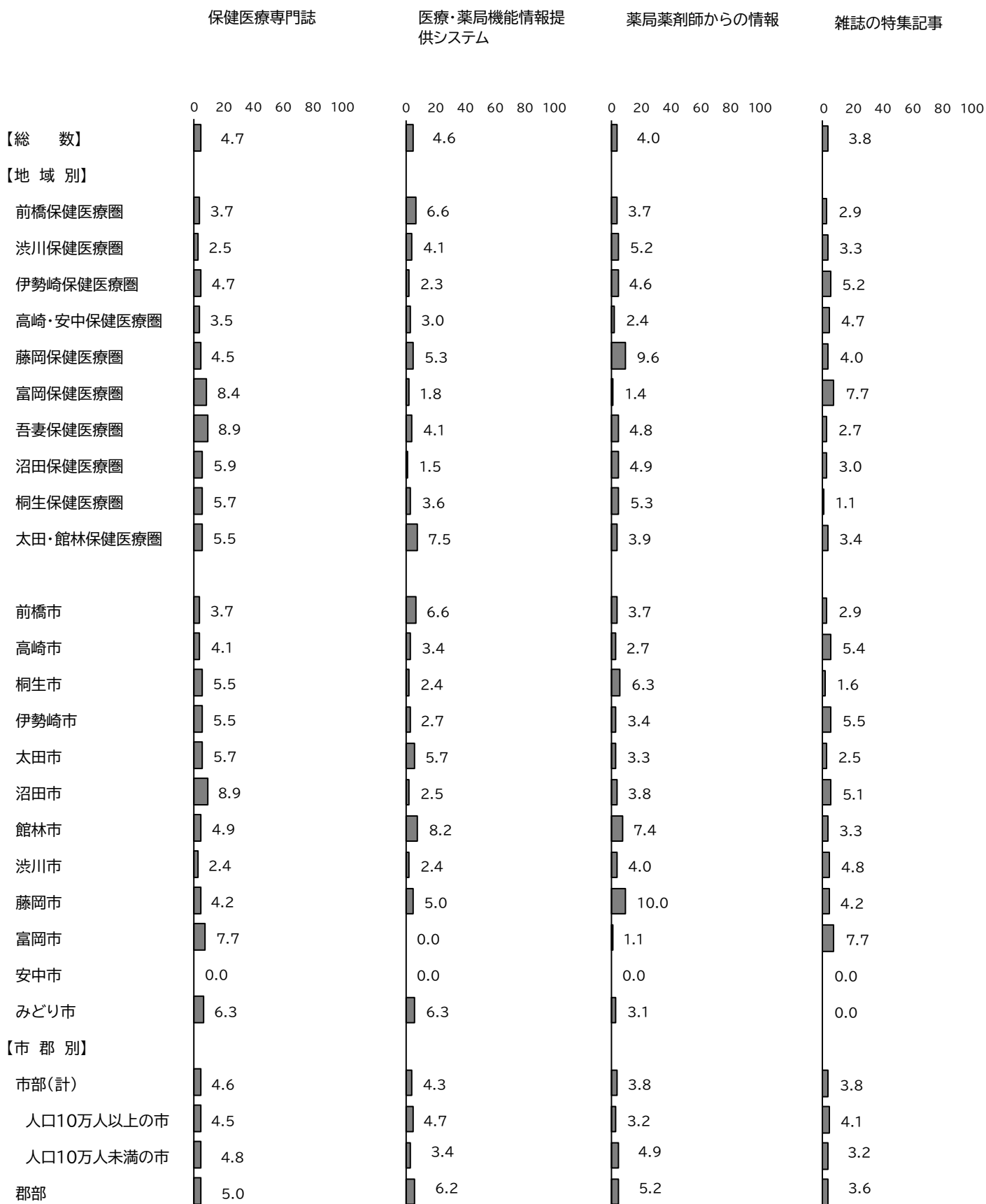
◆健康状態別

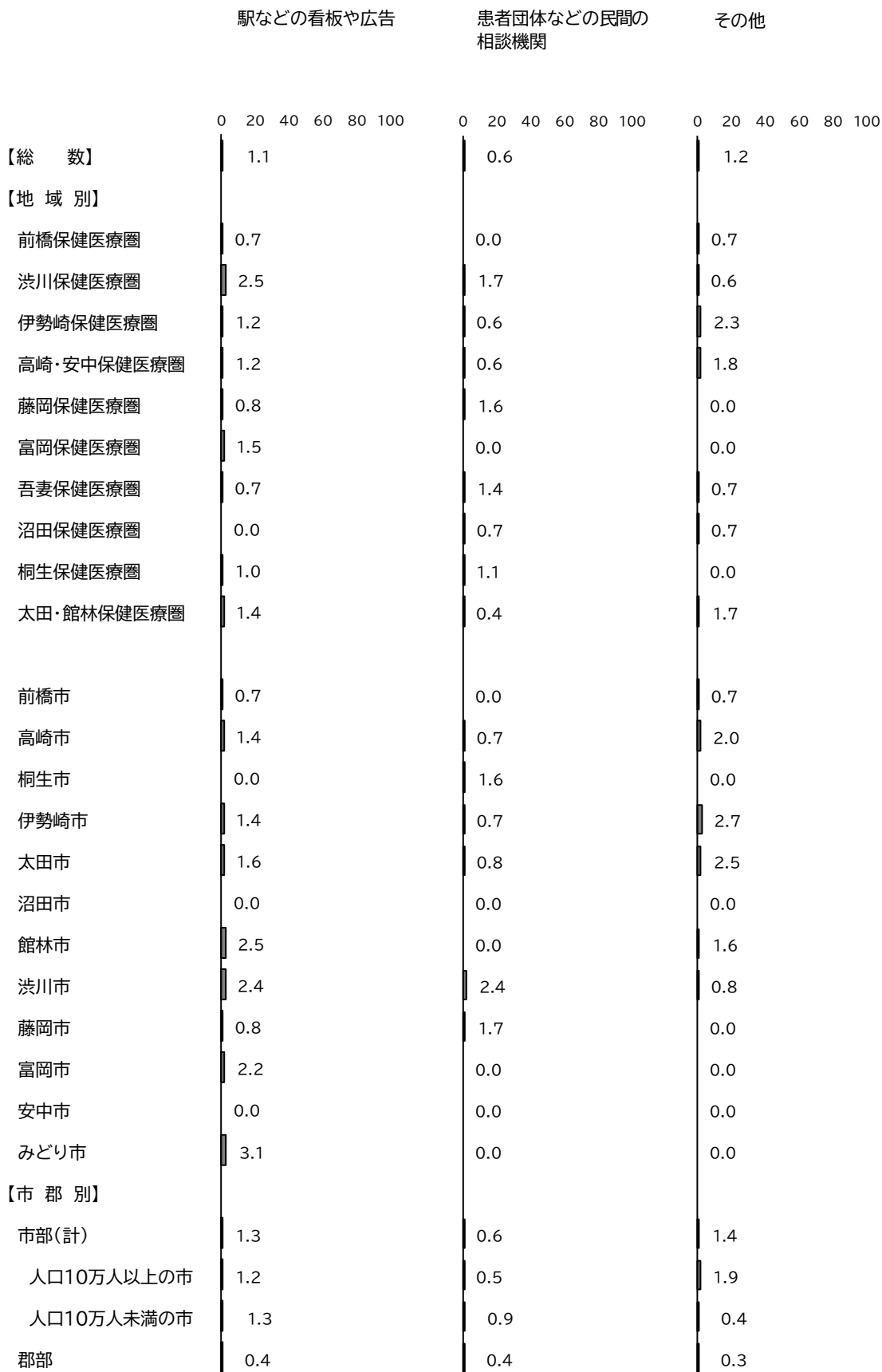
「インターネット」は健康状態がよくない(63.1%)に比べ、健康状態がよい(72.2%)の方が多くなっている。

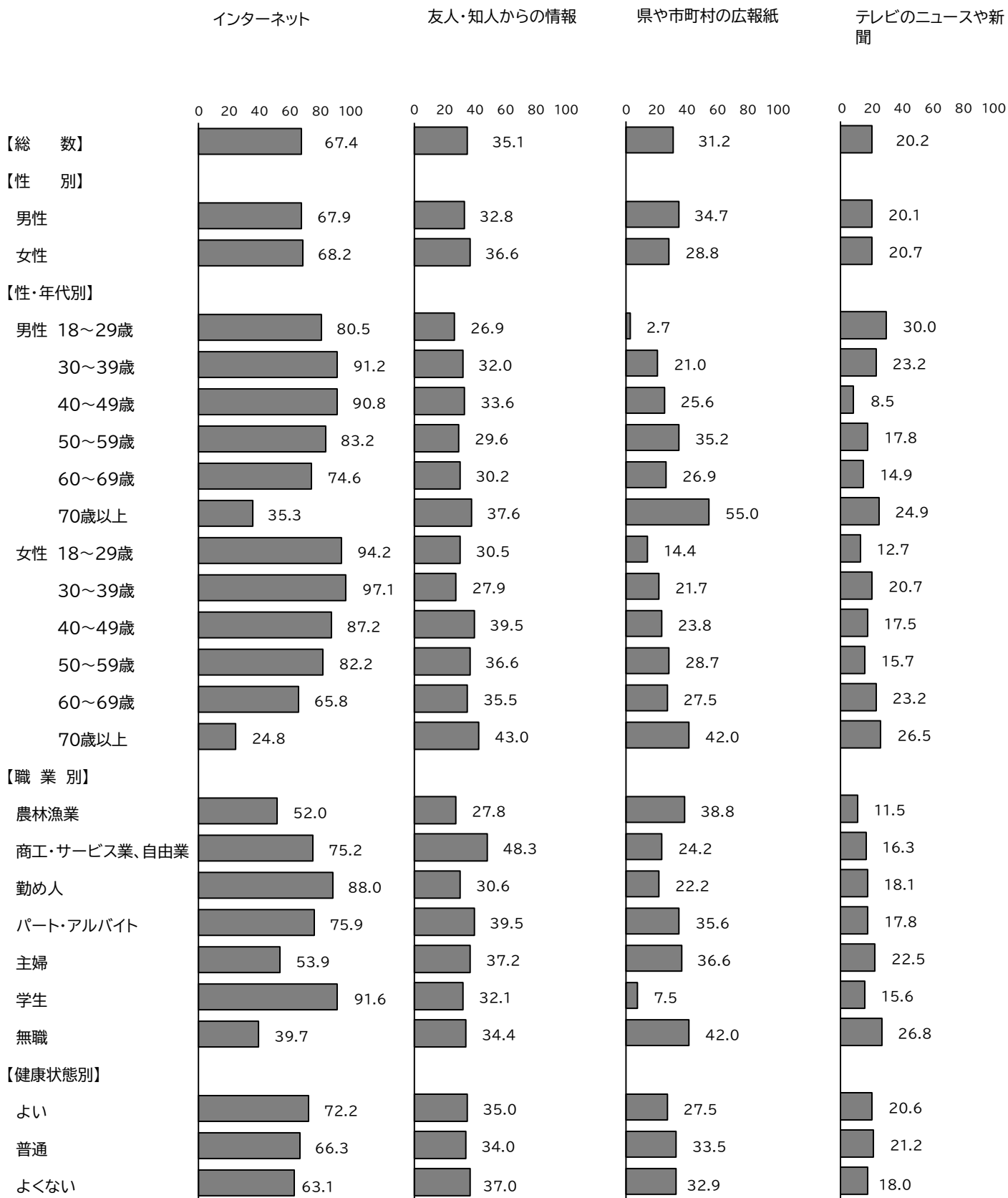
図16-6 保健医療情報の入手方法

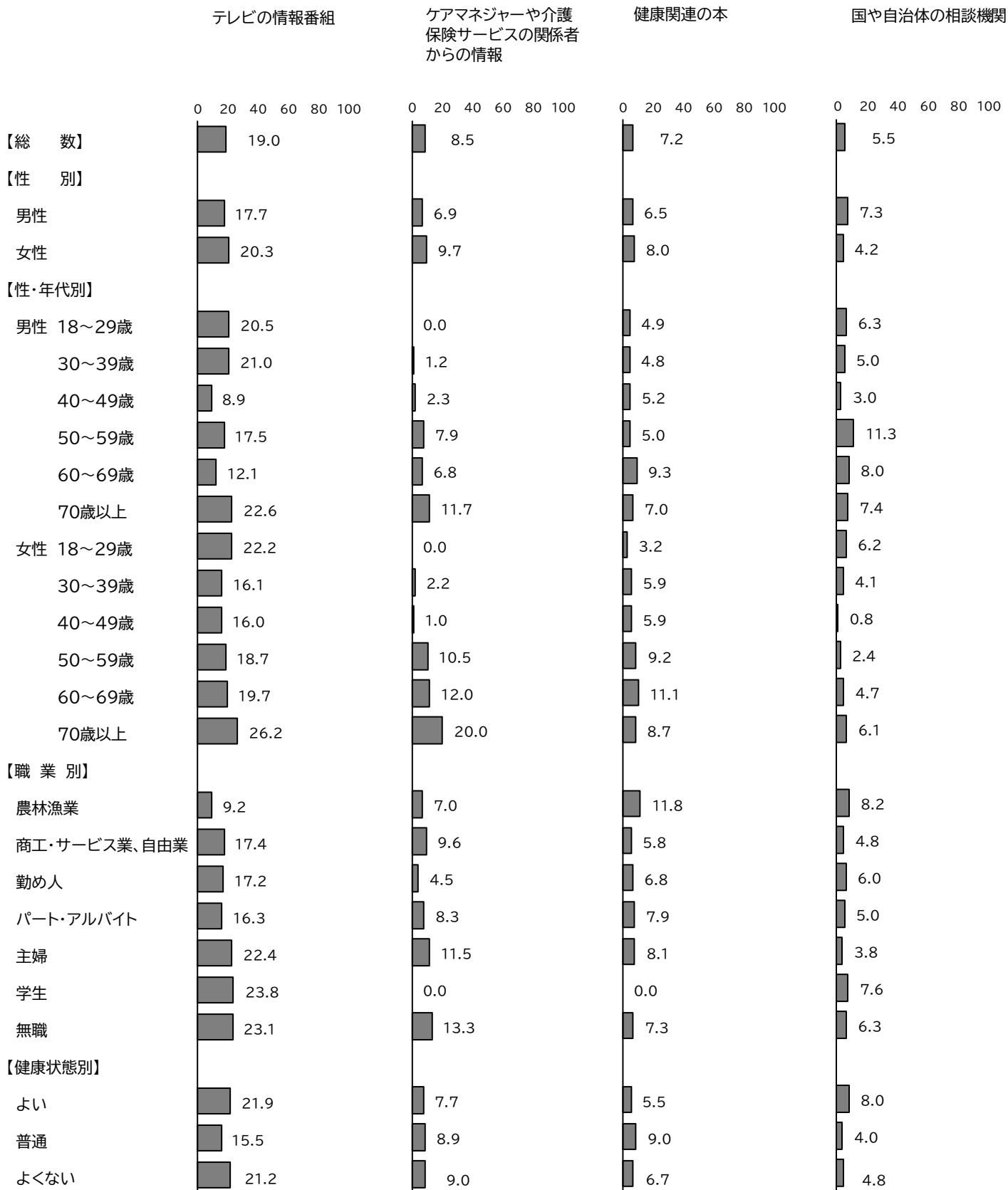


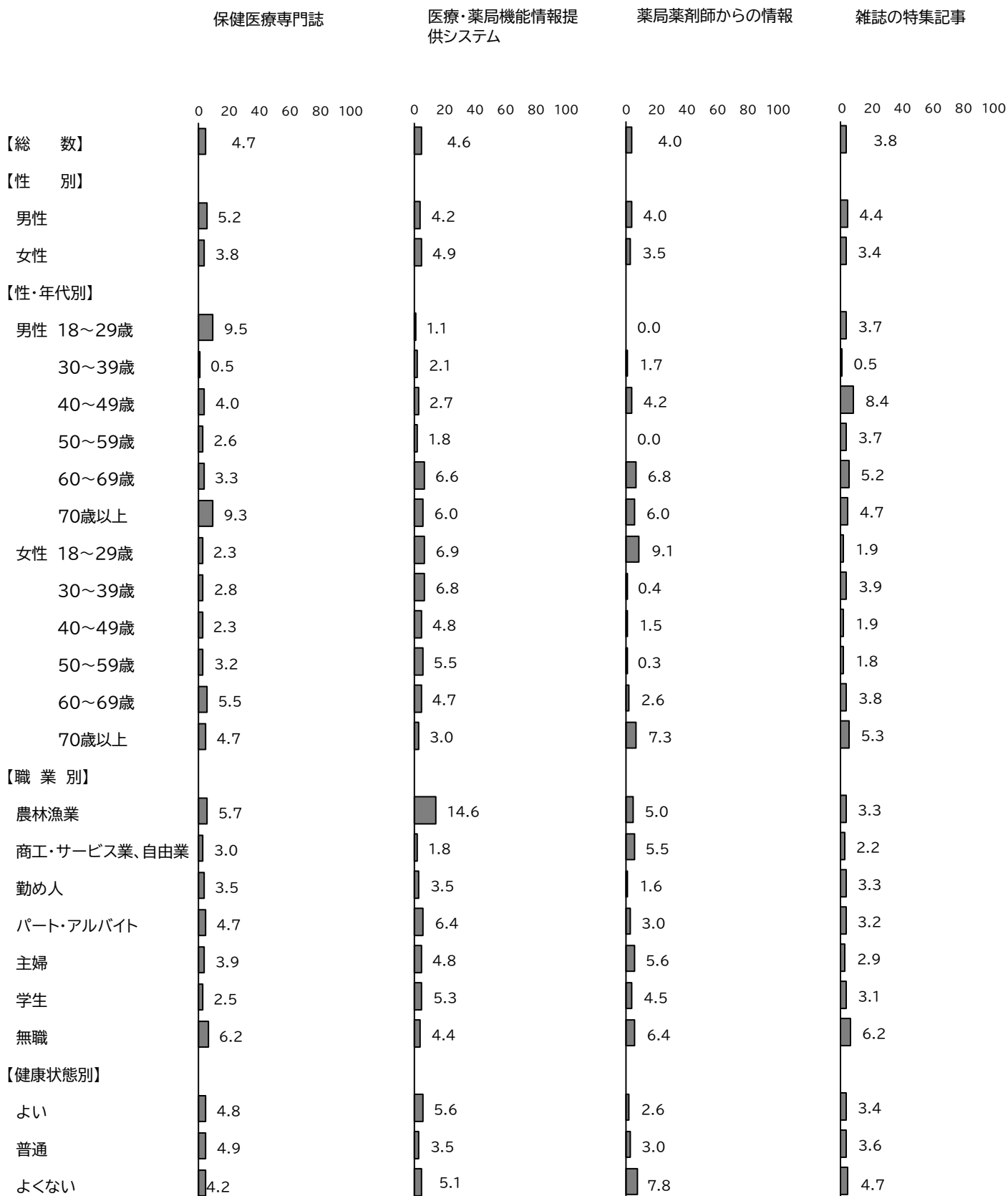


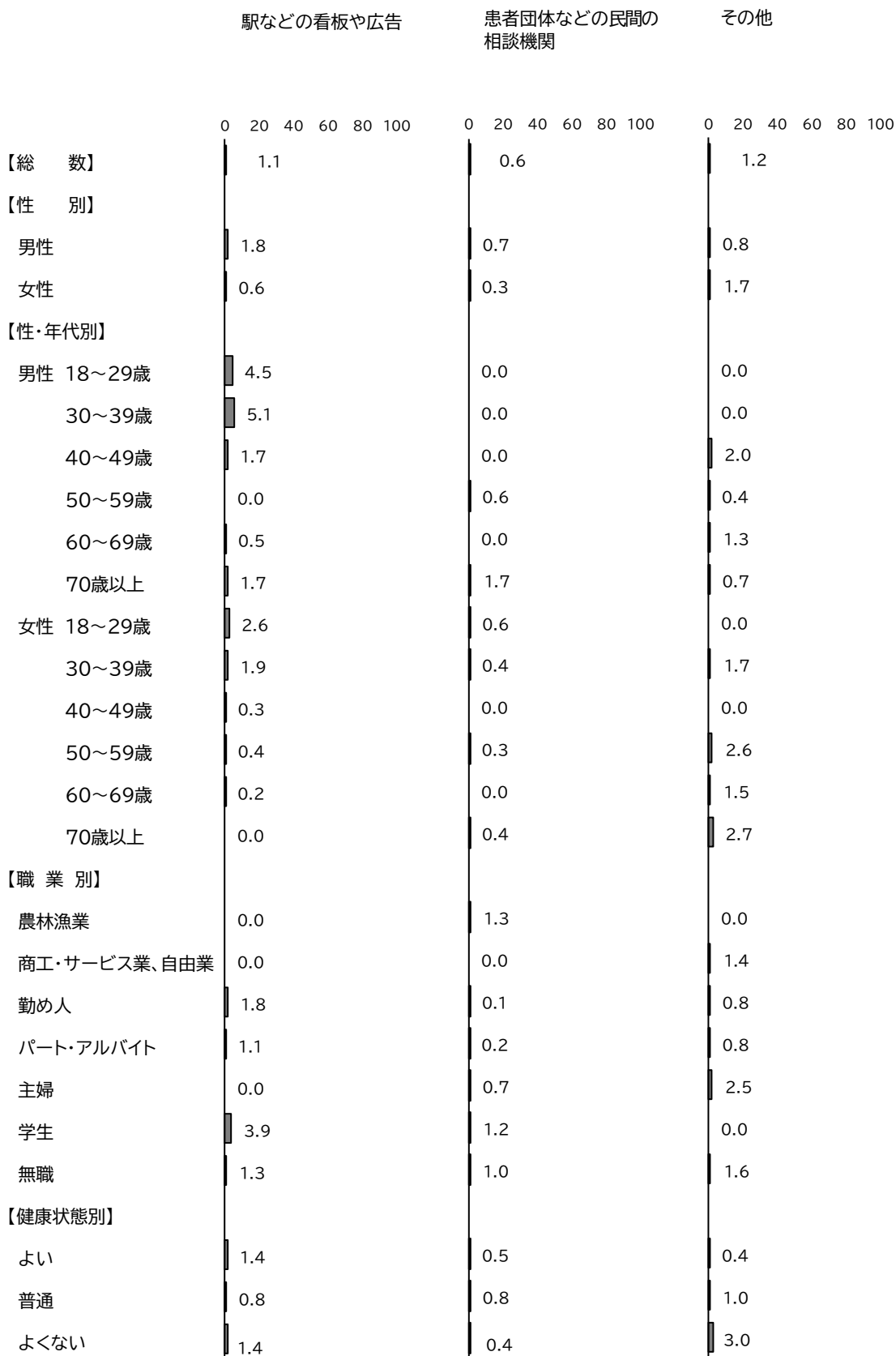










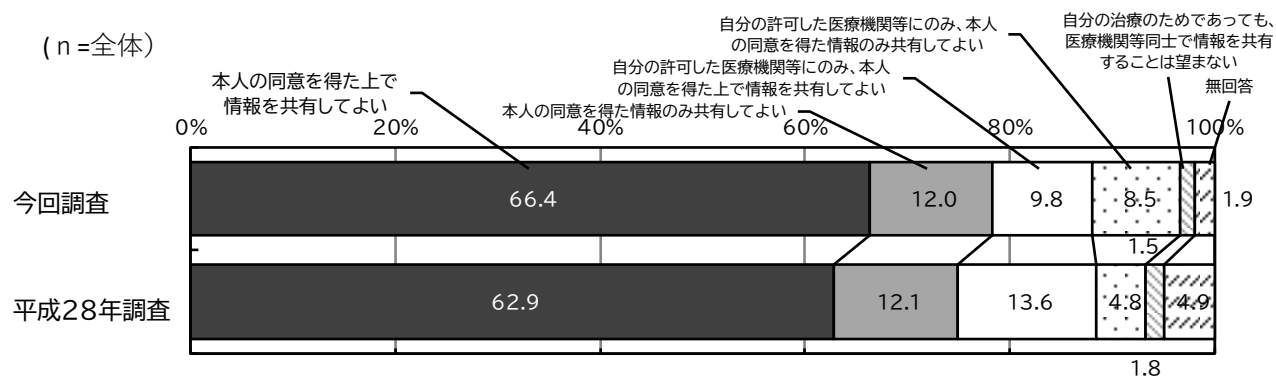


(1) 自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて

～「本人の同意を得た上で情報を共有してよい」66.4%が最も多い～

問31 あなたが病院・診療所にかかった時に、自分のカルテ（診療録）や症状等の情報を、自分の治療のために、連携する他の病院・診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・訪問介護事業所等が共有することをどう考えますか。（○は1つだけ）

図17-1



*平成28年調査では「本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」、「本人の同意を得た情報のみ共有してよい」は「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい」、「自分の許可した医療機関等にも、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は「自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」、「自分の許可した医療機関等にも、本人の同意を得た情報のみ共有してよい」は「自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい」で聴取

自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについては、「本人の同意を得た上で情報を共有してよい」が66.4%と半数以上を占めている。また、「本人の同意を得た情報のみ共有してよい」が12.0%、「自分の許可した医療機関等にも、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」が9.8%となっている。

平成28年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「本人の同意を得た上で情報を共有してよい」が半数以上を占めている。特に藤岡保健医療圏で77.2%と他の地域に比べて多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は女性(63.2%)に比べ、男性(71.9%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は20代以下女性が51.9%で他の性別・年代に比べ少なくなっている。

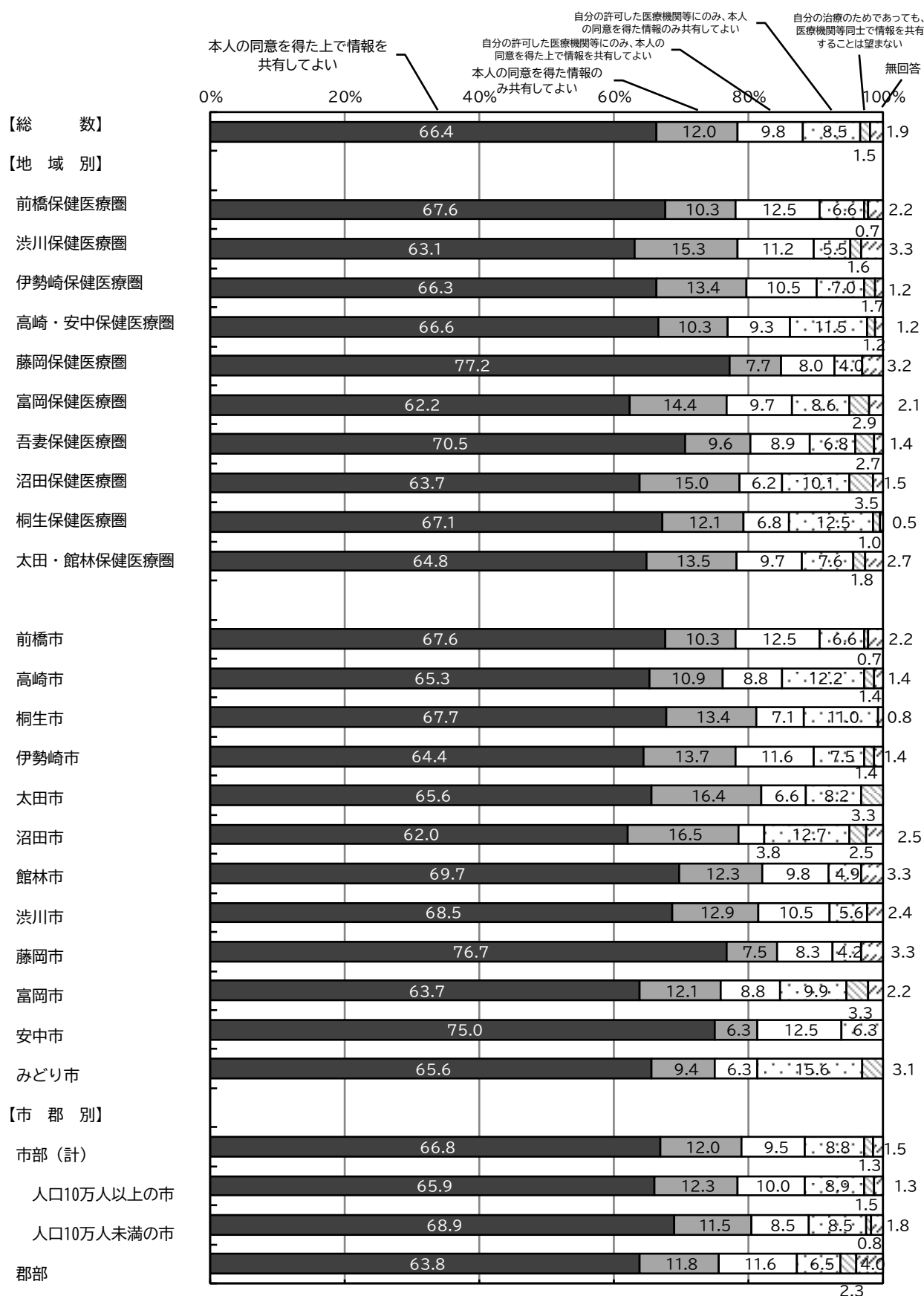
◆職業別

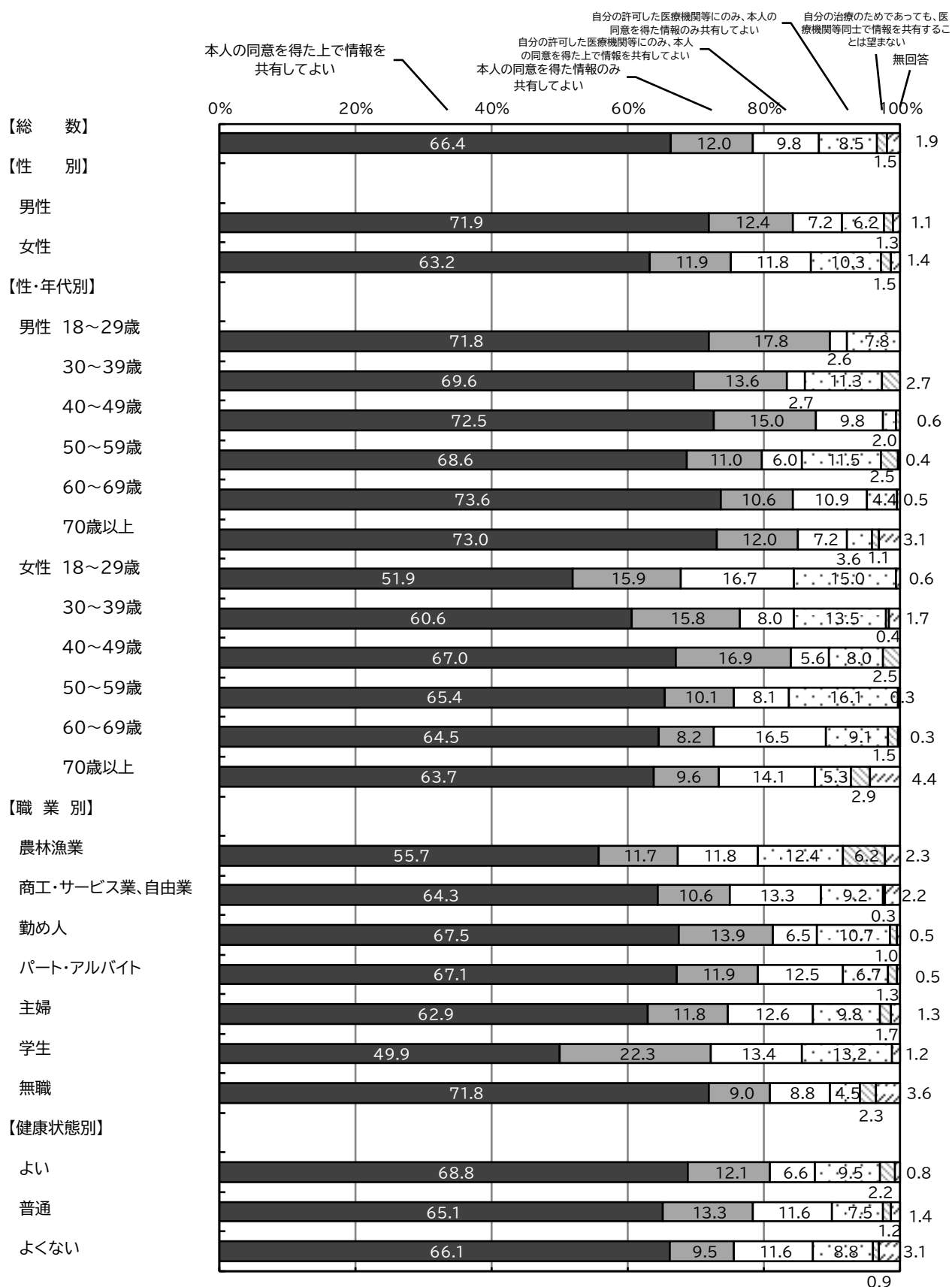
「本人の同意を得た情報のみ共有してよい」は学生が22.3%と最も多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図 17-2 自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて





III 調査票

ID:1001

令和5年2月
群馬県

保健医療に関する県民意識調査への回答方法

★ 希望する回答方法を選んでください。 ※どちらか一方のみに回答。

WEB で回答する場合

(1) スマートフォン・タブレット

・右のQRコードからアクセスし、
調査へ回答してください。(Microsoft Forms)



(2) パソコン

・件名に「 県民意識調査URL希望 」と記入し、以下の
アドレスにメールを送付してください。(URLが非常に長い為)

●アドレス:imuka-k@pref.gunma.lg.jp

(3) 注意事項

・この用紙左上に記載の「ID」を使います。

3月8日(水)まで に回答してください。

・WEB 回答後、この調査票は破棄してください。

紙面で回答する場合

(1) この調査は個人を対象にしていますので、あなた(宛名の方)
の回答を記入してください(ご本人の回答なら代筆可能)。

(2) 回答は、問1から順に、あなたのお考えに最もあてはまる番号
(1、2……)に○印をつけてください。 例) ①

(3) ○印を付ける数は質問文の指示にしたがってください。

(4) 中には回答が難しい質問もあるかも知れませんが、直感的に
思った内容や、考えられた内容で回答してください。

(5) 記入は、黒の鉛筆、シャープペンシル、ボールペンを使ってください。

(6) 記入後、同封の返信用封筒に入れて

3月8日(水)まで に投函してください。

群馬県健康福祉部医務課医療計画係
電話:027-226-2535(ダイヤルイン)

◇裏面に進んでください

問1 [全員の方に]**健康状態**

あなたは、ご自分の健康状態について、どうお考えですか。
(○は1つだけ)

- 1 よいと思っている
- 2 まあよいと思っている
- 3 普通だと思っている
- 4 あまりよくないと思っている
- 5 よくないと思っている

問2 [全員の方に]**健康に対する不安**

あなたは、日ごろ「もし自分が病気になったら……」という不安を感じていますか。(○は1つだけ)

1 不安を感じていない

問3へ

2 少し不安を感じている 3 不安を感じている

問2-1へ

問2-1

具体的にはそれはどんな不安ですか。(○は3つまで)

- 1 がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安
- 2 不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安
- 3 歯や口に関する病気への不安
- 4 上記1、2以外の病気への不安
- 5 働けなくなることへの不安
- 6 寝たきりにならないかという不安
- 7 医療費など経済的な不安
- 8 看病してくれる人がいない不安
- 9 病(医)院や医師に関する不安
- 10 何となく漠然とした不安
- 11 その他の不安()

問3 [全員の方に]**健康づくり**

あなたは、健康のために何か気をつけていることがありますか。
(○はあてはまるものすべて)

- 1 過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている
- 2 ストレスをためないようにしている
- 3 栄養のバランスなど食事に気をつけている
- 4 体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する
- 5 酒はほどほどに控えている
- 6 タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている
- 7 運動やスポーツをするように心がけている
- 8 努めて歩くようにしている
- 9 定期的に健康診断を受けている
- 10 その他()
- 11 何もしていない

問4へ

問3-1へ

問3-1 問3で「何もしていない」と回答した理由はどれですか。(○は1つだけ)

- 1 自分の健康に自信がある
- 2 病気の自覚症状がない
- 3 病気になってから気をつければよい
- 4 必要性を感じない
- 5 どのように気をつければよいかわからない
- 6 面倒
- 7 その他()

問4 **【全員の方に】** (医療全般に対する満足度) あなたがお住まいの地域の医療全般について、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

- 1 満足している
- 2 どちらかというと満足している
- 3 どちらかというと不満を感じる
- 4 不満を感じる

問5 **【全員の方に】** 地域の医療に関する以下の項目について、どのように感じていますか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 医療機関が不足していると感じる
- 2 病院勤務医が不足していると感じる
- 3 医療費が高いと感じる
- 4 夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる
- 5 必要な診療科目が不足していると感じる
- 6 自宅で療養できる体制が不足していると感じる
- 7 医療に関する情報や相談窓口が不足していると感じる

問6へ

問5-1、問5-2へ

問5-1 具体的にはどのような医療機関が不足しているとお考えですか。(○は1つだけ)

- 1 総合病院
- 2 特定の疾病を得意とする専門病院等
- 3 身近で通いやすい診療所
- 4 休日・夜間にかかる医療機関
- 5 その他()

問5-2

具体的にはどのような分野の治療を行う医療機関が不足しているとお考えですか。
(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 がん | 9 認知症 |
| 2 脳血管疾患(脳卒中など) | 10 感染症(結核、エイズ、新型コロナなど) |
| 3 心疾患(急性心筋梗塞など) | 11 リハビリテーション |
| 4 糖尿病 | 12 リウマチ |
| 5 救急医療 | 13 アレルギー疾患 |
| 6 産科 | 14 歯科疾患 |
| 7 小児医療 | 15 その他() |
| 8 精神医療(うつ病など) | |

問6 [全員の方に]

あなたがお住まいの地域の医療について、これから
充実して欲しいと思うことはなんですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 休日・夜間における診療体制 | 10 総合病院 |
| 2 救急医療 | 11 往診・訪問看護体制 |
| 3 産科 | 12 リハビリテーション |
| 4 婦人科 | 13 相談窓口 |
| 5 小児医療 | 14 遠隔医療(電話・オンライン診療など) |
| 6 精神医療(うつ病など) | 15 医療と介護の連携体制 |
| 7 認知症 | 16 在宅で最期を迎えられる体制 |
| 8 眼科・耳鼻咽喉科 | 17 その他() |
| 9 歯科医療 | |

問7 [全員の方に] (医療機関の選択)

あなたが、カゼや微熱など軽い病気にかかったとき、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。(○は1つだけ)

1 医院(診療所) 2 身近な病院 3 地域の総合病院 4 専門性の高い病院 5 その他()	6 特に決めていない 7 行かない (薬局等で薬を購入する)
--	--

問7-1、7-2へ

問8へ

問7-1 その医療機関を選ぶのはどのような理由からですか。(○は3つまで)

1 自宅に近い 2 医師が信頼できる 3 医療設備が整っている 4 かかりつけである 5 いろいろな診療科目がある 6 その病気やけがについての専門である	7 評判がよい 8 職場・学校から通院しやすい 9 感じがよい 10 他の医療機関を知らない 11 その他() 12 特に理由はない
--	--

問7-2 主に診療を受ける(あるいは受けたい)その医療機関はどの市町村にありますか。(○は1つだけ)

1 前橋市 2 高崎市 3 桐生市 4 伊勢崎市 5 太田市 6 沼田市 7 館林市 8 渋川市 9 藤岡市 10 富岡市 11 安中市 12 みどり市	13 榛東村 14 吉岡町 15 上野村 16 神流町 17 下仁田町 18 南牧村 19 甘楽町 20 中之条町 21 長野原町 22 嬬恋村 23 草津町 24 高山村	25 東吾妻町 26 片品村 27 川場村 28 昭和村 29 みなかみ町 30 玉村町 31 板倉町 32 明和町 33 千代田町 34 大泉町 35 邑楽町 36 県外 (都道府県名:)
---	---	--

問8 [全員の方に] (医療機関の選択)

あなたが、入院が必要かもしれない重い病気にかかった場合、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。(○は1つだけ)

1 医院(診療所) 2 身近な病院 3 地域の総合病院 4 専門性の高い病院 5 その他()	6 特に決めていない <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">問9へ</div>
---	--

問8-1、8-2へ

問8-1 その医療機関を選ぶのは、どのような理由からですか。(○は3つまで)

1 自宅に近い 2 医師が信頼できる 3 医療設備が整っている 4 かかりつけである 5 いろいろな診療科目がある 6 その病気やけがについての専門である	7 評判がよい 8 職場・学校から通院しやすい 9 感じがよい 10 他の医療機関を知らない 11 その他() 12 特に理由はない
--	---

問8-2 主に診療を受ける(あるいは受けたい)その医療機関はどの市町村にありますか。(○は1つだけ)

1 前橋市 2 高崎市 3 桐生市 4 伊勢崎市 5 太田市 6 沼田市 7 館林市 8 渋川市 9 藤岡市 10 富岡市 11 安中市 12 みどり市	13 榛東村 14 吉岡町 15 上野村 16 神流町 17 下仁田町 18 南牧村 19 甘楽町 20 中之条町 21 長野原町 22 嬬恋村 23 草津町 24 高山村	25 東吾妻町 26 片品村 27 川場村 28 昭和村 29 みなかみ町 30 玉村町 31 板倉町 32 明和町 33 千代田町 34 大泉町 35 邑楽町 36 県外 (都道府県名:)
---	---	---

問9 [全員の方に] (救急医療への対応)

軽度な症状にもかかわらず、安易な救急車の利用など、いわゆる「コンビニ受診」行動についてどう考えますか。(○は1つだけ)

- 1 問題だと思うし、行わないように心がけている
- 2 問題だと思うが、やむを得ないと思う →理由をお聞かせください
()
- 3 問題だと思わない →理由をお聞かせください
()

問10 [全員の方に] (救急医療への対応)

家族のだれかが、夜間や休日に急病(生死に関わらないと判断できるもの)になり、医師にみてもらいたいとき、まず、一番初めにどうしますか。(○は1つだけ)

- 1 インターネット、電話サービス(#8000など)、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる
- 2 救急車を呼ぶ
- 3 かかりつけ医師に電話で相談する
- 4 近くの医師に電話で相談する
- 5 自分の判断で、病状に合わせて専門的な医療機関へ連れて行く
- 6 知人や身内にまず相談する
- 7 その他()

問11 [全員の方に] (救急医療への対応)

心臓が止まった人に電気ショックを与えて心臓を動かす「AED(自動体外式除細動器)」という機器について見たり聞いたり、使ったりしたことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 実際に倒れた人に使ったことがある
- 2 実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある
- 3 見たり聞いたりしたことがある
- 4 見たり聞いたりしたことがない

問12 [全員の方に] (救急医療への対応)

脳梗塞は、発症してから4時間30分以内に治療を開始することが効果的といわれていますが、家族のだれかに脳梗塞疑いの症状(意識を失っていびきをかいている、顔や腕の麻痺、ろれつが回らないなど)が現れた場合、どうしますか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 救急車を呼ぶ
- 2 かかりつけ医師に電話で相談する
- 3 専門的な医療機関へ連れて行く
- 4 様子を見る

問13〔全員の方に〕（かかりつけ医師）

あなたは、かかりつけ医師を決めていますか。（○は1つだけ）

（※ここでいう「かかりつけ医師」とは、「健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと」という意味です。）

1 決めている

問13-1へ

2 決めていない

問13-2へ

問13-1 かかりつけ医師を決めているのは、どのような理由からですか。

（○は2つまで）

- 1 自宅から近い
- 2 職場・学校から近い
- 3 昔からのかかりつけである
- 4 他の医療機関から紹介されて
- 5 評判がよい
- 6 医師が信頼できる
- 7 親切で丁寧
- 8 休日・夜間でも診てくれる
- 9 医療設備が整っている
- 10 自分の病気やケガについて専門である
- 11 その他
()

問13-2 かかりつけ医師を決めていないのは、どのような理由からですか。

（○は2つまで）

- 1 病気をしない、または必要を感じない
- 2 そのつど都合のよい医師にかかる
- 3 適当なかかりつけ医師が身近にいない
- 4 専門医にみてもらう
- 5 その他
()
- 6 特に理由はない

問14〔15歳以下のお子さんを持つ方に〕 → (該当しない方は問15へ)

あなたのお子さんの、かかりつけ医師を決めていますか。(○は1つだけ)

(※ここでいう「かかりつけ医師」とは、「健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと」という意味です。)

1 決めている

問14-1へ

2 決めていない

問14-2へ

問14-1 かかりつけ医師を決めているのは、どのような理由からですか。

(○は2つまで)

- 1 自宅から近い
- 2 職場・学校から近い
- 3 昔からのかかりつけである
- 4 他の医療機関から紹介されて
- 5 評判がよい
- 6 医師が信頼できる
- 7 親切で丁寧
- 8 休日・夜間でも診てくれる
- 9 医療設備が整っている
- 10 自分の子どもの病気やケガについて専門である
- 11 その他
()

問14-2 かかりつけ医師を決めていないのは、どのような理由からですか。

(○は2つまで)

- 1 病気をしない、または必要を感じない
- 2 そのつど都合のよい医師にかかる
- 3 適当なかかりつけ医師が身近にいない
- 4 専門医にみてもらう
- 5 その他
()
- 6 特に理由はない

問15 [全員の方に] (かかりつけ歯科医)

あなたは、かかりつけの歯科医を決めていますか。(○は1つだけ)
 (※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、「痛み、噛めないなどの症状が出ていなくても、検診やクリーニングのために定期的に通院している歯科医院」という意味です。)

1 決めている

問15-1へ

2 決めていない 3 かかったことがない

問16へ

問15-1 その歯科医に決めたのはなぜですか。(○は2つまで)

- 1 自宅から近い
- 2 職場・学校から近い
- 3 昔からのかかりつけである
- 4 他の医療機関から紹介されて
- 5 評判がよい
- 6 歯科医師が信頼できる
- 7 親切で丁寧
- 8 休日・夜間でも診てくれる
- 9 医療設備が整っている
- 10 その他()

問16 [全員の方に] (歯科保健医療)

あなたは、歯科の保健医療についてどのようなことを望みますか。
 (○はあてはまるものすべて)

- 1 医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい
- 2 夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい
- 3 地域や職場で歯科の検診を実施してほしい
- 4 通院できない高齢者などに対する、歯科医療体制を整備してほしい
- 5 身体障害者など体の不自由な人に対する、歯科医療体制を強化してほしい
- 6 知的障害や発達障害のある人に対する、歯科医療体制を強化してほしい
- 7 小児歯科医療体制を強化してほしい
- 8 その他()
- 9 特にない

問17 [全員の方に] (薬局について)

あなたは、この1年間に、医院(診療所)や病院から処方せんをもらって、院外の薬局で薬を調剤してもらったことがありますか。(○は1つだけ)

1 ある

2 ない

問18 [全員の方に] (かかりつけ薬剤師・薬局)

あなたは、かかりつけ薬剤師・薬局を決めていますか。(○は1つだけ)
(※ここでいう「かかりつけ薬剤師・薬局」とは、「いつも調剤してもらい、薬や健康に関することを何でも相談できる薬剤師・薬局のこと」という意味です。)

1 決めている

問18-1へ

2 決めていない

問18-2へ

問18-1 かかりつけ薬剤師・薬局を決めているのは、どのような理由からですか。
(○は2つまで)

- 1 かかりつけ医師の医院や病院に近い
- 2 自宅に近い
- 3 職場・学校に近い
- 4 昔からのかかりつけである
- 5 薬剤師が薬について丁寧に説明してくれる(相談に乗ってくれる)
- 6 複数の医療機関を受診した場合でも、薬の重複を避けられる
- 7 清潔で雰囲気が明るい
- 8 土日や夜間の開局時間が長く、自分の生活スタイルに合っている
- 9 医院や病院、介護施設などと一緒になって対応してくれる
- 10 飲み残している薬の数量を確認してから調剤してくれる
- 11 その他()

問18-2 かかりつけ薬剤師・薬局を決めていないのは、どのような理由からですか。(○は2つまで)

- 1 処方せんをもらった医院や病院の近くの薬局が便利だから
- 2 自宅や職場に近い薬局がないから
- 3 近くの薬局では薬がなくて待たされたことがあるから
- 4 自分の病気について近所の人や薬局の人に知られたくないから
- 5 その他()
- 6 特に理由はない

問19 [全員の方に] (転院について)

限られた救急医療の病床を効率よく利用するためには、救急の治療が終了すると入院している医療機関から転院などを求められることがあります。

もし、このような場合、あなたが転院を求められたとしたら不安を感じますか。(○は1つだけ)

1 不安を感じない

問20へ

2 少し不安を感じる

3 不安を感じる

問19-1へ

問19-1 具体的にはどのような不安を感じますか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安
- 2 治療方針が変わってしまうことに対する不安
- 3 入院した医療機関から見放されたような不安
- 4 転院先が見つからないのではないかと不安
- 5 転院先において、再び転院を求められるのではないかと不安
- 6 何となく漠然とした不安
- 7 その他()

問20 [全員の方に] (退院について)

あなたが病院から退院し、在宅での療養に移る場合、病院のソーシャルワーカー(社会福祉の立場から相談・支援を行う専門職)に対してどのようなことを望みますか。

(○は1つだけ)

- 1 退院後の治療のことや生活・費用などの相談
- 2 就学や就労なども含めた社会復帰に関する相談
- 3 自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談
- 4 介護サービス等に関する情報提供や手続き相談
- 5 退院に伴う漠然とした不安の相談
- 6 その他()

問21〔全員の方に〕（在宅医療について）

もし、あなたやあなたの家族が治療や療養を必要とする場合、自宅での療養を望みますか。
（両方に回答してください。）（○は1つだけ）

あなたが患者の場合	1 望む	2 条件を整えば望む	3 望まない
家族が患者の場合	1 望む	2 条件を整えば望む	3 望まない
	問21-1へ		問21-3へ

問21-1 自宅での療養は実現可能ですか。（○は1つだけ）

1 実現困難である	2 実現可能である	3 わからない
問21-2へ	問22へ	問22へ

問21-2 自宅療養が実現困難な理由は何ですか。（○は3つまで）

- 1 往診してくれるかかりつけの医師がない
- 2 訪問看護、訪問介護、デイサービス、ショートステイなどの在宅サービスの体制が整っていない
- 3 24時間相談にのってくれるところがない
- 4 介護してくれる家族がない
- 5 介護してくれる家族に負担がかかる
- 6 症状が急に悪くなったときの対応に、自分も家族も不安である
- 7 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である
- 8 居住環境が整っていない
- 9 経済的に負担が大きい
- 10 その他()

問21-3 問21で自宅療養を望まない理由は何ですか。（○は3つまで）

- 1 往診してくれるかかりつけの医師がない
- 2 訪問看護、訪問介護、デイサービス、ショートステイなどの在宅サービスの体制が整っていない
- 3 24時間相談にのってくれるところがない
- 4 介護してくれる家族がない
- 5 介護してくれる家族に負担がかかる
- 6 症状が急に悪くなったときの対応に、自分も家族も不安である
- 7 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である
- 8 居住環境が整っていない
- 9 経済的に負担が大きい
- 10 病院の方が安心できるから
- 11 他人にあまり自宅に入ってほしくないから
- 12 その他()

問22 [全員の方に]

もし、あなたが治る見込みの少ない病気にかかり、自宅で過ごすことになった場合、以下のうち特に何が必要だと思いますか。(○は2つまで)

- 1 医師の定期的な往診
- 2 緊急時の受け入れ医療機関
- 3 訪問看護などの在宅医療系サービス
- 4 訪問介護、デイサービス、ショートステイなどの在宅介護サービス
- 5 食事の宅配サービス、通院や外出の援助サービス
- 6 家族による(あなたへの)支援
- 7 家族への(外部的な)支援
- 8 カウンセラー等による心理的な支援
- 9 趣味などに費やすことのできる自由な時間
- 10 その他()

問23 [全員の方に]

もし、あなたが治る見込みのない病気にかかり、死期が近くなった場合、あなたの気持ちに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

- 1 少しでも延命できるよう、積極的な医療を受けたい
- 2 苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい
- 3 主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい
- 4 わからない
- 5 その他()

問24 [全員の方に]

あなたは、ご自身の死期が近い場合に受けたい医療や受けたくない医療について、あなたの周りの人等と話し合ったことがありますか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 話し合ったことはない
- 2 家族と話し合ったことがある
- 3 友人と話し合ったことがある
- 4 かかりつけ医と話し合ったことがある
- 5 受けたい医療や受けたくない医療について、ご自身の意思を書面に記載している
- 6 その他()

問25 [全員の方に]

もし、あなたが治る見込みのない病気になった場合、どこで最期を迎えたいですか。

(○は1つだけ)

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 自宅 |
| 2 | 子どもの家 |
| 3 | 兄弟姉妹など親族の家 |
| 4 | 有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅 |
| 5 | 特別養護老人ホームなどの福祉施設 |
| 6 | 病院などの医療施設 |
| 7 | わからない |
| 8 | その他() |

問26 [全員の方に]

「地域包括ケア」(可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活したいと望む人が、必要なサービスを受けながら、在宅で生活を続けられるよう地域で支えること)という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問27 [全員の方に] (精神保健について)

コロナ禍の人間関係の希薄化や社会情勢の急激な変化などにより、生きづらさを抱えている方が増えています。我が国の自殺者数は、令和元年まで10年連続で減少していましたが令和2年には11年ぶりに増加し、群馬県でも360人もの方が自殺で亡くなっています。あなたは、自殺対策に関連する以下の事柄を知っていましたか。(○は各項目1つだけ)

	内容まで知っていた	内容は知らなかったが、言葉は聞いたことがある	知らなかった
1 自殺予防週間(9月)／自殺対策強化月間(3月)	1	2	3
2 群馬県自殺対策総合ホームページ 「いのち・つなぐサポートサイト」	1	2	3
3 群馬県デジタル窓口における「悩み相談窓口」	1	2	3
4 こころの健康相談統一ダイヤル (0570-064-556)	1	2	3
5 群馬いのちの電話	1	2	3
6 ゲートキーパー (自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人)	1	2	3

問28 **〔全員の方に〕** **（医療機関への要望）**

これまでの経験から、あなたは医療機関に対してどのようなことを望みますか。

(1) 医師について(○は3つまで)

- 1 病気の状態や治療方法をよく説明してほしい
- 2 薬についての内容などを説明してほしい
- 3 むずかしい病気の場合は、専門の医療機関を紹介してほしい
- 4 注射や投薬はもっと十分にしてほしい
- 5 注射や投薬はあまりしないでほしい
- 6 往診の依頼に応じてほしい
- 7 検査はもっと十分にしてほしい
- 8 検査はあまりしないでほしい
- 9 患者や家族の話をじっくり聞いてほしい
- 10 その他()
- 11 特にない

(2) 看護師について(○は3つまで)

- 1 患者や家族の話をじっくり聞いてほしい
- 2 病気や検査についてわかりやすく説明してほしい
- 3 療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい
- 4 患者のそばで看護をする時間を長くしてほしい
- 5 忙しそうにしないでほしい
- 6 その他()
- 7 特にない

(3) 施設・サービスについて(○は3つまで)

- 1 待ち時間を短くしてほしい
- 2 休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい
- 3 差額ベッド料、医療費などがどのくらいかかるか前もって教えてほしい
- 4 医療機関の職員は、もっと親切にしてほしい
- 5 待合室や病室などを、もっと快適にしてほしい
- 6 食事(病院食)のメニューを多くするとともに、味付けをうまくしてほしい
- 7 治療後に疑問が生じたら、相談できる医療相談窓口を設置してほしい
- 8 その他()
- 9 特にない

問29 **〔全員の方に〕** **（保健医療情報について）**

知りたい保健や医療に関する情報は何か。

(1) 医療機関を選択するための情報(○は3つまで)

- 1 かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等
- 2 診療日・診療時間
- 3 得意とする専門分野
- 4 治療件数等の診療実績
- 5 医師・看護師などのスタッフの人数
- 6 医師・歯科医師の名前、性別、年齢、略歴、専門医資格
- 7 医療機器の保有状況
- 8 診察室、待合室、病室等の施設の整備状況
- 9 往診・訪問診療の可否
- 10 連携している医療施設名
- 11 連携している介護施設名
- 12 医療相談窓口などの有無
- 13 差額ベッド代などを含めた診療にかかる自己負担の額
- 14 第三者機関が実施した病院の評価結果
- 15 手話、点字、外国語に対する対応
- 16 その他()
- 17 特にない

(2) (1)以外の保健医療情報(○は3つまで)

- 1 病気の症状や予防・治療に関する情報
- 2 こころの健康に関する情報
- 3 薬の効能、副作用や服用の仕方についての情報
- 4 自宅で療養中の人を受けられる、訪問看護やヘルパーなどの在宅サービスについての情報
- 5 機能訓練や日常生活訓練等のリハビリテーションについての情報
- 6 保健や医療に関する苦情や相談の窓口についての情報
- 7 健康づくりや健康相談・健康診断についての情報
- 8 急病やケガ人に対する応急手当に関する情報
- 9 AEDや脳卒中の特効薬である「t-PA」など、救急搬送までに市民等に期待される救護に関する情報(※)
- 10 薬局の所在地・連絡先、対応内容等に関する情報
- 11 その他()
- 12 特にない

※・・・AEDとは、電気的なショックにより、心臓の働きを戻すを試みる医療機器のこと。
一般住民も使用可能であり、公共施設等に広く設置されている。

※・・・t-PAとは、血管に詰まった血の塊を溶かす血栓溶解剤。発症4.5時間以内の脳梗塞に有効性が認められているため、速やかな救急搬送要請が期待されている。

問30 [全員の方に]

医院(診療所)や病院で情報を入手する以外に、保健や医療に関する情報をどのような方法で入手しようと思いますか。(○は3つまで)

- 1 保健医療専門誌
- 2 健康関連の本
- 3 雑誌の特集記事
- 4 テレビの情報番組
- 5 テレビのニュースや新聞
- 6 医療・薬局機能情報提供システム
- 7 インターネット
- 8 県や市町村の広報紙
- 9 友人・知人からの情報
- 10 ケアマネジャーや介護保険サービスの関係者からの情報
- 11 薬局薬剤師からの情報
- 12 国や自治体の相談機関
- 13 患者団体などの民間の相談機関
- 14 駅などの看板や広告
- 15 その他()

問31 [全員の方に] (情報共有)

あなたが病院・診療所にかかった時に、自分のカルテ(診療録)や症状等の情報を、自分の治療のために、連携する他の病院・診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・訪問介護事業所等が共有することをどう考えますか。(○は1つだけ)

- 1 本人の同意を得た上で情報を共有してよい
- 2 本人の同意を得た情報のみ共有してよい
- 3 自分の許可した医療機関等にのみ、本人の同意を得た上で情報を共有してよい
- 4 自分の許可した医療機関等にのみ、本人の同意を得た情報のみ共有してよい
- 5 自分の治療のためであっても、医療機関等同士で情報を共有することは望まない

ご意見をお伺いすることは以上で終わりですが、統計分析に必要な事項を少しお伺いします。

F1 あなたの性別は。(○は1つだけ)

1 男	2 女
-----	-----

F2 あなたの年齢は。(○は1つだけ)

1 18～24歳	6 45～49歳	11 70～74歳
2 25～29歳	7 50～54歳	12 75～79歳
3 30～34歳	8 55～59歳	13 80歳以上
4 35～39歳	9 60～64歳	
5 40～44歳	10 65～69歳	

F3 あなたはどの市町村にお住まいですか。(○は1つだけ)

1 前橋市	13 榛東村	25 東吾妻町
2 高崎市	14 吉岡町	26 片品村
3 桐生市	15 上野村	27 川場村
4 伊勢崎市	16 神流町	28 昭和村
5 太田市	17 下仁田町	29 みなかみ町
6 沼田市	18 南牧村	30 玉村町
7 館林市	19 甘楽町	31 板倉町
8 渋川市	20 中之条町	32 明和町
9 藤岡市	21 長野原町	33 千代田町
10 富岡市	22 嬭恋村	34 大泉町
11 安中市	23 草津町	35 邑楽町
12 みどり市	24 高山村	

F4 あなたのお住まいの世帯構成は。(○は1つだけ)

1 単独世帯
2 核家族世帯(夫婦のみの世帯)
3 核家族世帯(夫婦と未婚の子のみの世帯)
4 核家族世帯(ひとり親と未婚の子のみの世帯)
5 三世帯世帯
6 その他の世帯()

F5 あなたの職業は次のうちどれですか。(○は1つだけ)

1 農林漁業を営んでいる(家族従業者を含む)
2 商工業、サービス業、自由業などを営んでいる(自営業等。家族従業者を含む)
3 会社、商店、官公庁、学校、病院等に常勤で勤めている(サラリーマン等)
4 パート、アルバイト
5 主婦
6 学生
7 無職

ご協力ありがとうございました。

この調査票は、返信用封筒に入れ、**3月8日(水)**までにご投函ください。

